

トーキョーNOVA The Detonation リプレイ

ノスタルジック終末論



製作 ニューロ／CD製作委員会
画 いわずみ／うろこ／ありえすた

ノスタルジア——望郷、追憶、きっと帰れない故郷への想い。
過去を失った少女は、いつか帰る場所を探して街を彷徨う。
帰る場所なんてとうに無いと、心のどこかで気付いていながら。

かの未曾有の大災害により、誰もが帰るべき故郷を失った世界……ニューロエイジ。
これは、そんな歪な世界で起きた、一つの事件の顛末。
望郷の想いに導かれた、世界の終わりの物語。

トーキョーN◎VA The Detonation キャンペーン・リプレイ

『ノスタルジック終末論』

運命の扉の向こうに、きっと彼女は見つかるだろう。
帰り道、どうかお気をつけて。

C O N T E N T S

キャンペーントレーラー & 目次	001
まえがき & トーキョーN◎VAのスタイル一覧	002
用語解説	003
 第1話『世界災厄後仮説』	
プレアクト	006
オープニングフェイズ	016
リサーチフェイズ	021
クライマックスフェイズ	042
エンディングフェイズ	052
 第2話『サウダーデの彼方』	
プレアクト	058
オープニングフェイズ	062
リサーチフェイズ	070
クライマックスフェイズ	095
エンディングフェイズ	102
 最終話『ディア*プラネット』	
オープニングフェイズ	106
リサーチフェイズ	112
クライマックスフェイズ	137
エンディングフェイズ	150
 あとがき	158
アペンディックス	160

まえがき

初めまして、あるいはお久しぶりです。この本をお手に取っていただきありがとうございます。本書はテーブルトークRPG『トーキョーN◎VA The Detonation』を取り扱った、同人リプレイ誌になります。

当サークルのN◎VAリプレイ誌も2作目になります。

ご好評をいただきました前作「グッバイ、ヒューマニズム」は、初めてN◎VAに触れる方にも楽しんで頂けるよう、N◎VAの王道を描いたものでした。まだお読みで無い方、あまりこの世界を詳しく知らない方は、まずそちらを先にお手に取っていただければと思います。

今作『ノスタルジック終末論』はそれとは少し趣を変えて、このゲームが取り扱う世界観、ニューロエイジの歴史をより掘り下げる作品となっています。物語の舞台もN◎VAだけに留まりません。巻き起る事件も、文字通り、世界の存亡をかけたものとなります。この世界に少し慣れてきた方向けの内容と言えるかもしれません。もちろん、初めてN◎VAに触れる方にも楽しんで頂けるよう尽力したつもりではあります。

本作のテーマは、故郷です。

そこは、地軸の歪みによる世界的な大災害により、現代とは全てが一変してしまった世界。誰も彼もが、故郷を、帰るべき場所を失った世界とも言えるでしょう。そんな世界で紡がれるこの物語の主人公は、記憶を失ったひとりの少女です。自らの帰るべき場所を探し求める少女が失われた記憶を取り戻す時、彼女はどんな、故郷の姿をその瞳に見出すのでしょうか。

前置きが長くなりました。このリプレイが、少しでも貴方に楽しいひと時を提供できれば、これに優る幸せはありません。

トーキョーN◎VAのスタイル一覧

・	カプキ	芸術家、ギャンブラー。強運を味方につけた自由人。
1	バサラ	念動力者、退魔師。意志や知性を秘めた魔法使い。
2	タタラ	研究者、技術者、医者。技術と知識を探索するもの。
3	ミストレス	バーのママ、姐御肌の女性。信頼を受け、愛情を注ぐもの。
4	カプト	ボディガード、パワンス。他者を護る現代の騎士。
5	カリスマ	政治家、教祖、弁護士。人を惹きつける指導力をもつもの。
6	マネキン	娼婦、遊び人。他者に依存して生きる弱さをもつもの。
7	カゼ	走り屋、運び屋、ソク。流れる風の中に生きるもの。
8	フェイト	探偵、正義の味方。欺瞞に満ちた街で、真実を探すもの。
9	クロマク	首領、ブローカー、フィクサー。裏の世界を生耳る支配者。
10	エグゼク	企業の重役、経営者。金とコネを使って利益をあげるもの。
11	カタナ	殺し屋、剣豪、接近戦のプロ。欲望と本能で生きるもの。
12	クグツ	企業工作員、さりまん。社に忠を尽くす現代のサムライ。
13	カゼ	暗殺者、スパイ、ニンジャ。闇に潜み、死をもたらすもの。
14	チャクラ	求道者、武術家。精神と肉体の両方を鍛えるもの。
15	レグガ	ヤクザ、マフィア、ちんぴら。悪と私欲の権化。
16	カプトワリ	スナイパー、射撃のプロ。1発の銃弾で時代を動かすもの。
17	ハイランダー	天上人、エリート。記憶を失った謎の人物、希望の象徴。
18	マヤカシ	幻術師、占い師、ESP。非現実的な世界を見つめるもの。
19	トッキー	報道者、記者、キャスター。世界を変革する力を持つもの。
20	イヌ	警察、裁判官、検事。法により人を裁く、審判の下し手。
21	ヒーロー	ハッカー、データー盗賊。情報世界に生きるもの。
・1	ヒルコ	ミュータント、人造生命。文明により生まれた異形。
・7	アラシ	重戦闘兵器の乗り手、壊し屋。世界を蹂躞する破壊者。
・9	カゲムシャ	影武者、自分を喪失し、他人の姿を借りて影に生きるもの。
・18	アヤカシ	妖怪、鬼、伝説上の生き物。永劫を生きる夜の支配者。

用語解説

ここでは、N○V Aに初めて触れる方などのために、N○V Aの基本的な用語について解説させていただく。

ニユーロエイジ

「**ニユーロN○V A The Deronation**」の舞台となる時代、世界観のこと。地球を舞台としているが、その様相は現実のそれとは大きく異なる。**ニユーロエイジ**と呼ばれる世界規模の大災害の影響で、世界は氷河期に突入しており、人々は限られた巨大環境都市にのみ生活している。世界中が無線による高度な情報網に覆われた近未来世界。

災害

西暦の世界を打ち砕いた世界的な大災害。数十年前、突発的に地球の地軸がねじ曲がった。その寝返りの影響で大陸は大きく姿を変え、海は荒れ狂い、文明という文明が破壊しつくされた。人類はその数を大きく減らしたが、辛うじて滅亡は逃れた。

災害 が起きた原因は、未だ謎に包まれている。

トーキョーN○V A

このゲームの主な舞台となる都市。世界最大のメガプレックス。**災害**の直後に鎖国した超大国。日本が、干上がった東京湾跡に建造した出島であり、世界経済の中心として繁栄と退廃を極めている。摩天楼のオフィスから薄暗いストリートの奥まで、ニユーロエイジならではのドラマが日夜繰り広げられている。

メガプレックス

超巨大複合都市（メガ・シティ・コンプレックス）の略。メガ・コーポにより運営される超過密型の都市。**災害**により激変した地球環境から生き残るために、知恵と力を結集して建造された人類の生存圏。

メガ・コーポ

世界有数の超巨大企業複合体。この世界では多くの国家が存在意義を失い、巨大企業がそれにとって代わっている。

アールゴジ

メガプレックス内に集積された都市内都市。内部に数十万人の市民が暮らす、巨大な摩天楼。中から一歩も出ずに生活が可能な完全環境都市。

電脳化

人体を直接機械と繋げる技術。ニユーロエイジの間は、ほとんどが電脳化している。

サイバーウェア

体の一部分に置き換えられた機械のこと。ニユーロエイジで便利に生活する為には欠かせない物であり、生身の不可能を容易く可能にする。

IA NUS

Intelligent Assisitin Neural Utility System. の略。サイバーウェアを制御・管理する、人体のOSとも言うべきヒューマン・マシン・インターフェイス。

全身義体

脳以外の全てを機械化したもの。最近是一般流通も進んでおり、以前に比べると気軽に手に入る。軍用の全身義体は最新鋭テクノロジの結晶であり、人間を遥かに凌駕した性能を発揮する。

ウェット

全く電脳化していない人のこと。電脳から切り離されている事は、社会から隔絶されている事と同義であり、不便極まりない。

トロン

コンピュータのこと。脳に直結させ、全感覚をウェブに没入させることが可能。

ウェブ

全世界的な無線電子情報網。インターネットのニユーロエイジでの呼称。ニユーロエイジは、ウェブが遍く世界を覆う時代である。

情報生命体（AI）

人が作りだした人工知能。あるウェブ上の大事件を切欠に、ニユーロエイジでは次々とAIたちが自我を持った、生命体として覚醒しつつある。

意識体

人間がもつ意識、自我、魂のこと。または、キャラクターの声やウェブアバターなどの、意識のみがシーンに登場し、生身が登場していない状態。

市民○D

トーキョーN◎VAの住民は、全てID管理されている。IDを持たない人間（ⅡXランク）は、社会的に存在しないものとして扱われ、いかなる公共サービスや法による保護も受けられない。

アストラル

霊体や魔術の根源となる、この世と重なる存在するもうひとつの世界のこと。転じて、魔術や超能力などの存在全般を指す。

真教

「災厄」の最中に現れ、人々を救った救世主を最高神とする、ニユーロエイジ最大の宗教。

軌道

地球の衛星軌道上に存在する宇宙コロニー群。災厄の凶悪な爪を逃れた特権階級たちが住む星々の世界。地上のほとんどの人々にとっては決して手の届かない宇宙の楽園だ。

キャスト

このゲームにおけるプレイヤーキャラクター。物語の主人公。

ゲスト

キャストと同等の能力を保有する（神業を使えない）、そのアクトにおける重要NPCのこと。

アクト

このゲームにおける1回のゲームの呼び方。

RL（ルーラー）

このゲームにおける進行役。ゲームマスター。

スタイル

職業・立場・性格などを内包する、その人の、在り方、を意味する言葉。キャラクターを構成する最も重要なデータ。（前ページのスタイル解説を参照）基本的に1人のキャラクターが3つ保有する。

「トーキョーN◎VA」は、^{キャスト}主人公たちが自分のスタイルを貫くゲームである。

ベルソナ（◎）とキー（●）

スタイルの中で、表面的なもの（職業や見た目）をベルソナといい、その人の根幹、本質的なものをキーという。

※ご注意

本リプレイは『トーキョーN◎VA』シリーズの過去の公式シナリオのうち、いくつかについて重大なネタバレを含んでいます。まだプレイ経験の無い公式シナリオがあり、今後遊ぶ予定がある方はお気をつけ下さい。

『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』からN◎VAを始めた方へ

本書は08年という年代（前版のDetonation時代の最後期）を舞台にした作品です。最新版から見ると5年前の出来事を取り扱ったものとなります。ご留意下さい。

神業（※文中、◇で囲まれたもの）

各スタイルに設定された、アクト中に一度しか使えない絶対的な力。キャラの超人的能力や幸運などを表現するものであり、物語の主役としての、見せ場。

能力値

このゲームの能力値には以下の4つがあり、それぞれはトランプのスイート（記号）と対応している。

【理性】…思考能力や知性を表す。コネにおいては尊敬や畏怖などが該当する。対応スイートは♠

【感情】…情緒や感情の力を表す。コネにおいては好意や同情などが該当する。対応スイートは♣

【生命】…肉体の力や経験を表す。コネにおいては血縁、肉体関係などが該当する。対応スイートは♥

【外界】…社会的な地位や財力を表す。コネにおいてはビジネス関係などが該当する。対応スイートは♦



第1話

世界災厄後仮説

ニユーロエイジに終末論が蔓延する。

「偽りの世界は終わりを迎え、選ばれし者だけが新たな世界を迎えるだろう」

いつの時代にも有りがちな三流のドゥームステイ・カルト。しかし予想とは裏腹に、その噂は加速度的に広まっていく。

世界を覆う厚い氷が溶けだした時、人々は知る。

氷の下に隠された真実と、世界の終わりを。

それは、災厄^{ディザスター}、再来の予感。

そして、運命に導かれるようにキャスト達は集つた。

自分達が、世界を救うことになるとも知らず。

少女はまだ知らない。

この時既に、自らの運命の扉が開かれていた事を。

トーキョー N◎VA The Detonation キャンペーン

第一話『世界災厄後仮説』

プロアクト

ルーラー（以下RL）…かくして、運命の扉は開かれた。

皆さん、この度はトーキョー N◎VA The Detonation のア

クトにご参加頂き、ありがとうございます。アクトタイトルは『ノスタルジック終末論』。全3話のキャンペーン・シナリオ（*）です。最初に読み上げたのがキャンペーン・トレーラー（巻頭に掲載されています）で、今読み上げたのが第1話のアクトトレーラー（*）になります。

このシナリオは、あるキャストの設定を下敷きに作成されたものです。ですのでシナリオの説明も、そのキャストの紹介をして頂いてから行おうと思います。それでは早速プレイヤー①さん、キャスト紹介をお願いします。

♪nostalgia、彼方エリカ

あなたには、帰る場所がある？ そっか。それはきつと、とても幸せなことだと思う。帰る場所を持たないわたしは、とても寂しいから……凍えてしまいそうなくらいに。

わたしは彼方エリカ。N◎VAのトーキー。……でも、この自己紹介が正しいのかどうか、本当はわからないの。わたしには過去の記憶がない。自分の本当の名前も覚えていない。故郷に帰りたくてたまらないのに、それがどこなのかもわからない。もしかしたら、それはもう、どこにもないのかもしれない。

時々、夢を見るの。どこかわからない大切な場所……それが色褪せて、遠ざかって、壊れていく。N◎VAだって素敵などころなのに、みんな優しくしてくれるのに、その夢を見た後は、ひとりぼっちで寒いところにいるみたいな気持ちになって……。

だからあなたは、自分の故郷を大事にしてね。帰り道、どう
か気をつけて。わたしはまだ、帰れないけれど。

PL①（以下エリカ）…今回はお誘いいただきありがとうございます！ キャストの名前は「nostalgia」彼方エリカ。スタイルはハイランダー●、マヤカシ、トーキー◎。外見年齢18歳くらいの、記憶喪失の少女です。N◎VAで目覚めたのは3年くらい前（*）で、それ以前の記憶は一切思い出せずにいます。普段はふわっとした雰囲気です基本的に楽道家ですが、どことも知れない故郷に帰りたいという思いを強く抱いており、記憶の手がかりを探すために記者の真似事をしています。ただ、心のどこかで、その故郷には二度と帰れないような気がしています。PL②…おお、正しくハイランダーという感じ（*）のキャストですね。過去や故郷の設定などは決まっているんですか？ エリカ…いえ、決めてないんです。わたし、N◎VAってゲームを初めて間もないので、世界設定なども詳しくなくて。なので、過去の設定などに関してはRLにお任せしています。わたし自身も、エリカの過去を知らないんです。

RL…先日アクトをご一緒させて頂いた時に面白いキャストだなあって思いました。シナリオオネタになりそうだったので、お願いして使わせて頂いたんです。本キャンペーンは、この彼方エリカというキャストを主役に据えた物語となります。彼女の失われた過去が物語の核になっており、話が進むに連れて徐々に明らかにになっていく、という構図になっています。

PL③…なるほど。キャンペーン・シナリオならではの物語と

いう感じだね。

エリカ…なので今からすぐドキドキしています……！ 事前にトレジャーを読ませて頂いてたんですが、〓郷の想いが導く世界の終わりの物語〓というフレーズがすごく琴線に触れて遊ぶのが待ち遠しくて仕方ありませんでした。

RL…楽しんで頂けるよう尽力させていただきます。

エリカ…そうだ。元々このキャストはメイクアップ（*）で作ってたんですけど、今回のキャンペーンに合わせてフルスクラッチ（*）でリビルド（*）してきました——といっても、手持ちの経験点が無いので初期作成状態ですが。

PL③…データ的には精神戦アタッカーなんだね。

エリカ…これも能力の詳しい設定を決めているわけではないんですが、わたしが心の奥底で感じているノスタルジアが、瞳を通して相手に伝染する、という演出を考えています。

PL②…なるほど。マヤカシらしい演出ですね。

RL…では続いて、他のお二方にキャスト紹介をして頂きましょう。推奨スタイルはPL②さんにはフェイトを、PL③さん

キャンペーン・シナリオ…いわゆる「続きもの」のシナリオのこと。

アクトトレジャー…アクトがどんな物語になるのかを暗示する。今回予告。3年くらい前…本アクトはDetonation 最後期。08年。現在を舞台にしている。

正しくハイランダーという感じ…ハイランダーのスタイルを持つキャストは、過去の記憶を失い、自分の出自を知らない状態で始めることが推奨されている。

メイクアップ…初心者むけのキャスト作成方法。スタイルといくつかのデータバックを選ぶだけでデータが完成する手軽な方法だが、自由度は高くない。

フルスクラッチ…メイクアップと違い、キャストのデータを全て自分で選択し組み立てる方法。手間はかかるが、思いのままのキャラを再現できる。

リビルド…キャストのデータを作り直すことができるルール。

にはイヌを、それぞれ指定させて頂いています。ではフェイトからよろしくお願いします。

トールズバレット 真実の弾丸、駒村当真

俺のこの格好が気になるのかい？ ん、まるで災厄前の探偵みたいだ、だって？ お前さん、人を見る目があるな。

そう、俺はこの街の探偵だ。真実の弾丸、駒村当真といやあ、プラチナムハートの探偵として名が通っている。ん、なぜ笑う？ なるほど。お前さん、探偵をCD（*）だって馬鹿にしているのか。

確かにお前さんの言うとおり、探偵ってスタイルは非力だ。エグゼクのように金や権力も無ければ、カリスマのような名譽もない。カタナのような武力も持たないし、ニューロのように世界を制する術も持たない。もつと言えは俺はウエットだ。

だが、そんな力を持つ奴らでも一つだけ出来ないことがある。それは、真実を殺してしまうことだ。それだけは、誰にも出来ない。だから皆、自分にとって都合の悪い真実を隠そうとする。隠されてしまった真実、それを見つけて出すことが出来るのが、探偵ってスタイルなんだ。その一点において、俺達是最強だ。だから俺は、この格好に誇りを持っている。

お前さんが何か大事な真実を無くしてしまつたら、その時は探偵を頼るといい。こんな古臭い格好をした人情家、な奴らが、きつとそいつを見つつけ出してくれるさ。

PL②（以下駒村）…キャンベーン用にキャストを新造するか悩んだんだが、既存の顔キャストを使わせてもらうことにしたよ。私立探偵・真実の弾丸、駒村当真だ。

エリカ…以前、他のアクトで一緒にさせてもらったことがあるキャストですね！ その時わたしのキャストはエリカじゃなかったですけど。

駒村…見たことのあるキャストの方が、初心者の方のPL①さんが馴染みやすいかと思つてね。古臭い正義とハードボイルドを貫くウエットの探偵で、スタイルはカブト、フェイト◎●、カブトワリ。年齢は43歳。ボギーコートと帽子、シルクハットに啖え煙草という、いかにもな探偵さ。探偵互助会N.I.K.（*）に加盟しており、その中でも最も名譽ある探偵に贈られるプラチナムハート（*）の称号を持つ男って設定にしている。エリカ…かつこいいい……。

PL③…酸いも甘いも噛み分けたベテランという感じだね。

駒村…キャンベーンの主役たるエリカは物語の中で悩む役どころだと思つから、先輩として導き、護りきる揺るぎない大人が必要と思つてね。俺のキャスト紹介は以上だ。よろしく頼む。

裁きの重ね矢、ミシエル・フロキオン

動くな！ 武器は下に、手は頭の上だ！

これが必要最低限の決まり文句。付け加えるとすれば、無駄な抵抗はするな。天上天下の尽く、智天使の眼が逃しは

しない。

——と言ったところかな？

私はケルビムの捜査官、ミシエール・プロキオン。国際犯罪全般に関わるケルビムでも、特に対テロ捜査を担当している。帰る処を持たない私には、世界中、何処で起きた事件でも自分の管轄みたいなものだ。

そんな他人事になんで命をかけられるのか、だって？
他人ごとじゃあないからだ。

休日、シヨッピングの最中にテロに巻き込まれて、家族も身体も失った……なんて、確かによくある話かもしれない。

だが、被害者や残された者の哀しみは……憎しみは、通り一遍の言葉で片付きはしない。私の脳殻の中で、故郷は未だ燃えている。それだけで、他人事なんて思えやしない。

……だから、お前が罪を犯すつもりなら、覚悟をすることだ。何処までも追い掛け、喉笛に噛み付いて地獄の底まで引きずり落とす——そういうイヌもいるんだからな。

PL③（以下ミシエール）…最後は私だな。名前はミシエール・プロキオン。年齢は28歳。対国際犯罪専門チーム・ケルビム（*）に所属する女性捜査官だ。

駒村…ケルビムの警官！ 珍しい立ち位置のキャストだな。
RL・N◎VAのイヌ枠はほとんどブラックハウンド（*）の機動捜査課だからね。しかし今回は、世界規模の物語を行うことにしているため、ケルビムの指定にさせて貰いました。あと、この枠はニューロエイジの歴史に詳しいブレイヤーさんに

担当して欲しかったため、ベテランの**PL③**さんを指名させて頂きました。

ミシエール…出身はヴィル・ヌーヴ（*）の辺境だが、今の所属はRLと相談の上でオーストラリアのキャンベラAXYZ（*）に設定させて貰ったよ。幼い頃に真教浄化派（*）の起こした宗教テロによって肉親と故郷を失い、その復讐の為に多くの難問を乗り越えてケルビムに入隊した修羅のごとき警官だ。弱者には深い優しさを示すが、犯罪者には炎の如き苛烈な制裁を食らわせることから、同僚たちにも恐れられている。戦闘ではジャッカル（*）の二丁拳銃使いで、スタイルはバサラ、カゲ、イヌ◎だ。

エリカ…強い女性って感じですね！ でもバサラ、ですか？
バサラって確か……。

CD…古臭い、ダサイ、役に立たないという意味のスラング。

NI.K…N◎VAにおける探偵の互助組合。ライセンス加盟式で、加盟者は事務所に刻と天秤の紋章を掲げる。

ブラチナムハート…NI.Kに所属する探偵の中で、十年間顧客数が規定以上であり、その満足度が百パーセントだった探偵に与えられる称号。

ケルビム…オーストラリアに本部を持つ、国際犯罪専門の警察機構。
ブラックハウンド…N◎VAで最も代表的な警察機構。日本政府に直属し、重

犯罪や対テロの捜査を行う高等警察。イヌのキャストはこの所属が多い。
ヴィル・ヌーヴ…新欧州連邦。災厄によりその土地の殆どを永久凍土に飲み込まれたヨーロッパは経済的にも環境的にも苦しい生活を強いられている。

キャンベラXYZ…ポールシフトの影響により世界有数の大国となったオーストラリアに存在する、オセアニア最大のメガフレックス。世界最大の軌道エレベーター、ユグドラシルが存在する。

真教浄化派…世界宗教・真教のセクトから派生した、狂信的テロリスト集団。
ジャッカル…ハンドガンサイズまで小型化された荷電粒子銃（レーザーガン）。

ミシエール…うん、バサラは一般的に魔術師や退魔師を表すスタイルだね。でもこのキヤストは魔術には詳しくなくて、バサラは一種の特異体質を表すためのスタイルとして取得している。

駒村…特異体質？

ミシエール…幼い頃、テロリストへの復讐を誓った際に、ある魔術師に心霊手術を受けたんだ。それは、自分の中の恐怖や甘えなどといった、弱さの感情を切り離すものだ。この結果、ミシエールは苛烈さを手に入れたが、切り離された弱さは消えてしまったわけではなく、彼女の後をついてくる霊体として残った。データ的には〈使魔〉(*)で表現している。

RL…ファミリアのデータを見たんですが、非常に優秀なサポーターですね。

ミシエール…守護天使のようにミシエールを陰ながら護っているって設定だね。また、自分の一部を失った後遺症として、〈元力…虚無〉の異能も得たって事になっている。

駒村…演出と実益を兼ねた玄人らしいデータだなあ。そして、ウェットの俺とは対照的に全身義体なんだな。

ミシエール…近年の凶悪犯罪に対抗するには、義体化は必須さ。犯罪者を裁くためなら何だって捨てるさ。生身の体すらもね。

RL…では続いて第1話のハンドアウト(*)を配布します。今回は駒村を主役に据えた物語となっていますので、キヤスト番号(*)は駒村が①、ミシエールが②、エリカが③です。本キャンペーンでは各話で主役が入れ替わっていきますので留意しておいてください。ではまず、駒村のハンドアウトです。

【フェイト】コネ…虎丸矩子／推奨スト…理性

虎丸は、君の行きつけのバーで知り合った友人だ。メガコーボのシステムエンジニアであり、大きなプロジェクトの開発責任者をしているという彼女は、天才というに相応しい人物だった。彼女の話し方も難解だが興味をそえられるもので、夜通し語り明かす事も少なくなかった。

しかし数日前、「友人としての助言だ。早くこの街から出た方がいい」という謎の言葉を最後に、彼女との連絡が取れなくなってしまう。

PS(*)…虎丸の言葉の真意を探る

駒村…失踪した飲み友達謎を追って事件に巻き込まれるというのは、いかにも探偵ものって感じの導入だな。

RL…N.I.K.を通しての依頼導入ではありませんが、この方が駒村を主役としたシナリオとしては際立つかなと思います。なお、このシナリオでは《真実》に使用想定があります。

駒村…了解。せいぜい探偵として格好いいところを見せられるよう頑張るとしようか。

RL…では、続いてはミシエールのハンドアウトです。

【イヌ】コネ…融氷祖／推奨スト…外界

近年、急激に信者数を増やしている世界的な新興カルト宗教・メルト教団。今までは目立った活動を行っていなかった彼らであったが、先日、オーストラリアで建造中であった大型巡洋艦を武装テロにより強奪し、逃亡した。

国際指名手配犯となった彼らを長らく追っていた君は、彼らがト
ーキーN◎VAに上陸したとの情報を得た。一体、かの地で何を
しようとしているのか。君もまた、彼らを追ってN◎VAの土を踏
むのだった。

PS…メルト教団の犯罪を阻止する

ミシエール…国際犯罪者を追ってN◎VAに入国する導入なん
だね。メルト教団…聞いたこと無いな。

RL…このシナリオのオリジナル教団です。具体的にどのよう
な宗教組織なのかは、アクトに入ってからリサーチして下さい。
ミシエール…軍艦を強奪するってことは、武力を用いたテロを
行おうとしている可能性が高いな。狂信者によって人々の安全
が脅かされるのを、私は絶対に赦しておけない。必ずこの手で
制裁を食らわせてやる。

RL…では、最後はエリカのハンドアウトです。

【トーキー】コネ…九条政次（*）／推奨スート…感情

今、巷を騒がせている終末論。「世界が終わる」という予言が未だ
かつて当たったことなどないが、それでも大衆娯楽を提供するメデ
イアとしては、十分魅力的な取材対象だ。

面白い記事をでっちあげて来いと、普段と変わらぬ調子で編集長
の九条は君に言った。他に適任のトーキーは多いであろうに、何故
君が選ばれたのか。それが彼のきまぐれであったのか、あるいは彼
特有の「カン」でも働いたのであろうか。君には知る由も無かった。

PS…世間を騒がせている終末論について取材する

RL…キャンベーンの主役となるエリカですが、第1話におい
ては一般的なトーキーとしての脇役導入になります。

エリカ…はい。コネはN◎VAスポの九条さんなんだね。も
ともとトーキーとしての活動ではN◎VAスポにお世話になっ
てるという設定で、九条さんの「コネ」も「外界」で既に持っ
ています。

RL…その場合はシナリオコネとあわせて2レベルの「コネ」
を持つことになります。レコードシートのコネの欄は「外界」
と「感情」の2つのスートを塗りつぶしておいて下さい。
エリカ…わかりました。

ファミリア…バサラの特技「使魔」で使役可能な、意のままに動かせる独立し
たキャラクターのこと。その姿形や能力などはプレイヤーが自由に設定できる。
ハンドアウト…そのアクト中でキャストに与えられる役割やストーリーを記し
たもの。通常、キャストに推奨されるスタイルなどが指定されている。

キャスト番号…物語への当事者性によってプレイヤーキャラクターに順番をつ
けるルール。数字が小さいほど物語への関わりが深いことを表し、①はすなわ
ち主人公であることを意味する。実際は、N◎VAで正式に規定されているル
ールではないが、多くのシナリオで便宜的に採用されている。

PS…Purpose is Scenario. アクトでキャストが達成するべき目的のこと。
九条政次…俗悪三流メディアと悪名高いN◎VAスポの編集長。（レッガー◎、
マヤカシ、トーキー）報道を大衆娯楽として確立し、虚実ないまぜな情報を
発信する業界ゴロとして知られるが、特ダネを独特の「カン」で察知する男と
して一部で恐れられている。

RL…では最後にキャスト間コネを取得しましょう。エリカ↓駒村↓ミシエール↓エリカの順で取得して下さい。なお、各話ごとにキャスト番号は変わりますが、その順序自体は変わりません。なので、基本的にはここで取得したキャスト間コネを、キャンペーンを通して使用することになります。

エリカ…わたしは駒村さんから「コネ」を貰うんだね。どんな関係がいいのかなあ。

駒村…折角のキャンペーンだし、普段より一歩踏み込んだ関係性にしたいな。そうだ、記憶喪失のまま目覚めたエリカを拾ったのが駒村、というのとはどうかな。

エリカ…あ、それいいですね。それで、過去を探す手伝いをしてもらってるって感じで。できれば、わたしがトッキーのお仕事をしようになったのも、駒村さんのアドバイスからってことにしてもらえると嬉しいですね。

ミシエール…頼られてるな、駒村。生まれたばかりの雛鳥が初めて目に入ったものを親だと思うように、エリカも駒村の事を父親のように感じているのかもね。

駒村…じゃあ、渡す「コネ」のストーリーは【感情】にしよう。この子は俺が護ってやらないとなと感じている。

エリカ…はい。よろしくおねがいします！

ミシエール…次は私が駒村に「コネ」を授ける番だな。駒村はずっとN◎VAで活動しているのかな？

駒村…いや、最近ではN◎VAで落ち着いちゃいるが、かつては世界中を飛び回ってたって設定だ。広い世界を知るためにね。だから、その時にミシエールと出会ってたって事にしよう。

ミシエール…それだと助かるね。じゃあ、かつて国際犯罪の捜査の際に協力してもらったということで。その時の手腕から、駒村を一流の探偵だと評価している。【理性】かな。

エリカ…最後は、わたしがミシエールさんにを渡すんだよね。うーん、さすがにミシエールさんとは、このアクトが初対面になるよね……。

ミシエール…そうだね。なので、初対面の時に感じるであろう印象、みたいなものでもいいと思うよ。

エリカ…じゃあ、凛とした強い女性の姿に憧れつつも、その表情の中に少しの寂しさを感じ取って気になってる、って感じではどうでしょうか？

ミシエール…いいね。私が切り離れた自分の「弱さ」の部分をも物語に出すときには、エリカの存在が切欠になりそうだね。

RL…コネが行き渡りましたね。では皆さんのキースタイルに対応したタロットを配布します。切り札ルール（*）を使用しますので、忘れずに使用してくださいね。

駒村…エリカがハイランダー、俺がフエイト、ミシエールはイヌだな。

RL…では早速、第1話のメインアクトに入りましたよう。

切り札…シンカードを、任意のタイミングでキャストのキースタイルのものに書き換える事が出来るルール。そのシンにおいては、一度だけ自身の使用するカードを Joker扱いとすることが出来る。（これをキー効果という）

“Nostalgia” 彼方 エリカ



「世界が終わる……なんだかそれが、
あり得ないことだって感じがしないの」

3年ほど前に、N○V Aの路地裏で目を覚ました記憶喪失の少女。記憶の手がかりを探すためにトーキーの真似事などをしているが、未だ過去に繋がる糸口は見つかっていない。

年齢は18ほどに見えるが、記憶が無い故に世間知らずだったり、その特有のふんわりとした無垢なオーラから、より幼い印象を受ける。非常に感受性が豊か。時折垣間見せる高貴さから、実は軌道生まれの^{ハイランダー}天上人ではないかと目する者もいるが、真偽は定かではない。

基本的には楽天主で世界は美しいと信じている彼女だが、心の奥底では、どことも知らない故郷へ帰りたいという^{ノスタルジア}に囚われている。そして同時に、その故郷へは二度と帰れないのではないかとという漠然とした不安も抱えており、過去を探しつつも、それを見つけてしまうことをなによりも恐れている。

ハイランダー●、トーキー◎、マヤカシ

能力値：

♠理性 7 / 15 ♣感情 8 / 15
♥生命 1 / 6 ♦外界 5 / 12

消費経験点：0

ブランチ：

マヤカシ／イリュージョニスト：1Lv

技能：

〈交渉〉〈知覚〉〈自我〉
〈社会：N○V A〉〈社会：メディア〉
〈社会：ストリート〉〈社会：軌道〉
〈コネ：九条政次〉など

特技：

〈アテンション〉 2 ♠♣♥◇
〈ニュースソース〉 2 ♠♣♥♦
〈幻覚〉 2 ♠♣♥◇
〈デジャ・ヴュ〉 1 ♠♣♥♦

アウトフィット：

I ANUS、リングリング2、
マジックフォーメーション、
スプートニク

トウ ルース バレ ッ ト
「真実の弾丸」

駒村 当真



「安心していい。」

依頼人も真実も護り切る。
このプラチナムハートにかけてな」

プラチナムハート——それは、N◎VAの探偵互助教会“N.I.K.”に登録する探偵の中でも最高の探偵に与えられる称号だ。駒村当真は、その名を冠する数少ないフェイトの一人である。

N.I.K.で最も困難な仕事を引き受け、どんな難解な真実でも見つけ出し、敵がどんなに強大であっても屈すること無く依頼人を護り切る、固^{ハード}如^{スタイル}でを絵に描いたような探偵だ。古臭い信念を

頑^{かた}なに守り続け、電脳化が当たり前の現代においても生身^{ウェット}を貫くその姿勢は、他のフェイトから尊敬の念を持って慕われている。

若かりし頃はかなりの無鉄砲者だった彼だが、探偵の先輩である恩師^{うしな}を喪ってからはその遺志を継ぎ、この街を代表する探偵として名を上げた。40を過ぎてもなお、一線で活躍を続ける偉丈夫。くわえ煙草と帽子、懐のリボルバーがトレードマーク。

カブト、フェイト◎●、カブトワリ

能力値：

♠理性 6 / 13 ♣感情 3 / 13
♥生命 6 / 11 ♦外界 6 / 11

消費経験点：94

ブランチ：

カブト／ソルジャー：2Lv

技能：

〈射撃〉〈知覚〉〈白兵〉〈社会：N◎VA〉
〈社会：ストリート〉〈社会：ミトラス〉
〈社会：企業〉〈社会：警察〉〈社会：社交界〉
〈コネ：シュウ・皆口〉など

特技：

〈自動防御〉 1 ♠ ♣ ♥ ♦
〈無敵防御〉 2 ♠ ♣ ♥ ♦
〈事情通〉 4 ♠ ♣ ♥ ♦
〈インターセプト〉 2 ♠ ♣ ♥ ♦

ワークス：N.I.K.

アウトフィット：

プラチナムハート、ワーンアウト、
N.I.K. 鑑札、鼻肩の一品、ボギーコート、
ピースメーカーズ、スロウバレット、
コンバットアシスト、ラストウェイ、
爆裂弾、スタン弾、追加マガジン、
チェーンメール、アーマージャケット、
銀の目、ライフパス：ウェット

“裁きの重ね矢” ミシェール・プロキオン

「受ける罪人、裁きを、報いを。」

この火薬を燃やすのは私の憎悪だ！

ガンバウダー

国際警察機構ケルビムのキャンペラ
XYZ 支部に所属する優秀な女捜査
官。出身は欧州ヴィル・ヌーヴだが、
幼い頃に宗教テロ組織・真教浄化派の
手により肉親と故郷を失っており、復
讐への一念でケルビムに入隊した。

入隊に際して、その復讐の炎を絶や
さぬことを望み、ある魔術師による心
霊手術を受け、己の中の“弱さ”——
と彼女が呼ぶ感情を切り離した。実際

は切り離した“弱さ”は霊体として彼女の傍に居続けているが、ミシェールがそれを
自覚することはない。今の彼女の生き様は、まるで炎のように苛烈である。

能力に恵まれ、また両親の死後も様々な援助によりエリートとして育ったため、己
に責務の強制を課している。弱者には深い優しさを示すが、犯罪者……特に宗教テロ
リストに対しては容赦の無い制裁を与え、その手腕はケルビム内でも畏れられている。



バサラ、カゲ、イヌ◎●

能力値：

♠理性 9 / 14 ♣感情 8 / 12
♥生命 9 / 12 ♦外界 4 / 9

消費経験点：290

技能：

〈運動〉〈自我〉〈射撃〉〈知覚〉〈交渉〉
〈社会：XYZ〉〈社会：ヴィル・ヌーヴ〉
〈社会：N◎VA〉〈社会：警察〉
〈社会：真教〉〈コネ：ジャック・バロウス〉
〈コネ：ウィリアム多聞〉など

ワークス：ケルビム

特技：

〈使魔：痛悔機密〉 1 ♠♣♥◇
〈元力：虚無〉 3 ♠♣♥◇
〈死点撃ち〉 3 ♠♣♥◇
〈乱れ撃ち〉 3 ♠♣♥◇
〈鎮圧〉 3 ♠♣♥◇

アウトフィット：

全身義体：ナタク・冥、
ブーステッドリフレクス×4、
メンタルバースト×4、スプレnder、
ホッパーレッグ、スライドアウェイ、
ジャッカル×2、GARGOYLE、隊員証、
デクシヨナリ Duo、オールインワン、
護法、ポケットロン、ホームンクルス
(ほか、ファミリア装備多数)

オープニングフェイス

オープニングシーン

世界を導く力を



オセアニア最大のメガブレックス、数年前の大災害（*）による爪痕が残るキャンベラ AXYZ。

災害で失われたものは大きかったものの、復興は順調に進んでおり、街には活気が戻ってきている。人間の底力というものを感ぜさせる都市だ。

そんな週末の街の賑わいを、サイレンの音がかき消す。オーストラリア政府の要請で、国際警察ケルビムの部隊が出動したのだ。AXYZに隣接した軍港で起きた、武装集団によるテロ。完成間近であった新式大型巡洋艦の強奪を行った犯行グループは、メルト教団と呼ばれる新興のカルト宗教団体だ。

先行し、真っ先に現場に辿り着いたバンから、ケルビム制服に身を包んだ緋色の髪の子……ミシエル・プロキオン捜査官が飛び出す。既に軍港は制圧され、指導者と思しき銀髪の神父が、部下たちに導かれて船に乗り込むところだった。ミシエルは、一瞬で状況を確認する。捕捉対象、周囲の敵の人数、その技量……それらと手持ちの弾数を照らし合わせ、数秒で決断を下した。

「……その足を止める、狂信者！」

鋭い一声と共に、ミシエルは長大な拳銃を二丁引き抜き、銃口を敵に向けた。

R L…まずはミシエルのオープニングからです。舞台はオーストラリアのメガブレックス、キャンベラ AXYZ に隣接した軍港です。貴方は、メルト教団が起こしたテロに対処する為に出動しています。教団の指導者、ヴィルヘルム・アベスターグはテロの指導者というイメージからかけ離れた、温厚そうな神父です。

ミシエル…遮蔽から遮蔽へジリジリと前進する。銃口は神父の顔面に向けたままだ。ケルビムの守護衛星、四面のソロネ（*）とリンクした高精度照準システムは、数ミリの狂いも無く男を的に収め続ける。「止まれと言ったぞ。聞こえなかったか、狂信者」

R L／ヴィルヘルム…君の方を振りかえる。「おや。狂信者とは随分な呼ばれ方をしたものです」

ミシエル…「他者はお前の存在を、お前が為した行いによってのみ同定する。この行いは、紛れもなく狂信者の仕業だ」

R L／ヴィルヘルム…「なるほど確かに。貴方の言う通りだ。ときに、貴方は救世母を信じますか？」神父は唐突に問いかけます。

ミシエル…は……？ 何だこの男は。救世母とは真教の神の名だろう。メルト教団は真教の流派なのか？

R L…いいえ。彼らは真教とは異なる神の存在を説いています。エリカ…真教？ 救世母？

RL…エリカはまだあまり知らないのでしたね。真教はニューロエイジ最大の宗教であり、救世母とはその最高神のことです。詳しくはリサーチシーンで語られますよ。

ミシエール…この問いかけの目的が分からん。だが凡そ、突飛な言動で私の意識を混乱させようとも思っているのだろう。「……救世母？ 信じているさ。そして私の信ずる御母は、お前のような行いを許しはしない」

RL／ヴィルヘルム…「貴方は素晴らしい魂と信念をお持ちだ。それに、現状を正しく判断する慧眼と、行動力もある。実に素晴らしい。……だからこそ、私は残念です。貴方の目が、過ちの信仰によって曇らされている事が」

駒村…正しく狂信者って感じの教祖だな、この男は。

RL／ヴィルヘルム…「貴方、よければ私たちの仲間になっては頂けませんか？ 私は貴方に、真実を示してさしあげる事が出来る。この偽りの世界の真実を知り、それを正す手助けをして頂きたいのです。貴方には、その力がある」

ミシエール…嗚呼、氷のように己の心が冷えていくのがわかる。「……貴様に信仰を評する権利はない」神父までの十全な遮蔽を得たまま近づける最接近距離に滑り込む。男の穏やかな笑みに向けた銃口がギラつく。「貴様らの行為によってどれだけの人間が傷ついたか、それすら考えられない宗教者の語る真実など、興味はないね」

RL／ヴィルヘルム…「そうですか……誠に残念です。出して下さい」最後の一言は、部下に対してです。その瞬間、巡洋艦が轟音と共に動き始めます。

ミシエール…「……チッ！」会話の間に後続の味方が追い着けばと考えていたが、間に合わないならば仕方がない。遮蔽にしていたコンテナから飛び出し、引金を三発立て続けに引く！

RL…では貴方の放った銃弾は、大きく揺れた艦体のせいで逸れ、最後の一弾が男の頬を掠めるに留まりました。船体は轟音と共に潜航を開始する。

ミシエール…「待て……ッ！ クソッ！」足掻くように、弾が尽きるまで撃ち続けるよ。当たらないだろうがね。

RL／ヴィルヘルム…「申し訳ないが、世界を正す為に、この船が必要なのです。人々を救い導く方舟として。……また、会いましょう。世界の終末で」そう言っただけ男は艦内に入って行きました。船は完全に潜航してしまします。

ミシエール…弾が切れた後も引金を引き続ける。そしてそのまま手を下ろし、立ちつくす。「ヴィルヘルム・アベスターグ……待っている。智天使の炎の剣が、その陰謀、必ず焼き尽くす」

数年前の大災害…03年に起きた「二度目の災厄」と呼ばれる事件を指す。ここでは詳細は割愛するが、世界規模の天変地異によってキャンベラAXYZを始めとする多くのメガフレックスが甚大な被害を受けた。

四面のソノネ…ケルビムの保有する軌道上の人工衛星。常に世界中を監視し、犯罪に関する膨大な情報を蓄積している。

別れの歌

シンブレイヤー・駒村
 シンカード・エクセク（正）

宿命



オープニングシーン2

バー・ウエストバージニアは、探偵のお気に入りの店だった。災厄前のフォークソングが静かに流れる、落ちついた店内。カウンターに座ると、口数は少ないが気の利くマスターが、何も言わなくても、いつもの一杯を出してくれる。

「隣、いいかな」

一人静かにバーボンを喉に通していた男の背中に、声をかける女性がいた——虎丸^{とらまる}矩子^{のりこ}。探偵・駒村当真が、彼女と初めて出会ったのも、こんな静かな夜だった。

同じバーのカウンター席に座るもの同士、自然に会話を交わすようになり、いつしか気の置けない飲み友達となっていた。

「少し久しぶりだね。プロジェクトが立て込んでいて、この店に来られる余裕がなかった。でもやっと落ちついたよ」

虎丸がカウンターに座ると、やはり何も言わずとも彼女が求めている一杯がグラスに注がれる。

「俺もこの店に来たのは久しぶりだ。ここの味がときどき無性に懐かしくなるのさ」

「いい店だからね、ここは。君もいる。今日とはことん飲みたい気分なんだ。付き合ってくれるかい」

「当然だ。久々の店で久々の顔。だが酒はいつもの味。最高だ」

そう言うって駒村は、虎丸とグラスを合わせる。チン、と小さく澄んだ音が、店内に響いた。

R L…次は、駒村のオープニングです。貴方は行きつけのバーで久しぶりに会った、飲み仲間の虎丸矩子と酒を交わしています。虎丸は30代後半の女性、メガコーポでシステムエンジニアをしているという一流のタタラです。

駒村…「立て込んでいたっていうのは、以前少し話していたビッグプロジェクトとやらかい？」

R L／虎丸…「まあね。楽な仕事じゃないよ、全く。君の探偵の仕事の方は、最近どうだい。何か面白い……といったら語弊があるな。変わった事件なんかは、あったかい」

駒村…「いや、増えるのはきな臭い……というか、火薬臭い事件ばかりだ。この街は今どいつもこいつもビリビリしてやがる。酒のつまみにもそう面白い話じゃないな」と言って酒をあおる。

R L／虎丸…「君も相変わらず、苦勞してそうだね。そういや、以前言っていた子は怎么样了？ 記憶喪失だとかいう、女の子は……」

エリカ…わっ。わたしの話が出てる。

駒村…「エリカか。相変わらず記憶の手がかりはさっぱりだが……。そうそう、最近はずいぶん真似事してるみたいだ。過去に繋がらなくとも、何か見つければいいんだがな」

R L…ではそんな感じで、静かに穏やかに時間は過ぎて行きます。お互い酒が回ってきた頃、ふと店に流れるBGMが変わります。災厄前のヒットソングです。ね。実際に鳴らします。

“Country roads, take me home. To the place I belong,

ミシエル…カントリーロードか……。(＊)

エリカ…(BGMに耳を傾けながら) なんだか、切ない曲……
聞いてると、涙が出そうになる。

RL…このバーの名前の由来でもありますね。そして、虎丸の好きな曲でもある。彼女はいつもこの曲が流れると、合わせて口ずさんでいました。

駒村…今もそうなのか？

RL…いいえ、今は少し違う。彼女はどこか切なさそうな微笑を浮かべて、曲に耳を傾けている。

駒村…「どうした？ 好きな歌を聞いている顔じゃないぜ」

RL／虎丸…しばらく沈黙で返した後、静かに口を開く。「やはり、もうこの店に来れないと思うと、惜しいな……」

駒村…「『そういうことだ？』」怪訝そうに尋ねる。

RL／虎丸…「実はね、今日は君に、お別れを言いに来たんだ……私は、この街を離れる。最後に会えてよかったよ」そう言って、彼女はカウンターを立ちます。

駒村…「——ずいぶんと急だな。なにがあった？ 困りごとなら聞かせ」

RL／虎丸…「いや。残念ながら、君の手を借りられることではないんだ」彼女はコートを取り、キャッシュをカウンターに置くと、足早に立ち去ろうとします。が、一瞬立ち止まり、君に背を向けたまま口を開く。

「友人としての助言だ。君も早く、この街から出た方がいい。」

この街はもうすぐ、海に沈む」

それだけを言い残して、虎丸は店を後にした。

「……どういう、ことだ？」

駒村は、彼女の去った空白の席に問いかける。街が海に沈むだなんて言葉、縁起でもない。だが、虎丸はつまらない冗談を言う女じゃなかった。駒村の脳裏に数分前の、歌を聞いていた時の虎丸の表情が想い起される。

「すまんマスター、俺ももう出る。……あー、バーボンはキープレスといてくれ。彼女とはまた会える、そんな気がするんだ。それまで、な」

コートを手に取り、帽子を被る。同時に、探偵の表情になる。真実を追う顔に。

バーのドアをくぐると、空は星も見えない曇り空。彼女の言葉とその表情をもう一度思い出し、探偵は歩き出した。

「酒のつまみとしちゃ上々だよ、矩子」

カントリーロード：正つづね “Take Me Home, Country Roads.” (故郷へ帰らう)。1970年代のフォークソングの中心的な役割を果たしたジョン・デナーの名曲。詞の中で歌われている故郷がアメリカのウエストバージニア州であることが、このシーンの舞台であるバーの名前の由来になっている。

ある暑い日、週末の始まり

オープニングシーン3



ニューロエイジ。災厄^{いざや}と呼ばれる大災害で地軸が歪み、氷河期が再来した時代……というのが信じられないほど暑い日のこと。駆け出しのトニーキーである彼方エリカは、三文タブロイドとして悪名高いトニーキーN◎VAスポーツ編集部呼び出されていた。窓の外は週末。街は黄色い賑わいに満ちている。「こんにちわー。九条さん、わたしに用事ってなあに？」

時代が時代なら、窓の外から蝉の声でも聞こえそうな陽気。
 (*) エリカを迎える編集長・九条政次は、だらけたシャツを腕まくりし、時代錯誤なうちわを必死でバタつかせていた。

「おお、よく来てくれた。なんかこのところ暑いよなあ。外キツかったやろ。コーラ飲むか？」

「うん、もう。ありがとう」

エリカは氷でキンキンに冷えたコーラを受け取り、椅子に座った。ストローで上品に飲む、雑然とした編集室にはやや場違いな少女に対し、九条はおもむろに口を開いた。

「エリカ。お前さん、最近世間で流行^{はや}ってる、終末論^{しゅうまつろん}、知ってるか？」

RL…最後はエリカのオープニングです。貴方は普段よく世話

になっているN◎VAスポの編集部に呼び出されます。最近、街でとある「終末論」が話題になっているらしいという話を、九条編集長は貴方に伝えます。

エリカ…「終末論……うん、噂くらいは聞いてるよ。でも、どうして世界が終わるの？」

ミシエル…「どうして？ 終わるのだって？ このお嬢さんは、気にするところが少し変わってるな。」

RL…九条も同じことを思いますね。「相変わらず、リアクションが普通と違うなあ、エリカは」

エリカ…「そうなのかな……？」

RL／九条…「ま、この手の噂はちよくちよく出てくるんだよ。数年前にもそういうの流行ったよな。その時はまあ実際大災害は起きたわけだが……」

エリカ…「……？ そうなの？」

駒村…「二度目の災厄」の事だな。数年前に、そういう事件があったのさ。世界に終末論が広まり、その通りの大災害が起きた。だがまあ、5年以上前のことだ。エリカの記憶には無いだろうな。

RL／九条…「ま、その時も減びなかったわけだし、今までこういうタイプの終末論が当たった事なんてほとんどない。だがまあ、大衆はこの手の話が好きなもんだ。大衆娯楽を提供する我らN◎VAスポとしては、ほっとけない話題なわけだ」うんうん、という感じでコーラを一服する。

エリカ…わたしの知らない過去の話……。少しだけ表情を曇らせて、溶けていくグラスの水を見ている。

RL／九条…浮かない表情のエリカの肩をドンドン、と叩いて、九条は笑います。「ま、世界なんてそう簡単には終わったりしないもんや。んで、エリカ。その終末論についてちょよつと取材して、なんか面白い記事書いてくれんか。お前さんの書く記事、目の付けどころが面白いって、結構評判でな」

エリカ…「そうなの？」顔を上げます。少し表情は晴れてる。

RL／九条…「そそ。ハードな内容なわけでもないし、駆け出しのお前さんにはもってこいの話題かと思っただ。どうだ、引き受けてくれるか？」

エリカ…「うん。わかった、調べてみる」神秘的な顔をして頷く。なんでかな、調べなくちゃいけない気がする。

RL／九条…「おつ、やる気だな！ んじゃ、頼むで」調査費用に3シルバー（*）を渡します。取材内容からすればやや多過ぎる気はしますが、駆け出しの貴方に色をつけてくれたのでしょう。

エリカ…「やる気、っていうのかな……なんだか、ね」受け取りながら、小さく呟く。

「世界が終わる……それが、あり得ないことだって感じがしないの」

世界はとても脆く、ひどく危ういバランスで保っている。

その時、エリカは何故か、自分がそれを知っているような気がしたのだった。

リサーチフェイズ

リサーチシーン1

入国



「暑いな、さすが常春の街だ……」

トキヨーン◎VAの玄関口、房総南国際空港。シャトルのタラップから降りたミシエールは、サングラスをかけながらそう呟いた。

災厄による地軸の歪みで赤道直下へと移動し、常春の国となった日本。その存在を象徴するN◎VAという都市は、全世界から羨望の眼差しを受ける存在だ。

ミシエールがロビーを入国口に向かつて歩いていると、逆側から歩いてくる羽振り（*）のよさそうな集団の会話が聞こえてくる。「おや、貴方も終末から逃れるために？」

「ええ。まあ十中八九デマでしょうが、数年前のこともありませんからねえ、念のため避難しておこうかと」

時代が時代なら…氷河期となったニューロイジにおいて、蟬は絶滅している……と本キャンペーン中では設定している。言葉を漏すにはわけがあるが、物語の本筋とは関係ないのでここでの説明は割愛する。

シルバー…電子貨幣の単位の一つ。カップ、シルバー、ゴールド、プラチナムの順で高くなる。情報収集などの判定に使用することが可能。（厳密には貨幣そのものではないが、煩雑になるためここでは説明を省く）

「いやいや、私はあり得ると思いますよ、世界の終わり。ま、しばらくチャイロン（*）でバカンスですな」

軌道シャトルの搭乗口に向かう彼らを不機嫌そうに見送り、溜息をつくミシエル。

「フン、浮ついたことだ。AXYZでもそんな噂が流行っているが……下らない与太事で浮足立てる神経が信じられんな」

RL…ここからリサーチフェイズになります。シーンプレイヤ―はミシエルです。貴方はケルビムが保有する監視衛星、四面のソロネから得た、メルト教団がN◎VAで活動しているという情報を元に、トーキョーN◎VAの地に足を下ろします。

ミシエル…「この街の光の下でも、奴らは蠢いているというわけか」と言いながら、AXYZ支部から持って来た資料を広げる。RL、リサーチだ。ヴィルヘルムについてプロファイリングを行う。

RL…〈コネ…ヴィルヘルム〉か〈社会…警察〉で判定どうぞ。ミシエル…〈社会…警察〉で調べる。クラブのQを出して達成値は20。（*）

RL…十分ですね。融氷祖、ヴィルヘルム・アベスターク。メルト教団の創始者にして教祖。ベルソナはカリスマ。普段は温厚な紳士であり、信者へも非常に親身であるため、信頼は厚いようです。

ミシエル…過去の犯罪歴などはあるかい？

RL…いや、それが。先日のオーストラリア軍巡洋艦の強奪以

前には、特に目立った犯罪歴などは見当たらないんですよ。ミシエル…ふむ……？ てっきりテロなんかを繰り返している狂信的カルト集団だと思っていたが。

RL…そういう感じでは無いですね。ただ彼らは、真教教会に対しては非常に攻撃的な言動を繰り返しています。

エリカ…ヴィルヘルムさん、オープニングでも真教の神様がどうのって言ってたよね？

RL…真教教会は、災厄の最中に現れて人々を救ったとされる「救世母」を最高神とする世界宗教です。水を癒しの象徴として聖なるものと考えているのが特徴ですね。

駒村…真教徒は飲みものの水に祈りを捧げる習慣があるな。エリカ…へえ、おもしろい！

ミシエル…しかし、真教に対して攻撃的な事と、今回のテロ活動が繋がらない。奴らの目的は何なんだ？

RL…この段階では不明ですね。あと、メルト教団はここ数年で急激に信者を増やしていますが、その背景には、ヴィルヘルムが行うある「奇跡」の力が関係しているそうです。

ミシエル…胡散臭さが倍増だな。ま、ここではこの程度か。では、手早く入国手続きを済ませて空港を出る。本格的な情報収集は、N◎VAに着いてからだな。

RL…では、貴方がブーツの踵を慣らして空港のゲートを抜けて行ったところでシーンを切りましょう。

RL…シーンに登場しなかった駒村とエリカは、舞台裏判定（*）を行って下さい。

駒村…こちらは虎丸矩子についてリサーチだ。〈社会・N◎V A〉〈事情通〉(※)の組み合わせで達成値は21。

R L…さすがフエイト、情報収集の達成値が高いですね。虎丸は日系のメガ・コーポに所属する天才システムエンジニアです。所属企業についてはシナリオに関係ないので割愛します。日系人ですが、生まれはN◎V Aではないようです。彼女は近年、複数の日系企業が合同で行っていた、クラウドナイン建造計画の開発主任を務めていたようです。

駒村…その計画とやらの詳細は？

R L…それはまた別のリサーチになります。あと、少し前から、親しい部下や同僚達を「メルト教団」という妖しい宗教に勧誘していたようです。ビッグプロジェクトを任された責任感に押しつぶされて宗教にハマり、おかしくなってしまうというのが周囲の見解です。

駒村…おいおい、いきなりメルト教団と繋がるのか!? それに、虎丸はそんな奴じゃない筈だが……。

エリカ…じゃあ、わたしは街で噂になってるっていう終末論について調べてみるね。〈社会・N◎V A〉〈ニュースソース〉(※)で達成値は18出るよ。

R L…世界がもうすぐ終わる、というありがちな終末論ですね。どうやらN◎V Aのみならず、世界中でその噂は広まっているようです。「災厄^{ハザード}後に悪魔によって作られた偽りの世界はまもなく滅びる。真なる神が復活し、選ばれし者だけが新たな世界の幕開けを見るだろう」という内容です。

ミシエール…下らないな。

R L…噂の出所は、メルト教団のようです。

ミシエール…なんだって……!?

エリカ…今のシーンで、エグゼクの人たちが気になる事を言っていたよね。避難するって。

R L…はい。メルト教団によると、来る終末には回避方法があるそうなのです。そのうちの一つが、高所に逃れること。そしてもう一つは、真なる神の使徒である、融氷祖^{はこぶね}の導きに従い、方舟^{はこぶね}に乗ることなのだそうです。

エリカ…方舟って——!

ミシエール…ふむ……その情報はすぐにでも得ておきたい。早々に二人と合流する必要があるだろう。

R L…では、次のシーンに進みましょう。

チャイローン…軌道上に存在する南国風のリゾート・スペースコロニー、チャイローン・ジャンクションのこと。まさに楽園と呼ぶに相応しい場所だが、ここでバカンスをできるのは限られた裕福な人々だけだ。

判定…トーカーN◎V Aというゲームでは、サイコロではなくトランプを使って判定を行う。詳しくはルールブックを参照。

舞台裏判定…シーンに登場していなかったキャラクターが、そのシーンの裏で何をしてたのかを表す判定。リサーチや装備の購入などが行える。

〈事情通〉…様々な業界の情報を精通していることを表すフエイトの特技。

〈ニュースソース〉…情報網を駆使して調査を行うトーカーの特技。

貴方は神を信じますか



リサーチシーン2

「あの、少しよろしいでしょうか」

終末論について聞きこみをするために街を歩いていたエリカを呼びとめる声があった。突然の事に、呆気に取られるエリカ。「えっ？ は、はい」

そこにいたのは、質素な服装の女性だった。手を胸の前で組んでおり、首からは炎を象ったような形のネックレスが下がっている。

「貴方は神を信じますか？ 真教が奉^まる神……救世母を、です」開いた口が塞がらないまま茫然と立ち尽くす。普通の人間であれば、この時点でお茶を濁して早々に立ち去るところだろう。しかし、エリカにはこういった状況に陥^{おと}った経験や、対処法に関する知識が無かった。そして何より、彼女は他者からの問いかけに対し、真摯^{しんし}すぎたのだ。

「……わか、らない」

たっぷり沈黙したあと、エリカは絞り出すようにそう答えた。その答えが、エリカ自身、何だか気持ち悪く感じられた。

RL…シンブレイヤーはエリカです。

駒村…おいおい、いきなりとんでもないのに掴まってるな!?

エリカ…ど、どうしよう。わたし神様とか、よくわからないし。RL…「まあ……貴方は真教の教えにまだ汚されていないのですね！ 素晴らしいです！」何故か女性は目を輝かせて貴方に詰め寄り、まぐし立てます。「真教に騙されてはいけません。救世母は、偽りの神なのです！ 真なる神は、悪魔の手先である救世母によって殺されてしまったのです！ 災厄は、その悪魔の仕業で起きたのです！」ずいずい。

エリカ…「え、ええと」勢いに押されちゃう……こ、この人怖いよう！

ミシエール…登場しよう。〈社会…警察〉を隊員証（*）の効果で〈社会…N◎VA〉として使用し、登場判定（*）成功。その女性の肩を叩く。「……君、君。信教は自由だが、路上での布教は都市法上制限されている。それに、お嬢さんが戸惑っているよ」ケルビムの警察手帳を見せながら。

RL…女性は何か反論したような表情ですが、警察手帳を見るとすぐに委縮してしまいます。エキストラ（*）なので、「では。興味がありませんでしたら、是非ともメルト教団N◎VA支部まで足を運んで下さい。これ、アドレス（*）です」と言って貴方にパンフレットを押しつけた後、足早に退散します。エリカ…た、助かった……。「あ、ありがとう」

隊員証…あらゆる都市での捜査権限を保証するケルビム隊員専用の装備。

登場判定…シーンに登場する判定。登場しなければ、会話などは行えない。

エキストラ…キャストやゲストと違い、能力値や技能などのデータを持たないキャラクターのこと。脇役。

アドレス…連絡先や居場所のこと。



ミシエール…「いいえ、お嬢さん」につこりと笑ってサングラスを外す。「公僕の義務ですよ、このぐらいは」

駒村…俺も登場しよう。(社会…N◎VA)で15。ちょうどその場面に^{でくわ}会って割って入ろうと思っていたんだが、先を越されたな。「エリカが世話になったようだな。最近はある連中が増えて困ってるんだ。しかし、こんな所で会うなんてな、ミシエール捜査官」

エリカ…「駒村さん！」ぱっと明るい顔になって駆け寄ります。駒村…「怖かったか？ すまんな、出るのが遅くなって」大きな手で頭を撫でる。

ミシエール…「ミスター・コナムラじゃないか。なんだ、君の娘さんだったのか。こんな大きなお嬢さんがいるなんて聞いてないよ」

駒村…「違う違う。俺はまだ一所に留まる歳じゃねえよ。この子はエリカ。俺の、依頼人のようなもんだ」

エリカ…「エリカです。えつと……」手を差し出しながら。

ミシエール…「ミシエール。ミシエール・プロキオン。遠い街から来た、ケルビムの捜査官さ」握手を返す。

駒村…「しかし仕事熱心なお前さんがN◎VAへ来たって事は、観光じゃなさそうだな。何か大きな事件でも動いてるのか？」ミシエール…「ああ。さっきの女性が話していた、教団がらみだよ」メルト教団が起こした先のテロについて説明しよう。ついでに、彼らが強奪した巡洋艦についても情報を得ておきたい。リサーチできるかい？

RL…(社会…AXYZ)で判定してください。目標値は16。

ミシエール…スピードの9で判定して成功だよ。

RL…強奪されたのはオーストラリア軍が建造していた新型の大型巡洋艦です。全長400m、収容人数は千人ほど。大人数を収容しての長期間航行を可能にするため、内部に循環環境が整備されています。また、高性能ステルス機構を持ち、隠密航行が可能です。ただ、建造直後に強奪されたので、搭載兵器の類はあまり充実していません。

ミシエール…兵器としての利用ではなさそう、ということか。「ま、そういうわけだ。何にせよ、あのメルト教団は危険だ。あまり近づかない方がいい」

駒村…「なるほどな。だが、そうもいかない事情がある。俺の知り合いが、メルト教団に関わっている可能性がある。狂信者じゃない。一端のタタラだ」お返しに情報を渡そう。事前に調べていた体で、メルト教団の詳細をリサーチしておく。(社会…N◎VA)で18だ。

RL…メルト教団は、太陽と火を崇める新興宗教です。信者はキャンベラAXYZやミトラス^{エデルン}、ニューフォート、ルテチア(*)など、災害により大きな被害を受けた都市の出身者が多いようです。一般信者は犯罪活動などとは無縁ですが、教祖と、ヤザタと呼ばれる中心的信者たちがN◎VAで何らかの活動を行っているようです。

ミシエール…「ほう。有益な情報が得られた。協力感謝するよ、コナムラ」

駒村…「俺も探偵として、彼らの活動について調査してみよう。お互い、情報共有しようじゃないか」

ミシエール…「ああ。この街に慣れた人間の協力はこちらとしても助かる」ケルビムは現地警察に嫌われていて色々動き辛いらな。(*)

RL…エリカはまだこのシーンで情報収集をしていますが、何かしておきますか？

エリカ…うーん……メルト教団と真教の関係について、知っておきたいかな。

RL…では、〈社会…メディア〉で判定をしてみてください。

エリカ…〈ニュースソース〉を組み合わせるね。銀の目(※)とホームクルス(※)の効果も乗せて、達成値は18。

RL…そもそも真教は、自らもニューロエイジにおいて生まれた新興宗教であるため、一般的には他の宗教に対して寛容ですが、メルト教団は真教の神、救世母^{いわれ}を痛烈に批判し、あまつさえ救世母はAIだったなどという謂れの無い誹謗中傷を行っています。水を溶かす炎を聖なる物としたりと対立しており、真教も彼らを異端認定しています。

エリカ…なんだか悲しいね……。

RL…達成値が高いので追加の情報です。メルト教団教祖ヴェルヘルムは、かつて真教の信者でした。

エリカ…ええっ!? その人に、何があったんだろう……。

駒村…さて、とりあえずは足で稼ぐ仕事かな。俺は虎丸が携^{たづな}わっていたという、クラウドナイン開発部って所に行ってみようと思う。

エリカ…あつ、わたしも着いていっていいかな？

駒村…まあ、まだあまり危険な事は起きそうにはないし、いい

だろう。問題無いな、RL？

RL…了解しました。では、舞台裏はありませのでシーンを切りましょう。

楽園計画

シンブレイヤ…駒村
シンカード…タタラ(逆)



リサーチシーン3

虎丸矩子が主任を務めていたという、「クラウドナイン建造計画」の開発室。複数の企業の連合プロジェクトというだけあって、その開発室の規模はかなり大きく、本部もセキュリティの高いホワイトエリアに設置されていた。

災害で大きな被害を受けた都市…ミトラスEΔENは氷の溶けた旧南極大陸。ニューフォートは北米、ルテチアはヴィル・ヌーヴ(旧…EU)にそれぞれ立つメガフレックスだ。いずれも大災害の被害を受けた経験を持つ。

現地警察に嫌われている…どの企業にも縛られず、独自の捜査権を確保しているケルビムは地元警察を無視した捜査方法を取ることも多く、疎まれがちだ。しかもN◎VAでは日系の公安警察ブラックハウンドの威光が強いため、更に動きづらい。

銀の目…ウェブ上の情報検索サービス。情報収集の達成値を上昇させる。ホームクルス…検索アシスタントAI。回数制限つきで情報収集を補助する。

「ええと、面会希望だそうで。ご用件は？」

開発スタッフの男性が二人を迎える。駒村はN・I・K.の名刺を渡しながら口を開いた。

「こういうものです。虎丸矩子技師と、個人的に付き合いがあったもので、少しお話を聞かせていただけないかと」

虎丸の名前が出ると、スタッフは困った表情で頬を掻く。

「あー、主任ですか……。ん、入ってください。外じゃあまり話しづらいんで」

RL…シーンプレイヤーは駒村です。舞台はクラウドナイン開発室。2人は開発室の中に通されます。開発の中には沢山のタタラ達があり、無数の高性能トロンがずらりと並んでいます。「秘密にしたいってくださいね。本来ここ、外部の人間は立ち入り禁止なんで。セキュリティの関係で」

駒村…「恐縮です」表では話しづらいということは、矩子はここにも顔を見せてはいないってことか。

RL…はい。「主任、もうしばらく来てませんよ。捜索願いも出していますが、行方不明です。お陰でプロジェクトは完全にストップしちゃってますよ。貴方、探偵さんなんですよ？ 見つけてきてくれませんかね、切実に」

エリカ…なにか、帰れない事情があるのかな。虎丸さんのこと、よく知ってるわけじゃないけど、心配だね……。

駒村…「彼女は最後に、『この街が海に沈む』と言っていました。何か心当たりはありませんか？」

RL…「街が海に沈む？ いや、心当たりないですね。うーん、

変な宗教にハマっておかしくなったって噂が流れてたけど、もしかして本当だったのかなあ。主任、そんな人じゃなかったと思うんですけどね」

駒村…「自分も同感です。彼女は極めて理知的な人間だった」とはいえ、手がかり無し。手詰まりか。

エリカ…「あ、あの。関係ないかもしれないんだけど、クラウドナインって何なんですか？ ここ、何か建造してるように見えないんだけど」迎りを見回すんだけど、あるのってトロンばかりなんだよね？

RL…はい。何か目立った建造物があるようには見えませんが、クラウドナインについての詳細が知りたい場合は、スタッフに対し〈交渉〉で判定してください。

エリカ…〈交渉〉（アテンション）（*）で達成値19です。

RL…十分です。「ああ。ここ、開発本部ってなってますけど、別にここにモノがあるわけじゃないんですよ。モノはもって遠いところですよ」と言って、スタッフは上を指差します。

エリカ…「上？」頭に？マークを浮かべながら天井を見上げる。

RL…「空の上、軌道にあるんです」クラウドナインは衛星軌道上に建造中の、大型な気象制御衛星です。

駒村…気象制御、だって？

RL…氷河期で気候が安定しないニュージーランドの地球環境を改善する為に、日本政府の要請の元で、日系企業群が共同で開発していたものです。最終的には、ニュージーランド特有の異常気象の制御のみならず、地球全体をカバーする温度・湿度管理などを行い、絶滅の危機に瀕している動植物の生育環境を整え

られるようにする計画のようです。

エリカ…すごい……！

R L…「ただまあ、ぜんっぜん未完成で。途方もない計画ですよ。局地的な気温管理機構を整えるのが当面の目的みたいになってるんですが、まだまだ実用には程遠くて。夢のあるプロジェクトだとは思うんですけどね」

駒村…確かに、夢のある話ではあるが……日本政府が舵を切っているってのが気になるな。(*) とうにも胡散臭い。「ずいぶん荒唐無稽な話に聞こえますが、技術的にそんなことが出来るんですか？」

R L…「過去にスノウクイーン(*) について実例があるんですよ。ただまあ、もう壊れちゃってて技術分析は出来ないですし、そもそもこの手の技術って災厄(ハザード)ではほとんどロストしちゃってるんで、手探りです。それに、色んな企業から集められた灰汁(アツ)の強い天才たちを取りまとめるってのも、容易な事じゃない。いなくなつて、改めて虎丸主任の凄さを思い知らされます。早く帰つてきて貰わないと困るんだよなあ、代わり居ないんだから」

ミシエール…天才の群れの取りまとめ役だと……か、考えるだけで胃が痛くなりそうな仕事だな。

エリカ…虎丸さん、すごい人だったんだね。

駒村…「なるほど、ありがとうございます。最後にもう一つだけ。そのクラウドナイン、未完成とおっしゃいましたが、現状で使える可能性は？」

R L…「現状では無理ですよ。悪用の可能性に関しても、くだんのスノウクイーンが過去にハッキングされた経験から、セキ

ユリティはかなり厳しく最先鋭のものを準備してます。もともと、主任の専門分野はそっちでしたからね」

駒村…逆に言えば、既にセキユリティが施される程度には形になっていくということか。そして、そのセキユリティを作ったのは……。

R L…「あ。主任見つけたら連絡ください。できればひっ捕まえて連れて来て下さい」

駒村…「わかりました。……じゃあ行こうか、エリカ。彼女がどこに行こうとしているのか、探さなきゃな」

エリカ…「うん。みんな、虎丸さんが帰ってくるのを待ってるもんね」心から嬉しそうに笑います。虎丸さんには、帰る場所があるってこと、分かったから。

駒村…「そうだな……」そう言つて、エリカの頭を撫でる。

R L…では、二人が開発室を後にしたところでシーンを切りましょう。

◆フレーション…高貴さにより交渉を有利にするハイランダーの特技。

日本政府が舵を……ニューロエイジ最強の超大国・鎖国日本は、排他的な思想が強い。その日本が、世界全体の環境を改善させる。などというプロジェクトを起こしていることに駒村は引っかかっている。

スノウクイーン…災厄以前に軌道上に打ち上げられたとされる気象制御衛星。過去のシナリオでテロに利用されて暴走し、常春の街であるN○V Aに雪を降らせた。この事件の際に破壊されている。

ミシエール…舞台裏だな。では、ヴィルヘルムが行う奇跡の力とやらについて調べてみるか。

RL…《社会…アストラル》で調べられます。目標値は16です。

ミシエール…私はバサラのスタイルは入ってはいるが、アストラルには詳しくないんだ。《社会…アストラル》はデイクシヨナリ（*）で引つ張ってくるしかないな。推奨スート（*）のダイヤで判定。報酬点を2点積んで達成値16ピッタリだ。

RL…では、彼には、過去を見通す力^ミがあるらしい、ということが分かります。彼をインチキだと思い、トリックを見破ろうと突撃をかけたオカルト否定者たちが口を揃えて「彼の奇跡は本物だ」と認め、メルト教に改宗したといいます。

エリカ…過去を見通す、力……。

ミシエール…高度な洗脳の類かもしれない。まだその力が本物だと断定はできない。

RL…ルールからは若干外れますが、表舞台で判定をしていない駒村も、一度舞台裏判定をしていいですよ。

駒村…お、助かるな。じゃあ、メルト教団員たちがN◎VAでどんな活動を行っているのかを調べよう。

RL…《社会…N◎VA》でどうぞ。いくつかの活動を行っています。達成値が高いほど、秘匿度の高い活動までリサーチできます。

駒村…《事情通》を組み合わせて判定。N.I.K.鑑札（*）と銀の目を使用し、ワークスの技能ボーナス（*）も足して達成値は19だ。

RL…それだけ出れば全ての情報が明らかになります。まず一

つ目の活動は、先ほども言った通り「終末論」の流布です。彼らはウェブ（*）などを巧みに使うことで、情報を一気に拡散させています。

駒村…あんな陳腐な終末論だ。それでもあれだけ噂が広まっているってことは、素人の手によるものじゃない、な。

RL…二つ目は、布教・勧誘活動です。

エリカ…わ、わたしもさつき受けた……怖かった。

RL…終末論を上手く使って信者を増やしているようです。メルト教の教えを信じれば「終末」から逃れられる、という諷刺文句のようですね。

ミシエール…ようは自作自演じゃないか。

RL…最後の活動が、^ミ神の復活の儀式^ミと呼ばれるものです。

駒村…あからさまにヤバそうなのが来たな。

RL…ただ、これは実際に何を行うのか、信者たちも知らないようです。知るのには教祖と、実際にそれを執り行う^ミ復活の火守^ミと呼ばれる司祭だけのようです。

駒村…司祭^ミアシャ^ミか……。

断罪の炎



疑惑

グリーンエリアの喫茶店。トロンのモニターを眺めながら、ミシエルはカタリとティーカップを置き、息をつく。

「芳しくない、な」

駒村とエリカがクラウドナイン開発室に赴いていた間も、ミシエルはメルト教団に関する調査を進めていた。だが、情報が集まれば集まるほど、ある確証めいた結論が浮かび上がってくる。

「どんな方法で、どんな結果を引き起こすにせよ、……ほぼ確実に、連中はその手で、終末、とやらを引き起こそうとしている」

そして、それは恐らく世界規模の被害を及ぼすものだ。ミシエルは、己が胸をチリチリと焼いていた憎しみの炎が、苛烈な豪炎となりつつある事を自覚していた。

宗教犯罪——幼い頃のミシエルから、全てを奪った元凶。「智天使の炎の剣から逃れられると思うな、狂信者め」

RL…次はミシエルのシーンです。

駒村…こちらもこのシーンに登場して落ち合おうと思うが、どうだ？

ミシエル…分かった。では二人が来る前に調べておいたという体で、情報収集を先にしておこう。メルト教団の教義とやらについてリサーチだ。

RL…〈社会…警察〉や〈社会…メディア〉などでどうぞ。ミシエル…〈社会…警察〉で報酬点も積んで21まで出す。

RL…OKです。彼らは、災厄によって一度死んでしまったとされる、真なる神々の復活を教義としています。その教義の根底にあるのは、真教、ならびにその主神である、救世母の否定です。彼らの教義によると、救世母こそがかの災厄を起こし、世界を破壊した張本人なのだそうです。

ミシエル…エキストラの信者も、そんな事を言っていたな。救世母が災厄を起こした？ 馬鹿馬鹿しい。救世母と言えば、災厄の最中で人を救い導いたという神だろう。

RL…しかし、彼らはその説の根拠となる物を持っているそうです。

ディクショナリ…ニューロエイジにおいて最もポピュラーなサイバーウェアのひとつ。膨大なデータベースにアクセスし、必要な情報をダウンロードする。ある程度の制限はあるものの、あらゆる一般技能を判定可能になる。推奨スト…各一般技能には推奨される使用スト（カードの記号）が設定されている。この推奨ストでしか判定できないというのが、ディクショナリの制限のひとつだ。

N.I.K.鑑札…N.I.K.に登録した探偵のみが使用可能なデータベース利用権限。情報収集の達成値を上昇させる。

ワークスの技能ポナス…ワークスは特定の組織に所属していることを表すデータ。ワークスごとに設定されている技能にポナスがつく。

ウェブ…世界をあまねく覆うデータ通信網。インターネット。

ミシエール…それが本当に根拠と呼べるに相応しいものなのかは甚だ疑問だが……しかし。それが彼らにとつての根拠たりうるものなのであれば、犯罪は起こる。状況は芳しくないな。

駒村…では登場する。登場判定は〈社会…N◎VA〉で成功だ。エリカとともに喫茶店に入店する。店員に注文しながらミシエールの対面に座る。「そちの進展はどうだい、捜査官」

ミシエール…「当然のことを当然のように調べて当然の結果が出た、という感じだね」嘆息しながら、資料をまとめたデータチップを押しつけよう。

エリカ…「こっちも、あんまり手掛かりはなかった、かな」

駒村…クラウドナインについての情報は、一応渡しておこう。そして少し考えてから、こう言う。「虎丸矩子が、今回の一件に関わりがあるのは、ほぼ間違いないだろう」

エリカ…「えっ……!?!」

駒村…「だが——彼女のことは、俺に任してはもらえないか？」情報の入ったデータカードに手を置いたまま。

ミシエール…「コマムラ、私に……ケルビムの警官に、犯罪者を見逃せと言っているのか？」烈火の瞳で睨みつける。

駒村…目を逸らさない。「違う。——だが、これは俺の事件だ。俺のやり方でやらせてくれ。安心しろ、真実という名の弾丸は、彼女を逃しはしない」

ミシエール…まあいい。瞑目し、十字を切る。「ならば、彼女の灯した炎が、彼女自身を焼くだろう」

駒村…「恩に着る」

エリカ…ね、ねえ。虎丸さんがこの事件に関わりがあるって、

どういうこと……?!

駒村…探偵の直感さ。——残念ながら、外れた事が無い。RL、司祭「アシャ」の正体を調べたい。判定をさせてくれ。

RL…「おお……では、〈社会…N◎VA〉か〈社会…テクノロジ〉でどうぞ。」

駒村…「ワンアウト(*)で〈社会…N◎VA〉を1レベル伸ばし、〈事情通〉も組み合わせて達成値は18だ。」

RL…流石ですね……ではお答えしましょう。お祭しの通り、司祭「アシャ」の正体は、虎丸矩子です。

エリカ…「……!!」

駒村…そういうこと、さ。全く、折りなくなる気持ちが分かってきたぜ。

ミシエール…「しかし、今のままでは確たる物証に欠けるのも事実だ。直前まで迫らなければ、また取り逃がす羽目になりそうだな。せめて敵地に潜り込まないとならない、か……」

エリカ…「敵地って、この」道端で押しつけられたホロ・パンフレットを取り出す。「メルト教団支部のこと、だよな」

駒村…「そうだな。この街で活動してるんだ、幹部もそこにいる可能性が高い」

エリカ…「じゃあここに、ヴィルヘルムって人、いると思う……?」躊躇いがちに、ぼつぼつと喋る。

駒村…「確か、教祖もN◎VAに来ているという話だったな」ミシエール…「ああ。そこにいる可能性は高いだろう。……不味いな、私は教祖に顔が割れている。迂闊に乗り込むと逃げられるかもしれん」

エリカ…しばらく黙考したあと、意を決した表情で「わたしが行くよ。わたしには、そこに行く理由がある。本当のことだから、多分、怪しまれないと思う」ミシエルから貰った情報の一つを、震える手で指差しながら。

駒村…——融氷祖の奇跡の力、過去を見通す目、か。「連中が何かを企んでいるのは確かだ。危険かもしれない」

エリカ…「……でもね、わたしは、このことを調べないといけない気がするの」

駒村…「それは自分の命を危険にさらすほどのものか？」

エリカ…「わからない。それにすごく怖い。けど、無視できない心の声が聞こえるの。自分の過去を知りたいって気持ち……ううん、それだけじゃない。わたしは、この事件から目を逸らしちゃいけない……何故か、そんな気がするの」

駒村…「オーケー、分かった」やれやれというポーズで笑う。エリカの意志は伝わった。「お前が真実を知りたいというのなら、それを助けるのは確かにフエイトの領分だ。俺も行こう。俺がお前を守る。それでいいな？」

ミシエル…「私も、中までは同行できないが、外から見張っておこう。いざという時対応できるように」大地を睥睨する監視衛星。四面のソロネに、I A N U Sをリンクさせる。

エリカ…「ありがとう。すごく安心」屈託なく笑っています。

祭壇



シーンプレイヤー…エリカ

シーンカード…ミストレス（正） 高岡

秘密結社……いかにも、その言葉が良く似合う空間だった。

雑居ビルの一室である薄暗い部屋の中には、無数の蠟燭の火が置かれており、部屋全体を包み込む香の匂いと、火を象った物々しい装飾品の数々、そして祈りを捧げる信者たちの姿が、異様な空間を作り上げていた。

「真なる神の信徒として、入団を希望する者をお連れしました」信者の一人に連れられて、エリカと駒村はその空間に足を踏み入れる。奥から現れたのは、穏やかな表情をした銀髪の紳士。メルト教団創始者、融氷祖、ヴィルヘルムその人だった。

R L…では、舞台はメルト教団N◎V A支部です。シーンプレイヤーはエリカ。皆さんチーム宣言（*）していますので、自動登場で構いません。

ミシエル…デイクシヨナリを使用して（隠密）の判定。達成値は13。身を潜めつつ、部屋の外から中を監視しています。

フーンアウト…探偵の誇りである底の擦り減った靴。判定中、任意の技能のレベルを上昇させる効果がある。

チーム宣言…一緒に行動していることを宣言すること。チーム宣言していると、誰かがシーンに登場した際に、他のキャストも登場判定なしで登場できる。

リサーチシーン5

RL…了解です。では、中に入った二人を教祖が迎えます。「よく来て下さいました。真なる神も、貴方がたを歓迎するでしょう」

駒村…奴がそうか……エリカ、飲まれるなよ。

エリカ…うん、わかった。

駒村…ちなみにRL、このシーン中に虎丸の姿はあるか？

RL…いえ、ありませんね。

エリカ…「あの……あなたが、過去を見るっていう教祖さんですか？」意を決したように話しかけます。

RL／ヴィルヘルム…「おや。もしかして、貴方も私の力を試しにいらしたのですか？ 最近多いですよ、そういう方が」

エリカ…「あ、ごめんなさい。試すっていうわけじゃなくて……その。わたしは、過去の記憶がないから」

RL／ヴィルヘルム…「なるほど、そうでしたか。失礼。それで、私の力に頼りに来た、と。本来、私はそういった類の相談窓口では無いのですが……貴方が救いを求めるのであれば、私は力になりたい、と思いますよ」

エリカ…話を合わせて、こくりと頷きます。でも、誰かに救いを求めるのは、何か違う感じがする……。

RL／ヴィルヘルム…「ただその前に、少し私たちの話を聞いて行っっては下さいませんか」

駒村…いよいよ本題って訳だな。洗脳の類かもしれん。気を引き締めろよ。

エリカ………うん。

RL／ヴィルヘルム…「世界5分前仮説」という思考実験を知

っていますか」

エリカ…知らない……駒村さんは知ってる？

駒村…「世界は5分前に、悪魔によって今とそっくりそのままの形で作り出されたのかもしれない、って仮説だろ」

RL／ヴィルヘルム…「その通りです。もちろん、それは哲学上の思考実験に過ぎません。ですが、私は、これとよく似た事件を知っている……いくら記憶を失っているとはいえ、貴方も知っているでしょう。『災厄』ですよ」

災厄……原因不明の地球の裏返りにより、大地は割れ、海は荒れ狂い、文明という文明が破壊しつくされた、人類史上最大最悪の7日間。

「真教が伝える歴史によれば、災厄の最中に救世母が姿を現し、人々を救い導いたと言われています。私も信じていましたよ、昔は。——しかし、私は知ってしまった。神の声を聞いたのです。救世母は偽りの神だと。そして真なる神より、この奇跡の力を賜った」

教祖の瞳が、緋色に妖しく輝く。

「私は、視、ました。救世母の過去を。そして知ってしまった。救世母は神などではなく、災厄を起こし、人々から帰るべき故郷を奪った張本人である事を」

「……帰るべき、故郷」

エリカは無意識に呟いていた。その言葉がチクリと胸を刺す。「この世界は、災厄後に、救世母によって作られた、偽りの世界なのですよ」

駒村…「だからこの世界は滅ぶべきだと、アンタはそういいたいのかい？」

RL／ヴィルヘルム…「それが、偽りの神を造り出し、神の怒りに触れた人の業だ。だが不安に思う必要はありません。真なる神を信じる者は救われ、新たな世界が幕を開けるのです」

駒村…「神が神がと言う割には、お前さんたちもずいぶん働きのようだ。——クラウドナイン、あれをどうするつもりだ？」

「〈知覚〉〈オシログラフ〉（*）で判定する。達成値は21だ。お前の嘘を見破ってやる。」

エリカ…駒村さん……!?!

ミシエール…動いたか！

RL／ヴィルヘルム…〈自我〉〈隠心〉（*）で対抗。達成値はスベードのJを出して25、対決成功です。「何のことでしょう。変な事を言う方だ」

駒村…「ほう、尻尾は出さんか」〈隠心〉ということとはマヤカシか！これは、少なくとも過去を見る瞳とやらは本物の可能性が高くなってきたな。（*）

RL／ヴィルヘルム…「しかしまあ、こんな荒唐無稽な話、ただで信じられないのも無理はない。ならば、お見せしましょうか。私が神より賜った力を」そう言う、ヴィルヘルムは駒村に手を伸ばします。〈知覚〉〈霊覚〉（*）で判定。切り札（*）使用。達成値25。

駒村…「ぬっ……!?!」現実離れた妙な感覚が頭を襲う。リアクションは、失敗だ。

RL／ヴィルヘルム…「なるほどなるほど……大した人物だ。」

長年のミトラス従軍。そこで人を救えないと悟るや、体からサイバーを抜いて、今は探偵業を営んでいる。その、記憶喪失だった彼女を拾ったのも貴方。そして……友人である虎丸矩子を追って、ここに潜入した。そんなところですかね。どうですか、真実の弾丸、駒村当真さん」（*）

駒村…「……………」何も言えない。ただ、ヤツを睨む。クソッ、ここまでとはな……。

RL／ヴィルヘルム…周囲がザワつき始め、異物である駒村を非難するように取り囲み始めます。教祖はそこで穏やかに微笑み、エリカに向き直る。「どうです、信じて頂けましたか？」

——その上で、再度言いましょう。世界の終わりは、確実に来るのです。真なる神を信じ、私の方舟に乗りなさい。貴方たちは素晴らしい方々だ、私は貴方たちを救いたい」カリスマの神業〈神の御言葉〉を使用。精神ダメージナンバー17（「士気喪失」を与えます。

エリカ…!!

〈オシログラフ〉…相手の嘘を見破るフェイトの特技。

〈隠心〉…自分の精神を偽装するマヤカシの特技。

過去を見る瞳は本物…〈隠心〉を組み合わせた判定から、ヴィルヘルムにはマヤカシのスタイルが入っていることが判明した。マヤカシは常人には感知できない高位の存在（アストラル体）を視る超能力の使い手であるため、異能は本物の可能性が高いと判断したのだ。

〈霊覚〉…霊的存在や他者の感情、過去や未来などを視るマヤカシの特技。

切り札…シナリオ中一度だけ使用できる、判定のカードを Joker扱いとする効果。（厳密には違うが、詳細なルールは省略する）

駒村の過去…アクト開始前に、プレイヤーに聞いておいたものだ。

〈神の御言葉〉…他者の精神を容易く浸蝕するカリスマの神業。

駒村…こちらの過去を暴き、信徒を警戒させてからエリカを狙うか！この教祖、場数を踏んでやる……！

ミシエール…不味いな……言葉に込められた独特の圧力、凄腕のカリスマたちが自然と使いこなす、意識改変の術。予測しておくべきだった……！

駒村とミシエールが、同時に銃を抜こうとした瞬間。

「……そうだね」

エリカが、ぼつりと呟く。周囲に、緊張の気配が走る。

「世界はきつと、とても脆いものの上にある。だから、世界はそんなに、確かなものじゃない」

教祖が、今までと違う色で小さく笑う。だが、続く言葉は、教祖の予想していたものとは違っていた。

「でも……それはきつと、世界がとても綺麗なものできているから。神様は世界を愛しているわ。人々も、みんな必ず、どこかで世界を愛している。だから、神様に救いを求めます」
エリカは、教祖の、救いたい、という言葉に、ずっと違和感を覚えていた。

「でも、あなたはそうじゃないんでしょう？　だって貴方は、この世界を捨てて逃げ出そうとしてる」

エリカ…《守護神》（*）を使用して、その精神ダメージを防ぎます。「この世界を守ろうという意志があるなら、貴方の言う『救い』だって信じられたのに」

RL／ヴィルヘルム…あつげに取られた表情で、ヴィルヘルム

は呟く。「貴方は、一体……？」

ミシエール…何かが起きた……おそらく、私達の目には捉えられない高次の域で。今がチャンスか。部屋の中に突入する！「動くな、国際警察機構ケルビムだ！」右手の銃口でヴィルヘルムを捉えたまま、左手の銃口で周囲の信者を牽制する。

RL／ヴィルヘルム…「……そういえば、貴方も来ていたのでしたね」瞬時にエキストラの信者たちが教祖の盾となります。

「教祖様、こちらです！」信者に導かれ、裏口に向かう教祖。

ミシエール…「……チッ」どの角度から狙っても、教祖を撃ち抜こうすると他の信者を貫く事になる。強制捜査の名目は立てど、非武装の信者を束で吹き飛ばすには不足だ。「一度下がろしかない、か……」歯がみしながら呟く。

RL…信者たちが「出て行け、異端者め！」「教祖様に銃を向けるなんて許せない！」と物を投げつけてきます。

エリカ…「きゃっ」頭を抱えてうずくまります。

駒村…「クッ。すまん、エリカ。ちよつとこらえてくれ！」エリカを庇いながら抱えて走り出す。

ミシエール…「染まりきった宗教者は手に負えん！」二人に向かって投擲物を撃ち落としながら、撤退する。

RL…では、貴方達が支部から撤退した所でシーンエンドです。

「守護神」…危機から自らを守るマヤカシの神業。なお、この神業にはもう一つ別の使い方が存在し、その使用法がシナリオに大きく関わってくる。



失われた故郷

リサーチシーン6



メルト教団N◎VA支部を後にした3人を、道端で出迎える姿があった。

電脳意識体（*）。そのアヴァターは、原始的な祭服に身を包んだ女性の姿だ。右手には聖火の燈った口ツドが握られている。

「やれやれ。無茶をするな、君も」

「あの支部に行けば、お前さんに会えるかと思ったのさ。散々な結果だったが、それだけではどうやら叶ったらしい」

抱えていたエリカを下ろし、女の姿を見据える駒村。

「似合わないな、その格好。色気は無かったが、いつもの格好が一番だよ、矩子」

RL…シーンは先ほどの場面の直後です。貴方たちの前に、虎丸矩子のアヴァターが姿を見せます。

エリカ…この人が、虎丸さん……。

RL／虎丸…「なあ当真。頼む。これ以上深入りしないでくれ。分かるんだ……君は恐らく、すぐにでも真相を突き止めてしまおう。いや、むしろもう、君は真実に辿り着いているんだろう」駒村…「そう思うなら、俺が止まらないことも分かっているのだろ

う。一度放たれた弾丸は止まらない。それがたとえ友人を貫くことになっても。それに、お前は辿り着いているというが、まだ分らないこともある。お前はいつたい何を考えている？」

RL／虎丸…「さてね。強いて言うなら、ノスタルジア、かな」と言って、彼女は寂しそうに笑います。

エリカ…ノスタルジア……。 「ねえ、虎丸さん。どうして？」

みんな、あなたの帰りを待っているのに」

RL／虎丸…「エリカちゃん、優しい子だね、君は。当真から聞いていた通りだ。……だけどね、私にはもう、帰る場所がないのさ。それはもう、失われてしまったものだ」

エリカ…どうい、こと……？

RL／虎丸…「このニューロエイジでは、故郷を失った人間は数多い。現に、メルト教団の信者たちの多くがそうだ」

駒村…「そういえばメルト教団の信者は、災害によって失われた都市の出身者が多いという情報があったな。もしかして、虎丸もそうなのか？」

RL…その出自は、〈コネ…虎丸矩子〉で判定すれば調べることが出来ます。

駒村…判定しよう。達成値は18だ。

RL…虎丸は、人工都市島サীগS A T A N N^サの出身です。

ミシエル…サীগS A T A N N^サ!? なるほど、そういうことか！

エリカ…聞いたことの無い名前……ねえ、どういうことなの？ ミシエル…サীগS A T A N N^サは世界最高峰の才能と研究機関を蓄積していた、テクノロジ都市だ。だが、数年前にその

都市は跡形も無く消滅している……日本の保有する超兵器、アマテラス（*）によって。

エリカ……!!

RL…虎丸が出張でサーガSATTANNを出ている間に、島が壊滅する事件が起きました。虎丸は、家族や友人、今までの人生で積み上げてきた全てを一瞬で失ったのです。

エリカ…なんてことなの……。声が出ない。虎丸さんには、帰る場所があると思っていたのに……。それは間違いないはずなんだけど。でもこの人は、本来の故郷を失ってる。

駒村…「故郷を失ったのなら、どうして同じ苦しみを他人にも味わわせようとするんだ。この街が故郷だという人間も確かにいるんだ。お前がそれを分らないなんて思えない」

RL／虎丸…「知っているかい？ テクノロジーが発達すぎたこの時代、人々の思惑が交錯しすぎたこの時代では、人の故郷つてのは案外簡単に失われるんだ。そうして生き場を亡くす人は増える一方だよ」

エリカ…故郷は、簡単に失われる……。なんて。

駒村…まさか矩子、お前……。

RL／虎丸…「だからね。私は世界を、文明を、もつと原始的なところまで巻き戻そうと思うんだ。プロメテウスの火は、まだ人には早過ぎた。テクノロジーの申し子が、こんな事を言い出すのは滑稽かな」

駒村…「矩子、そんな事をしても、お前は——」

RL／虎丸…「話はここまでだ。さようなら、当真。せめて良いシユウマツを」そう言って、彼女はアウトロン（*）します。

駒村…「待て！」

ミシエール…「今だ。四面のソロネ」にコマンドして、虎丸の接続先を探索する。デイクシヨナリから《電脳》の判定。達成値は16だ！

RL…制御値（*）は超えていますね。了解です。では貴方は、虎丸が接続しているトロンの在り処^{アドレス}を発見します。房総半島沖、高性能複合環境迷彩によって隠されたオーストラリア軍大型巡洋艦のその中に、彼女の現実体が居ます。

駒村…「……彼女の居場所は掴めたかい、捜査官」振り向きもせずに聞く。

ミシエール…「気付いていたか。ああ、掴めたよ」だが、相手は防壁のプロの筈……掴ませた、か？

駒村…「じゃあ、行こうか。一つ分かった事がある。電脳越しじゃ、ウェットの俺の言葉は届かないらしい。——直接会って話さなきゃ、何も変えられなさそうってことがな」

電脳意識体…生身ではなく、電脳空間上での意識のみがシーンに登場している状態。通常、アイコンやアバター^{アバター}の姿で描写される。

サーガSATTANN…過去のシナリオに幾度か登場した都市。この島が消滅した事件そのものは、本シナリオとは直接関係しないが、詳細が知りたい場合は「クロクル」の94p「進法のリア」の項目を参照のこと。

アマテラス…日本政府の保有する巨大エネルギー衛星。絶大な軍事攻撃能力も有しており、日本の絶対的な力の象徴として恐れられている。

アウトロン…ウェブへの接続を切ること。接続する「イントロン」の対義語。制御値…受動的な能力値。他者からの行動への抵抗力。

しゅうまつがやってくる

リサーチシーンフ



異変は唐突に訪れた。道行く人々の足に、冷たいものが触れる。それは水だ。道を、街を……気付けば水が覆っていた。

街頭DAKに緊急ニュースが流れる。

『臨時ニュースです。極点にあるドウムド・モスク（*）周辺で、原因不明の異常気象が発生しています！現在、極点は35度という高温状態になっており、地表を覆う水が急速に溶け出しています。この影響で地球全域の海面水位が上昇してきており、このままだと数時間後には……』

エリカは、そのニュースを虚ろな瞳で聞いていた。脳裏に、あの暑い日、コーラのグラスの中で溶けていった水が想い起される。それはとても頼りなく、幻想の中で遠ざかる故郷のようだった。

RL…リサーチフェイズ最後のシーンです。気付けば、街中が水が覆っています。房総湾と繋がっている木更津湖が冠水しているのです。その水位はまだ靴を濡らす程度ですが、徐々に上昇してきています。

ミシエール…「クソッッ！ヤツらの方舟の準備は万全か……！」
駒村…「あと数時間でこの街が海に飲まれるってのも、どうや

ら嘘じゃあなさそうだな。まったく、俺の磨^{ツル}り減^ヘった靴^{ブツ}がひどいことになってるぜ」今思えば、エリカのオープンングのシーンタイトル、暑い日が週末の始まりって、そう言うことだったのか。

エリカ…こんな逼迫^{ヒツパク}した状態なのに、皆の声が遠い……さっきの虎丸さんの言葉が、頭を離れない。

駒村…「おい、エリカ。しっかりしろ！あんまり猶予は無さそうだぞ」

RL…ではこのタイミングで、駒村のポケットロンにコールがかかります。先ほどアドレスを交換した、クラウドナインの開発スタッフです。「こ、駒村さん、大変です！」

駒村…コールを取る。「そろそろかかってくるかと思っていた。クラウドナインか」

RL…「は、はい。クラウドナインが、勝手に起動して動き出したんです。これ、主任の作業なんですよ……まさか、こうなる事を見通してたって事ですか？」

駒村…「まあな……そっちから制御は取り戻せないか？」

RL…「現在総力を上げて原因究明に動いていますが見た事も無いプロテクトのせいはこちら側の操作命令を全く受け付けない状態で……。プロテクトの解体は行いますが」そこで一瞬言い淀んで。「推定で、16時間かかります……十中八九、間にあいません」

駒村…「だと思ったさ」帽子を目深に被る。全く、当たって欲しくない予想ばかり当たる。

RL…「鍵として設定されているパスコードさえ分かれば……」

駒村…「バスが分かればなんとかなるんだな？ よし、分かった」通信を切って、ミシエールに話しかける。「こつちも急がなきゃならんようだ。ブラックハウンドもSSS（スリーエス）（*）も街中のことで手一杯だろう、救援は当てに出来なさそうだ。俺たちで何とかするしかない」

ミシエール…「元よりそのつもりだ」RL、ケルビムN◎VA支部に徴発許可を得ていたという演出で、輸送ヘリ（たいほう）大鵬（たいほう）（*）を購入したい。〈売買〉でダイヤのAを出して判定は成功だ。データのな意味は無いだろうが、移動の演出で使いたいんだ。

RL…構いません。では、ケルビムN◎VA支部の操縦士が操縦するヘリが、3人のいる場所に降りてきます。

ミシエール…髪を押さえつつ、ヘリを迎える。「ヤツらが出航する前に片を付ける。コキ使わせて貰うぞ、プラチナムハート」駒村…回転翼の風圧にコートを煽られながら、エリカに告げる。「すまん、エリカ。今から安全な場所へ送ることも出来なさそうだ」

エリカ…「……安全な場所なんて、今、あるかな」

駒村…エリカ……。

エリカ…「わたしも行く。連れて行つて。虎丸さんたちを、止めなきゃ」

駒村…「……分かった。一緒に行こう。お前のことは、俺が守るさ」

ドウムド・モスク…氷に覆われた北極点に存在する、真教会の本拠地。
SSS…シノハラ・セキユリテイ・サーピス。N◎VAを代表する企業警察。
大鵬…イワサキ・グループ製の輸送ヘリ。安価だが、やや型が古い。

クライマックスフェイズ

クライマックスシーン1

プロメテウスの火がもたらしたものと



房総半島の海岸線。いくつもの小型船舶が、N◎VAから避難してきたメルト教団員たちを次々に飲みこんでは、沖に停泊している方舟へと運んでいた。

普段は厳重な警備態勢が敷かれている一帯だが、海面水位の上昇による水害で都市機能は混乱を極めていた。彼らの船出を止める者は最早いない……答だった。

「さて。では、私たちも行きましょうか」

一般教団員たちを沖に送り出した後、ヴィルヘルムは後ろに控えていた虎丸に話しかけた。虎丸は、何かに後ろ髪を引かれるように、海に背を向け、空を見上げている。

「どうしました?」

「どうやら、そう簡単に門出を見送ってはもらえないようだよ」
虎丸の視線の先には、一機のヘリ。そして、その機体から身乗り出し銃を構える、フェイトコート of the 男の姿があった。

R L…クライマックスフェイズです。舞台は房総半島の海岸線。沖には、もはや環境迷彩を解き、姿を現したオーストラリア軍大型巡洋艦が停泊しています。陸には教祖ヴィルヘルムと虎丸、

そして彼らを守る数十人の武装部隊、ヤザタ、がおり、貴方たちを迎えます。

駒村…銃を構えたままヘリから降り、近づく。「ずいぶんとせっかちな方舟だな。動物のつがいは積み終わつたのか?」

R L／ヴィルヘルム…「貴方はずいぶん古い神話を御存じなのだね、ミスター駒村」

駒村…「お前さん達みたいな新興宗教のやり方もよく知ってるぜ。エキセントリックな奇跡と破壊、もたらされる救い。三文芝居さ」

R L／ヴィルヘルム…「そんなものと一緒にされては心外だ」

駒村…「探偵の前で芝居は無意味だ。少なくとも、アンタのその異能が本物である事は分かった。だが、アンタだつて本当に、真なる神」とやらのお告げに従つて、こんな事をしでかしたわけじゃないだろ。そんな動機で、矩子が力を貸す筈がない。そろそろ腹を割つて話さないか?」

R L／ヴィルヘルム…「……良いでしょう。幸い、ここには私の真意を知るものしか居ません。それに、私の力がインチキでないと理解頂けているのであれば、話も早い」

ミシエル…ようやく、種明かしをする気になつたか。
R L／ヴィルヘルム…「恐らく既に、私が元々真教教会に所属していた事も知つていでしょう。私はそこである聖遺物……救世母の遺物に触れたのです。そして、その過去と罪を知つた」

エリカ…救世母の、過去と罪……?
R L／ヴィルヘルム…「救世母は、人間の手で造られた人工知能だった。しかも、かつての災厄の引き金となつた、軌道超兵

器「グランドクロス」の制御AI。これが示す意味が分かりますか？」

駒村…は……？ おいおい、それはタチの悪い冗談、どこにでも湧く都市伝説のような類の話だろ。まさか、そんなふざけた話が真実だっていうのか？ だとするなら、災厄の後に世界を救い、導いたという救世母の伝説は……。

RL／ヴィルヘルム…「そう。ようは自作自演だったわけですよ。そうやって何者かが、世界を自分の都合のいい形に作り変えた。犯人もおおよそ検討はつく。世界が氷河期に入って一番得をしたのは、日本と、世界を支配するメガ・コーポたちだ」エリカ…うそ……災厄は、人為的に引き起こされたものだったっていうの……？

RL／ヴィルヘルム…「そうやって、自らの利益のために、彼らは多くの人々から故郷を奪った。だから取り戻さなければならぬ。世界をあるべき姿に戻さねばならない。その為に一度、世界の支配構造をそのまま、水底に沈める。氷の下に隠された罪を暴きだし、浄化する！」

エリカ…なんてことなの……。
ミシエール…「ここまでするからにはどれだけの真実が噴出するかと思っただが……稚拙な恫喝だな」

エリカ…!?

RL／ヴィルヘルム…「何、だと……？」

ミシエール…「貴様が示す災厄の真実とやらには、物的根拠が無い。更に、仮にその真実とやらが正しいものであったとしても、それで貴様のテロ行為が正当化されはしない」銃を引き抜

き、突き付ける。「手を上げる、ケルビムだ。大人しく武器を捨て、投降しろ」

駒村………ハハ、分かりやすくいいな。おかげで調子が戻ってきた。「なあ、矩子。お前さん、文明を海の底に沈めるって言うっていたな。それで、失い続ける世界を終わりにするって」

RL／虎丸…「……ああ。勿論、そんなことをしたって、私たちの故郷が戻ってくるわけではない事くらい、わかっているさ」駒村…「あれから少し考えてみたんだ。うん、悪くない案だ。案外サッパリするかもしれん」エリカ…駒村さん!?

「だがな、やつぱり却下だ。そのやり方じゃあ……矩子、お前が救われない」

駒村の言葉に一瞬、虎丸の眼鏡の奥の瞳が揺れた。唇を噛み、かぶりを振る。

「……ならば、君もこの船に乗り。終末の供に、君と飲む酒があるなら、私はそれでいい」

「いいや駄目だ。飲むならいつものバーでと決めてるんだ。ボトルもキープしてあるんでね」

そして、駒村は教祖に向き直り、リボルバーの撃鉄を起こしながら語りかけた。

「なあ、ヴィルヘルム。本当に世界を変えたいなら、こんな大掛かりな事なんかしないでいい。たった一発の銃弾、たった一言の言葉があれば、それで十分なんだ。今から、それを証明してやる」

RL…では、本アクトのクライマックス終了条件を説明します。気象制御衛星クラウドナインの暴走を止める為のパスコードは、虎丸しか知りません。このパスを《真実》（*）で聞き出す事ができれば戦闘は終了になります。もちろん、敵は神業でそれを妨害しようとしてきます。

ミシエール…なるほど。敵を倒す事が目的では無く、あくまでも大災害を防ぐことが目的というわけか。面白い勝利条件だね。エリカ…胸村さんが要なんだね。

RL…はい。なお、《真実》に失敗した場合、クラウドナインが保有する神業《天変地異》（*）が発動し、世界は終末を迎えます。その場合はこのキャンペーンもここで終わりとなりますので、頑張ってください。

胸村…責任重大だな。敵の神業を確認しておこうか。残り神業の合計は5枚。ヴィルヘルムは《守護神》が確定、あと1枚は不明。虎丸は《タイムリー》（*）と、あと2枚の神業はいずれも不明……敵の手がほとんど明らかになっていない以上、まずは相手の出方を見る必要があります。

真実の弾丸

カット進行（*）
シーンカード…マヤカシ（逆）
逃避



RL…では戦闘開始です。敵はヴィルヘルムと虎丸が中距離に1エンゲージ、そして近距離に「ヤザタ」トループが25人×2グループです。ヴィルヘルムのアクションランク（*）が2、他は全員3です。虎丸には装備による追加のアクションランクが1あります。各人プロット（*）を行い、アクションランクとセットアップ行動の有無を宣言してください。

ミシエール…意外と敵のアクションランクが高いな……虎丸は軍用義体という感じでもないし、トロンか？ こちらはアクションランク2だ。それと、使魔「痛悔機密」が別個に2枚プロット。セットアップ行動はない。

エリカ…わたしもアクションランク2です。セットアップ行動はありません。

胸村…アクションランクは2、セットアップは《自動防御》（*）を行う。切り札でシーンカードをフェイトに書き換え、切り札を使用して達成値は21だ。

RL…了解です。では、切り札の演出をどうぞ。

胸村…フェイトのカードの暗示は「真実」。「ヴィルヘルム、確かにアンタが視た通り、俺の技はあのミトラスの地獄で培われたものだ。だがな、探偵というスタイルを選んだ俺の銃は、も

クライマックスシーン2

はや殺す為の道具じゃない。ちっけな真実を守る為の力だ！」
RL／**ヴィルヘルム**…「なるほど大した人物だ。だからこそ、惜しい。だが……もはや戦いは避けられぬ。故郷無き同胞たちよ、これは聖戦である！」**ヴィルヘルム**がセットアップ行動。バーンアフターライフから取得した、終末予言書（*）を使用します。（交渉）（集団催眠）（叱咤激励）（*）の組み合わせで判定、達成値は21！

ミシエール…精神攻撃……いや、違う!?

RL…そう、対象は貴方たちではない。2グループの、ヤザタトループだ。与える精神ダメージは5点。だが、ヤザタは6レベルトループなので、精神ダメージは6点軽減されて0。そして、（叱咤激励）の効果で即座にメジャーアクションを行う！

駒村…いかにも指導者って感じのカリスマだ。しかし、一気に先手を取られるのは痛い……！

ミシエール…ゲスト2人の手の内が分からないうちに、こちらの手番を消費させられるのは拙い。ここが撃ちどころだろうな……**RL**、その行動に割り込んで神業を宣言だ。《天変地異》でトループを1体排除する。

RL…く、やはりそう来ましたか。了解です、それは通します。**ミシエール**…「威嚇行為を確認した。公務執行妨害と認識する」敵の足下の地盤を虚無の元力を纏わせた銃弾で破壊。突然、海へと通じる穴が空く。

RL…では、彼らは成す術も無く海に落ちていった。**ヴィルヘルム**が驚愕の表情を見せる。「貴方も、異能使いか！」

ミシエール…「私のは後天的なものがね。どうやら、貴様らのような犯罪者を赦すまじとする心が生み出したものらしい。つまり、次の標的は貴様だ」銃口を教祖に向けながら。

RL…だが、残ったトループが動く！**スリーアクション**（*）でマイナーアクションを3回行う。コンバットナイフ、ステイキング2Eを抜き、ソルジャーブルーとヘーラクレス（*）を起動。プロットを2枚消費し、（白兵）（運動）（完全奇襲）（死点撃ち）（*）の組み合わせで**ミシエール**に切りかかる。達成値は23！

《**真実**》…真実を聞き出すフェイトの神業。

《**天変地異**》…異常自然現象を引き起こすバサラの神業。効果範囲内のエキストラは全滅する。

《**タイムリー**》…あらかじめ状況を予測し、装備を準備するタタラの神業。カッター進行…N○VAにおける戦闘シーン。

《**プロット**》…戦闘に使うカードを伏せて置くこと。

《**アクションリンク**》…その戦闘中に何度行動を行えるかを表す値。

《**自動防御**》…精神集中し、自動的に防御行動を行うカプトの特技。

《**終末予言書**》…終末を告げる書物。戦闘開始直後に精神攻撃を行うことが出来る。本来、真教系の過激派のみが使用可能な装備だが、**ヴィルヘルム**はかつて組織に所属していたことを表す装備。バーンアフターライフで取得している。

《**集団催眠**》…集団に精神攻撃を行う《**集団催眠**》に、他者を鼓舞して動かす《**叱咤激励**》を組み合わせている。対象は精神ダメージを受ける代わりに、即座に行動が可能になる。いずれもカリスマの特技。

《**スリーアクション**》…思考トリガーにより複数の準備行動を同時に行う装備。

《**ソルジャーブルー&ヘーラクレス**》…いずれも攻撃の威力を増大させる軍用サイコ・アブリーション（精神に刷り込むプログラム）

《**完全奇襲**》《**死点撃ち**》…完全奇襲により、プロットを余計に消費すること

で、対応不可能な攻撃を繰り出し、《**死点撃ち**》で防具の隙を突き、防御力を無視する。いずれも力ゲの特技。

駒村…リアクション不可攻撃……ち、訓練された動きだな。それはこちらから妨害させてもらおう。〈ランチ…ソルジャー〉（*）を宣言。〈反射防御〉を取得し、〈白兵〉〈射撃〉〈インターセプト〉〈無敵防御〉〈反射防御〉（*）でリアクション。達成値は同値で23だ！「おっと、させないぜ。俺の眼が黒いうちはない！」

RL…（しばらくデータを見て黙考）……ここはそのまま止められましよう（*）。貴方の放った銃弾が、正確に彼らのナイフを弾き飛ばした。

エリカ…や、やっとセツトアッププロセスが終わった。

RL…次はアクションランク3の虎丸ですが……彼女はプロットをリアクション宣言にします。

ミシエル…まだ手を見せないか。ならば次は私だ。マイナーアクションでスライドアウェイ（*）、オーバーロード（*）を起動。メジャーアクションは残ったトループに〈射撃〉〈自我〉〈元力…虚無〉〈乱れ撃ち〉〈鎮圧〉（*）の組み合わせで攻撃。達成値は装備など諸々込みで26！

RL…それには虎丸が動きます。サポートコンパニオン（*）による追加プロットを消費して、〈ツェノンの逆理〉！ミシエルの義体に偽のロジックが流し込まれ、その動きが鈍る。達成値を4減少して下さい。

駒村…虎丸のスタイルが一枚確定、ニューロだ。神業は《電脳神》……万能系だな。

ミシエル…まだ見えていない神業がある。もう一步踏み込もう。使魔^ク痛悔機密^{ベナシ}が〈血脈…天使の一族〉で判定。（*）

義体への負荷を、見えない力が押し戻す。達成値+4。これで相殺だ！さあ、誰がリアクションする？

RL…「そう簡単には止まってくれないようだね」虎丸が〈盾の乙女〉（*）。リアクション札をヴィルヘルムに飛ばします。

駒村…最後のスタイルはミストレスか！

エリカ…そういえば虎丸さん、開発スタッフの人たちの取りまとめ役だったって……。

ミシエル…なるほどね。そして神業は《ファイト！》（*）、これも万能みたいなものか。

RL…虎丸は〈ランチ…コマンダー〉（*）を持っているので、〈盾の乙女〉で渡される札は数字が+3されます。ヴィルヘルムは受け取った札を使って〈交渉〉〈狂信者〉（*）の組み合わせでリアクション。これで、達成値は25。

エリカ…あれ、届いてない……？

RL…いえ、更に虎丸が〈アドバイス〉（*）を使用します。これで達成値+3されて28だ。ヴィルヘルムの指揮と虎丸の電脳アシストにより、トループたちがミシエルの動きを的確に封じる！

ミシエル…支援系特技を3つも持っているのか、道理で優秀な開発主任だったわけだ。「くっ、面倒な……！」ボックスステップで離れる。

RL…しかし、一発防ぐのにはとんどのリソースを切ってしまった。虎丸の残りプロットは一枚だけだ。まずいなこりゃ。

駒村…ヴィルヘルムの残り1枚の神業が見えないが、カリスマとマヤカシの特技しか使って来ない事を考えると、どちらかを

2枚重ねで持っている可能性もあるな。いずれにせよ、1発は通常攻撃で神業を吐かせなければならんようだ。

RL…では、次はエリカの手番です。

エリカ…うん……虎丸さんに、精神攻撃をするわ。

駒村…ほう？

エリカ…「虎丸さん、あなたの言葉が頭を離れないの。」故郷は簡単に失われる。って。わたしね、自分の生まれ故郷を、帰る場所を、ずっと探してた。でもね、そんな場所、とっくに失われてるんじゃないかって予感があつて、怖かった。だから、貴方が羨ましかったの。虎丸さんには、帰る場所が、帰りを待つ人がいたから」切り札を使います。ハイランダーの、逆位置。暗示は「絶望」よ。

エリカの意識の片隅から、いつまでも離れない幻影。

懐かしく暖かな場所が、理不尽に失われていく光景。世界が薄氷のように足元から崩れていく感覚。

いつも穏やかに笑っているように見えた少女は、心の奥底で絶望していた。失われたものは二度と戻ってこないという、残酷な世界法則に。

「——もう、何も戻ってこないのに。あなたは、全部壊してしまふのね。帰る場所、帰りを待っている人たち……今度は、あなたが壊すのよ。あの優しい景色を、あなたがその手で」少女の涙に濡れた瞳が、虎丸を見据える。その瞳を介して、エリカの中の「孤独」のヴィジョンが伝染し、虎丸の精神を侵す。

「ランチ・シルジャー」…元軍人であることを表すデータ。任意のタイミングでカブトの特技を取得できる。

「インターセプト」〈無敵防御〉…「インターセプト」は銃弾で相手の攻撃を受けるカブトワリの特技。これに「受け」の達成値を上げる〈無敵防御〉と対応不可な攻撃に対応するための〈反射防御〉を組み合わせている。いずれもカブトの特技。

ここはそのまゝ…後に分かるが、今回の敵の妨害行動はウェットである駒村には有効に作用しない。このため、RLはプロットを温存することを選んだ。スライダウェイ…攻撃を見切り、回避のサポートを行うニールラルウエア。オーバーロード…義体のリミッターを外して能力値を上げる義体オプシオン。

〈元力・虚無〉〈乱れ撃ち〉〈鎮圧〉…バサラの〈元力・虚無〉は存在そのものを抹消する異能であり、ダメージの軽減ができなくなる。その元力を継がせた複数の武器を力ゲの〈乱れ撃ち〉で同時に使用して攻撃し、イヌの〈鎮圧〉で相手への致命傷を避け、生きたまま無力化させる組み合わせだ。なお、本来は〈乱れ撃ち〉は他のダメージ上昇特技と組み合わせが出来ないが、〈元力・虚無〉に関してはダメージを上昇させる〈元力 共通〉の効果の組み合わせないことで組み合わせ可能と裁定している。

サポートコンパニオン…独自に動作し、使用者をサポートするAI。

「ウェンの逆理」…脳に偽のロジックを流しこむことで行動を阻害するニール口の特技。

〈電脳神〉…ウェブを操り、あらゆる不可能を可能にするニール口の神業。

〈血脈・天使の一族〉…自分がダメージを受ける代わりに、他者の行動を強力にアシストするアヤカシの特技。

〈盾の乙女〉…仲間に表示や声援を送り、力を与えて動かすミストレスの特技。

「フライング」…他者の神業の使用回数を増やすミストレスの神業。

「ランチ・コマンドー」…優秀な指揮官であることを表すデータ。〈盾の乙女〉の効果強化される。

〈狂信者〉…部下を手足のように操り、相手の行動を妨害するカリスマの特技。

「アドバンス」…助言により他者の行動をサポートするタタラの特技。

「なんだ……このイメージは。やめろ、やめてくれ！」

虎丸の脳裏に映るのはかつての故郷、サージェントANNGが滅びゆく光景。そのヴィジョンが心に張り付いて離れなくなる。

エリカ…《交渉》《アテンション》《幻覚》《ブランチ…イリュージョニスト》（*）……スートは理性で、達成値は23。

RL…精神攻撃に対するリアクションは……届かないな。差分値10でダメージを下さい。

エリカ…ダメージカードはハートのA。ダメージ23点です。

RL…ぐ……それは《タイムリー》で防ぐ。虎丸の表情が苦悶に歪み、額には脂汗が滲む。故郷を失った心的外傷から彼女を長らく守って来たトラウマパッチ（*）が、過剰な負荷で弾け飛んだ。「君は、一体……」

エリカ…哀しげな表情で首を振ります。「わたしにも、分からない」

駒村…エリカ……。

ミシエル…よし、厄介な神業が一枚消費された。ここいらで畳みかけよう。残ったトループを潰す。先ほどと同じ組み合わせで達成値27だ。

RL…さつきより達成値高い!? くそ、それを止めるにはもう虎丸のプロットが足りない。その攻撃は通ります、ダメージをミシエル…殿の31点。防御値無視、ダメージ軽減不可だ。

RL…さ、さんじゅういってん、だと。25人が一撃で吹っ飛んだ。「ぐおお、新たな、世界を……」倒れる。《鎮圧》組んでるので全員気絶かな。

ミシエル…「眠っている、夢も見ずに」

RL…ここいらが潮時、かな。ではこちらが動きます。ヴィルヘルムが《神の御言葉》。対象はエリカ。

エリカ…うあ。

駒村…カリスマ2枚重ねだったか！

「失われたものは戻ってこない。だからこそ、私たちは、二度と失われることの無い世界を作りたいのだ」

ヴィルヘルムが口を開く。たった数年で莫大な人々を惹きつけ、信者を増やしてきたカリスマは、エリカの心の中の絶望を見逃しはしなかった。

「このままでは、貴方もこれから、失い続けるこの世界と対峙し続けなければならない。貴方にそれが耐えられるのですか？」

「そ、それは……」

エリカの瑠璃色の瞳が、暗く淀む。しかし次の瞬間、その肩が駒村に引き寄せられる。続く銃声。

「駒村さん!？」

虚を突かれ驚いたエリカの瞳に、光が戻る。

「悪いがこの子も矩子も、お前さんにはやれないな」

駒村…《難攻不落》（*）で防ぐ。アンタの言葉が心を侵すなら、少し黙っていてもおう。同時に《とどめの一撃》だ。

RL／ヴィルヘルム…「ウケッ……まだ、私は倒れるわけには、救わねば」《守護神》で立ち上がりませう。

駒村…「押しつけの救いなど真つ平御免さ」

RL／ヴィルヘルム…「それは強者の発言だ。この世界には、神に縋らねば生きていけぬような弱い……純粹な人々が沢山いる。そういう人々をこそ、私は救わなければならぬのだ！」

ミシエール…「大層立派な願いだな。だが、手段を選ばねば救いになどなり得ない」立ち上がった教祖に狙い澄ました一撃。
《不可知》で攻撃。

RL…動かれて生き残れる目は無い。判定は不要です。虎丸が《電脳神》。「ヴィルヘルム、伏せろ！」と叫ぶと、電脳ごしに巡洋艦にアクセス。積載されていたリモート兵器が動き出し、ミサイルを放射します。ミシエールの眼前に着弾し、大穴を作って行動を妨害。

ミシエール…「全く、今日日の方舟は派手すぎるな！」爆破の衝撃波を虚無弾で相殺して回避する。

駒村…敵の残る神業は、虎丸の《ファイト！》だけか。

ミシエール…敵がこちらの《真実》を打ち消すには、ヴィルヘルムの《守護神》を回復させるしかないのか。だがその方法だと、使用と同時にヴィルヘルムは死ぬ。（*）……いや、死んでも使えだろ、奴は。

エリカ…ねえ、RL。《天罰》（*）の効果で、ヴィルヘルムさんが《守護神》を使う事を、封じる事ってできないかな。

RL…《天罰》の効果は、RLが認める限りにおいて制限はありません。その使い方なら、他の神業と1対1の効果にもなっていますし、可能と裁定します。

エリカ…ありがとう。では《天罰》。「ヴィルヘルムさん、あなたが言ったのよ。失われたものは戻らない。そして、全ての人

間は災厄で故郷を失ったって」目に涙を溜めたまま。貴方の中の「神」の言葉が、貴方に、そして世界に牙を剥くわ。「なら、この世界に帰るべき場所なんてない。貴方も私もきっと、もう二度と、どこへも帰れやしないわ」

RL…ヴィルヘルムは膝をつく。「だからこそ、私は、神を信じたかったのだ……」もう《真実》を打ち消す手段は失われた。

《幻覚》…相手に幻覚を見せ、精神を揺さぶるマヤカシの特技。《フランチ・イリュージョニスト》はこの精神攻撃を強化するデータだ。

トラウマバッチ…心的外傷に対抗し、精神ダメージを打ち消すサイコアプリ。

《難攻不落》…どんな状況でも他者を護り抜くカブトの神業。

《こどもの一撃》…対象を必ず撃ち抜くカブトワリの神業。

《不可知》…完全に姿を消し、対抗不可能な攻撃を仕掛けるカゲの神業。

《守護神のもう一つの使い方》…本来は自分を襲う危機から身を守る神業である《守護神》は、自分の命を引き換えに、あらゆる不都合の原因をひとつ取り除く、という効果で使用する事が出来る。この効果で使用者が死亡すると、

もはや神業以外の効果では蘇生が不可能である。敵にヴィルヘルムを蘇生する神業が残っていないため、《守護神》を使用した時点でヴィルヘルムの死が確定する。自分が死んでも、ヴィルヘルムはメルト教団の人々を救うために使うだろう、とプレイヤーたちは考えた。そしてその読みは当たっている。

《天罰》…何者かの手により、望むあらゆる効果RLが認める限りにおいてを得るハイランダーの神業。今回は「神業の封印」という特殊な効果で使われている。

「さて。もういいだろう、矩子」

探偵は銃を下ろす。もう戦いは終わったのだというように。無造作に歩を進めながら優しい声で虎丸に語りかける。

「大体、お前はヒントを出し過ぎなんだ。何故、酒場で俺にそんなことを言った？ 居場所を掴ませるように俺たちの前に姿を現した理由は？ そもそも、一心不乱に世界を滅ぼそうってヤツが、あんなにバーに入り浸ってる時点でおかしいのさ。何か重いものを一時その肩から下ろすために人は酒を飲む。それは悪いことじゃあない。あの店でのお前はいつも楽しそうだった」

駒村の瞳が、まっすぐに虎丸を射抜く。

真実を射抜く探偵の瞳が。

「何故、今のお前はそんな難しそうな顔をしてるんだ？ ——

正解は『まだ答えが出ていない』からだ。世界の破滅なんてのは女の細い肩に負うには重過ぎる。お前は俺とヴィルヘルムを天秤に掛けたのさ。お前はとづくに気づいてた。失われた故郷と同じくらい、この街を気に入ってしまった自分の。だからこの街を海に沈めなきゃいけなかった。そうしなきゃ今までの自分を否定することになっちゃう。違うか？」

虎丸の目の前で、歩みを止める。虎丸は何も言えず、ただ茫然と立ち尽くしていた。

「だけど本当は、そんな必要はないのさ。失ったものを繋ぎとめるのは、こうやって伸ばした人と人の手なんだ。ここはもうお前の街だ。……ようやく、お前に手が届くところまで来れたな」

指を銃の形にし女の額に当てる。バン、と、引金を引く仕草。「これが、真実の弾丸だ。矩子、あのクラウドナインのパスを教えてくれ。そして一緒に帰ろうぜ、俺たちの街へ」

R L…気丈な女のグラス越しに、涙が浮かぶ。瞳を閉じ、静かに呟く。「Countryroad、——もう、その道はどこにも通じてはいないのだね」

駒村…「通じてるさ。その歌が聞こえるあのバーに。俺が待つてる、いつまでも」



エンディングフェイズ

エンディングシーン

週末の終わり



程なくして、世界規模の海面水位の上昇は止まった。

その後、極点の気温は迅速に氷点下へと戻り、溶け出した氷が再び氷に戻った。暴走していたクラウドナインには、パスコードを入力すると自動的に気温制御を反転させ、元の状態まで冷却するシステムが事前に組み込まれていた。

虎丸の身柄は現地警察であるSSSに引き渡され、その行方は篠原司法(*)に委ねられることになった。ヴィルヘルムとメルト教団の一味は、国際指名犯としてケルビムN◎VA支部に一時的に預けられ、しかる後にAXYZから軌道監獄(*)へと送られることになるだろう。

「あの店のボトルはキープしたままにしておく。戻ってきたらまた飲むよ」

パトカーに押し込まれ連行される虎丸に、駒村が語りかける。旧来の飲み仲間に対する気安さを持って。

「ああ、楽しみにしているよ」

弱々しく微かではあるが、しかし嘘偽りない笑みを浮かべて、虎丸はそう答えた。

扉が閉まり、パトカーは発車する。

思いつめた表情で駒村の傍らに立っていたエリカが、不意にそちらに駆け寄り、声をかけた。

「虎丸さん！……気を付けて、帰ってね」

ガラスごしの虎丸の口が、ありがとうと言った気がした。

R L…お疲れ様でした。ではエンディングに入ります。

ミシエール…ではまず『制裁』をヴィルヘルムに使用する。ダメージは「21…有罪」。虎丸に関しては、N◎VAの司法で裁かれるのが相応しいだろうから、SSSに引き渡して私の仕事は終了だ。駒村との約束もあるしな。

駒村…恩に着るよ。

ミシエール…では、走り出したパトカーを見送る二人に後ろから声をかける。「……さてと、私もそろそろ行かなければ。二人とも、犯人逮捕への協力、感謝するよ」姿勢良く、右手を差し出しながら。

駒村…「世話になったな、捜査官。やれやれ。これでひと段落だ」握手に応える。

ミシエール…「フフ、ここからは私たちのデスクでの仕事さ」

駒村…「仕事熱心なのもいいが、お前さんも息抜きくらいしたらどうだ？　せつかく遠くからN◎VAまで来たんだ。いい店を紹介するぜ？　お前さんの炎も鎮めてくれる極上の酒を出す店さ」

ミシエール…「興味はあるが、残念。アイツを屈けてこなきゃならない。そうしたら本部にトンボ返りだろうな」拘束され、ケルビムの捜査官数名に囲まれたヴィルヘルムの方を指して。

駒村…「そうかい。気が向いたら来いよ。お前にとっては憎む相手だったかも知れんが、そいつがどんな酒を飲んで何を思っていたか知るのもいい」

ミシエール…「ハハ。忠告ありがとう」ふっと笑って、エリカの方に向き直り。「君も、ありがとう」

エリカ…「ううん、わたしのほうこそありがとう。たくさん助けてもらって。ミシエールさんも、気をつけて帰ってね」

ミシエール…「どういたしまして」と微笑んで、そのまま踵を返す。ヴィルヘルムの背中を叩き、彼らを連行して退場していく。まあでも、キャンペーンシナリオなんだ。このまま素直にA X Y Zに帰るって流れにはならないんだろうな。

R L…ご明察です。しかし、ひとまずの区切りではありませんね。ではシーンを切りましょう。

それぞれの真実



終末

ここ数日間続いていた暑気は去り、街には肌寒さが戻ってきた。そんな中、かつてメルト教団N◎VA支部だった雑居ビルの一室を、駒村とエリカは訪れていた。

主を失った部屋はがらんと化している。指導者を失った教団は程無くして離散した。犯罪に加担しなかった一般信徒たちは罪に問われることなく解放されたが、行き場を失った彼らがこの先どうなるのかは、まだ誰も知らなかった。

「メルト教の人達は、また、帰る場所を無くしちゃったのかな」胸を締め付けられる想いでエリカは呟く。自分の身を抱くようにしていたエリカに、駒村は自らのコートを纏わせた。

「あれから少し調べてみた。ヴィルヘルムという男がどういう過去を持っていたのか。何故、あんな事をしでかしたのか」

燦らせていた煙草の火を消し、語り始める。

篠原司法…N◎VAの司法を委ねられている司法企業。千早系列の息のかかった企業ではあるが、その裁判は公開され、非常に公正に行われる。

軌道監獄アスカルド…SSSの所有する重々犯罪者専用の衛星特殊刑務所。

《制裁》…社会的な制裁を与える、イヌの神業。

エンディングシーン2

「あの男は、戦災孤児だったそうだ。故郷を紛争で失った彼はその後、真教教会に拾われた。熱心な信徒だったらしい。氷の癒しの教義を信じ、魂を救われたんだと」

ヴィルヘルムが語った、災厄の真実……救世母が犯したという、罪の話。真実を見通す駒村の瞳にも、彼が嘘をついているようには見えなかった。

「あれが本当の事だとするのなら、心救われたものに裏切られた気持ちだったんだろうな」

RL…では駒村のエンディングです。

駒村…今回の事件を振り返るエンディングにしようと思う。少しエリカと話がしたい。出てくれるか？

エリカ…うん。わたしも、駒村さんと話したい。

駒村…ありがとう。RL、ヴィルヘルムと矩子の馴れ初めを、聞いてもいいかい？

RL…いいですよ。元々、ヴィルヘルムは真教教会の救世局という場所に所属していました。

エリカ…救世局？

RL…公式設定ではないオリジナル設定ではありますが、紛争や天災などで身寄りを失った人々を保護する組織です。

ミシエール……私もテロで家族を失った際、そこに世話になったことになる。RLから設定に関して打診があつてね。まさか、そう繋がるとは。

RL…虎丸も、故郷を失った際にヴィルヘルムに保護されました。やがて彼らの活動に共感し、共に救済活動を行うようにな

ったのですが、どれだけ活動を続けようと、救いを必要とする人は増える一方でした。

駒村…そして、ヴィルヘルムが、真教の真実^{ミソ}に触れてしまうわけだな。今までやってきたことを、全部否定された気持ちになるのも、無理はない。なあ、RL。その話、事件後に調べてエリカに伝えたということにしているかい？

RL…構いませんよ。

駒村………と、いうわけだ。彼らは彼らなりに、自分の中の信念に従って行動していたんだろう」

エリカ…「何が正しいのか、分からなくなっちゃった。わたし、ヴィルヘルムさんの気持ち、少し分かる気がするの。きっとわたし、あの人と同じ絶望を抱えてる。でも、あの人のようにしたこと、絶対に許せないって気持ちもある」

駒村…「エリカ……」

エリカ…「駒村さんのように、人の気持ちを見通せるようになってたら、もつと違ってくるのかな」

駒村…「——俺だって、昔は何も知らないガキだったさ。昔世話になった探偵がいてな。その人はちっぽけな真実を見つけ出しては企業やヤクザに揉み消される毎日で、だから俺は、探偵なんて無力な存在だと思ってた。力を求めて戦場^{ミトラス}にも行った。結局、靴をすり減らして何年もさ迷い歩いて、色んな人の話を聞いて、ようやくたった一つの答えを見つけ出したんだ」

エリカ…「たった一つの、答え？」

駒村…「人間は、他人と同じものを見ることはできない。人の数だけ真実がある。だから争いが起きる。誰かを救いたければ、

その真実から目を背けちゃいけないって事だ。その真実を追いつける生き様が、探偵ってやつなんだ、ってな」

エリカ…「……そうだね。誰かと同じものは、見えない。わたしは多分、駒村さんが思っていること、感じてきたこと、伝えようとしてくれること、まだちゃんとわかってないと思う」

駒村…「いいのさ。お前はお前の足で、彷徨い歩いて自分だけの答えを探さないといけないってことさ。どんなに探しても、お前の求めている探し物は見つからないかもしれない。けどな、その道程で見つかったものが、いつかお前を助けてくれるんだ」
エリカ…少し曖昧に笑って、うなずく。「ありがとう、駒村さん。……きつと、そうだといいな」

エンディングシーン③

残響

シンブレイヤー…エリカ
シーンカード…カリスマ(逆)



N◎V Aスポ編集部 sofaに座ったエリカは、九条を待ちながら、ホロ・ヴィジョンが伝えるニュースを聞いていた。

この世界は偽りだと主張し、世界の浄化を掲げたメルト教団の幹部が、日系企業群の開発していた気象制御衛星クラウドナインを悪用し、世界的なテロを引き起こした。ニュースの論調

はクラウドナインの存在をセンセーショナルに扱う一方で、メルト教団についてはありがちなカルト集団として処理しているようだった。

九条に事件の顛末を伝える際、エリカは教祖の語った「災厄の真実について言及しなかった。それは世界にとって重すぎる事実だから、というのも勿論ある。だが正直なところ、エリカにはどうすればいいのか判断ができなかったのだ。

故に、教祖の真の主張は人々に届くこと無く、ただエリカの心に巢食う闇としてのみ残った。

「本当に、人々の故郷は失われてしまったのかな……これから、この世界は失い続けていくのかな……」

小さく呟き、自らの体を抱くようにして小さく震える。自分には。帰る場所。なんてとうに無いのではないかという予感が、彼女の中で確信に変わりつつあった。

R L…では、最後はエリカのエンディングです。《暴露》(※)は事件の報道には使わない、とのことですが、どういった使い方を想定していますか？

エリカ…ある人にメッセージを伝えたいの。《暴露》を使えば、どんな場所にいる人にでも言葉を届ける事ができるのよね？

R L…はい。なるほど、そういう使い方ですか。分かりました。では浮かない顔をしている貴方の元へ、出先から戻ってきた九条が話しかけます。

「《暴露》…世界中に報道を行うトーキーの神業。」

「悪い悪い、待たせたな。どうした、具合でも悪いんか？」

エリカ…「う、ううん、大丈夫」そう言って笑いますが、どこかぎこちない感じで。「この間の事件のことを、ちょっと思い返してたの」

RL／九条…「そういうや、俺があんな仕事振ったせいで大変な事に巻き込ませてしまったなあ。悪い悪い。でも無事でホッとしたわ。んで、今日は何の用事だったんだ？」

エリカ…「うん、ちょっと教えて欲しい事があって。九条さんなら詳しいかなって思ったの」

RL／九条…「ほう？」

エリカ…「サーガS.A.T.A.N.Nって都市のこと。何でもいいの、知ってる事を教えて」

RL／九条…不思議そうな顔で「懐かしい名前やな。何でもた突然……。別に構わんが」と言って、過去の取材資料などをまとめて渡してくれます。

エリカ…「ありがとう、九条さん」

九条から受け取ったデータに目を通したエリカは、それらを大事そうにデータチップに移した。そのままその足で、SSSの拘留所に足を向ける。

「これを、虎丸さんに渡して下さい」

そういつて拘留所の職員に渡したのは、小さなプレスレットだった。触れると、いくつかのホログラムが浮かび上がる。それは、今は無きサーガS.A.T.A.N.Nの姿を映した映像だった。都市の姿や、そこで生きていた人々の姿が次々と映し出される。

虎丸にとつての故郷の姿。これから始まるであろう長い贖罪の日々の傍らに、ずっとその姿を忘れずにいてほしいという願いが、そこには込められていた。その映像が呼び起こすものは、きつと懐かしさや愛おしさばかりではないだろう。寂しさや哀しさで、胸を締め付けられることもあるだろう。

それでも、もう戻らない場所を、忘れてはしくなかった。……わたしは、忘れてしまったから。

拘留所からの帰り道。ふと気になって、エリカはバー・ウエストバージニアまで足を運んでいた。

駒村と虎丸が語らいあつた、大事な場所。いつか帰る場所。ほんの少しの好奇心で店の扉を開けようとしたとき、ふと、店内から漏れ聞こえるBGMが耳に入った。

「Take me home, countryroad」

聞き覚えの無い旋律。けれど、その歌詞の意味を捉えてしまった瞬間、エリカは動けなくなってしまう。わけも分からないまま思考が暗闇に埋め尽くされ、扉を開ける事も出来ないまま佇む。気付けば、エリカの頬を涙が伝っていた。

「……帰りたい」

無くした記憶の残響が、鳴りやむ事は無かった。

ノスタルジック終末論 第一話『世界災厄後仮説』

—XYZ—



第2話

サウダーデの彼方

世界の終末は防がれたかに見えた。

だがそれは、本当の終末の幕開けに過ぎなかった。

軌道より降り立つ尊大な使者。

暗躍する巨大な勢力。奪われた聖遺物^{レリック}の秘密。

その全容を見せぬまま、物語は急激に加速を始める。

その渦中、少女の失われた過去が、徐々にその輪郭を見せ始める。

それは、滅びゆく故郷の記憶。

トキョー N ● VA The Detonation キャンペーン

第二話『サウダーデの彼方』

プロアクト

RL…さて、少し間が空きましたが、キャンペーン・アクトを再開しましょう。今読み上げたのが第2話のアクトトレーラーになります。

駒村…いよいよ物語の本番が始まるって感じのトレーラーだな。エリカ…わたしの過去が関わってくるんだね。緊張するなあ。RL…以前お話ししたとおり、1話とはキャストの番号が変わ

ります。キャスト①はミシエール、②がエリカ、③が駒村となります。並び順は変わりませんので、キャスト間コネの取得に関しては1話と共通です。あと、最初に説明し忘れていましたが、このキャンペーンでは今までのシナリオコネも継続して使用することが出来ます。

ミシエール…続きもののシナリオならではのルールだね。

駒村…今回のアクトは、前回からどれくらい時間が経っているんだ？

RL…あまり長くは経っていません。具体的な日数などは決めています。数日後という感じがすかね。具体的にどのようなシチュエーションでストーリーが始まるかは、ハンドアウトに示してあります。では、早速ですがハンドアウトを配布しましょう。

ハンドアウト…ミシエール・プロキオン

「イヌ」コネ…星熊少佐 / 推奨スート…外界

国際指名犯ヴィルヘルムを護送中、君は突如、謎の一行に行く手を阻まれた。ヴィルヘルムの身柄引き渡しを要求してきた彼らは、なんとかの悪名高き日本軍の将校だった。ケルビム本部も既に籠絡済みで、君には成す術も無かった。

途方に暮れる君の前に姿を見せたのは、幼い頃に身寄りを亡くした君を援助し、君から「痛悔機密」を切り離した恩師だった。

PS…日本軍の目的を探る

RL…まずはミシエールのハンドアウトからです。

ミシエール…おっと、これは予想外のハンドアウトだね。まさか、ヴィルヘルムが引き続き物語に関わってくるとは。それに、不吉な単語が見えるんだが。

駒村…日本軍、ねえ。どうも今回は楽には解決させてもらえそうにないな。

エリカ…日本軍は、さすがにわたしでも名前を聞いたことあるよ。強い強いって聞くけど、そんなに恐ろしい軍隊なの？

ミシエール…各国が束になってもまるで相手にならない世界最強の軍隊だ。やり方もえげつない。この世界の人間なら誰でも知ってるよ、日本軍に手を出してはならない^{レリッ}ってね。

エリカ…うわあ。

RL…ミシエールには負けシチュエーションから始めていたかく形になりますが、大丈夫でしょうか？

ミシエール…問題ないよ。私の中の憎しみの炎は勢いを増すばかりだ。

エリカ…ねえ、ハンドアウトに書いてあるミシエールさんの恩師って、どんな人なの？

ミシエール…真教教会の司教さ。魔術師でもある。詳しい人物像はRLに任せているよ。

RL…名はエインリヒ・クレセント。真教教会救世局・浄化派對策班に所属する、かなり高位の司教です。この部署はミシエールのように、宗教テロ組織「真教浄化派」により被害を受けた人々を救ったり、後始末を行ったりする機関です。浄化派はもともと真教が保管していた呪物、聖遺物^{レリッ}などを持ち逃げし

て利用したりする事も多いので、それらの扱いやアストラル的な術などにも有る程度精通している、という設定です。

駒村…オリジナルの設定とのことだが、実際にこういう機関は存在しそうだな。

RL…ただ最初に断っておくと、このキャラは「ミシエールをこのキャンペーンの舞台に立たせる為の」舞台装置ではないので、キャンペーン・ストーリーそのものに深くは関わりません。

エリカ…そういうえば確かに、シナリオコネじゃないね。

ミシエール…実は黒幕なんじゃないか、と疑わなくて済むのはありがたいよ。そうだRL、経験点を使用していくらかキャストを強化したいんだけど、大丈夫かな？

RL…構いませんよ。どんな感じですか？ ……（プロファイ

ルシートを確認しながら）うわあ、強化しすぎでしょこれ。ど

んだけ警戒してるんですか！

ミシエール…〈空蟬〉（*）と〈即応態勢〉（*）を取得してリアクションに対応した。あとは義体オブションを中心に装備もいくつか追加している。日本軍とやり合うことになるかもしれないんだ。それなりの準備は必要だろう？

RL…はは。まあ、問題ないでしょう。では続きまして、エリカのハンドアウトです。

（空蟬）…攻撃を避け、その隙を突いて相手に反撃する力ゲの特技。

（即応態勢）…突発的な事態にも即座に対応するイヌの特技。対決不可能なアクシオンに対してリアクションが行えるようになる。

ハンドアウト…彼方エリカ

「ハイランダー」コネ…夢の中の人物 / 推奨スート…生命

君には、おぼろげにしか思い浮かべられないながらも、忘れられない原風景がある。それは、滅びゆく故郷の姿……そして、君に別れを告げる、誰かの姿だ。

先日的一件以来、君は頻繁にその風景を夢に見るようになった。抑えようのない胸騒ぎを感じた君は駒村に相談をするも、突如現れた謎の集団により襲撃を受ける。

君の失われた過去が、徐々にその姿を現そうとしていた。

PS…自らの過去に向き合う

エリカ…夢の中の人物!? いったい誰なんだろう……。ミシエール…推奨スタイルもハイランダーになつてな。それにしても、ハンドアウトに「駒村に相談した」って書いてあるのはなんだか面白いね。

RL…前回のキャスト間コネで、記憶喪失のエリカを拾って世話をしたのは駒村ということになっていましたからね。エリカがまず頼るなら駒村だろうと思ひまして。

エリカ…うん、その通りだと思うよ。故郷が滅ぶ夢、かあ……わたし、心折れてそうだなあ。

駒村…その上、謎の集団により狙われるのか。エリカは完全にヒロインの立ち位置だな。

エリカ…ヒ、ヒロイン……。

RL…エリカは成長などがありますか？

エリカ…うーん、わたしあんまり経験点たまつてなくて。過去が明らかになつたら、その過去に合わせて（※封印記憶）（※）を取りたいなあと思つてるので、前回もらつた経験点もその為にとつておこうかなと思つてます。（※）

RL…なるほど、それは面白いですね。では最後のハンドアウトに参りましょう。

ハンドアウト…駒村当眞

「カブト」…コネ…ホログラムの男 / 推奨スート…外界

ある日、彼方エリカからの相談に乗つていた君は、突如、謎の集団の来訪を受ける。

集団を率いる尊大な態度のホログラムの男は、エリカの素性を知りような口ぶりだつた。彼は何者なのか、その疑問が解消する暇もなく、彼らはエリカの身を拘束しようと襲いかかつて来た。

訳も分からぬまま、君は怯えるエリカを抱えて彼らから逃れるしなかつた。

PS…ホログラムの男の正体と目的を探る

駒村…エリカと俺は共通の導入つて感じだな。推奨スタイルはカブト。エリカを護衛する枠か。敵は「尊大な態度のホログラムの男」……何者かは知らんが、ハイランダーなのは間違いないだろうな。（※）

エリカ…駒村さんが護つてくれるなら、これ以上安心なことはないね。

ミシエール…相変わらず、信頼されているな。

駒村…だがエリカ。おそらく、今回の事件は俺では手助けできない局面が出てくるだろう。お前はお前自身で、それと向きあわなければいけなくなる……ただの勘だがね。その時が来るまでは、絶対に護り切ってやる。

エリカ…う、うん。そうだね……まだ不安だけど、がんばってみる。

ミシエール…いい関係だなあ。

RL…今回、駒村のハンドアウトはフェイト導入ではありませんが、《真実》の使用想定シーンはありません。使えそうな局面はいくつかあります。

駒村…了解。あと実は、前回のアクトの後、別のアクトでこのキャストを使ってね。その時、経験点を使って成長させてしまったんだ。このまま使っていないかRLに聞いておきたい。

RL…ふむふむ、構いませんよ。(※ク・フレ) (※)と《ガンフー》(※)を取得していますね。反撃も出来るようになって隙が無くなってるなあ。……ん？ あれ。《ガンフー》で武器の攻撃力が二倍ってことは、もしかして《インターセプト》の〔受け値〕も……。 (※)

ミシエール…上がるね。

RL…うわ、凶悪なコンボだなあ！ 了解しました、問題ありません。では、早速メインアクトに移りましょうか。

《※封印記憶》…失われた記憶を呼び覚ますハイランダーの強力な特技。取得時に指定した、他のスタイルの特技として使用することが出来る。一人のキャラクターにつき一つしか取得できないが、極めて汎用性が高い。

経験点をとっておく…《※封印記憶》など、特技の名前に※がついているものは奥義と言い、通常の特技よりも強力な代わりに取得経験点が通常の5倍(つまり25点だ!)もかかる。前回、エリカが取得した経験点は18点なので、今のままでは足りないのだ。

ハイランダーなのは間違いない…ハイランダーの特技に、立体映像としてシーンに登場する《ホログラム》というものがある。

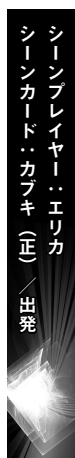
《※ク・フレ》…相手の攻撃を受けつつ同時に反撃を行うカフトの強力な特技。《ガンフー》…銃器を近接戦で扱うカフトワリの特技。至近距離での射撃武器の攻撃力が倍加する。

《インターセプト》の……《インターセプト》は射撃武器の攻撃力を〔受け値〕として受けを行う特技だ。射撃武器の攻撃力を倍化する《ガンフー》と組み合わせることで〔受け値〕も倍になる、非常に強力なコンボだ。ただし《ガンフー》のタイミングはメジャーであり、リアクションの《インターセプト》とは通常組み合わない。しかし、駒村はリアクションと同時にメジャーアクションを行う《※ク・フレ》を組み合わせることでこの組み合わせを有効にしている。

オープニングフェイズ

オープニングシーン

郷愁の夢



少女は、涙していた。

ノイズまじりの視界に映るのは、霞がかったモノクロの風景。そこが何処なのか、何が起きているのか、少女には分からない。思い出せない。

——ただ、一つだけ分かる事があった。

それは、自分の故郷が減びていく姿なのだと。

「君は、ここを離れて」

隣から語りかける声。誰なのかも分からない、懐かしい声。繋いだ掌に伝わる温もり。その姿もやはり、霞がかかったようにおぼろげで……ただ、その人が最後の言葉を告げた口元だけは、やたらとハッキリと覚えていた。

「さようなら、もう一人の私」

そうして、彼方エリカは目覚める。肌にまとわりつく不快な汗。頬には涙の跡。

「……夢」

先日の事件以来、エリカは毎晩のようにこんな夢を見るのだった。浮かんでは消える幻影。身を蝕む孤独感に耐え切れず、

エリカは膝を抱いてうずくまる。

「ただの夢の筈なのに……どうしてこんなに寂しいの？」

RL…かくして、運命の扉は開かれます。

エリカ…謎めいた夢だね……そこがどこなのか、全く分からないの？

RL…はい。イメージには霧がかかっており、そこがどんな場所なのかは一切わかりません。これには何らかの神業の効果が作用している、とお伝えしておきます。

エリカ…わかりました。もう一人の私って……どういう意味なのか。

圧力



シーンプレイヤー…ミシエール
 シーンカード…カタナ（逆）／徒勞

オーブニングシーン2

「遅いな……」

トキヨーン◎VAの玄関口、房総国際空港。先の事件で確保したヴィルヘルムを本部へ送還するため、ミシエールはシャトルの到着を待っていた。到着予定時刻はゆうに過ぎていているのに、いつまで経ってもシャトルが現れる気配はない。苛立たしげに爪先をタンタンと慣らし、何度も腕時計を見るミシエール。

「本部に連絡は？」

後ろに控えていたケルビムN◎VA支部のスタッフたちに尋ねる。携帯電話を耳に当てていた一人が、困り果てた様子で首を横にふる。

「さつきから緊急の用件で手が離せない、の一点張りで……」

「ふむ……」

妙な胸騒ぎを感じるミシエール。窓の外は、嵐の前触れを思わせるような重苦しい曇り空だった。

RL…ではミシエールのオーブニングです。貴方は第1話で逮捕したヴィルヘルムをオーストラリアに送還するため、房総国際空港を訪れています。

ミシエール…「遅すぎる」柱に背を預けたまま、苛立ちを隠さずに言う。私をN◎VAに送って、まさか罪人送還の準備をしていなかったとでも言うつもりか？

RL…では、貴方に付き添っていたケルビムN◎VA支部の面々が急にザワめきはじめます。見れば数人の集団が近づいてきて、貴方達の前で立ち止まります。統率された動き、一見して軍人であると分かる出で立ちです。

ミシエール…この慌てよう、尋常な様子ではないな。「悪いが重要な任務行動中だ。要件なら後にしてくれないか」

RL…貴方のその言葉に、N◎VA支部の同僚たちが真っ青な顔をします。首を横に振りながら「ミシエール、日本軍だ」ミシエール…そんな事が見れば分かる！ だから何だ。臍抜けどもめ。

駒村…臍抜けか……日本軍を一蹴できる人間も、中々いないと思うがね。

RL…指揮官と思しき女軍人が一歩出て、貴方に書面を突きつけます。「ケルビムAXYZ支部のミシエール捜査官だな？」

某は日本国関東方面軍所属の星熊少佐だ。犯罪者、ヴィルヘルム・アベスターグの身柄を引き渡してもらおう」

エリカ…高圧的……。

ミシエール…「いきなり引き渡せと言われて、はいそうですかと渡せるとでも？」

RL/星熊少佐…「その男は日本政府直轄の設備を利用したテロによって、わが国に甚大な被害を及ぼした。よって、日本の司法によってその罪を裁くのが妥当だ。違うか？」

ミシエール…ぐ。一応、筋は通ってはいるな……ち。「本部に確認を取らせてもらう。書面を」と言いながらポケットロンで本部に通信をかける。

RL／星熊少佐…「ほう。もう少し駄々をこねると思っていたが、意外と飲み込みがいいな。だが、あと一歩だ。我らが動いているという事は、すなわち交渉など、とうに終わっている」ということだ」

ミシエール…「……なるほど。本部が手が離せなかったというのは、そういうことか。」

RL…お察しの通り、既にケルビム本部は籠絡ろうらくされています。これは何者かが使用した《天罰ネメシス》の効果です。コールに出た本部長は貴方にこう伝えます。「ミシエール捜査官、すまない。君の捕まえた男は、素直に彼らに引き渡してくれ」

ミシエール…目の前の軍人を睨みつけたまま「……了解です」とだけ返して通信を切る。「意気地なし」上官殿「口の中で誰にも聞こえないよう吐き捨てる。」

RL…星熊少佐は、拘束されているヴィルヘルムの首根っこを片手で安々と掴み上げ、部下に放り投げます。「連れて行け」

ミシエール…メスゴリラめ。「仕事が早い組織で羨ましいな。さすが「世界一」と謳うたわれるだけはある」

RL…同僚が貴方を肘でつつきます。「挑発はよせ、ミシエール。手柄を横取りされて気に障るのかも知れないが、相手が悪すぎる」

ミシエール…手柄だと!? そんな問題じゃない。公正な裁きのために、私はケルビムにいるんだ!

RL…では、その場を立ち去ろうとする星熊少佐が、すれ違わず一瞬立ち止まり、貴方に呟ささやきます。「貴公のその瞳の烈火、評価に値する。だが今回はかりは鎮めるがいい。その炎は己が身を焼くことになるぞ」

ミシエール…「……心配どうも」だがこの身は既に焼かれている。家族を、生まれ故郷を失ったあの日より、私には燃えながら生きる以外の道など残されていない。

やがて軍人たちは去り、N◎VA支部の同僚たちも、すごすごと退散した。空港にはただ一人、ミシエールが取り残される。床を睨みつけ、やり場のない怒りを抱えたまま立ちつくす。

不意に、その背中に声をかけた人物がいた。

「ミシエール」

顔を上げ振り返ると、そこにいたのは、真教の礼儀服をきつちりと着こなした、柔和な表情の男性。ミシエールにとっては、ひどく懐かしい顔だった。

「先生」

「やあ。久しぶりだね」

ミシエールの鬱屈ふさしていた表情が、敬愛する師との思わぬ再会に、わずかに綻んだ。

天上人



シーンプレイヤー…駒村

シーンカード…レッガー（正）

転落

オープニングシーン3

「この辺もすっかり元通りか。いつもながら、この街には驚かされる」

駒村はアサクサの街並みを一人歩いていった。メルト教団が引き起こした先日の事件、浸水による被害と混乱はかなりのものであったはずだが、数日後には何事もなかったかのように都市機能を回復し、ストリートにはいつもの喧騒が戻ってきていた。「おかげで探偵の仕事もひっきりなし。世は全てこともなし……と。ん、あれは？」

昼下がりの人混みの中に、駒村は見知った少女、彼方エリカの姿を見出す。その足取りはフラフラと覚束なく、瞳は虚ろで心ここにあらずといった様子だ。すれ違う人にぶつかり怒声を浴びせられるが、それすらも耳に入っていないように。

その尋常ではない様子を気がかりに思い、駒村はエリカに近づき、その肩を叩いて話しかけた。

「よお、エリカ。どうした、こんなところで？」

「……こまむら、さん」

振り返るエリカ。いつもはそこで、安心したように朗らかに笑う彼女が、今は瞳を潤ませて苦しうに胸をおさえていた。

「おい、どうした、大丈夫か!？」

「駒村さん、駒村さん……!」

堰を切ったように、駒村の胸にすがりついて泣き崩れる。その涙の理由は分からないまま、駒村はまるで父親のようにエリカが泣き止むまでその頭を撫で続けた。

R L…駒村のオープニングです。エリカは自動登場ですね。

駒村…泣き顔のエリカを人目のつくところにおいておく訳にはいかないし、俺のオフィスに連れて行く。コーヒーを渡しながら話しかける。「落ち着いたかい?」

エリカ…「うん……ごめんさい」落ち着いたけど、表情は沈んだまま。

駒村…「気にすることはないさ。何があった? 俺で力になれることなら、相談に乗るぜ?」

エリカ…少し躊躇って、視線を落とします。コーヒーの液面を見つめながら、ポツリと。「夢、が」

駒村…「夢?」

エリカ…「うん……最近、夢を見るの。懐かしい場所が、壊れていく夢。傍にいた大事な誰かとも離れ離れになってしまう、そんな夢」

駒村…相槌だけを重ね、先を促そう。

エリカ…「その夢がね、ただの夢のようにとは思えないの……本当にあったことなのかは、わからないけど。でも、すごく寂しくて」

駒村…「そうか……」先の事件のあと、この子が沈みがちだったのはそういうことか。

エリカ…「胸にポッカリ穴が空いたみたいで……苦しくて、寒くて。わたし、どうしていいのかわからなくて」

駒村…「それで、街を彷徨^{さまよ}っていたのか」

エリカ…「うん……別れてしまったその誰かを、探したかったの、かも」

駒村…「——なるほど、な。人探しは探偵の十八番だ。力になれるかもしれないぜ」と言った後で、少し間をおいて。「だが、エリカ。お前はここで何も探さないこと、何も知らないままでいることを選ぶことも出来る。誰かが言った。真実^{マコト}ほど人を傷^やつけるものはない、と」

エリカ…「え……？」

駒村…「知る覚悟が無ければ、知らないままにいた方がいい真実もある、ということだ」

ミシエール…探偵^{テイル}が言うと、重い台詞だな。

RL…真実の重みを知るフェイトだからこそその優しさですね。残酷でもあります。

エリカ…わたしにその覚悟、あるのかな。「わたしは、まだ」

RL…さて、そろそろですね。ではエリカが眩^{くら}いたそのタイミングでイベントが起きます。駒村の部屋の扉のロックが、ガチャリと音を立てて解除される。

駒村…なんだって!? 住居^ド端末^Aは反応しないのか?

RL…DAKには、来客…市民^シランクS。システム全権移譲^シと表示されています。

駒村…Sランクだと!?

ミシエール…そんな市民ランクは存在しない……公には。

駒村…クソ、やばいな。立ち上がり、エリカを庇^{かば}うように立つて扉を睨^{にら}みつける。

エリカ…「こ、駒村さん……」ビクリと身を固くし、震えます。

RL…扉を開けて入ってくるのは、軍服に身を包み銃を携えた男たちです。土足で事務所に踏み込んでくる。

駒村…軍人集団だと? ここは戦場か!?

RL…軍服たちの後ろから、ホログラムの男が姿を見せます。金髪に白スーツ。貴族的な雰囲気をもった端正な顔立ちの男です。

駒村…「お前さんたち何者だ。この駒村探偵事務所^シに何の用だ」
RL…ホログラムの男は、まるで貴方の声など聞こえていないかのように眩^{くら}きます。「本当にこの座標なのだろうな?」
だこは、穢^{よご}い。穢^{よご}すぎる。ホログラム越しにでも穢^{よご}れが伝染^{うつ}りそうだ」

駒村…人の事務所に土足で押し込んでおきながらなんて言い草だ。「猫探しの依頼^シつてわけじゃあ、なさそうだな」

RL…軍人たちはスカズカと近づいてきて、貴方達二人を取り囲みます。ホログラムの男の視線は、エリカを捉える。

エリカ…ひっ。

駒村…「おい、人の話を聞いてんのかよ」

RL…聞いていないね。というより、駒村など視界に映っていないような様子です。エリカを見下ろしてつぶやく。「これか。おい、罪人よ」

エリカ…罪人……?

駒村…「罪人だと？　ここにはそんな呼ばれ方するような奴はいねえよ」

RL／ホログラムの男…「貴様だ。この街では彼方エリカと名乗っているそうだな」

エリカ…「わ、わたし、罪人なんかじゃ……」

RL／ホログラムの男…「その義体に入っているということは、罪人だということだろうか？」

エリカ…義体!?

ミシエール…なんだなんだ、この男は何を言ってるんだ!?

RL／ホログラムの男…「答えよ。お前は誰だ?」。識別ID未登録のまま、誰の許可を得て、何の目的でこの街に降りた」

エリカ…「なに、いつてるの……」

RL／ホログラムの男…〈心理〉〈※天上人〉〈*〉で判定をします。達成値は24。貴方が本当に何も覚えていないということを読み取り、一人つぶやく。「なんだ。流し雛の機能は正常に作動しているのか。ならば益々不可解だな」

ミシエール…どどん謎の単語が出てくるなあ。

エリカ…流し雛って……?　ねえ、わたしは、一体誰なの?

駒村…「……銃を抜いてホログラムの男の眉間を撃つ。」

エリカ…駒村さん!?

RL…貴方の放った銃弾は、ホログラムを突き抜けて事務所の壁に刺さります。初めて、男の視線が駒村を捉える。

駒村…「さつきから煩いんだよ、人の事務所で」

RL／ホログラムの男…「五月蠅いのは貴様だ。地を汚し、食いつぶす虫ごときに掛ける言葉など無いわ」

ミシエール…そ、尊大だなあ。

駒村…「ようやく俺を見たな」

RL／ホログラムの男…「ふん。このままでは埒が明かん。やれ、オオカムツミ」。男がそう言うと、エリカの背後に一人の電脳意識体が出現します。

電脳意識体が出現します。

駒村…オオカムツミ……日本神話に登場する桃の神の名か?

背後に何者かの気配を感じ、エリカは振り返る。そこに居たのは、古神道の祭儀服……小忌衣に身を包んだ童子姿の電脳意識体だ。頭には3つの桃を乗せている。

「……あなた、だれ?」

童子はその言葉に答えることなく、両手を大きく掲げた。その手に、巨大な照魔鏡の姿をしたプログラムが現れる。その黒

光りする鏡に、エリカの姿が映し出される。

(わたし……。貴方は、一体、だれ?)

それは見慣れた自分の姿のはずなのに、知らない誰かのように感じられて、エリカは呆然と立ち尽くす。

RL…オオカムツミと呼ばれた少年が《電脳神》を使用します。エリカの電脳を走査する。

駒村…おいエリカ、しつかりしろ!　エリカ!

「※天上人」…天上人のオーラや影響力などにより、あらゆる行動の達成値を上昇させるハイランダーの強力な特技。

RL…照魔鏡に映されたエリカの姿を見て、ホログラムの男は驚きに染まります。そして愉快そうに笑い始める。「そうか、そういうことか！　もののついでで調べに来たつもりだったが、どうやら当たりを引いたか」

駒村…「おい、どういことだ！」

RL／ホログラムの男…「この娘を確保しろ」そう言くと、軍服たちが動きます。機敏な動作で銃を構え、エリカを確保しようと追ってくる。

駒村…もう猶予は無い、か！　「全く、大勢で押しかけて来やがって。安普請がどうなつても知らねえぞ？」　拔手も見せずにリボルバーを撃つ。狙いはこの建物の床を支える梁材。正確に応力集中してる6箇所をぶち打く。

RL…では、義体の重みで軋んでいた床が抜け崩れ、軍人たちが下の階に落ちていきます。

駒村…「こんな奴らの話なんぞ聞く必要はないぜ。エリカ、行くぞ。しっかり捕まற்றろ！」　目の前のホログラムのど真ん中を突っ切って走り抜けてやる。「止めたきや自分で止めてみるんだな！」

RL／ホログラムの男…「——よからう。その不遜、後悔させてやる。何をしてるか、追え！」　軍人たちは態勢を整え直し、追ってきます。ここでシーンは終了ですね。

ミシエル…ホットスタートなオープニングだ。

駒村…真実は知ろうとしなくても、いつだってそいつの方から追いかけてくる。いつもそうだ。ならば、今回はそれからエリカを守るのも、俺の役目ってわけか。



リサーチフェイズ

リサーチシーン1

罪



「君がN◎VAに来ているとは伝え聞いていたから、連絡をしようとは思っていたんだ。だけど、着いて早々に会えるなんてね。これも聖母のお導きだな」

空港のカフェテリア。ミシエールはかつての恩師、エインリヒ司教と対面していた。司教は運ばれてきたアイスティーの氷に祈りを捧げた。(※)ミシエールもそれに倣い、同じように祈りを捧げる。相手より遅く始めて、自分が先に終えているのは、拙速を重んじる職場のせいだ、と心の中で言い訳して。

RL…ではリサーチフェイズに入ります。最初はミシエールのシーンです。オープニングの続きですね。

ミシエール…「本当にお久しぶりです、先生。本当なら、ちょうど今日離れるところでしたから、お導きというほかないですね」心から嬉しそうに、普段は見せない穏やかな表情で言うよ。エリカ…ミシエールさんの大事な人なんだね。

ミシエール…私が心を許せる数少ない相手さ。まあ、あのアクシデントのせいで出会えたってのは皮肉だけだね。

RL/エインリヒ…「君の活躍は伝え聞いているよ。ケルビム

でも検挙数は群を抜いているそうじゃないか」と屈託のない表情で、我が子の活躍を喜ぶように笑う。

ミシエール…「ありがとうございます。とはいえ、ケルビム自体の検挙率はそれほどでもないのですけどね」

RL/エインリヒ…「謙遜しなくていいよ。私は誇らしいんだから」と言ったところで、ふいに少し言い淀みます。

ミシエール…?

RL/エインリヒ…「特に、宗教犯罪に関しては、か。相変わらず、苛烈な生き方をしているようだね、ミシエール」ミシエール…「……人の弱さを利用する、その生き方だけは、私には教(おし)すことができません」

RL/エインリヒ…「ああ、勘違いしないでくれ。君の行いを責めているわけじゃないんだ。むしろ、君の生き様は貴い。ただ……今でも、君にあの処置をしたことは正しかったのか、悩むことがある。あの時君の頼みを断っていたら、君はもっと穏やかな人生を送れていたんじゃないか、ってね」

エリカ…あの処置って、弱(よわ)さを切り離したことかな。

駒村…だろうな。この人は、本当にミシエールを我が子のように思っているんだろうな。だからこそ、張り詰めた生き方をしているミシエールを心配しているんだろう。

ミシエール…「そう、ですね」少し視線をさ迷わせて、「もう少しは穏やかだったかもしれません」と小さく笑います。

エリカ…ミシエールさん……。

ミシエール…「でもきつと、この灼(や)けるような衝動は変わりません。私は、この想いを忘れてしまいたくなかった。私自身が

負うことで、こんな想いをする人を少しでも減らしたかったんです」だから、先生には感謝しているんだ。

RL／エインリヒ…「そうか……君は本当に、私が思う以上に真つ直ぐに育ってくれた。そんな君が、ヴィルヘルムの引き起こした事件にあたることになるとは。因果なものだよ」

ミシエール…ちよつと待ってくれ。何故、先生の口からヴィルヘルムの名前が出るんだ。「因果とは、どういうことですか？」
RL／エインリヒ…「彼は……僕の部下だったんだ。僕がN◎VAに來たのも、彼が持ちだした『聖遺物』の回収を命じられたのことなんだ」

ミシエール…なんということだ……。しばし呆然とする。

駒村…そういえば第1話でヴィルヘルムは「聖遺物から救世母の罪を知った」と言っていたな。

ミシエール…ああ……先生の部下だったなら、聖遺物に触れるのも領ける。先生は、浄化派の持ちだした聖遺物などを回収することも仕事としていたから。

RL／エインリヒ…「君ももう知っているだろう？ 彼は触れたものの『過去の記憶』を読み取る力を持っていた。そして、聖遺物に触れることで、彼は救世母の……真教の罪を知ってしまった」

エリカ…ということはヴィルヘルムさんが言っていた話……。

駒村…彼の言葉が真実だという信憑性が、一気に増してしまつたな。

ミシエール…「それは、救世母が災厄を引き起こした張本人であるという話ですか」

RL…司教はこくりと頷きます。真教教会がこの事実を嚴重に秘匿しているということは、過去の公式シナリオにて明言されています。

駒村…そりゃあ、公開できないだろうな……。真教を心の拠り所にしている人は多い。その人々の心を一気に砕くことになりかねん。

RL…そして、それを隠し続けていることが、真教そのものの罪だ、とエインリヒ司教は語ります。

ミシエール…「……ヴィルヘルムは、どんな人物でしたか」

RL／エインリヒ…「真面目な男だったよ。弱者に対して、とても優しくかった。彼自身も戦災孤児だったからね。……彼を狂わせてしまったのは、私たちの責任だ」その様子は、まるで懺悔をするようだ。

ミシエール…少し考えこんで「いえ。やはり、彼の起こした事は彼自身の罪だと、私は考えます。古い罪を断罪するために、新たな罪を犯すことは、間違っている」

RL／エインリヒ…「そうだね。そして、僕達の罪もまた、僕達が背負わなければいけない。ミシエール、もはや、僕が君に説法するのはお門違いだろう。だが、君に僕達と同じ過ちを犯させないためにも、師からの最後の教えだと思って聞いてほしい」

ミシエール…「はい」

氷に祈りを……第一話でも触れたように、氷を聖なるものとする真教では、飲み物の氷に祈りを捧げる習慣がある。

司教はゆつくりと、我が子に語り聞かせるような口調で話し始めた。

「この時代、多くの人間が罪を負っている。中には、自ら望んだわけでもないのに、生まれながらに罪を負ってしまったものもある。……救世母もそうだった。我らの神は、誰よりも重い罪を負って生まれたんだ。だが、それでも過去から逃げず、自らの罪と向き合う姿勢……それを、救世母は示してくれたんだ」

師の言葉に、内心ミシエールは戸惑いを覚えていた。自分が弱さを切り離してまで力を求めたのは、罪という罪を焼きつくすためだった。しかし彼の言葉は、誰もが罪人となり得ると、そう言っているように聞こえたからだ。

「ミシエール、一つだけ覚えておいてほしい。過去を、無かったことにはしていない」

「……………」

虚を突かれて、動きが止まる。

足下に、罪人の骸の山を幻視する。裁かれた彼らは呻きながら天を仰ぐ。

自らの手に握られているのは、炎の剣だ。その炎は、裁いた罪人の血潮により燃えている。

「ええ……なかったことになど、しません。決して」

頷いて、答える。今の声は震えていなかっただろうか？

エリカ…過去を、なかったことにしては、いけない……。

RL…ミシエールの返事を聞くと、司教はニコリと笑います
「それじゃあ、今日はこの辺で分かれようか。僕は暫くN◎V

Aに留まるつもりだ。ミシエールはこれからAXYZかい？」

ミシエール…「いえ、一仕事終えたところで。これから休暇です」本部には確認していないが、そういうことでいいだろう。

RL／エインリヒ…「じゃあ、近いうちにまた会おう」立ち上がって、手を差し出す。

ミシエール…「ええ、是非」こちらも笑って、握手を返す。ああ、この手の冷たさが伝わらなければいいのだけれど。

RL…では、貴方が司教と別れたところでシーンを切りましょう。その前に何か情報収集などしておきますか？

ミシエール…ああ。今一度、ヴィルヘルムの犯した事件と向きあわなければならなかった。その為にも、彼が何故、日本に買収されなければならなかったのか調べる。リサーチはオープニングで彼を連れ去った部隊についてだ。

RL…《社会・N◎VA》や《社会・警察》などで調べられます。13出れば部隊について、16出ればそのバックボーンまで判明します。

ミシエール…《社会・警察》で判定。達成値は16。

RL…OK。彼らは《三歩破軍》と呼ばれる日本軍特務部隊です。拡大派と呼ばれる派閥に属する部隊のようです。

胸村…拡大派……日本軍の中でも過激思想をもつ一派だと聞いたことがあるな。

RL…彼らは《天津・国産み派》と呼ばれる組織をバックボーンとしています。

エリカ…あまつ？　くにうみは？

ミシエール…《国産み派》とやらが何かは知らんが、天津の名

は聞いたことがある。遙か天界から地上を見下ろす日本の特権階級だ。

駒村…大物が出てきたな。奴らと渡り合うのは難儀だぞ。

RL…逃亡中のお二人、舞台裏判定をどうぞ。

駒村…エリカはちよつと何をするか悩んでいるようだ。なので俺から判定するぜ。ホログラムの男についてリサーチだ。

RL…《社会…軌道》で目標値17の判定が必要です。《社会…N◎VA》だと代用判定（*）で目標値が+3されます。

駒村…やはり軌道人か。《社会…N◎VA》で達成値は20だ。

RL…OK。彼の名は天津凛禰。鎖国日本と強いパイプを持つ軌道の特権階級、天津一族（*）のものです。

駒村…予想はしていたが、やはり繋がるか。

ミシエール…おそらく、国産み派とやらとも関係があるだろうね。

RL…続きましてエリカ、何をするか決まりましたか？

エリカ…うん……調べるのが怖いけれど、流し難い、が何なのか、調べてみます。

RL…これは《社会…軌道》でのみ調べられます。目標値は21と高いぞ。

エリカ…実はわたし、《社会…軌道》持ってるの。メイクアップで作った時の名残（*）なんだけど。そして、手元にこのカードがあつて……。

RL…ハートのA！（*）まさかいきなりこの情報が抜かれるとは思いませんでした。では情報をお渡しします。流し

難は、天津一族が開発した特殊な全身義体です。訳あって軌道を追放される罪人が、この義体に入れられるそうです。

エリカ…罪人が入れられる、全身義体……！

ミシエール…あの男が言っていたのはそういうことだったのか。RL…この義体は軌道のオーバーテクノロジーの産物で非常に精巧にできており、義体であることの検知が極めて困難です。さらに、これに換装されたものは、換装前の一切の記憶を封印されます。

エリカ…！！

駒村…エリカが記憶を失ったのは、その義体のせいなのか！

RL…この義体の換装者は、天津本部のデータベースに登録され、常に彼らの監視下に置かれます。ただ、何故かエリカはその登録がなされていないようです。天津凛禰はその原因を解明するためにエリカの元に訪れたようです。

代用判定…本来必要とされる技能の代わりに、別の技能を用いて行う判定のこと。その判定が可能かどうかはRLが決定し、達成値にマイナスの修正がつく。

天津一族…詳細は後ほど語られるが、N◎VAがRegulationの時代に入ってから表舞台によく姿を表わすようになった軌道の勢力。公式シナリオ『託された言葉』や『この空の向こうに』などに登場。

メイクアップで…キャンペーン最初のフレアクトでも語られたとおり、彼方エリカは当初、メイクアップにて作成されたキャストだった。その時に自動取得となっていた《社会…軌道》を、フルスクラッチで作った時になんとなく気になって残しておいたようだ。RLはこのデータを見てシナリオを作成した。

ハートのA！…Aのカードには、問答無用で判定の達成値を21にするという効果がある。

ミシエール…謎は残るのか。
エリカ…わたし、本当に罪人なの……？ 一体わたし、何をしたの……？

RL…さて、自分が義体換装者であることを自覚したエリカは、それを装備として取得することができます。これが装備としてのデータです。I A N U S のデータが Departure に上書きになる（＊）ので、プロフィールシートに反映させておいてください。

エリカ…わかりました……。Departure で強化される一般技能は〈交渉〉を指定しておきます。うう、キャストが強くなるのに、なんだか素直に喜べない。

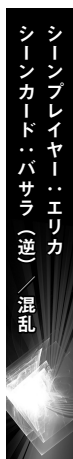
天津家
義体

なが ひな
流し雛
D

購：－／－ 隠：50
電制：50 部位：義体
防（殴／刺／斬／爆）：0／0／0／0
生身：殴＋0／0 携帯判定：不要
プリインストール：
Departure（『OTE』P 10）
解説：故あって軌道から地上へ落とされる罪人が入れられるという全身義体。換装者は換装前の一切の記憶を封じられ、天津家の監視下に置かれる。義体オプションを追加装備できない。ハイランダー専用。

メモリー

シンプレイヤー…エリカ
シーンカード…バサラ（逆）／混乱



薄暗い路地裏に、エリカはぼんやりと座り込んでいた。視界に映る自分の手が、ひどく気味の悪いものに見えて、目を瞑る。
「……わたしは、誰、なの」

何も思い出せないまま、ただ知ってしまったのは、この身体さえも自分のものではないという事実。自分にとって確かなものなど何もなく、世界の全てが幻となつて崩れていつてしまいくまら。震える身体を抱き、エリカはただうずくまる。

「ダメだな。表通りにはいたるところにヤツらが張ってる。裏道を行くしか無いな。……エリカ、大丈夫か？」

周囲の様子を確認してきた駒村が引き返してくる。顔を上げたエリカに対して優しく笑いかけ、手を差し伸べる。

その手をとる。掌に伝わる温もり。

そうだ。確かなものが、ひとつだけあった。それは、彼方エリカとしての最初の記憶。駒村との出会いの記憶。その時もこんな風に、彼はその手を差し伸べてくれたのだった。

RL…ではエリカがシンプレイヤーです。今は追手から逃げている最中です。どんなシーンにしましょう？

エリカ…ちょっと回想がしたいんですが、いいですか？

RL…ほうほう。

エリカ…今ちょっと、明かされた情報にかなり動揺して戸惑っているの、回想を挟んで立ち直りたいなああって。あと折角、駒村さんに拾われたって設定にしたので、その出会いの演出もしておきたいなあと思って。いいかな、駒村さん？

駒村…もちろん、構わないよ。

RL…分かりました。いいですね。では、画面がセピア色になるイメージで回想シーンを挟みます。記憶を失ったままN◎V Aの路地裏で目覚めたエリカは、そこで駒村と出会います。

駒村…「こんなところでどうしたい？ お嬢さん」

エリカ…地面にべたんと座り込んだまま、戸惑いの表情で彼を見上げます。「……ここ、は？」

駒村…「ん？　ここはレッドエリアも近いぜ。もうすぐ日も暮れる。お嬢さん一人じゃ危ないぞ。お前さんは一体どこから来たんだい？」どうも様子がおかしい。屈んで目線を合わせ、驚かせないよう極力優しく問う。

エリカ…「どこから……？　わからない……帰り、たい」白紙だった思考に、寂しいという感情が浮かび上がり、涙がこぼれます。

駒村…「記憶が、ないのか……？　それは困ったな。だけどお前さん、記憶は失っても運は残ってるみたいだ。その記憶は俺が探してやる」

エリカ…「……あなた、だれ？」

駒村…「俺は駒村、駒村当真。探偵だ。お前さん、自分の名前

は覚えているかい？」

エリカ…「……エリカ」ふと、頭のなかに浮かんだ名前を、ぽつりと呟きます。

駒村…「そうか。いい名前だ」にかつと笑って、薄着だった少女に自分のコートをかけてやる。

エリカ…温かい……。

駒村…「じゃあ行こうか、エリカ。こんなところにいたら風邪を引いちまう」そういつて、エリカに手を差し伸べる。

エリカ…ゆつくりと、その手を取ります。

RL…では、貴方が駒村の手を取った所で回想が切れます。その映像に重なるようにして、現在の貴方が駒村の手を取り、立ち上がる。

駒村…「歩けるか？」そう言いながら、その身体にコートをかける。

エリカ…「……うん。もう、大丈夫」そうだ。不安になったり、寂しくなったりするたびに、何度も辿った記憶。失った過去がどれだけ不確かでも、駒村さんが差し出してくれた手の温もりは確かなものだから。だから、もう大丈夫。

駒村…「そうか。じゃあ急ごうか。ここもじきに危なくなる」と、エリカの手を引き、歩き出す。そうだ。天津凜欄という男について、このシーンでリサーチをしておきたい。できるか？

「I ANUSのデータが……Databaseは天津一族のワークス装備。軌道からわけあって追放された者への手向けとも言われる高性能特殊I ANUSだ。」

R L…〈社会…N◎VA〉か〈社会…軌道〉で判定をしてください。

駒村…〈社会…N◎VA〉〈事情通〉の組み合わせで、銀の目とN.I.K.鑑札の効果も足して17だ。

R L…OK。天津凜櫓は「天津・国産み派」という勢力の筆頭です。地上人やガイジンを汚物のごとく毛嫌いする、生粋の軌道人ですね。

ミシエール…やはり国産み派と関わりがあったな。筆頭ということは、日本軍「三步破軍」を動かしてヴィルヘルムの身柄を買収したのも、その男か？

R L…その通りです。オープニングで使用された《^{ネメシス}天罰》は天津凜櫓のものです。あと、エリカを追っているのも「三步破軍」の部隊ですね。

駒村…ヴィルヘルムの身柄を押さえることと、エリカを追うこととの間に、どんな関係があるんだ？

R L…いや、オープニングでも凜櫓が「もののついで」と言っているように、エリカを追うこと自体は当初予定になかった行動なんです。彼らがN◎VAに来た本来の目的は、ヴィルヘルムが持ちだした真教の「聖遺物」を手に入れるためです。

ミシエール…はあ!? せ、聖遺物をだど。どういことだ。なぜ天津一族や日本軍が、真教の聖遺物などに手を出す!?

R L…その真意は今の段階では不明です。

駒村…情報不足、か。だが、突発的にはいえ、エリカの身柄をも確保しようとしているということは、それが奴らにとって何らかの意味を持つことなんだろう。エリカを守り切るために

も、その狙いを見極めねばならんだろうな。

ミシエール…調べることは山積みだな。情報共有のためにも、早いうちに合流しておきたい。R L、シーンも切れる間際だとは思いますが、ここでこのシーンに登場していいか？

R L…構いません。〈社会…N◎VA〉で目標値10です。

ミシエール…問題なく成功だ。路地裏を移動中の駒村とエリカのすぐ傍で、金属扉が内側から小さくノックされる音がする。

駒村…エリカを庇い、音の方向に向かって銃を向ける。

ミシエール…ギイと扉を開けて姿を見せる。「丁度通りがかったところを見かけたんでね。だがその様子じゃ、何か事件にでも巻き込まれているようだな」

エリカ…「ミシエールさん!」

ミシエール…しっ、と唇に人差し指をあてる。「ケルビムのセーフハウスだ。中には誰もいない。話の中には入ってからだ」

駒村…「恩に着るよ、捜査官」

R L…鮮やかな合流ですね。では、そこで一旦シーンを切りましょう。

拡大派



シンブレイヤー…ミシエール
シンカード…ヒルコ（正） 前進

リサーチシーン3

ミシエールの手引きで、セーフハウスの中へと導かれた駒村とエリカ。

「ケルビムが、N◎VAでこんな隠れ家を用意してるなんてな。だがお前さん、AXYZに帰ったんじゃないのかい？」

「ワーカーホリックの日本人に邪魔されて仕事ができなくなったね。しばらくバカンスさ」

二人に飲み物を出し、ふっと椅子に腰掛けるミシエール。

「それで、あんな路地裏を逃げ回っていた事情を説明してもらおうか？」

R L…では先ほどの続きのシーンですね。

駒村…手早く情報交換を済ませよう。「日本軍の部隊に追われている。理由は分からん。だが、奴らの親玉、天津・国産み派」とやらはエリカにご執心なようだね」

ミシエール…驚いた表情で「——まさか、同じ敵を相手にしていたとはね。こちらと同じく天津がらみさ。ヴィルヘルムの身柄を買収された」

エリカ…「ヴィルヘルムさんが!？」

ミシエール…「日本政府の直轄施設への被害を鑑みて、日本の

司法で罰するなんて嘯^{うそ}いていたがね。その実、ヴィルヘルムが持ちだした聖遺物とやらがお目当てらしい」吐き捨てるように言うよ。

駒村…「どうにも目的が見えない奴らだな」

ミシエール…「私にも、皆目検討がつかん。なにせ、私はヴィル・ヌーヴ生まれで今はオーストラリア人。日本の情報には疎くてね。この街の探偵^{フレイト}なら詳しいかと思つて、連絡をつけるつもりではいたんだ」

駒村…「ミシエール。天津と渡り合うのは酷^こだぜ。首を突っ込み過ぎると、二度とAXYZに帰れなくなるかもしれん。それほどまでして、あの男を自分の手で裁く必要があるのか？」

ミシエール…「ご心配どうも。だが、別に安い意地を張るためにN◎VAに残ったわけじゃない。今回の件、日本軍がなんらかの犯罪行為に手を染めている可能性が高い。それを阻止するのは、国際警察たるケルビムの責務だ。……それに、私情もあるのさ」

駒村…「そうかい。なら、これ以上何を言つても無駄だろうな」

R L、天津・国産み派についてリサーチする。へ社会…N◎VA〈事情通〉で達成値21だ。

R L…分かりました。先にもお話したとおり、彼らは、拡大派と呼ばれる勢力に属する天津一族の一派です。天津一族は災厄^{さいとく}の最中に軌道へ逃れた天上の勢力で、その出自はかつて日本で神事一切を取り仕切った者の末裔にまで遡ります。極端な純血主義者で、日本人以外をガイジンと蔑み、露骨な差別意識を隠そうともしません。

駒村…天津凜瀾も、そんな感じの男だったな。

RL…国産み派は、天津一族の中でもかなり過激な勢力なようです。彼らの究極目標は、^{レザシス}「遺産群^グ」と呼ばれるものを確保することだそうです。

ミシエール…遺産群？ キーワードらしい単語が出てきたな。

エリカ…ねえ、拡大派って、具体的にどんな勢力なの？

RL…調べるなら〈社会…メディア〉でどうぞ。

エリカ…ええと、〈ニュースソース〉を組み合わせて達成値は18です。

RL…OKです。拡大派とは日本の恒久的繁栄を目的とし、他国を軍事的に駆逐せんとしている過激派です。彼らは約10年前ある事件（*）で切り札である軌道衛星兵器^グ「アマテラス」の制御を失いました。

エリカ…アマテラス！ それって、虎丸さんの故郷を滅ぼしたっていう？

RL…よく覚えていましたね、その通りです。一撃でメガレックスの都市機能を壊滅させられるほどの絶大な攻撃能力を持つアマテラスは、日本の力の象徴として恐れられていました。拡大派はその制御を取り戻すために活動を行なっていますが、成果は芳しくなく、近年ではアマテラスに代わる新たな力入手する方向にその活動をシフトしてきています。

エリカ…「九条さんが、こんなこと、言ってた気がする」

駒村…「アマテラスに代わる新たな力、か。それで連中が目をつけたのが、^{レザシス}「遺産群^グ」ってことか？」

ミシエール…「ふむ。しかし、その情報から現状を解釈すると、

彼らが求めている聖遺物や……あるいはエリカ、キミが^グ「遺産群^グ」とやらになんらかの関わりがある、ということになる」

エリカ…「わたしが……」

ミシエール…「いや、覚えていないのだから考えても仕方がないな。すまない、不安にさせるような事を言ってしまった」

エリカ…「ううん、いいの」

ミシエール…しかし、エリカが何も思い出せない以上、もう一方からあたるしか無い。聖遺物について調べよう。技能は〈社会…真教〉でいいかい？

RL…はい。達成値は17も出れば十分です。

ミシエール…報酬点を2点払えば出るな。ピッタリ17だ。

RL…ヴィルヘルムが持ちだした聖遺物の名は^グ「原罪の記憶」と言います。

エリカ…原罪の、記憶……？

RL…数年前に真教浄化派が起こしたテロのあと、回収された聖遺物です。トロンの一種のようですね。

ミシエール…真教浄化派……だと？

駒村…「トロンの聖遺物……？ そういや、ヴィルヘルムが言っていたな。『救世母は人工知能だった』って。それが事実だったとするなら、おかしいことでは無いのか。」

RL…ただ、ミシエールがヴィルヘルムの身柄を確保した時、そのようなものは所持していませんでした。

ミシエール…ふむ……どこにあるのかは、また別のリサーチになるのかな？

RL…そうなりますね。

短い再会



シーンプレイヤー…駒村
シーンカード…クグツ（逆）／罰

リサーチシーン4

駒村…色々見えてきたが、まだ繋がりがあるハッキリしないな。「もう少し調べてみる必要があるさ。十分休んだし、ちょっと出てくるか」

ミシエール…散歩に出るみたいになんか、君は。「連中がまだ嗅ぎまわっているはずだ。気をつけて……と、この街の探偵には余計なお世話だったかな」

駒村…「ま、俺は体質的に見つかりにくいんだね。（＊）それに、この街は俺の庭さ。夕方までには戻る。エリカを頼むぜ」

エリカ…駒村さんの背中を、不安そうに見送ります。

RL…ではその表情を、閉まる扉の向こうに映してシーンを切ります。

RL…さて、外に出た駒村ですが、どこへ向かいますか？

駒村…それについて確認したいことがあるんだがな、RL。聖遺物、原罪の記憶、は、ヴィルヘルムが持ちだした物なんだよな。なら、奴の側近だった矩子が、その詳しい情報を知っているんじゃないか？

RL…おお、そういうえば虎丸は知っているでしょうね。なるほど。では、行き先はSSSの拘置所ですかね？

駒村…ああ。まさかこんな形ですぐ再会することになるとは思っていなかったがね、背に腹は代えられん。

SSSの拘置所。関係者である旨を伝えて、駒村は虎丸と面会していた。強化ガラス越し。時間は10分間。警察官の監視の元。灰色の囚人服に身を包んだ虎丸は、困ったような表情で笑った。

「君にこんな姿の私を見られたくなかったな。まあ、自業自得なんだが」

そんな彼女の腕には、簡素なブレスレットが巻かれていた。

駒村…さて、どうしたもんな。篠原司法も日本のお膝元、減多な発言はできんが……見舞い品にいくつかの符牒を仕込むことくらいはできるか。彼女なら読みとれるだろう。

RL…構いませんよ。ま、監視官はエキストラですしね。

ある事件：過去の公式シナリオ「二進法のマリア」での事件。所謂「電腦聖母」事件のこと。シナリオの本筋に関わらないため詳細説明は割愛する。気になる方は「クロニクル」などを参照のこと。

体質的に見つかりにくい…ウェットなので電脳的な包囲にひっかからない、という意味。無論、別にウェットだからといって隠密が有利になるルールがあるわけではない。演出だ。

駒村…「元氣そうだなによりだ。どうだい、そっちの様子はこっちは相変わらず忙しくててんでこ舞いさ」そういつて見舞い品を渡す。

RL／虎丸は、貴方の表情とその口調から、何かあったのだらうということを一瞬で悟ります。「ああ、ありがとう」と言つて見舞い品を受け取り、気取られないようにその中身に目をやります。

駒村…「あの子も、お前のことを心配してた。ちよつと今日は客が来て、こっちには来られなかったがな」

RL／虎丸…「それは残念。彼女にはこれの礼を言いたかったんだけどね」そう言つて、腕のブレスレットを掲げます。

エリカ…あ……。

駒村…「あの子、ここに来てたのか」

RL／虎丸…「うん。いい子だね、彼女」

駒村…「だろう？ だから、俺が護つてやらなきゃな」

RL／虎丸…「まるで父親のようだね。……そうそう、私の刑期が決まったよ。未遂だったのもあって、思ったより軽い。無期懲役を覚悟していたが、30年かそこらで出られそう。君のお陰だな」

エリカ…懲役、30年……。

ミシエール…長いと感じるか短いと感じるかは、人それぞれだね。

エリカ…でも、帰つてこられるんだね……うん。

RL／虎丸…「私が出所するまでにあのバー、潰れないといいけど。ボトル、キープしてゐるんだ。30年熟成させたら酸化して

しまうかもしれないが。それはそれ、その味を楽しみに、ここで罪を償うさ。だから、勝手に飲むなよ？」

駒村…「そりやまた随分と酸っぱい祝杯になりそうだな。それに、その頃はお互いしわくちやだ」くつくと笑いながら、彼女の言葉を反芻する。

RL／虎丸…「はは。でもまあ、帰れる場所があるのは、それだけで希望になる。……だから、死ぬなよ」最後の一言は、声が笑つていなかった。

駒村…「あの店でまたお前と飲むまでは死ぬないさ。お前さんも、風邪とかには気をつけるよ。外じゃ大流行だから」それとなく、彼女自身にも注意を促す。あとは、本当に他愛ない雑談で時間を潰そう。酒がないのが残念だがね。

エリカ…いい関係だね……お互いがお互いを心配し合つてる。

RL…では後ろに控えていたイヌが、時計を見て「時間だ」

駒村…「じゃあ、またな」

RL／虎丸…「ああ、また30年後に。エリカちゃんによろしく」

虎丸と別れた後、駒村はすぐさま、バー。ウエストバージニア。へ向かった。公共交通機関を使わず、ソーシャルカメラと検問を極力避けて歩いた結果、普段なら30分も掛からない道のりが2時間近く掛かった。

入店した駒村の顔を見たマスターが、無言でウイスキーのボトルを貴方に差し出す。それは、虎丸の名義でキープされていたボトル……そのラベルの裏に、ご丁寧に電子化されていない紙で、そのメッセージは隠されていた。

「全く。やっぱり、監獄の中に入れとくには勿体なさすぎるいい女だよ、お前は」

RL…では、〈コネ…虎丸矩子〉で情報収集どうぞ。彼女が用意していた『再会の酒』(※)の効果で、判定の達成値に+1して構いません。

駒村…粋なボリーナスだな。ワーンアウトでコネを1レベル延ばし、判定成功だ。達成値は17。

RL…OK。では、いつか必要になる局面があるかもしれないと、虎丸が貴方に残していたメッセージの中から、聖遺物に関する詳細情報を得ます。

ミシエール…なんてカッコいい情報収集なんだ！

RL…聖遺物『原罪の記憶』は、軌道衛星兵器『グランドクロス』の制御トロンのコア部分だということが分かります。

駒村…なるほど、ね。

エリカ…グランド、クロス……？

駒村…俺は以前、その単語を耳にしたことがあったから覚えていたが、まあ一度しか耳にしていなかったエリカが覚えていないのは無理もないな。ヴィルヘルムが前話で言っていた。「真教の神・救世母」は、災厄の直接の引き金になった軌道兵器『グランドクロス』の制御AIだった」と。奴がそのグランドクロスの制御トロンから記憶を読み取っていたならば、その真実に至ったのは当然だ。

ミシエール…つまり、国産み派の連中が探している『遺産群』とは、そのグランドクロスって事なのか？ その制御トロンを

回収することで、再びグランドクロスを動かそうとしている？
RL…しかしですね、グランドクロスは既に破壊されているんです。

ミシエール…なんだって！

駒村…ああ…そんな噂は聞いたことがあるな。数年前に起きた『二度目の災厄』と呼ばれる大災害を引き起こしたのも、そのグランドクロスってやつで、それは災害の最中に誰かに破壊されたって話を。都市伝説の類だと思っていたが。

RL…その事件は『Gentle事件』と呼ばれています。過去の公式シナリオで起きた事件なんですけど、そのシナリオを皆さんが遊んだこと無くて助かりましたよ。この事件の詳細は〈社会…メディア〉などで調べることで明らかになります。

駒村…聖遺物についての情報は以上かい？

RL…いえ、まだあります。聖遺物は既に内部データが消失しており、ただの殻に過ぎません。ただし、それでも何者かの手に渡ることを危険と考えたヴィルヘルムは、自分の目的が潰えた時、その聖遺物を隠すように部下に命じていました。

ミシエール…その場所は何？

RL…『方舟』です。先の事件の直後、くだんのオーストラリア軍大型巡洋艦は、隠密航行を開始し行方を眩ましていました。その中に、聖遺物は乗せられています。

ミシエール…あの船が行方不明だと!? ケルビムN◎VA支部の連中は何をしている、無能どもめ……！

………
再会の酒…〈コネ〉判定の達成値にボリーナスがつくアイテム。

駒村…そうとう高度な環境迷彩が施されてるって話だったからな、見つからないのは無理もないかもしれないが……しかし、天下の日本軍がそれを逃したままにしているってのは、甘すぎる考えだろうな。

RL…はい。既に三步破軍はこの船を押さえています。天津凜禰が《不可触》（*）でこの船を封鎖しているため、外部からの侵入はできません。

駒村…そして、奴らの手元にはヴィルヘルムがいる。記録の消えたトロンから、記憶を読みとれる男が。相変わらず謎は残ったままだが、あまり時間の猶予は無さそうだな。「マスター、すまなかった。次はもうちょっとゆつくりするよ」とボトルを返し、出されたバーボンを一気にあおって店を出す。今得た情報ミシエールにも転送しておくぜ。

RL…ではここでシーンを閉じます。

RL…舞台裏判定をどうぞ。

ミシエール…さて、随分後回しになったが、コイツを調べないわけにはいかないだろうな。星熊少佐について調べる。

RL…《社会…N◎VA》か《社会…軍事》で判定してください。14、17でそれぞれ情報が出ます。

ミシエール…隊員証を使って《社会…警察》を《社会…N◎VA》として判定。達成値は17ジャスト。

RL…星熊少佐。三步破軍の指揮官ではありますが、単独での戦闘において最もその真価を発揮し、その文字通り「一騎当千」な戦闘能力から「鬼神」の名で呼ばれ、恐れられています。高

性能な軍用全身義体兵ですね。彼女は天津凜禰の命を受け、聖遺物確保のために部隊を動かしています。が、彼女自身は現在、部隊とは別の目的で動いているようです。

ミシエール…ふむ……？ 謎だな。

RL…エリカはどうします？

エリカ…手札が悪いので、カード回しだけしておきます。

ベサンス 痛悔機密

シンプレイヤー…ミシエール
シンカード…マヤカシ（正）

秘密



リサーチシーン5

セーフハウスの中でエリカはひとり、ソファに座りこんでいた。部屋の中には、情報収集のためにミシエールがトロンをタップする音だけが、静かに響きわたっている。

（わたし、守られてばかりだ……）

ただ駒村の無事を祈るだけしかできない無力感に打ちひしがれ、エリカは膝を抱える。自らが事件の渦中にあるかもしれないというのに、未だ自らの過去と向き合う覚悟もできないまま。ただ流されて、守られるだけ。このままじゃダメだと、自分の足で立ち上がらなきゃダメだと分かっているながら、恐れと寂しさに足がすくむ。

不意にミシエールが立ち上がり、エリカに声をかけた。

「コマムラから連絡があった。もうすぐ戻ってくるそうだ。彼が戻り次第、私は少し出ることになるだろう」

駒村の無事を聞き、ホッと胸を撫で下ろすエリカ。だが、ミシエールの言葉に疑問が頭をもたげる。

「出るって……どこへいくの？」

ミシエールはジャケットを羽織りながら、エリカに背を向けたまま答える。

「聖遺物の在り処が分かった。私はそれを回収しに行く」

壁を睨みつける、迷いなき烈火の眼差し。ピンと張り詰めたその背中。今のエリカとまるで対照的なその姿。

だが。その足元に、膝を抱えて泣き濡れる子供の幻影を、エリカは見た気がした。

ミシエール…さて……駒村のお陰で、聖遺物の在り処は分かった。天津の封鎖により近づくことは出来ない、とのことだが、その封鎖を解く手段を私は持っている。ならば、虎穴に入らずんば虎児を得ず、だ。

駒村…おいおい、まさか一人で行くなんて言い出さないだろうな？ 淑女がクルージング・パーティに参加するなら、紳士のお供が必要だろう？ 俺も行くぜ、勝手に出るなよ。

ミシエール…この伊達男め。分かったよ、じゃあ駒村が帰るまで、せいぜい情報収集でもしておこう。

エリカ…そういえば、ミシエールさんと二人きりになったのって、初めてだよ。ちょっと話しておきたい、かな。

ミシエール…ん、それは構わないよ。

エリカ…じゃあ、身支度をするミシエールさんの背中に、眩くように話しかけます。「ミシエールさん……わたし、どうやって、ミシエールさんのように強くなれるかな」

ミシエール…「うん……？ どういうことだい？」

エリカ…「わたしね、こんな状況になっても、まだ何一つ自分で決められないの。自分の過去に向き合う勇気が、出ない」

ミシエール…「自分の故郷が失われているかもしれない、なんて事実と、そう簡単に向き合える人はいないよ」

エリカ…「でも……駒村さんやミシエールさんに、迷惑かけちゃってる。甘えちゃってる。それじゃ、ダメだと思うの……」

ミシエール…ふむ。これは、片手間に聞く話じゃないな。エリカに向き直ろう。「私の故郷もね、もう失われている。私は幼い頃、テロで家族を失ったんだ」

エリカ…驚きに顔を上げ、目を見開きます。「え……そんな」

ミシエール…「苦しかった。寂しかった。とてつもなくね。そして結局、その感情から、私は逃げ出したんだ」

エリカ…「逃げ出した……？」

ミシエール…「そうだ。ただただ強くありたいと願い、それらの感情を、痛みを、自分の中から切り離して、締め出した」不思議な瞳を持つ君には、私の傍らに立つ「それ」が見えるだろうか？ 自らそれを切り離した私には、最早それと向き合うことは叶わないんだけどね。

………
《不可触》…自分に都合の悪い情報を隠蔽するレッガールの神業。

RL…ミシエールは、自分の使魔^{使いまが}を認識していないんですね。
ミシエール…ああ。それは、遠く失われた故郷に置き去りにしてきたと思っている。本当にそれを切り離してしまうことなんて、できないのね。

エリカ…ミシエールさん……。

ミシエール…「私は弱かったんだよ。真の勇氣とは、自らの中の痛みや弱さと向き合うことだ。ただ強くあり続けることよりも、何千倍も貴い生き方だ。傷つくからこそ、人は強くなれる。自分の弱さを認められる人は、他者に優しくなれる」

駒村…そんな話を真摯にできるアンタも十分優しいよ、ミシエール。

ミシエール…いや、私のこれは、理不尽な押し付けだよ。私に出来なかったことを、子供に押し付けようとしているだけさ。「君はまだ、弱さを忘れていない。それは大事なものだ。だから、時間がかかってもいい、君の中で柔らかく受け止めてあげられるようになって欲しい」

エリカ…「ミシエールさん……ありがとう」

（ありがとう、か……）

ミシエールは再び彼女に背を向けながら、自嘲気味に笑った。エリカに偉そうな口を聞きながら、自分自身は「弱さ」と向きあおうとはしていない。天下の日本軍と渡り合おうというのに、足の震えの一つも起きはしない。ただ頭にあるのは、悪という悪を燃やし尽くさんとする意志のみ。最早、人として何かが壊れてしまっている。

己の「強さ」の象徴とも言える、無機質な二丁の銃をホルスターにしまいながら、ひとりごちる。

（だから私は燃えながら生き、そのうち燃え尽きて消えるのさ）

ミシエール…さ、お話はここまでだ。RL、国産み派が探しているという「遺産群^{レガシーズ}」について調べるには、何で判定すればいい？

RL…うん。実はこの時点では、「遺産群^{レガシーズ}」に関しての情報は厳重に秘匿されているため、調べても大した情報は出てこないですよ。一応「社会…軍事」で調べられますが、既に皆さんが予想している程度の情報しか出なくて。

ミシエール…つまり、「遺産群^{レガシーズ}」がアマテラスに代わる武力となりうるという情報か？

RL…その通りです。

ミシエール…なるほどね。まだ明らかにするべき時ではないと。まあ、それを確定情報として持つておくことに意味はあるだろう。カード回しも兼ねて、デイクシヨナリから「社会…軍事」で判定しておく。

RL…了解です。エリカはどうしますか？

エリカ…ええと……GrandXX事件について、調べてみようと思う。「社会…メディア」だったよね？

RL…はい。達成値が21まで出ると、事件の顛末^{てんまつ}を全て知ることができます。過去にその事件を追ったトーカー（*）に連絡がつく、といった感じですね。

エリカ…「コネ…九条政次」じゃ、だめかな？

R L…お、いいですよ。彼のメディア網ならその情報にも引つかるでしょう。

エリカ…じゃあ、〈コネ…九条政次〉〈ニュースソース〉で判定。コネレベルが2足されて、装備の効果も使って丁度21です。

R L…了解しました。では、GrandXX事件の顛末をお話ししましょう。数年前、突如天空に輝く十字架が現れ、それを切欠として、二度目の災厄^{グランドクロス}と呼ばれる大災害が発生しました。地殻はひび割れ、大津波が世界を襲い、いくつもの都市がその機能を停止しましたが、誰もが人類の滅亡という未来を予想した時、唐突にその異変は収束しました。今でも原因の詳細は不明とされているその大事件ですが、その鍵となった存在こそ、軌道衛星兵器グランドクロスなのです。

グランドクロス——それはかつて、地球の周回軌道上に存在した超兵器だ。超重力発生装置であったそれは、一部では地球の地軸を歪め、災厄^{ハザード}を引き起こした張本人なのではないかと目されている。イータという名の超Aによって制御されていたが、災厄の最中にその制御を失い、地球を離れ、外宇宙へ逃れたという。

だが、長い年月をかけて、グランドクロスは再び地球の周回軌道に戻ってきた。そして、それを利用して真教浄化派という宗教テロ集団が、二度目の災厄^{グランドクロス}と呼ばれる大災害を引き起こした。

R L…先程もお伝えしたとおり、この事件の結果、グランドク

ロスは破壊されています。詳しくは、『グランド×クロス「The Detonation」』156ページに書かれている内容を参照してください。エリカ…本当だ、書いてある。そのイータってA Iが、救世母だってことも。

駒村…二度目の災厄^{グランドクロス}……ありやあまさに地獄絵図だった。ミシエール…A X Y ZはN ◎ V Aの比じゃあ無かったさ。未だに完全な復興には至っていない。……だが、もう終わった事件だ。奴らは過去の遺物を掘り出してどうするつもりなんだ？ 破壊された兵器に、他に使い道でもあるのか？

リサーチシーン6

知る覚悟

シンブレイヤー…駒村
シンカード…ミストレス（逆）／不窓



「本当についてくるのか？」

ケルビムの用意したヘリポート。ヘリの起こす向かい風の中、駒村はエリカに向き直り、尋ねた。

「……うん。やっぱりわたし、知らなきゃいけないと思う」

決意を秘めた表情で頷くエリカ。

聖遺物……データを失ったそれから、唯一情報を引き出せる存在がヴィルヘルムだ。三步破軍が聖遺物を回収する際に、あ

の男を連れて行く可能性は極めて高い。

メルト教団の教祖。世界を海に沈めようとした男。だが、その行動は、帰る場所を失った絶望故のものだった。狂人……ではあったのだろう。しかし、同じ絶望を抱えた今のエリカが前に進むためには、もう一度あの男と向き合う必要があった。

「会える確証はないぜ。それに日本軍のことだ、用済みになったら……恐らくは消される。もう、間に合わないかもしれない」

「それでも……！」

エリカは胸を押さえ、駒村の瞳を見据えた。

「もう、逃げないって決めたの。——お願い、駒村さん」

駒村…「おい、ミシエル。乗員1名追加だ」

ミシエル…「正気か？ この間とはわけが違う。死に行くようなものだぞ？」

駒村…「この子の変な所で頑固だな。こうなったらもう意地でも付いてくるだろう。俺が守るさ、頼む」

エリカ…「駒村さん……ありがとう」

ミシエル…「やれやれ、だ。さっき余計な事を言ったかな」と嘆息しながら。まあ、この状況で彼女をN◎VAに一人残すのも、それはそれでリスクだ。どっちがマシかなんて、結果論でしか語れんな。「無茶をするなよ、お嬢さん」

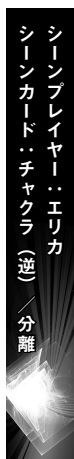
エリカ…「はい……！」

ミシエル…ではRL、《制裁》の使用を宣言する。天津凧神の《不可触》を打ち消し、方舟に乗り込む！

RL…了解しました。ではシーンを移しましょう。

聖人の死

シンブレイヤ…エリカ
シンカード…チャクラ（逆） 分離



隠密航行により行方を眩ましていた方舟。こと、オーストラリア軍大型巡洋艦。

その艦内は、無慈悲な侵略により血の海と化していた。聖遺物を守るために船を動かしていたと思われるメルト教団の信徒たちが、無残にも撃ち殺され、無造作に積み上げられている。

「ひどい……」

目の前に広がる異常な光景に、強烈な吐き気に襲われるエリカ。涙が出そうになるのを、唇を噛んで必死に堪える。

「奴ら、やるのが無茶苦茶だな」

その肩に手をやり、身体を支える駒村。苦々しげに吐き捨てる。ミシエルが先行し、駒村とのツーマンセルでクリアリングをしながら艦内を進んでいく。長い道の先、艦の機関部に、悪鬼の如き様相の先客が居た。

日本軍特務部隊……三步破軍。

RL…部隊は方舟の機関部です。そこには十数名の軍人がおり、何かを囲んでいます。

ミシエル…銃を両手に構え、部屋に踏み込む。「フリーズ！ 国際警察ケルビムだ。この艦艇の船籍はオーストラリア軍に帰

リサーチシーンフ

属している。即刻退去を勧告する」もちろん、素直に従ってな
どくれないだろうがね。

RL…軍人たちは振り返り、貴方をつまらない物を見るような
目で見ます。「鼠が忍び込んでいたか」

ミシエール…「どちらが鼠だ、黒死の媒介者どもめ。艦内にあ
った無数の死体の山をどう弁明するおつもりか？ 天下の日本
軍が民間人相手に虐殺を働いたとなれば大問題だぞ？」

RL…「正当防衛だ」

駒村…「正当防衛が成り立つほどの武装を、彼らがしていたよ
うには見えんがね」ミシエールの横に立つ。

RL…軍人たちはやれやれ、といった表情で肩をすくめた後、
地面から何かを掴んで貴方達の方に投げます。

ミシエール…何だ!?

RL…それはヴィルヘルムの身体です。外傷はないが、身体は
冷たく、動かない。

エリカ…「ヴィルヘルムさん！」悲鳴を上げて駆け寄ります。

駒村…「待て、エリカ！」エリカの身体を押さえる。まだ危険
だ！

エリカ…「でも、ヴィルヘルムさんが……！」

ミシエール…小さく舌打ちし、「貴様ら、彼に何をした！」

RL…「勘違いしないで頂きたい。その男は自殺だ。勝手に死
なれないようにIANUSを拘束^{コップ}していたのに、どんなトリッ
クを使ったのやら」

ミシエール…「自殺、だど？」

RL…「徒勞だ。こうなってしまうた以上、この聖遺物とやら

も本当にただのハリボテになってしまった」そう言う軍人の手
には、古めかしいトロンが握られている。

エリカ…あれが、^{グレイアサシ}原罪の記憶^グ？

駒村…「……そうか。ヴィルヘルム、《守護神^{グレイアサシ}》を使っただのか！

エリカ…ええっ？

駒村…《守護神^{グレイアサシ}》には、自分の命を犠牲にしてあらゆる不都合
の原因を一つ消す、という効果がある。奴は、自分を通して聖
遺物の情報が日本軍に渡ることを阻止するために……？

RL…まさにその通りです。「ああ徒勞だ。そしてまた、余計
な仕事が増えた」そう言う、軍人たちが一斉に銃を抜きます。

ミシエール…来たか！

RL…彼らは貴方達を殺して、虐殺の証拠を隠滅しようと図り
ます。敵は15人トルーパー1体。カット進行です。

ミシエール…いいや、カット進行にはしない。たとえトルー
プであろうと、相手は日本軍だ。おそろくバキバキの軍用義体
(*)だろう。こんな狭い船内で、先手を取られて範囲攻撃で
も食らったら目も当てられない。《天変地異^{カステロ}》で、そのトルー
プを排除する！

RL…分かりました。それを防ぐ手段はありません。演出をど
うぞ。

軍用義体^{グレイアサシ}だらう…ミシエールは、相手が日本軍に特徴的な高性能義体に入っ
ていることを危惧している。零式機械化兵^グや、タケミカツチ^グに代表される
それは、通常よりも格段に反応速度が早く、先手を取られやすい。

「最初の時点で退去勧告を聞いてくれているれば、楽だったんだがな。暴行の現行犯で逮捕する！」

ミシエールがトリガーを引く。放たれた銃弾は敵の義体を掠めるに留まった。

だが次の瞬間、軍人たちの中心に、突如として虚無の空間が出現した。急激に彼らを引き寄せ、そして忽然と姿を消す。引き寄せられた軍人同士が激突し、地面に崩れ落ちた。

その一瞬の間に、ミシエールは手早く彼らに電脳錠をかけ、その身体を拘束していく。

「な……馬鹿な。異能者、だと」

「慢心故に情報収集が足りていなかったな、ジャパニーズ。眠っている。釈明は署で聞いてやる」

駒村…「ヒュー。すごいな、これも智天使の加護ってヤツか？」

ミシエール…「加護なら、もう少し優しいんじゃないか？」苦笑しつつ、ヴィルヘルムの軀を見下ろし、「しかし、真の加護は、この男にあるべきだった。最早、正当な裁きを下すことさえ許されないとは」

エリカ…倒れているヴィルヘルムさんの隣に膝をついて、そつとその頬に触れます。「ヴィルヘルムさん……聞こえてる、よね？」

駒村…「エリカ……？」

「ねえ、聞いて、ヴィルヘルムさん。わたし、貴方のこと、何も知らなかった」

初めて彼と会った時、彼は世界を見捨てて逃げるつもりなんだと思った。彼に救いを求めるのは間違っている、と。

けれど後になって、彼の受けた絶望を、彼が抱いた信念を、人を救おうとする意志を知った。

「あなたのしたこと、正しいとは思わないけれど。でも、わたしとあなたは、同じだから……」

そして今、世界を脅威から守るために自らの命を擲った彼を見て、エリカは思った。

この人に救いあれ、と。

「あなたに、絶望してほしくないの」

エリカ…《天罰》を使用し、ヴィルヘルムさんを蘇生します。まだ、間に合うかな……？

RL…ヴィルヘルムが《守護神》を使ったのはこのシーンの中で、まだ大丈夫です。

エリカ…よかった……効果としては、《ファイト！》相当で、彼の《守護神》を復活させたことにしたいの。

駒村…1話では封じた神業を、今回は復活させるのか。対比が効いてて面白いな。

RL…わかりました。では、ヴィルヘルムはゆつくりと目を開きます。「……貴方が、私を呼び戻したのですか」

エリカ…「ううん、きつと神様よ。神様は世界を……貴方を愛していたんだわ」

ミシエール…「——驚いたな」

駒村…「俺もだ。これが、本物の加護……なのか」

RL／ヴィルヘルム…「初めて貴方と出会った時、不思議でありませんでした……そうか、そういうことだったのですか」彼は、か細い声でそう言います。

エリカ…そういうことって、どういう事？

RL…しかし、その問いに返事はなく、ヴィルヘルムはそのまま眠るように気を失います。彼は本シナリオ中は気を失ったままです。

エリカ…「……気をつけて、帰ってね」眠っているような顔に、優しく微笑みかけます。

ミシエル…ケルビムN◎VA支部に連絡し、軍人たちと艦自体の確保を要請しよう。「……ああ、私だ。民間人に虐殺を働いた犯行グループを拘束した。それと……重要参考人を確保している。こちらは、逃がさないように」

RL…では、すぐに回収班が到着します。以降、ヴィルヘルムの身柄が他勢力に渡ったり、身の危険に晒される事は無いでしょう。

エリカ…よかった……。

張り詰めた弦



シーンプレイヤー…ミシエル
シーンカード…カゼ（正）／凱旋

拘束した軍人らをケルビムN◎VA支部に引き渡し、ヴィルヘルムをシルバレスキュー（*）に送りこんだミシエル。

天下の日本軍人が国際犯罪者として逮捕されたとあれば、傍若無人な日本とて、派手な動きはしづらくなるだろう。彼らの手に落ちんとしていた聖遺物の回収にも成功した。事態は好転しているように思えた。

しかし、根本的な問題は何も解決してはいなかった。敵の目的は、未だようとして知れない。

「結局、何もわからないまま、か。」

その時、ミシエルのポケットロンに非通知のアドレスからコールが入った。来たか、という表情で通話を受ける。

『我が部隊が世話になったようだな、ミシエル捜査官』
「思ったより、遅いお出ましたな。星熊少佐」

RL…シーンプレイヤーはミシエルです。先ほど拘束した軍人たちを留置所に押し込んだ直後、貴方のポケットロンに通信が入ります。厳重な秘匿回線で。相手は星熊少佐です。

リサーチシーン8

|||||| シルバレスキュー…N◎VAの代表的な救急医療センター。

ミシエール…半ば無駄だろうとは思いつつ、四面のソロネに逆探知を指示する。「貴方の部下はこちらで丁重にお預かりしているよ。返還要請なら早めに出してくれ。留置代も安くはないんだ」

RL／星熊少佐…「いや、貴公には感謝している。弛んでいた我が部隊に喝を入れてくれた分、お代は弾ませて頂こう。ただ、しばらくそちらで拘束してくれている方が、某にとっては都合がいい」

ミシエール…妙な……？　そういえば、この女は指揮官であるにも関わらず、部隊と離れて独自に動いているんだったな。「何が狙いだ？」

RL／星熊少佐…「單刀直入に言おう。貴公が匿^{かくま}っている少女、彼方エリカを某に引き渡せ」

ミシエール…「は。私はてっきり、お前は他の烏合^{とろい}とは別の目的で動いているのだと思っていたのだが。結局お前も一緒だったか」

RL／星熊少佐…「いや、確かに某は部下たちとは異なる目的で動いている。某の目的は、彼方エリカを天津凜禰の手に渡らせないことだ」

ミシエール…「分からないな。何故だ？　天津凜禰という天上人は、彼女を使つて何をしようとしている？」

RL／星熊少佐…「我々の脳には機密情報のロックがかかっていてな、詳しい話はできん。だがこれだけは言える。その少女を生かしておけば、じきに「世界は滅ぶ」

エリカ………!?

ミシエール…「世界とは大きく出たものだな……。お前の言葉にはある種の真実味を感じなくもないが、情報不足すぎて判断できかねる。それにその話し方だと、仮に私が彼女を引き渡したとして、お前は彼女を生かしてはおかない、ということだろう？」

RL／星熊少佐…「無論だ」

ミシエール…「ならば確定だ。彼女は渡せない。最初からお前の要求など飲む気はなかったがね」

RL／星熊少佐…「その選択が、世界を滅ぼすことになるぞ」

ミシエール…「世界のために罪もない市民を犠牲にするほど、警察の正義は落ちぶれちゃいない」

RL／星熊少佐…「なるほど。端^{はな}から説得できる相手だとは思っていないが、詰みだな。互いの不運を呪おう」そう言つて、回線は途切れる。

ミシエール…ふう、と息をついてポケットロンを切る。さて、厄介な事になったぞ。天津凜禰にとって、エリカはどうやら切り札らしい。彼らがエリカを追う手が緩まることはないだろう。そして星熊少佐もまた、目的を諦めはしない。二正面作戦、かがが悪いな。

胸村…そこで登場しよう。登場判定は成功だ。「よう、こんなところにいたのか。コーヒーでもどうかと思ったんだが、仕事で忙しかったかい？」とカップを差し出す。

ミシエール…「ああ……まあね」受け取りながら。

胸村…「どうにも顔色が冴えないな。働き過ぎじゃないかね、オーストラリア人は」

ミシエール…「伝え聞く災厄前の日本人ほどじゃあないな」

駒村…「冗談で言ってるんじゃない。お前さん、無理しすぎているように見える。エリカも心配していたぞ。今回の件、ケルビムの仕事からはずいぶん逸脱してるんじゃないかい？ 圧力だって尋常じゃないだろう」

ミシエール…「軋轢も圧力も、毎度のことさ。イヌってのはマゾビズムの塊のような生き様だからね」そう言ってコーヒーを啜ったあと、少し空を見上げて。「なあ、コママラ。貴方は人を憎んだことがあるか？」

駒村…「どうした、急に。……あるさ、数えきれんほどにな」
ミシエール…「なら、憎しみを忘れたことは？ 殺したいほどに憎んで、焼き尽くしたいほどに心を苛まれて……それでも時に流されて、赦してしまおうと、忘れようと思ったことは、ないか？」

駒村…「——お前さんは、忘れられないのか？」

ミシエール…「忘れたくないのさ。忘れてもいいと思った時、きつと私は、そう思ってしまった自分を赦せない」

「ミシエール……張り詰めすぎだ。そんな生き方をしてちゃあ、いつかポツキリ折れちまうぜ」
「だろうね」

至極あつさりと頷くミシエール。

弱さ、を切り離れた時から、そうなることは分かっていた。だが、それでも。幼い自分から全てを奪ったものへの憎しみの炎はあまりに大きく、自らの身を焼きつくしてしまわぬよう、

その炎を他の何かに向け続けるしかなかった。

（エリカに、弱さ、と向き合えと言った私が、このザマだ。私はいつか、人の罪を赦せるようになるだろうか？ 自分が曲がってしまったことを、赦せるようになるだろうか？）

視界の奥に、儚く立つ少女の姿を捉える。

「——コママラ。敵は完全に標的を絞ってきた。次に狙われるのは……」

R L…舞台裏です。エリカ、どうしますか？

エリカ…「——ようやく決心がついたわ。わたし、自分の過去から逃げるのは、もう止めにする。怖いけど……ちゃんと向きあわなきゃいけない。ねえ、R L。流し雛に施されている記憶封印を解くには、どうしたらいいの？」

R L…《自我》で判定してみてください。（成立）で構いません。エリカ………成功したわ。

R L…では、お答えしましょう。通常、記憶封印を解くには、この義体の《電制値》、つまり50を目標にした《電脳》判定に成功する必要があります。しかし、自分が流し雛に換装されているという事を自覚した貴方であれば、記憶を取り戻したという意志によるスイッチで、その封印を解除することができます。やや特殊な使い方にはなるのですが、《暴露》を使用することでこのスイッチを押せるとします。

駒村…なるほどね。このシナリオでは《暴露》の使用はなかなか難しそうに感じていたが、そういう形で使い方が用意されているのか。

RL…この記憶封印を解除することで、クライマックスフェイズに移行します。

エリカ………分かりました。

リサーチシーン9

ロスト・アンファウンド

シーンプレイヤー…エリカ
シーンカード…トニー（逆）

孤独



沈んでいく夕陽を受けながら、エリカは駒村とミシエールの前に立った。胸に手を当て、深く深呼吸をしてから言葉を紡ぎ始める。

「――駒村さん、ミシエールさん。お願いがあるの」

不安と恐れ表情を残したまま、それでも、真つ直ぐな瞳で二人を見据えるエリカ。

ここ数日、ずっと彼女は思い悩んでいた。正確に言えば、怯えていた。目覚めてこのかた何もかと思ひ出せないまま、見渡す限りの雪原のようなまっさらな世界を、生まれ故郷を求めてさまよい続けてきた。ただでさえ不安に押しつぶされそうな彼女の足元が、今、まるで薄氷のように崩れ去ろうとしている。

そんな彼女が絞りだした、それでいて決意の籠った声に、二人の大人は真摯に向き合う。

RL…では、本シーンがリサーチフェイズ最後のシーンになります。シーンプレイヤーはエリカです。

エリカ…「わたしね、今までずっと怖かった。何も思ひ出せないくて……ただ、何か大事なものを無くしちゃったってことだけが、確信としてあつて。ずっと過去を探して回っていたけれど、本当は、それを見つけてしまうことが何より怖かった。駒村さんの言うとおり、真実と向き合う覚悟なんて、なかったんだ」

駒村…「エリカ……」

エリカ…「実際、その片鱗に触れただけで、足がすくんで動けなくなっちゃった。情けない」

ミシエール…「恥ずべきことではないさ。これだけの重みと簡単に向き合える人間なんて、居ない」

エリカ…「ありがとう、ミシエールさん。わたしの義体からだのこと。わたしが罪人って呼ばれてること。遺産群レガシーってものとの関係のこと……正直、今になつても分からないことだらけ。でもわたしは、それらとちゃんと向き合わなきゃいけない」

駒村…「知らないほうが幸せな真実もある。真実が人を傷つける様を、俺は何度も見てきた。それでも、かい？」

エリカ…「でも、過去をなかったことにしちゃ、いけないとおもう。わたしはやっぱり、記憶を取り戻したい。どんな過去であつても、ちゃんと確かめて、これからどうしたらいいのか考えたいの」

駒村…「覚悟は、できたんだな」

エリカ…「うん……そうなんだけど。でもね、やっぱりまだ怖い。一人で受け止められる自信がないの……」震える手をぎゅ

つと握りしめて、二人に頭を下げます。「だから……手伝ってください。二人がいてくれれば、きつとわたし、大丈夫だと思っから」

ミシエール…エリカは、自分の弱さとちゃんと向き合ったんだな。「警察と言えども、助けを求めるものにしか手を差し伸べることはできない。よくその手を伸ばしてくれた。なら、私はその手を取ろう。イヌの正義と、ケルビムのプライドにかけて」
駒村…震えるエリカにコートをかけ、頭をなでながら「よく、決心したな。安心しろ、探偵は依頼人を最後まで護る。このブラチナムハートにかけてな」

エリカ…「二人とも……ありがとう」——では、《暴露》を使用します。

RL…分かりました。

カチリと、意識にかけられていた記憶の鍵が外れる音をエリカは自覚した。

これで全てが白日の下に晒される。全ての謎が明らかになる……はずだった。

エリカ………え？

RL…流し雛の記憶封印は解かれました。貴方は罪を犯してこの義体に入れられた罪人ではありません。貴方は地上に逃れるために、自ら望んでこの義体に入ったのです。天津のデータベースに貴方のIDが無かったのは、貴方がイレギュラーな存在だったからです。

エリカ…じゃあ……わたしは何で、その義体に入ったの。
RL…思い出せるのはそこまでです。

駒村…ん……？ おい、どういふことだ？

RL…エリカ、《自我》で判定をしてみてください。

エリカ…え……は、はい。成功です。達成値は11。

RL…では、貴方は今までの自分に無かったある感情が、頭の中を支配している事に気づきます。

それは、罪悪感。

自分が、取り返しのないことをしてしまったという意味。

夢の中で、幾度と無く別れを交わした少女が、記憶の彼方でエリカに囁く。

「きつともうすぐ、この世界は滅んでしまう。私たちのせいで、その言葉で、エリカは思い出した。自らの故郷を滅ぼしたのは、自分だという事実を。」

「だから頼んだよ。これは、君にしかできない事だから。」

確かに交わした内容の思い出せない、大切な約束。

……そしてその約束を、果たせなかったという確信。

「何もかもを壊してしまったのは……わたし、だったの……？」

RL…エリカの失われた記憶についての情報を開示します。貴方が記憶を失ったのは、流し雛の記憶封印機能によってではありません。貴方は生まれ故郷を滅ぼしてしまった罪悪感、大切な人との約束を守れなかったという罪悪感から、その辛い

記憶を自らの手で彼方へと葬り去ったのです。貴方の記憶を真に失わせているのは、過去に貴方自身が使用した《天罰^{ネキシス}》の効果です。

エリカ………何も、声が出ない。言葉にならない。ごめんなさい、の一言すら。

エリカはコートの襟元を握りしめ、跪いて涙を流す。

「おい、エリカ！ 大丈夫か!?」

その肩を抱き、必死に呼びかける駒村。

刹那、ふいに周囲の空気が変わった。ミシエールが立ち上がり、張り詰めた背中で呟く。

「……コナムラ、不味いぞ」

振り返る駒村。今の今まで世界を優しく包み込んでいた夕陽の赤色が、地獄の釜の蓋を開けたかのような、禍々^{まが}しい瘴気^{しょうき}の^まに支配されたかのような幻覚を覚える。そして、その^まを背負ってゆっくりと近づいてくる、一人の軍人の姿。

それはまるで、鬼神^{くわんじん}のごとき姿であった。

クライマックスフェイズ

クライマックスシーン

鬼気来襲



息苦しいほどの重圧、吐き気を催すような威圧感。それは、むき出しの殺気だ。

星熊少佐——「鬼神」の名で知られる、ホンモノの日本軍人。武器らしい武器も持っていないのに、その姿を視界に捉えるだけで、本能が「殺される」と悲鳴を上げる。

「最後通告だ……その娘を、こちらに渡せ」

その圧に、知らず引いてしまいそうになる足を無理矢理に踏み出し、ミシエールはエリカを庇うように立つ。

「何度通告されたって、差し出すわけにはいかない。市民の権利を守るのが警察の仕事であり……誇りだ」

R L…クライマックスフェイズです。貴方達の元に、星熊少佐が姿を表します。

ミシエール…「その歩を止めろ、星熊少佐！」二人を庇うように立ち、銃を向ける。

R L／星熊少佐…「ミシエール捜査官、よくぞ重圧に耐えて前に出た。貴公が日本人であれば、真つ先に我が部隊にスカウトしていただろう」

ミシエール…「願い下げだ。私は警官としての生き方に、誇りを持つている」

R L／星熊少佐…「天晴だ。貴公は強い、貴公は正しい。だが不運にも、結果としてその行動はこの星の命運と相対した」

駒村…「星の命運とは大きく出たな。そろそろ教えてくれないんじゃないか？ アンタらは、何故そこまでしてエリカに固執する？」普通に聞いてもアンタが「答えられない」ことくらい分かっている。だが、『真実』を使えば答えざるを得ないだろう？

R L／星熊少佐…「御霊（みたま）（*）の心理ロックを解除するほどの言弾……貴公、フェイトか」

駒村…「枷は外してやったぜ。さあ、答えろ！」

R L／星熊少佐…「その娘は……アマテラスを凌駕する超兵器『遺産群』の在り処を示す羅針盤だ。我らが主君、天津凜禰はそれを使って、日本以外の地球環境全てをリセットしようとしている」

エリカ…わたしが……羅針盤。世界を滅ぼす兵器の……。

駒村…文字通り、世界を滅ぼすつもりか。地上人など虫ほどにも思っていない軌道人らしい行動ではあるが……。

ミシエール…大方予想通りではある。「ならば何故、天津凜禰を止めない。世界を救う義で動こうとしているのであれば、裁くべきは悪を成そうとしている天津だ。エリカではない！」

御霊…日本軍が使用しているいわくつきの高性能特殊「ANUS」。洗脳やハッキングへの強固なセキュリティの他、日本への忠誠心を保護するための心理防壁が施されている。

RL／星熊少佐…「我らは、主君の勅命に逆らえぬ。それに、貴公らは知らぬのだ、天津の強大さを。世界を救うために、その娘を狙うほうが何倍も確実だ」

駒村…「なるほど。つまりお前さんはエリカを、世界を救うための生贄にしようってんだな？　なら、こっちの答えはこうだ。巫山戯んじゃねえ！　女の子たった一人に全部ひつかぶせて、そんなんじゃ救われる世界なんざこっちから願ひ下げだ！」

エリカ…駒村さん……。

RL／星熊少佐…「理想論だな。絶対に勝てない相手に挑むことは義勇ではない。無謀と言うのだ」

駒村…「探偵小説を読んだことがないのかい？　ハードボイルドってのはな、絶対に勝てない相手に立ち向かうことを言うのさ！」

RL…星熊少佐は鼻で笑い、羽織っていたコートを脱ぎ捨て、拳を前に突き出して大きく息を吐き出すと、瞬く間にその体の筋肉が数倍に隆起する。その拳を地に突き立てると、アスファルトに巨大なクレーターができます。

ミシエール…バケモノか!?

RL／星熊少佐…「大層な覚悟だな、探偵。ならばこの拳から、その少女を守りきってみろ。その程度でできなければ、世界を救うことなど叶わんぞ」

駒村…大した拳だ……こっちの小さな銃弾がどこまで通じるか、試してみるさ。

ミシエール…「星熊少佐、貴方の決断と行動には敬意を表する。私も、あるいは貴方の立場ならそうしたかもしれない」

そう言いながら、ミシエールはホルスターから銃を抜き、額に当てて祈るように目を閉じる。

「だがやはり、法の番人として、その結論を容れる訳にはいかない。いかに貴方のバックが強大であろうと……その目をかいくぐるために命を奪うことを、許すわけにはいかない」

法の正義……それは、ミシエールのただ一つの依代だった。身を焼きつくす憎しみと絶望から這い上がるため、ミシエールはそれを己が生き様として選択した。ただ一つそれを守り通すためだけに、全てを投げ打ったのだ。

「炎の剣はすべてを裁く。私は万人の盾と剣たる法の代行者として……貴方の偽悪も、焼き尽す」

RL…では本シナリオのクライマックスフェイズの説明をいたします。敵は星熊少佐ひとり。彼女は可能な限り、エリカに対して攻撃行動を続けます。星熊が戦闘不能になるか、あるいは1カットの間エリカを守り切れれば戦闘終了となります。

駒村…敵にも時間制限があるということか。神業的には余裕があるように見えるが……。

ミシエール…だが、こちらには攻撃神業が2発しかない。相手はほぼ確実に、2発以上の防御神業を持っているだろう。そうでなければ最初から決着してしまっているからな。

RL…そうですね。

駒村…なるほどね。相手の方が早いであろうことを考えると、相手の通常攻撃でどれだけ神業を吐かされるか、か。気合を入れないきゃな。



一騎当千

カット進行

シーンカード…マネキン（正）／試験



クライマックスシーン2

RL…セットアッププロセスです。星熊のアクションランクは4。貴方たちからの距離は近距離です。

ミシエール…敵は予想通り零式か（*）。こちらのアクションランクは2だ。使魔が別個に2。

エリカ…わたしもアクションランク2です。

駒村…こちらはセットアップ行動で〈自動防御〉の判定。エリカを庇うように前に立ち、リボルバーを構える。切り札を切つて達成値21。プロット5枚をリアクション宣言にする。

RL…星熊もセットアップ行動があります。日本軍のワークス装備（*）を使用する。貴方達の周囲を覆う圧力が更に増します。日本軍用特殊I A N U S（*）シリーズを装備していない皆さんは、【生命】の制御判定（*）をして下さい。失敗するとプロットが1枚破棄されます。……おっと、駒村はウェットなので対象外ですね。

エリカ…ガタガタ震えながらも、なんとか平静を保ちます。手札にハートの低い札があつてよかった……制御判定成功です。

ミシエール…「相手の体が、やたらと大きく見える……だが、こちらでも退くわけにはいかないんだ！」ただでさえ先手を取られているのに、アクションランクを削られてはたまらない。虎

の子のJOKERを切る。成功だ。

RL…むむ、不発に終わりましたか。しかし、ジョーカーを使わせたのでよしとしましょう。「まだ立つか、大したもののだ。では、本気で行かせてもらおうぞ」アクションランク4の星熊の行動だ。一歩目を踏み出す。

駒村…来るか……！

RL…マイナーアクションで〈ブランチ…バーサーカー〉（*）を使用する。防御放棄で殺しにかかります。メジャーアクションは〈運動〉〈白兵〉〈ノックバック〉（*）の組み合わせでハートの8を出して達成値27。一歩で貴方達の懐に潜り込み、生身でエリカに殴りかかります。

ミシエール…〈ノックバック〉はカブト特技か。エンゲージから離すのは底い「受け」封じか？ だが、思ったより素直なコンボだな。

駒村…なあRL、ブランチのレベルを聞いていいか……？

RL…6レベルです。

駒村…おいヤバいぞ、敵の攻撃力は+30だ。掠つただけで死ぬ。エリカ…ひいひい！

駒村…〈ガンフー〉で受け値を伸ばしている状態だから受けられる可能性もあるが、そんな危険は冒せない。早々に切り札を使わせてもらおう。オートアクションで「アダプト」（*）を使う。〈白兵〉〈射撃〉〈無敵防御〉〈インターセプト〉（※ク・フレ）〈ガンフー〉の組み合わせでリアクション！ 達成値は28だ！

RL…アクト中1回しか使えないリソースを使って達成値を上

げて防いできましたか。(※ク・フレ)なのでこちらに攻撃が当たりますね。ダメージを下さい。

駒村…全力で行くぞ。ピースメーカーズの特長効果(※)を使ってダメージを伸ばす。ダメージカードを二枚出して、爆属性の49点だ！

エリカ…す、すごい数字。

ミシエール…零式機械化兵の爆防御はべらぼうに高かった覚えがあるが……このダメージなら流石に通るか？

RL…零式の爆防御は15。軽減して34ですね。そこから更に、
《金剛》《見切》《鉄身》(※)の組み合わせで判定します。ダメージを合計15点軽減する。最終ダメージは19。全身義体ダメージチャートによると、「センサー停止」《知覚》使用不可ですね。

駒村…ダメージ軽減技能を3つも重ね持ちしてるのか！「至近距離で全弾撃つたのに致命傷を避ける、だも！」

RL…「零式のセンサー系を正確に撃ち抜く、か。相当の手馴れだな。元軍人か？」

駒村…「……日本軍の恐ろしさは戦場で伝え聞いた通りだな」

エリカ…えっと。星熊さんのスタイルは、カブト、カタナ、チャクラ……かな。

RL…その通りです。さて、アクションランク3でもう一步踏み込む。マイナーアクションで経絡(けいらく)(※)を使用。

駒村…《受け値》を封じて来やがった！

RL…「貴公の手は見切った。次はない」先ほどと同じ組み合わせで達成値29。

駒村…「こっちの手を封じに来たか。だがな、探偵は諦めが悪いんだよ！」「《受け値》を封じられたなら達成値で勝つしかないが、やつこさんの達成値はさつきより高い。

ミシエール…サポートしよう。痛悔機密(いたくゐきみつ)が《血脈》天使の一族だ。達成値+4。反動ダメージは3点。

駒村…助かる。それでジャストだ。さつきと同じ組み合わせで、プラチナムハート(※)の効果でカードをA扱いにして使用。達成値29。急いで充填した銃弾を拳に集中して当て、攻撃を逸らす！

零式…日本軍の代名詞として知られる軍用全身義体。零式機械化兵のこと。その中身は世界最新鋭の技術の塊である。装備者のアクションランクが4となるので、ミシエールは敵がこの義体に入っていると判断した。

震込…識別式の高性能ジャマー。日本軍のワークス装備。

制御判定…自らを制御するための判定。通常の判定と異なり、達成値が自分の(制御値)より小さければ成功となる。

《ランチ・バーサカリー》…破壊の権化たる戦士であることを表すデータ。与える肉体ダメージが劇的に増大するが、リアクションができなくなる。

フックバック…攻撃した相手を弾き飛ばすカブトの特長。

アデプト…タツジンであることを表すライフパス。アクト中一回だけ行動の達成値が大きく上昇する。

ピースメーカーズの特長効果…N・I・K.のワークス装備である銃、ピースメーカーはアクト中一回だけダメージカードを一枚追加で出せる効果を持つ。

《金剛》《見切》《鉄身》…いずれも肉体ダメージを軽減する特技だ。同じ効果の特技を複数組み合わせているのは、敵のスタイル構成をプレイヤーに教えるためであると同時に、もう一つ、戦術的にも重要な意味を持っている。これは後に明らかにする。

経絡…義体のエネルギーを自在に操り、強力な一撃を放つことで相手の《受け値》を無効化する義体オプション。

プラチナムハート…アクト中一回、判定のカードをA扱いにする効果がある。

RL…やりますね。(※ク・フレ)のダメージを下さい。

駒村…爆の33だ。

RL…《鉄身》のみを使用。装備と合わせて20点軽減し、ダメージは13です。効果は《オブション破壊》。サイコロック(※)が壊れます。驚きに目を見開く。「つくづく驚かされる。長年軍役についてきたが、2度某の拳を受け止めた者はそう多くない。生身の人間であれば尚更だ」

ミシエール…よし、ようやくこちらの手番だ！

RL…いいえ、こちらの攻撃はもう一度続きます。星熊はやサカニノマガタマ(※)を使用。即座に行動を行います「だが、これが最後だ。我が三歩目を止めたものは居ない。それが、我が部隊名の由来だ！」高速起動オブション(※)から経絡、白熱掌(※)、プラストインパクト(※)5個を一気に起動！

駒村…見えているだけでダメージが+60を超えやがった！

ミシエール…メスゴリラ……！

RL…義体の人工筋肉が異常隆起し、白い蒸気を吐き出す。そして、ここでようやく最大達成値を出す。ハートのAを使って達成値30！

エリカ…人外魔境の達成値！

駒村…くそ、こっちは切り札をさつき切っちゃった。

ミシエール…《血脈…天使の一族》は使用回数制限がない。使魔の体力もまだ余裕がある。サポート飛ばすよ。

駒村…だが、こっちは札も良くない。ミシエールのサポートを貰っても26までしか届かないぞ。どうする、どうすればいい。……そうか、まだ手がある！

ミシエール…ほう？

駒村…《ブランチ…ソルジャー》だ！2レベル分全て使って《無敵防御》のレベルを4伸ばす。これでビッターリ届く！

RL…おお、そのブランチにそんな使い方があるとは！

駒村…相手の呼吸を読みつつ急所を的確に狙って銃撃。組み合わせは同じだ。(※ク・フレ)のダメージは38点だ。この数字が雀の涙に見えるとは、な。

RL…《金剛》のみ使って4点軽減。装甲値で15削り、最終ダメージは19。ダメージは重複で無効ですね。

ミシエール…なるほど、複数の《ダメージ軽減技能》を違うレベルで取ってダメージコントロールをしているのか。

RL／星熊少佐…「ここまでとはね。正直にこの驚きを隠さないでおこう」

駒村…「日本軍の鬼神様にお褒めに預かるとは光栄だ。ゾツとしないがね」だが、これ以上の攻撃を防ぐのはキツイぞ……。

RL…ここで一旦星熊の攻撃は途絶えます。まさかここまでで1回も神業を吐かせられないとは……。アクションランク2でエリカの手番です。

エリカ…せ、精神攻撃をします。(交渉)《幻覚》(アテンション)……《ブランチ…イリュージョニスト》の効果も乗せます。

流し雛の効果で達成値が前話よりちよっと伸びて、JOKERを出して25です！

RL…《制御値》で受けましょう。差分値7で精神ダメージをどうぞ。

エリカ…感情の制御値、18もあるの!? えっと、19です。

RL…御霊Ⅱと水鑑（*）2個で合計18点軽減して1点受けま
す。「不快」を感じ、貴方を睨み返す。

エリカ…ぜ、全然通ってない……。

駒村…日本軍の心理防壁の強固さは噂以上だな。

ミシエール…次は私のイニシアチブだな。ここで止めておかないとマズい。だが、今までの動きを見るに、奴には私の攻撃は通るはずだ。マイナーアクションでスライドアウェイ、オーバード、ホッパーレックを起動し、「射撃」「自我」「運動」「元力…虚無」「死点撃ち」「乱れ撃ち」「鎮圧」の組み合わせでエンゲージから離脱しながらジャツカルの二丁拳銃で攻撃だ。スピードのJを出して達成値は27！

RL…星熊は「呼吸」（*）で反撃します。近距離なので、組み合わせは「白兵」「呼吸」「遠当」（*）です。最後のプロットを消費し、達成値は26。

ミシエール…やはり呼吸キャラか！だが、経験点を払って取得した特技が生きた。「運動」「空蟬」「即応態勢」でリアクションをする。達成値は24。さらに、痛悔機密^{ペナ}が「血脈…天使の一族」で+4。28だ！

RL…ぐ。分かりました。ではメインプロセスのダメージを出してください。

ミシエール…殴属性の30点。装甲値無視、「ダメージ軽減技能」無効だ。どうだ、通るだろう。

RL…ぐぐぐ。こいつの戦闘スタイル、ミシエールの攻撃と相性最悪なんだよなあ。素通しです。星熊は「難攻不落^{インフルカール}」を宣言。反撃に回そうとしていた右手を顔面の前でクロスさせて攻撃を

受ける。虚無の弾丸で腕の一部が挟^{くわ}れた。

ミシエール…「破軍の進撃も三歩までだったな」

RL…「某の歩を、止めたか」ギリッと笑う。

ミシエール…畳み掛ける。「空蟬」からの追加行動で、同じ組み合わせで攻撃する。達成値は25！

RL…リアクションはできない。反撃できる札も尽きた。ダメージを下さい。

ミシエール…殴の32点。虚無を纏った電撃が立て続けに射出される。これ以上その歩を進ませるわけにはいかない！

RL…銃撃を防いでいた両の腕が千切れる寸前にまでなる。「鬼神の名も堕ちたものだ」「黄泉還^スり」（*）を使用。ダメージを回復します。その瞬間にアウェイクⅡ（*）の効果が発動。プロットを即座に1枚追加します。更に、スタイリッシュ（*）の効果で即座に行動権を得る。エリカに攻撃だ！

サイクロック…精神を固定化する義体オブション。これが破壊されたため、星熊は驚きの表情を隠せなくなっている。

ヤサカニノマガタマ…義体を加速させて即座に行動させる義体オブション。

高速起動オブション…装備を一気に起動させる義体オブション。

白熱掌…手を白熱させて攻撃力を上昇させる義体オブション。

プラスチックバクト…義体の出力を瞬間的に上昇させる義体オブション。

水鑑…強力な軍用精神アーマー。日本軍のワークス装備。

呼吸…防御を放棄し、相手の攻撃にカウンターを行うチャクラの特技。

遠当…気を放ち、遠くにいる相手に自身の攻撃を当てるチャクラの特技。

黄泉還^スり…死の淵から蘇るチャクラの神業。

アウェイクⅡ…意識が覚醒した瞬間に速やかに戦闘に復帰する義体オブション。スタイリッシュ…肉体がダメージを受けた瞬間に起動し、即座に行動を行わせるサイバーウェア。

駒村…ぐお、まずいな。こっちの残っているプロットはクス札だ。だが、相手ももう防御神業が尽きている。ならば、取るべきはこうだ！《とどめの一撃》を使う。「止まれええええ！」
 RL…その瞬間に《死の舞踏》（*）。言葉にならぬような咆哮を上げながらその喉元に喰らいつく。

無数の銃弾を浴びせられ、千切れた四肢を地に落としながらも、星熊の歩は止まらなかつた。

「あ……」

その鬼気迫る様相に立ち竦むエリカ。肉薄され、その牙が目前に迫った瞬間、何度も夢で見た少女が、自分を庇うように目の前に現れたような気がした。何者かに阻まれるかのように、星熊は一步届かず、地に倒れ伏す。

「――助けてくれたの？ わたしは、約束を守れなかつたのに」

――約束って？

……ああ、そうだ。まだ、わたしはなにも思いついていない。過去と向き合えないまま、死ぬわけにはいかない。

エリカ…《守護神》で防ぎます。

RL／星熊少佐…「こまで、か」では、《とどめの一撃》のダメージを指定してください。

駒村…18番を指定する。脳震盪で「気絶」だ。「どうだい、星熊さんよ。俺たちはエリカを護り切れると思うかい？」

RL／星熊少佐…「今更、何故それを某に聞く。こうなつた以上、護り切ってもらわねば困るのだよ」

エンディングフェイス

エンディングシーン1

プロローグ・ノスタルジック終末論



死闘を経て、世界には静寂が戻つた。

「終わった、のか」

ミシエールがため息をつき、銃を下ろす。しかし、その静寂が続いたのは束の間だった。

突如、天より歌が聞こえ始めた。耳を劈く大音響でかき鳴らされる、神楽の音色。

あまつかみ くにつかみ

やはよろつの かみたちともに

あめのふちこまの みみふりたてて

きこしめせと かしこみかしこみもまをす

それは、古神道における禊祓の歌。天津祝詞。
 「な、なんだこりゃ！ 耳を塞いでも頭の中に直接聞こえやがる……！」

天を仰ぎ見ると、雲居を切り拓きながら、全天を覆い隠すような巨大な船が姿を表した。

RL…エンディングフェイズです。本シナリオでは個別エンディングがなく、共通エンディングでアクトが終了となります。エリカ…何……何が起きているの……？

RL…貴方達の上空に、巨大な船が出現します。ヴィークル……宇宙船ですね。地に伏した星熊が「時間切れ、か」とつぶやきます。

駒村…とうとうお出でなすったか、天津凧褌！

RL…その場にいる全員の中にも、凧褌の声が直接響き渡ります。「ようやく見つけ出したぞ、娘よ。我らを悲願へと、穢れた地上を彼岸へと導く羅針盤よ」

ミシエール…「貴様が天津凧褌だな。略取・誘拐の首謀者として逮捕、拘束する。大人しく投降しろ！」

RL…天津凧褌は貴方には興味もなさそうにしています。星熊に対して話しかける。「何を無様な姿を晒している。日本人の誇りがあるならば、疾く起き上がり、その娘を確保しろ」

駒村…「無駄さ。奴さん、アンタの凶行を止めようとしていたんだ。天上人の威光も、その程度だったってことだな」

RL／天津凧褌…「なるほど、そうか。貴様もむすひの子飼いであったか。残念だ」

駒村…むすひ？ 何を言っているんだ。

RL／天津凧褌…「勅命にて命ず。星熊、その穢れた命、ここで赦え」凧褌は《制裁》を使用します。対象は星熊。社会戦ダメージ「19…暗殺」を与える。ダメージカードに切り札を使用し、肉體戦ダメージ「16…斬首」を与える。

ミシエール…なん、だって……!!

RL…星熊は勅命の強制に従い、千切れかけた腕で腰から短刀を引きぬくと、それを自らの腹に突き立てます。切腹。

駒村…おい、本気かよ!? クソ、こんなの見過ごせるか！

《難攻不落》だ。咄嗟に短刀の間に手を挟み、自らの手を突き刺させて止める！「ゲアアアアア！」

エリカ…「駒村さん！」

RL／星熊少佐…「馬鹿者……某などに、構っている場合ではないだろう……！」

駒村…「うるせえ！ くっそ、なんて馬鹿力だ。少しは力を緩めやがれ！」

ミシエール…「クッ……天津、凧褌エエエエ!!」《不可知》を宣言する。《射撃》《自我》《元力》《虚無》《死点撃ち》《乱れ撃ち》《鎮圧》で判定。虚無の力を込めた電磁加速弾を放つ。

RL…ジャッカルは超遠距離まで届く武器ですから可能ですね。では、船の周囲に肉眼で知覚できるほどの「結果」が姿を見せます。貴方の放った銃弾は、その壁に阻まれて跡形もなく消滅します。何者かが《チャイ》(*)を使用しました。

ミシエール…「な……」愕然とした表情で銃を持つ手が落ちる。

《死の舞踏》…対象に避け得ぬ死を与えるカタナノの神業。

《チャイ》…危機を避け、相手の行動を失敗させるカブキの神業。

R L / 天津凜禰…『妙な異能を使う警官というのは貴様か。だが、この船……浮橋』に施されているのは日本本国に施されているもの（*）と同じ結界だ。無駄だったな』そう言うのと、船から黒い巨大な砲身が姿を表します。『天帝に逆らった罰をくれてやろう。主砲、天逆鉾……撃て！』何者かが《突破》（*）を宣言。

浮橋の主砲から、地上に向けて一条のレーザーが照射される。

壮絶な爆風が起き、周囲の建物が吹き飛ばされ、一帯が炎に包まれる。咄嗟に皆を庇うように立ちふさがったミシエールの義体皮膚が熱線でズタズタに避け、内部機構がむき出しになる。そのまま吹き飛ばされ、ズシャリと音を立てて地面に転がる。

「ミシエールさん！ ミシエールさん!!」

悲鳴を上げるエリカ。助けようと手を伸ばすも、その手は虚しく空を切るばかりだった。そして不意に、視界が暗黒に塗りつぶされ、意識が途切れる。

エリカ…「うそ……やだ……駒村さん、ミシエール、さん」叫んだつもりが、眩きにすらならない。

R L…この瞬間、凜禰が天津一族のワークス装備、通り童歌（*）を使用します。爆風の中、気づけばエリカの姿が無くなっていきます。

駒村…「クソ……爆風で何も見えん！ エリカ！ どこだ!!」

爆風が過ぎ去った後、そこにエリカの姿はなかった。用事は済んだとばかりに、浮橋も雲の上へ引き上げていく。

「待て……！ エリカ！ エリカアー……!!」

空に向けて引き金を引き続けるも、その銃弾が届くことはない。やがて完全に雲は閉じ、巨大な船は姿を消した。

（負けたのか……私は……法の、正義は……）

溶けかけた剥き出しのクロームの体で、ミシエールは横たわっている。無理矢理に体を動かそうとしても、モーターが空転する音だけが空しく響く。宙を睨み付ける瞳から白い人工血液が滲み出し、涙のように頬を流れていった。

ノスタルジック終末論 第二話『サウダーデの彼方』

——XZ

日本本国に施されている結界…鎖国日本は呪術的な結界で守られている。黄泉千五百軍という部隊が維持するそれは、外部への情報一切を遮断するほど強力なものであり、未だ何者にも突破されたことがない。
《突破》…あらゆる障害を突破、破壊するアラシの神業。ここではミシエールの義体を破壊している。
通り童歌…神隠しのように目標を連れ去る天津一族のワークス装備。



最終話

ディア*プラネット

そこは、とても暗く冷たい場所だ。

目を瞑れば、想い起されるのはいつも、暖かな故郷の記憶。孤独な寂しさに耐えるには、時間はあまりにも長すぎて。

望郷、追憶、温もりを求めるヒトの本能。

ノスタルジアが生み出した悲劇。

誰がそれを責められるだろうか。

神であつてもきつと、咎められはしない。

終末がやってくる。

歪んだノスタルジアに導かれて。

トニー・ヴァン The Detonation キャンペーン

最終話 『ディア*プラネット』

オープニングフェイズ

R L…それでは、キャンペーン最終話を開始します。今回は第2話からの続きのシチュエーションですので、プレアクトを割愛して、さっそくオープニングに入りたいと思います。（*）
一同…よろしくお願いします！

寂寞の宙



シンフレイヤー・エリカ・
シンカード・カゲムシャ（正）／変化

オープニングシーン1

暗闇。見渡す限り、何も無い空間。

音も光も熱も、全てが吸い込まれて消えてしまいそうな、静寂で孤独で冷たい場所。

（寒い……）

その暗闇の只中で少女はひとり、体を丸めて震えていた。夢だと分かる夢。ふとした瞬間に、何度も心を掠めるビジョン。世界中に、ただ自分一人しかないのではないかと錯覚するほどの、果てしない孤独感。温もりを求めて手を伸ばしても、その手は虚空を掠めるばかりで、少女は自分で自分を抱いたまま、ただ悠々とも思えるほどの長い時間を泣き続けるしか無かった。

夢から覚め、ゆっくりと目が開いていく。

視界に映ったのは、薄暗い天上。見知らぬ部屋の中には窓も無く、扉は固く閉ざされている。あるのは無機質なベッドだけ。

（ここは……どこ？）

不意にフラッシュバックする光景。空から突如現れた巨大な船が、爆風で地上を焼きつくす。

「駒村さん、ミシエールさん……！」

急激に覚醒し、とっさに叫んで跳ね起きる。部屋の中を見回

しても二人の姿はない。エリカの瞳に涙が滲む。

無意識に自らを抱くように肩を手繰った手が、求めた暖かなコートに触れることはなかった。

RL…前話のラストで、エリカは天津漂欄の手により連れ去られました。今あなたは、見知らぬ部屋の中で目を覚まします。独房のように、無機質なベッド以外は何もない部屋ですね。

エリカ…ここ……どこ？ 胸村さんやミシエルさんは、あれからどうなったの？

RL…貴方のその疑問に答えてくれるものはいません。部屋の中にはただ静寂だけが満ちています。

エリカ…扉は？ 開かないの？

RL…ロックがかかっているようで、貴方が開けようとしてもビクともしませんね。助けを呼んでも誰も来ません。

エリカ…打ちひしがれて、床に座り込みます。「どうしよう……どうしたらいいんだろう」

RL…では、それからしばらくして、不意に扉が開かれます。その先に立っていたのは、一人の少年です。高貴な顔立ちと、無垢な瞳が特徴的です。彼は貴方に手を差し出して言います。

「ついてきて」

エリカ…ビクリと怯え、戸惑います。

RL／少年…「怖がらなくて大丈夫だよ、漂欄はいないから」

エリカ…「……あなたは、誰？」

RL／少年…「ボクはミコト。キミを迎えにきたんだ」

エリカ…「迎えに……？」

RL／ミコト…「うん。おじいちゃんに言われたんだ。キミを連れてくるようにって」

エリカ…「おじいちゃん……？ ねえ、ここはどこなの？ わたしは、何でこんなところに連れて来られたの？」不安そうな瞳で問いかけます。

RL…ミコトと名乗る少年は、んーと考えこむような表情をしたあと、ニコリと笑います。「たぶん、おじいちゃんが教えてくれると思うよ」

エリカ…うう。信用していいのかどうか、分からない……でも、何故だろう、警戒する気にもなれない。それに、じっとしててもしょうがないもんね。恐る恐る、少年の手を取ります。

少年に先導されるがままに歩いて行くエリカ。部屋の外も見知らぬ景色だ。アーコロジーにも似た巨大な建築物のように感じられるが、それらはピカピカとした光沢や透明感のある未来的な素材で構成されていて、ここが元いたN◎VAではない事を物語っている。空を仰ぎ見ると、ドーム状の天蓋のその遥か先に、見知った青い惑星の姿が浮かんでいる。

(やっぱりここ、軌道なんだ……)

エリカは、妙なデジャ・ヴュを感じていた。見たことのない異質な光景の苦なのに……なぜだか、ずっと前からこの光景を知っている気がしたのだ。

「プレアクトを割愛して…集合前にインターネットの掲示板にて、キャストの成長やコネの再確認などは済ませている。」

R L…しばらく歩くとその先に、幾層もの壁に阻まれた区画にたどり着きます。全面を採光用の特殊なガラスで覆われたそこは、植物園のような巨大な温室を思わせます。

エリカ…なに……ここ？

R L…ミコトは貴方の手を引いてズンズンとその中に入っていきます。そして無邪気な声でこう言います。「むすひ」のおじいちゃん、連れてきたよ！」

エリカ…むすひ……！ 聞き覚えがあるわ。前話の最後で、凜彌さんが口にしてた名前。

「あなたは……」

萎縮するエリカの視線の先に居たのは、優しい微笑みをたたえた老人だった。白髪に長い髭、手には杖を突いている。

「ようこそ、トヨアシハラ・コロニーへ。彼方エリカさん」

R L…では、エリカにハンドアウトをお渡しします。

ハンドアウト…彼方エリカ

「ハイランダー」コネ…むすひの翁 おきな / 推奨スート…感情

気付けば君は、地球から遠く離れた軌道に連れ去られていた。いや、連れ戻されたという方が正しいのだろうか？

意識を取り戻した君は、暗く狭い部屋の中に監禁されていた。もうここから出られないのかと絶望しかけた時、ふいにミコトと名乗る少年が扉を開き、君を助け出した。そして、彼に導かれて君は、一人の老人と出会う。

「むすひの翁」……今回の事件の発端となったという人物。彼はゆくりと、君に全ての始まりを語り始めた。

いくつものノスタルジアが折り重なって生まれた、悲劇の物語を。

PS…失われた過去を取り戻す

エリカ…わかりました。このおじいさんが、物語の重要な鍵を握る人なんです。ノスタルジアが起こした、悲劇、か……。

惑星の末路 ホシ

シーンプレイヤー…ミシエール
シンカード…アヤカシ（逆） / 緊張



オープニングシーン2

トキヨーン◎VAのスラムに立つ診療所、ラルフ医院。その雑多な院内で、駒村は目を覚ました。

「……ここは？ ……ぐッ！ かはッ」

目を覚ますなり、左腕を激痛が襲い、たまらずベッドでうつ。見れば体中傷やヤケドだらけで、まるでミイラのように包帯でグルグル巻きにされている。

「痛覚を遮断できないってのは不便だな。目が醒めたか、コマムラ」

枕元に座っていたミシエールが声をかける。

「美女を侍らせて寝たままなんてね、初めてこの体を呪うよ」

「よくもまあ、それだけの傷を負ってそんな軽口が叩けるものだ。よほど伊達男が魂に染み付いていると見える。——生身の君の口スが一番激しい。生きているのだって奇跡みたいなものだ」

「そういうお前さんも、無事とはいいたいようだぜ」

見れば、ミシエールの体も欠損だらけだった。爆風を最もマトモに受けてしまったのだ。応急処置のバツ換装では隠し切れない傷の跡が、身体のいたる部分から覗いていた。特に、精巧ゆえに容易に交換が不可能な視覚センサー……眼球が片方痛々しく潰れたままだった。

RL…では、駒村とミシエールのオープニングに入ります。先の事件の後、満身創痍の貴方達は、気づけばスラムの診療所に連れて来られていました。

ミシエール…派手にやられたものだ。お互いボロボロだな。しかし、こんな所まで私達を連れてきたのは誰だ？

RL…星熊少佐です。貴方達の病室に入ってきた星熊が口を開きます。「どうだ、動けるか？」

駒村…激痛に顔をしかめるのを堪えながら起き上がるぜ。「まあ、な。アンタが俺たちを運んでくれたのかい？」

RL／星熊少佐…「ほとんどの病院は天津の根回しがされていてな。こんな場所しか受け入れて貰えなかった」

駒村…「いや、十分さ。幸運にも、足も指も動く。歩いて銃が

撃てればまだ戦えるさ。それより、あれからどうなったか教えてもらえるかい？」

RL／星熊少佐…「軌道艦^{クワダ艦}の爆撃からほぼ24時間が経過している。貴公らが護っていたあの少女は、天津^{テンシン}漂^{ヒラ}欄^{ラン}の手によって連れ去られた。程なくして、漂^{ヒラ}欄^{ラン}は^{レジェンダ}遺^イ産^{サン}群^{グン}をその手にするだろう。おそらく、この星に残された時間は、もう僅かしかない」

ミシエール…「敵は既に遠い空の向こう、か。追うのは酷^{くる}そうだな。どうする、コマムラ？」

駒村…「どんな場所だろうと変わらんさ。俺はエリカが真実と向き合うのを手伝うって約束したんだ。探偵は一度受けた依頼は、どんな事があつたって成し遂げる」

ミシエール…「ま、そう言うだろうね。警察^{イサ}も、このまま重犯罪人を野放しにしておくわけにはいかない」

RL／星熊少佐…「大した人物たちだ。だが国産み派の本拠地は日の本のお膝元だ。靴をすり減らして行ける場所ではないぞ」

駒村…「アンタ、国産み派の古いメンバーなんだろう？ 何かたどり着ける方法を知ってるんじゃないのか？」

RL…星熊はしばらく考え込んだ後、こう言います。「一つだけ、可能性はある」

駒村…「どんな針の穴ほどの可能性でも構わない。教えてくれ」

RL／星熊少佐…「オーストラリア政府に渡りをつける。〴〵すひの^{おとこ}翁^{オウゴン}の名を出せば、あるいはなんとかなるかもしれない」

ミシエール…「むすひの翁……？ 日本に縁がありそうな名だが、何故オーストラリアなんだ？」

RL／星熊少佐…「国産み派の創始者、天津^{てんしん}産^{さん}霊^{れい}。某^{それがし}の本来の主だ。彼は、古くからオーストラリア政府と繋がりがあある。数年前に途絶えてしまった繋がりはあるが、まだ微かな糸が残っているかもしれない」

駒村…「何だっいいいさ、蜘蛛の糸ほどでも可能性があるならそれにかける」

ミシエール…「ふ……しかし、オーストラリアか。運命はまだ私達を見放してはいないようだ。あるいは私がここにいるのも、聖母の導きかもしれない」オーストラリアはケルビムの本拠地だ。上層部のケツを叩いてでも動かさせよう。軌道へのプラチナバーを手に入れるために百万オーストラリアドルを稼ぐより、数百年は早く着く。

RL／星熊少佐…「本当は某も着いて行つて力添えしたいのだが……勅命^{ちくめい}に逆らった報^{むく}いだ。義体の制御系がほとんど奪われている。身体が鉛のように重い。今の某では足手まといにしかないだろう」

駒村…「なるほど。お前さんが一人で動いていた理由が分かってきたぞ。その翁とやらは、凜欄に力を奪われてるってところか」
RL／星熊少佐…「その通りだ。翁にもう、ほとんど力は残っていない。この星を救えるのは、真正正銘、貴公らだけだ。……地球の命運を、頼む」

駒村…「そんなのはデカすぎて、一介の探偵^{たんてい}の仕事じゃあないな。俺はただ、自分の家族を迎えに行くだけさ」

ミシエール…「なら、これは忘れずに持つて行くといい。落し物だ、お前とあの子の」そういつて、駒村にフェイトコートを

投げ渡す。

駒村…「おっと。こいつは、そうか。急がなきゃならん理由が増えたな。軌道の上でこいつがなきゃ、エリカが寒くて震えるかもしれない。……だが、そういや忘れ物がもう一つあるな」ちよっとオーブニングのうちにやりたいことが出来た。RL、相談いいかい？

RL…分かりました。では、一旦このシーンはここで切りましょう。二人にハンドアウトをお渡しします。

ハンドアウト…駒村当眞

「フェイト」コネ…彼方エリカ／推奨スト…感情

記憶を取り戻す手助けをして欲しい。

その依頼を果たせぬまま、彼方エリカは連れ去られた。かの傲慢不遜な軌道人、天津凜欄の手によって。

瞳に不安と寂しさ、そして畏れを混えていた少女。しかし自らの意志で、過去と向き合う事を決意した少女。

プラチナムハートの魂を持つ探偵として、彼女をそのまま見放す事は出来ない。依頼人を救うためであれば、ストレイライト・ランだつてやつてみせるのが、フェイトのスタイルってヤツだ。

PS…エリカを救出する

ハンドアウト：ミシエル・プロキオン

「イヌ」コネ…天津凜禰 / 推奨スート…理性

「国産み派」筆頭、天津凜禰。地上人の事など、虫けらのようにしか思っていない軌道人。

彼の目的は、ニューロエイジから地球人を抹消する事だという。そして、その計画の要となる超兵器「遺産群」を手に入れる為、彼らは鍵となる彼方エリカを君たちの元から連れ去った。

冗談のような話だが、このままでは本当に地球は滅亡するだろう。だが、智天使の炎の剣は、罪人を逃しはしない。例え相手が、空の彼方に居たとしても。

PS…天津凜禰の陰謀を阻止する

ワスレモノ



オープニングシーン3

数日前まで、駒村探偵事務所だった場所。今は瓦礫の詰まった吹き抜けとなっている。

そこで駒村は一人、瓦礫を掘り返しながら何かを探していた。「……ダメだな。帽子はなんとか見つかったがコートは今着てるこいつの方がマシだ」

埃だらけの帽子を叩いて頭に載せる。

「コナムラ、XYZ行きの手配が済んだ。シャトルもじきに到着する。……何を探しているんだ？」

「ミシエルか。ちと、忘れ物を探しにな」

RL…当初は予定になかったオープニングシーンですが、プレイヤーがやりたいことがある、とのことなのでシーンを設けます。シーンプレイヤーは駒村です。

駒村…場所は瓦礫の山と化した俺の事務所さ。軌道に旅立つ前に、忘れ物を取りにきた。

ミシエル…「忘れ物？ コート以外の忘れ物ってことは、その帽子や煙草なんかを言っているのか？」

駒村…「それもまあ、大事な相棒^{パディ}には違いないがね。……一番大事なのは俺の相棒じゃあないんだ」

ミシエール…「ふむ？」

駒村…「それはさておき、お前さんの調子はどうなんだ？ 動きにいつもの切れがない。見た目ほど無事ってわけでもないだろう？」瓦礫を掘り返し続けながら。

ミシエール…「探偵の目は誤魔化せないな。だがまあ、生身に心配されるほどじゃあないさ。私の義体は換えが利く」

駒村…「無理はするなよ。エリカが泣く」

ミシエール…「……あの子は少し、他人に思い入れすぎる。トーカーには向いていない気がするな」

駒村…「そうかい？ 俺はあの子はトーカーらしいと思うがね」そこでようやく探し物を見付け出す。「よし、見つかった。それじゃあ、そろそろ行くとするか」

ミシエール…「コマムラ、前から聞いたかったんだが。あの子はお前にとって何なんだ？ お前は何のために、そこまでの傷を負う？」

駒村…「男つてのは、女の前だつていやせ我慢しちまうものなんだよ。それだけさ」と、冗談めかして答える。

ミシエール…ふ、と肩をすくめて笑う。「……そのセリフは、あの子の前では言わない方がいいぞ」

RL…駒村が取りにきた忘れ物は何なのかは、後の楽しみにしておきますか。では、オープニングを終了します。

リサーチフェイズ

リサーチシーン1

ふるさとの原風景

シンブレイヤー…エリカ
シンカード…ミストレス（逆）／停滞



日が燦々と眩しい。ミーンミーンと、見知らぬ生物が絶えずどこから鳴き声を上げている。

コンクリート舗装されていない土の地面に、木造の廊下が直接面している不思議な構造の建物。

ニューロエイジにはほとんど姿を消した、和風家屋。辺りには緑豊かな庭園があり、その向こうには林が広がっている。

その異様なまでにのどかな光景に呆然としながら、エリカは縁側に腰かけていた。

「今の感性からすれば、この家は酷く無防備に見えるじゃろう。扉にも鍵すらついておらん。第一、風通しが良過ぎて今の地球に建てたら、中の人間は凍えてしまう。じゃが、災厄以前はこの建物がいたところに建っておったのじゃ」

家の奥から姿を表した老人……むすひの翁。が、エリカの横に腰掛けてお茶を渡した。陶器製の湯飲みに入っている。

「どうじゃね、この風景は」

戸惑うように湯飲みを受け取りながら、エリカはぼつりとつぶやいた。

「何でだろう。何となく……懐かしい、気がする」



ズズ、とお茶をすすって、翁は遠くを見る。

「なら、君の故郷は良い所だったんじゃないろうな」

エリカは視線を落とし、湯飲みの緑色の水面を見つめた。何度も繰り返し返した幻影が、暖かな場所が故郷が壊れていく様が、脳裏を掠めた。

RL…では、リサーチフェイズに入ります。シーンブレイヤーはエリカ。監獄から救い出され、〃むすひの翁〃と名乗る老人に保護された貴方は、和風家屋の縁側に座って翁と話をします。

エリカ…不思議な光景だね……ニユーロエイジじゃないみたいのどかなんだけど、どこか落ち着かない。わたし、何のために連れて来られたんだろう。

RL…ミコトが「おじいちゃん、切ってきたよ」と皿に盛りつけた赤い果物を持ってきます。西瓜スイカですね。氷河期のニユーロエイジでは絶滅して久しい植物です。「どうぞ」と翁は貴方に勧める。

エリカ…戸惑いつつも、素直に受け取ります。小さく一口食べて「おいしい……」と。

RL／むすひ…「じゃろう。昔は夏といえばコレを食わにや始まらんかったもんじゃが……今の地球じゃ、育たん」

エリカ…「じゃあ、これは？」

RL／むすひ…「災厄前のサンプルから遺伝子を取って培養したものじゃ」

エリカ…「災厄前の……？」

RL／むすひ…「西瓜だけじゃない。ここにあるものは全て、災厄前の地球環境を遺伝子クローニングで再現したものじゃ。いわば地球の原風景、じゃな」

エリカ…地球の、原風景……。

RL…翁は一息ついて天に浮かぶ地球の姿を仰ぎ見、静かに言葉を続けます。「災厄によって、地球は何もかもが変わってしまった。むしろ〃国産み派〃はな、地球の環境を再生するための組織だったのじゃ。いつか還る場所を取り戻すために、な」エリカ…「いつか還る場所……」口に出して繰り返す。切ない響き。

ミシエール…ちよっと待て、〃国産み派〃は拡大派の極右組織じゃなかったのか!?

エリカ…それは、わたしも気になるかな……凜瀬さん、地球環境を再生させるどころか、地球を破壊しようとしてるって話だったし。同じ組織の人だなんて、ちよっと信じられないかも。

RL…では、貴方の表情を見て翁は言います。「信じられないのも無理はない。国産み派は、凜瀬がわしから筆頭の座を奪ってからというもの、大分性質が変わってしまったからな」

胸村…なるほど。下克上が起きて、組織の方向転換が行われたってことか。

RL…そうです。むすひの翁はその際に、このトヨアシハラ、コロニーの管理人という、まあつまりは閑職に追いやられたわけです。

エリカ…「地球の環境を取り戻そうとしていた人たちが、どうして、地球を滅ぼそうとまでしているの……」

RL／むすひ……—全ては、わしの力不足のせいで起きたのじゃ。あやつを……凛欄を狂わせたのも、それを止めることが出来なかったのも、全て」

エリカ…「あなたの、せい……？　どういうこと？」

RL／むすひ…「巻き込まれてしまった貴方には、知る権利がある。これから、全てお話ししよう」そういつて、翁はゆっくりと立ち上がります。一旦ここでシーンを切りましょう。

RL…舞台裏です。なお、本アクトでは舞台の多くが軌道上となるため、特別に〈社会…N◎VA〉を〈社会…軌道〉として使用してよいとします。また、エリカとその他二人の合流がやや遅くなるため、なかなか情報共有が出来ない状態になります。それによる情報の停滞を防ぐため、各々が調べた情報は、ゲストの口を通じて他のキャストにも伝わるものとします。

ミシエール…つまり、こちらで調べた情報は、同じ頃むすひの翁がエリカに教えている、ということか。

RL…そうです。逆もしかりです。この場合、伝えるのは星熊少佐などになりますね。自分で調べた、ということにしても構いません。

駒村…了解。では再度、天津凛欄という男について調べ直しましょう。〈社会…軌道〉なら追加の情報が出るんじゃないか？

RL…出ますね。目標値は17です。

駒村…〈事情通〉を組み合わせて報酬点を1点使って17だ。こんな局面だし、なにより最終話だし、報酬点の出し惜しみはしない。

RL…了解です。では情報をお渡しします。天津凛欄は天津一族の他のハイランダーたちと同様に、クローニングと人格データ化処置によって、災厄以前から生きています。

駒村…見かけどおりの年齢ではないということか。

RL…彼は5年前、穏健派であった天津産霊^{ちんずひ}を国産み派筆頭から引きずり落とし、その座を奪いました。その後強硬路線を取り、地球人類の抹消を目的に動いています。地上人に対しては憎しみとしか言えぬ感情をもっており、彼らを滅ぼすことを「禊^{みそぎ}」と称していますね。しかし、以前は産霊の思想に共感する熱心な活動家だったようです。

駒村…むむ、奴の中で考えが変わる転機があったのだろうか？

RL…それはまた後ほど明らかになるでしょう。それと、彼の部下は数多く居ますが、その中でゲストは2人。〃かむくら〃と呼ばれる巫女と、〃オオカムツミ〃と呼ばれるAIです。

エリカ…オオカムツミは、前回わたしの電腦をスキャンしたあの男の子だよ……。

駒村…巫女に、神を模したAI（*）、ね。濃い面々だな。

ミシエール…では私は、敵の本拠地という〃トヨアシハラ・コロニー〃についてリサーチだ。

RL…〈社会…軌道〉でどうぞ。目標値は16です。

神を模したAI…オオカムツミ（意富加牟豆美命）は、日本神話の「国産み・神産み」の段に登場する神だ。黄泉の国で追われるイザナギを助け、死者の軍勢たちを追いつた聖なる桃の化身である。

ミシエール…銀の目とホムンクルス、あと報酬点も使って16ピツタリだ。

RL…はい。トヨアシハラ・コロニーは国産み派が管理する宇宙コロニーです。地球と月のラグランジュ・ポインントL₅(*)に存在します。どうやら、テラフォーミング(*)研究のための環境モデル衛星らしいですね。周回軌道上には日本軌道軍による厳重な警備体制が敷かれており、通常の方法では到達不可能です。

ミシエール…環境モデル衛星か…先ほどのシーンを見る限り、それは本当のようだね。

エリカ…大きな温室があつて、災厄前の動植物のクローニングもしてたもんね。

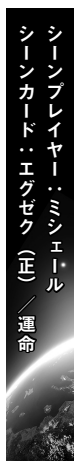
RL…なお、星熊少佐によると、キャンベラAXYZから伸びる軌道エレベータ「ユグドラシル」の中腹にある宇宙港ヴァラスキャルヴに、オーストラリア政府のみが利用可能なトヨアシハラ・コロニーとの直通航路が用意されていたそうです。しかし、現在のこの航路は使用されていません。

ミシエール…ふむ。つまり、私たちは今、ヴァラスキャルヴに向かっている、ということだな。

RL…その通りです。では、次はそのシーンを描写します。

軌道へ

シンブレイヤール・ミシエール
シーンカード…エクゼク(正) / 運命



リサーチシーン2

キャンベラAXYZ。オセアニア最大規模を誇るこのメガプロジェクトスが「天界都市」と称される所以が、その中心にそびえ立つ巨大な世界樹…軌道エレベータ「ユグドラシル」の存在だ。軌道市民権を得てこの天の橋立を渡る為に必要な資金は百万オーストラリアドルと言われている。無論、そんな大金をポンと出せる人間は一握りしかない。天へと続くその塔は、人々の憧れの的だ。

その楽園への階段を、エグゼクたちに紛れて険しい表情で登る二人組がいた。どちらもボロをまとった満身創痍と言っている有様で、きらびやかな世界から浮いている。

軌道エレベータ中腹、地上から36000kmにある宇宙港ヴァラスキャルヴ。そこから見下ろす地球は、災厄を経た今でもなお、美しい蒼だ。

「折角の絶景を楽しんでいる暇も無いとはね…酷いGだったな。全く、怪我人に容赦の無い旅路だ」

「そう言うな、コママラ。アレでも上に無理を言って一番いい席を用意させたんだ」

RL…では、2人は宇宙港ヴァラスキャルヴに到着します。軌

道エレベータのチケットは捜査の名目でケルビム本部が手配してくれました。

駒村…オーストラリア政府との話は怎么样了？

ミシエール…いや、恐らく渡りをつけるのはこれからだ。オーストラリアの政府機関はここ、ヴァラスキャルヴにあるからね。駒村…へえ、空の上に国の中枢があんのかい！ それで地上の人らの事が見えるもんかねえ。

RL…実際、そこらへんは確執になっているようですね。（*）さて、到着した2人の前に、オーストラリア政府の外交官がやってきました。「遅くなりました、ミシエール捜査官。ケルビムの本部より話は伺っています。こちらへどうぞ」

ミシエール…「トヨアシハラ・コロニーへの航路は、すぐ使えそうですか」

RL…「いやあ、どうですかねえ……動かせるんですが、そもそもあの航路、5年前に一方的に遮断されてから、あつちとも関係が断裂してるんですよ」

駒村…5年前……ちょうど、凜瀬が組織変革を始めた時期だな。RL…「でもつい先ほど、むすひの翁から久しぶりの伝令がありまして。何でも『航路を使いたがる人がいたら、開放してやれ』って。そして狙ったかのようなタイミングで貴方達が来た。ねえ、一体あそこで何が起きてるんですか？」

ミシエール…「——世界の危機、かな」

RL…「は？」 外交官はボカンとした顔をしています。

ミシエール…ハハ、まあそんなリアクションだろうね。この外交官から、オーストラリアと天津・国産み派との関係を聞き出

すことはできるかな？

RL…《交渉》か《社会…AXYZ》でどうぞ。

ミシエール…《社会…AXYZ》で16だ。

RL…OKです。前のシーンでもお伝えしたとおり、国産み派は元々、災厄で失われた地球の自然環境復興を目的とした活動を行なっていました。その活動は遺伝子培養や地球環境改善の為の技術の研究などが主でしたが、もう一つ、大きな柱がありました。

駒村…ほう……？

RL…それが、オーストラリア政府が舵を取っていた地球環境再復興計画——通称アクシズプラン（*）への投資です。

ラグランジュ・ポイント…2つの天体の重力がちょうど釣り合っている座標のこと。宇宙コロニーを建造するのに都合がいい。L1〜L5まで存在し、トヨアシハラ・コロニーが存在する地球…月ラグランジュL5は、月と同じ周回軌道を、月よりやや遅れて回る軌道だ。なお、ラグランジュL2には、同じく日本軌道軍により厳重に封鎖された天津一族の研究コロニー「エリアX-55」が存在し、そこでは不老不死の研究が行われているという噂がある。テラフォーミング…人為的な環境変化により、惑星を人間の住める環境に改造する技術のこと。日本が保有する超兵器アマテラスも、元々は火星のテラフォーミング計画の産物だった。

確執…オーストラリア政府の議員の大部分が軌道出身者であるため、地上を無視した政治が行われやすいようだ。

アクシズプラン…災厄…による悪影響が比較的少なかったオーストラリアは、ニュージーランドにおいては日本に続くもう一つの大国となった。そんな彼らが執り行った地球環境再復興計画がアクシズプランであり、キャンベラAXYZもその計画の一端として造られた都市だ。だが、天高くそびえる軌道エレベーターは深刻な日照問題も発生させていたり、何かと皮肉な結果となっている。

エリカ…そんな計画があったんだ。

ミシエール…『GXD』の世界設定にも載ってるな。そんな所からも設定引つ張ってきてるのか。

RL…当時、国産み派はアクシズプランの最大のスポンサーでもありました。天津一族は天文学的な資本を持っていますからね。ただし、この計画の進行は芳しくありませんでした。そして5年前に、国産み派から一方的に関係が途絶されます。

ミシエール…なるほどね。

RL…「むすひさんには多大な恩があるので、まあ動かせと言われれば動かすんですが…向こうの状況が分からないこっちとしちゃ、撃ち落とされやしないかと気が気じゃないですよ」ミシエール…「日本軌道軍ですか。恐ろしいのはお察しします」が、なんとかよろしくお願いします。待ち人がいるので」

RL…「軌道に待ち人、ですか？　まるでカグヤヒメですね。まあ、いいですけど。帰ってこれなくても知りませんよ？」

駒村…「帰ってくるさ。あの店にキープしたボトルも残ってるんだ」環境再復興というキーワードに、ふと矩子のプロジェクトを思い出しながら言うよ。

RL…では、2人がシャトルに乗り込み、ハッチが閉まった所でシーンを閉じます。

RL…エリカは舞台裏判定をどうぞ。

エリカ…ミコトくんが何者なのかを知りたいかな。いい子そうだけど、一応、ね。

RL…（コネ…むすひの翁）か（交渉）でどうぞ。

エリカ…（交渉）で調べます。Departureの効果を乗せて18です。RL…十分です。彼はむすひの実孫ですね。つまり、彼も天津一族の一員です。名前が天津命と書きます。

エリカ…あ、本当におじいちゃんだったんだ。

RL…彼は、実はウェットです。天津一族は先述のとおり、人格データ化と肉体クロニ技術によって不老不死となっているのですが、彼は電脳不適症であったためこの処置ができていません。元々病弱なためニューロエイジの地球環境では長く生きられない体質だった彼は、災厄^{カタストロフ}の直後にコールドスリープ（*）を受けています。今もトヨアシハラ・コロニーの中外では生きていません。

エリカ…もしかして、むすひさんが地球の環境を復興させようとしているのって、ミコトくんのため……？

RL…それだけでは無いでしょうが、理由の一つではあるでしょうね。

皆人の告白

シーンブレイヤー…エリカ・

シンカード…トッキー（逆）／破局



リサーチシーン3

トヨアシハラ・コロニーの中には、大きな林があった。林道にはときおり鳥居が立つており、ここが鎮守の杜……神社への参道であることが窺える。

参道を歩きながら、むすひはゆっくりと話を始める。

「国産み派は、地球の自然を蘇らせる為の研究・投資を行って来た。だが、成果は芳しく無くてのう。そのうち、日本そのものの地位が揺らぎ始め、急進派の力が増すにつれ、むしろ国産み派の力も衰えていった」

エリカは話を聞きながら、周囲の光景に目を奪われていた。ニューロエイジでは、おそらく死国（*）くらいにしか生き残っていないであろう緑豊かな自然。見たことのない風景のはずなのに、やはり、どこか懐かしさをエリカは感じていた。

「事の始まりは5年前じゃ。あの禍ツ星……災厄の引き金となり、その最中に姿を消していた超兵器、グランドクロスが、数十年ぶりに地球の周囲軌道上に帰って来た」

「……二度目の、災厄」

うむ、と頷くむすひ。今回の騒動の切欠となった事件。今、全てが明らかになるうとしていた。

R L…シーンブレイヤーはエリカです。貴方はトヨアシハラ・コロニー内にある林の中を歩きながら、むすひの翁の話を聞いています。

エリカ…この林も、遺伝子クローニングの産物なの？

R L…はい。ただ、その様相はまるで原生林のそれです。樹齢数百年と思しき樹もチラホラ見られますね。

胸村…成長を促進させる遺伝子改良や環境操作なんかも、一緒にやってるんだろう。この林自体が、巨大な実験区画なのかもしれないな。

R L／むすひ…さて、二度目の災厄じゃが、軌道に迷ったわしらにはさして影響は無かったものの、地球は大損害を受けた「エリカ…「そう、みたいだね。わたしは記憶がなくて、覚えていないんだけど……」

R L／むすひ…「ただでさえ難航していた地球環境復興が、ほぼご破算になった。水の泡、元の木阿弥じゃよ。アクシズプランへの莫大な投資も、これ以上は無意味であろうという見解が国産み派の中で強まった」

エリカ…「止めちゃったの……？」

コールドスリープ…冷凍睡眠により、人体の老化を防ぐ超技術。SFではお馴染みの技術だ。

死国…干上がった瀬戸内海周辺、かつて四国が存在した場所は現在、新型ウイルスによる環境汚染により生態系が劇的に変化し、人類が足を踏み入れることすら出来ない危険地域となっている。しかし、その最深部には清浄な空気や水、緑豊かな自然が満ちた、地球最後の楽園（ラスト・リゾート）が存在すると誠しやかに語られている。

RL／むすひ…「わしは止めるつもりはなかったんじやがな。凜禰はそうでは無かった。他の人員もほとんどが」

エリカ…「そう……なんだ」悲しい目をして俯きます。

RL／むすひ…「話が変わるが、二度目の災厄を引き起こしたグランドクロスが、その事件の結果、何者かに破壊された事は知っておるか？」

エリカ…こくりと頷きます。

RL／むすひ…「破壊され、兵器としては使い物にならなくなったグランドクロスじゃが、軌道上に残された残骸を調べてみると、それが備えていた大規模出力装置にはまだ使い出がありそうだという事が分かったんじや。わしは、それを地球復興の切り札にしようと思った」

エリカ…地球復興の、切り札？ ……え、まさか。

駒村…おそらく、エリカが思ってる事は、俺の頭に浮かんだことと同じだろうな。

エリカ…「それってもしかして、クラウドナインのこと……？」

RL／むすひ…「その通り。アレは、グランドクロスの外殻を流用して建造されておる」

ミシエール…なるほど……日本政府の要請で建造されていたというのは、すなわち国産み派の意向。1話から、話は繋がっていたのか。

RL／むすひ…「実際、虎丸はようやくやってくれた。あんな事になるなんて思っていなかったが……クラウドナイン建造計画もお釈迦になった今、国産み派の筆頭を降ろされたわしにできる事は本当に無くなってしまったわけじゃ」

ミシエール…国産み派を奪われた彼が、最後の力を使っ行ってた逆転の一手だったってわけか。

エリカ…「凜禰さんは……？ あの人、どうして地球を滅ぼそうなんて思うようになったの？」

RL／むすひ…「あやつは元々、自然復興に人一倍意欲的な男じゃった。植物学者じゃったからな」

エリカ…凜禰さんが、植物学者？

駒村…ふうむ、予想外の事実だな。現実でも、皇族の方々が生物学なりの研究に携わる事は多いから不思議ではないが……。

RL／むすひ…「だが、自然は失われていく一方じゃった。それで、どうやらあやつは、人間の存在そのものが自然の復興を邪魔していると考えるようになったらしい」

エリカ…それは……何だか、哀しいね」

RL／むすひ…「その通り、悲しい男よ。じゃが、百年をゆうに超える時間を生き続けると、人として何かがおかしくなってしまう。わしもあやつも、同じ『ノスタルジア』に突き動かされた化物である点で言えば、変わりはないのじゃろう」

エリカ…「ノスタルジア……」独り言のように呟いて。「ねえ、どこかに帰りたいって思うのは、いけないことかな。もう失われてしまったものを、恋しく思い続けることは、罪なのかな」

RL／むすひ…「持つてはいけない感情なんて、ありやせんよ。故郷を想う心、帰りたいと願う心は、人の本能じゃ。それを阻むことなど、神にだって出来はせん。……だが、それが悲劇を生んでしまう事もあるう」

ミシエール…恋が幾多の愛憎劇を生み出してきたように、か。

エリカ…ノスタルジアが導いた、悲劇……。

R L / むすひ…「エリカさん。仕組みは分かんが、凜瀬は貴方を鍵として、『遺産群』の在り処を見出したらしい。奴は既に、浮橋を使って確保のための航路に出ておる。じきに、地球は滅びるじやろう」

エリカ…「……わたしの、せいなの？」記憶のかけらが戻ってきた時、溢れだした感情を思い出す。罪の意識を。

R L / むすひ…「答えは恐らく、貴方の中にしか無い……我が身の厚顔を恥じるばかりじゃが、貴方にしか頼めないことじや。どうか奴を、凜瀬を、止めてくれんか」

エリカ…歩みを止めて、しばらく立ち尽くします。自分がどう関係しているのか、罪悪感の所以が何なのか……大事な約束の内容すら、まだ思い出せないけど。不安な感情を振り切るように首を振って、むすひさんを見上げます。「わかった……きつとそれが、わたしのやらなきゃいけないこと、だと思うから」
R L / むすひ…「ありがとう……」翁は貴方の手を取って涙を流します。彼は《ファイト!》を貴方に使用します。《天罰》の使用回数を1回増やしました。

R L…舞台裏です。

駒村…凜瀬が探している、『遺産群』の正体をリサーチする。

R L…《社会…軌道》で調べれば、2話の段階では分からなかった内容を調べることが可能です。目標値は21。

駒村…いよいよ大詰めって感じの目標値だな。《事情通》とワックス効果、装備も全部乗せて達成値は22だ。

R L…OK。災厄以前、地球の衛星軌道には、今ではロストテクノロジーとなった技術の結晶たる軍用衛星（*）が多数存在していました。それらの多くは災厄の最中に何故か姿を消し、行方不明になっています。『遺産群』とは失われたそれらの総称です。一つ一つの衛星はアマテラスに遠く及ばない性能ですが、それら全ての力を結集すると、アマテラスをも凌駕する力となるようです。

ミシエル…恐ろしいな……比喩なしに世界を滅ぼせるぞ、それは。私は凜瀬の保有する宇宙艦、浮橋について調べる。

R L…《社会…軍事》か《社会…軌道》でどうぞ。

ミシエル…ディクシヨナリから《社会…軍事》。達成値は17。
R L…宇宙艦、浮橋は天逆鉾という強力な主砲を備えた軍艦でもあります、その主たる運用目的は軍用ではありません。
ミシエル…ほう？

R L…これは軌道のハイテクノロジーで作られた、恒星間亜光速航行船なのです。

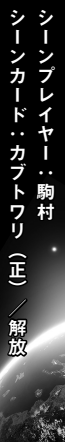
エリカ…『遺産群』を探するための船、ってことだね。

ミシエル…最終話が始まってから思ってたのだけど、なんだか急にS F色が強くなってきたなあ！

R L…ずっとやりたかったんですよ。せっかくN◎VAには宇宙船のデータまであるので、使わないと思ひまして。なお、本艦はデータのには、『御座船』（*）相当品です。

軍用衛星…サノオ、スノウクイン、ソルフレアなどが過去に知られている。グランドクロスは、その中でも最悪の存在として知られていた。
御座船…ミカド軌道開発（軌道千早）製の、宇宙における戦略拠点となる戦艦。

再会



リサーチシーン4

エリカとむすひは参道の果て、伊邪那岐尊と伊邪那美尊を祀った社に辿り着いた。それは古代日本神話における創造の神であり、国産み派を象徴する二柱なのだという。

二人が最後の鳥居をくぐって境内に上がろうとした時、突如、その体が見えない壁に押し返された。

「え……何、これ」

「これは、かむくらの結界!? 奴め、こんなところにまで結界を張っておったのか!」

境内の奥から、操り人形のような奇妙な形をしたドロイドが次々に現れる。

「物見式……! いかん、エリカさん、逃げるんじや!!」

物見式——国産み派の巫女にして凜欄の側近、かむくら多賀阿波岐が使役する呪力ドロイドが、檻を抜けだしたエリカを感じし、捕らえようと追いかけてくる。息を飲み、エリカは走りだした。

ただひたすらに、来た道を息を切らして走り続ける。走れども走れども、ドロイドは執拗に追いかけてくる。

「怖いよ……だれか、だれか助けて」「あつ」

木の根元に足を取られ、地面に倒れる。エリカに追いついた

ドロイドが、ジリ、ジリと詰め寄ってくる。

「やだ……助けて……。駒村さん!!」

這い後ずさりながら、気づけばエリカは叫んでいた。名前を呼ぼうとも、彼がこの場に現れるはずもないことは分かっているのに。

しかし、信じられない事に。その叫びに、懐かしい声で返事が聞こえたのだ。

「待たせたな、エリカ」

RL…駒村とミシエールが登場した所で、敵の使役する(分身)(*)とのカット進行だったのですが、ハハ……瞬殺でしたね。やっぱ二人とも強いなあ。

駒村…「エリカ、迎えに来たぜ」ドロイドを銃で撃ち抜きながら、エリカに優しく笑う。

エリカ…「駒村さん!」立ち上がって、めいっばいの笑顔で駆け寄ります。

ミシエール…「やれやれ、着いた途端に随分なお出迎えた」こちらもジャッカルで応戦しながら。

エリカ…「ミシエールさん! よかった、二人とも無事だったのね!」

RL…木製の呪力ドロイド。物見式はバラバラになって地面に崩れ落ちます。舞台裏から操っていた術者はウィズドローアル(*)を使用して自分へのダメージ共有を打ち消しました。

エリカ…「駒村さん、ミシエールさん!」ああ……また二人に会えた。山ほどの思いを込めて、二人に抱きつきます。そして

顔を上げて気づきます。「二人とも、怪我してる……」

駒村…「こんなの、大事なものを失う痛みには比べれば、何でもなさ。だから泣くな、エリカ」

ミシエール…「無事でなによりだよ、エリカ」そう言ってハンカチを出し、涙と、転んで頬に付いた土を拭いてやる。

エリカ…「ありがとう……ねえ、こんなところで、どうやって来られたの？」

駒村…「家族を守るためなら、距離なんて関係ないのさ。あと、ここへは彼が案内してくれた」そういつて後ろを指さすと、木々の合間からビヨコンとミコトが顔を見せる。

エリカ…「ミコトくん」

ミシエール…「道中、彼から大まかな話は聞かせてもらったよ。しかし、このドロイド……普通のドロイドではないな。電力で動いていないようだ」物見式を操っていた術者、かむくらについて、ここで調べられるか？

RL…《社会…アストラル》で判定どうぞ。

ミシエール…ケルビムのアストラル犯罪のデータベースにアクセス。ディクショナリから引く張って判定。達成値は15。

RL…十分です。かむくら^{タガの}は天津凛瀾の側近兼ボディーガードで、名を多賀阿波岐^{タガの}といいます。天津一族の中でも、神道神司を司っていた巫^{ヨリ}の血筋を強く受け継ぐ神楽舞の巫女であり、日本本国に張られているもの同等の呪術結果を作り出すことができます。スタイルはカブキ、マヤカシ◎、カゲムシヤ●。ミシエール…カブキ、か。前話のエンディングで私の銃弾を弾いたのはこの女だな？

RL…そのとおり。

エリカ…マヤカシ……わたしと同じスタイルをもつ人。わたしの過去と、何か関係があるのかな。

駒村…可能性はあるな。ついでだ、こちらはオオカムヅミについて調べておこう。

RL…調べるなら《社会…軍事》か《社会…ウェブ》です。

駒村…《社会…軍事》《事情通》で達成値17。

RL…はい。オオカムヅミは国産み派が、遺産群^{レガシーズ}を制御するために開発した軍事用AIです。本体となるトロンは浮橋^{ウキハシ}に積み込まれており、その莫大な処理能力から、複数の超兵器を同時に制御する力を持っています。スタイルはハイランダー●、ニューロ◎、アラシ。

エリカ…兵器、制御……。

RL…では、シーンが切れる直前に、エリカを追ってむすひの翁が到着します。「はあ……はあ……無事、だったようじゃの」と息を切らせながらも胸を撫で下ろした後、ゆっくりと微笑みます。「それに、帰る場所を見つけたようじゃ」

エリカ…！ そっか。そうだったんだ。「……うん。見つけたよ、わたしの、帰りたい場所」迷いの消えた表情で笑います。

《分巻》…意のままに操れる下僕、エングマを役とするマヤカシの特技。ミシエールが取得しているバサラの《使魔》と似ているが、エングマが受けたダメージは術者にも共有される点などが異なる。

ウィズドローアル…エングマへのダメージが術者に共有されるのを防ぐ装備。

たいせつなもの



リサーチシーン5

「貴方が天津産靈殿、ですか」

静寂が戻った林道で、ミシエルがむすひに尋ねる。

「いかにも。ミシエル捜査官、長旅御苦労でした。無事にたどり着けたようで何よりですじゃ」

「シャトル航路の手配、感謝します。快適な旅でした。日本軌道軍の領宙に入った時は、流石に冷や汗が出ましたが、ね」

R L…先ほどのシーンの続きになります。駒村とミシエルを案内したミコトは、むすひの翁のもとに駆け寄り、翁に頭をなでられて気持ちよさそうにしています。

駒村…「その子に色々聞いたよ……エリカが世話になったみたいだな。礼を言う」帽子を脱いで一礼。

R L／むすひ…「とんでもない。わしらは、彼女にとんでもない迷惑をかけてしもうた」そう言っただけで頭を下げる。

駒村…「不躰ながら、あなたにはいくつか聞きたい事があつて来たんだ。いいかな？」

R L／むすひ…「わしに答えられるのであれば、なんなりと」
駒村…「虎丸矩子……いや、クラウドナインの事だ。アレは、あなたの管轄だったんだらう？ テロに利用されなければ、ア

レはどんな役割を果たしたんだ？」

R L／むすひ…「緑豊かな地球環境……豊葦原（*）の復活。わしが望んでいたのはただそれだけじゃよ。あれは、緩やかに氷河期を終わらせるための手段になるはずじゃった。じゃが、凜欄は違う。あやつは地球環境を一度、きれいさっぱりリセットするつもりじゃ。その後、クラウドナインを動かすつもりなのじゃらう」

ミシエル…あの男は、神にでもなるつもりか。

駒村…「——あなたは凜欄だけが過ちを犯そうとしているという風に言っているが、俺は違うと思うぜ」

エリカ…え……どういうこと？

駒村…「あなたの理想を否定するわけじゃないが、アレは世界に与える影響がでかすぎた。実際、矩子の起こした事件で世界は水没しかかったし、環境を操作した影響がバタフライエフェクト（*）的に大きな気象異常を引き起こすことだって容易に考えられる。あなたたち天上人は、その影響をもろに受ける。今の地上を生きる。人間たちのことを考えていたか？」

R L…翁はむうと唸り、沈黙で返します。

駒村…「地球環境を再生する、破壊する。地上のものからすれば、その意味は変わらないんじゃないのか？ 今の地上でしか生きられないものだっているんだ」

R L／むすひ…「結局、凜欄もわしも、根っこは同じなんじゃらうな……だからこそ、奴の罪は、わしの罪じゃ。本当に、すまなかった」膝をつきながら、彼は涙を落してそう言います。ミコトはその様子を不安そうにみつめています。

エリカ…少し戸惑った顔で、駒村さんとむすひさんを見比べます。「駒村さん……むすひさんの罪って、いったい何なのかな。虎丸さんも、ヴィルヘルムさんも、むすひさんも、きつと凜欄さんも。ただ、帰らなかっただけなんだと思うの。それが、罪なのかな」

駒村…エリカの頭を優しくなでる。「そんなことはないさ。だが、見落としちゃいけないたいせつなものつてのがあるんだと思うよ」

エリカ…「たいせつな、もの？」

ミシエール…「——懐旧には限りがない。だが、今いるところにも愛せるものはきつとある。理想を目指すのは大事だが、それだけを見ていると、今愛すべきものを見失ってしまう」むすひの翁を心配して寄り添うミコトくんの姿を見て、自然に口をひいて言葉が出る。私もきつと、ずつと見失っていたのだろうな。私を心配し、見守ってくれていた人々のことを。

エリカ…ミシエールさん……。

駒村…「むすひさん。あんたも一度、今の地上に降りてみるといいさ。そしたら、矩子も交えて飲み明かそう。いい店、紹介するぜ」

RL／むすひ…顔を上げて、涙を浮かべたまま笑います。「そりゃあ、楽しみじゃな。虎丸とも、もつと話をしたかったからなあ」

ミシエール…「その際には、ケルビムが責任をもつて地上までエスコートしますよ。でもその前に、世界を危機から救わなければ、な」さ、大詰めたな。きつとこれが最後のリサーチだ。

レガシズ
遺産群^{レガシズ}の在り処を調べる。

RL…「コネ…天津凜欄」で目標値20です。

ミシエール…報酬点も全部突っ込む。成功だ。

RL…では、お答えする前に、まずは今回の事件の流れについて整理しておきましょう。

天津・国産み派は、災厄直後より数十年続いている天津一族一派です。彼らはもともと、地球自然環境^{テラ・ナチュラ・ミシエ}の再生を理念として活動していました。アクシズプランへの投資や、各種クロニング技術の地上への提供。しかし、その成果は芳しく無く、徐々に日本の地位が落ち込んで行く中で、天津一族自体が拡大派としての性質を強めてきました。

事の始まりは5年前。破壊されたグランドクロスの外殻を再利用して、地球環境復興の要となる気象制御衛星クラウドナインの建造に着手したころ、凜欄はそのグランドクロスの残骸から^{レガシズ}遺産群^{レガシズ}に関する情報を得ます。彼はこれを使って地球をリセットすることを思いつき、産霊^{ウツタマ}から国産み派を奪いました。これが全ての始まりです。

駒村…グランドクロスの残骸から情報を得た？

豊葦原…「豊穰な大地」という意味の、神代の日本国的美称。豊葦原千五百秋瑞穂國。トコアシハラ・コロニーの名前の由来でもある。

バタフライエフェクト…ほんの些細な変化が、巡り巡って大きな現象の引き金に繋がる可能性がある、という意味の言葉。地球環境に人為的なテコ入れを行うことが、未来に予測不可能な災害を起こす可能性は否定できない。

RL…そうです。《遺産群》、すなわち軌道上の衛星兵器たちは、

災厄の最中に姿を消しています。それは、災厄の引き金となったグランドクロスが地球を離れた際、重力によってそれらを引き連れ、持ち去ったからです。つまり、その在り処はグランドクロスの航路のどこかに存在します。そしてその航路を示す航行ログは、コアトロンに記録されているはずです。

エリカ…でも、グランドクロスのコアトロンって……。

RL…そう。コアトロン、すなわち《原罪の記憶》からは、データが完全に失われています。

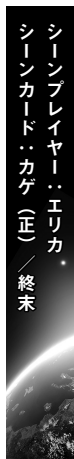
駒村…なるほど、凛瀬たちがヴィルヘルムの能力を使って聖遺物から記憶を抜き出そうとしていたのは、その航行ログを得るためだったのか。

RL…はい。しかし、それも結局はヴィルヘルムの抵抗により叶いませんでした。最終的に、凛瀬は《遺産群》の在り処をエリカから得たといいます。その理由を調べるにはエリカの記憶の封印を解くしかありません。

ミシエール…「……つまり、最後の鍵はやはり」エリカに視線をやり。「キミか」

ワンダーラスト

シンブレイヤー…エリカ。
シンカード…カゲ（正）／終末



リサーチシーン6

《望郷の展望台》——トヨアシハラ・コロニーの中心柱の先にある、地球を望むテラスだ。

真つ暗闇の虚空にぼつかりと、大きな星が浮かんでいる。

災厄を経た今でも、まだ、こんなに青く美しい惑星。

無重力の空間に静かに腰を下ろすように浮かびながら、エリカはその碧玉を眺めていた。

「綺麗……。世界はとっても、綺麗だね」

失われたはずの愛しい故郷を想う切なさ……それと同じ感情を今、あの美しい惑星に対して感じる。それは、其処がもう、エリカにとっての《帰りたい場所》になっただけからだろう。生まれた故郷ではなくても、今愛すべき人たちがいるから。

「こんなところにいたのか。風邪ひくぞ？」

後ろから聞こえる、優しい声。肩にかけられる暖かなコート。

「どうだ。寒くないか？」

「——ありがとう。もう、大丈夫」

RL…シンブレイヤーはエリカです。後はいよいよ、エリカの記憶を紐解くだけとなりました。

エリカ…地球を眺めながら、色んなことを思い返しています。

大事なものは、気づけばそばにある。懐旧には限りがなくとも、今いるところにも愛せるものがある。わたしは、駒村さんやミシエルさんや、いろんな人からたくさんのものをもらったんだ、って。

駒村…虎丸にとって、あのバーが帰るべき場所になったように。あの場所は今も、お前の故郷なんだ。

エリカ…うん、それに気づけた。気付かせてもらった。言葉を尽くしても足りないくらい、感謝してる。……だからこそ、わたしにはまだ、向き合わなきゃいけないことが残ってるんだ。

駒村…「……エリカ？」

エリカ…「わたし、今の凜瀬さんと、同じようなことをしちゃうたのかもしれない」

駒村…「……ん」

エリカ…「あの星のような……暖かな場所を、誰かにとっての『帰るべき場所』を。わたしの手で、めちゃくちゃにしちゃったのかもしれない。そんな罪悪感が、わたしの中にあるの」

駒村…「そうか」そう言っ、エリカの肩に手をのせる。「過去と向き合うのは、まだ怖いかな？」

エリカ…「うん。まだ、ちょっと怖い。……でも、今が大事だっと思えるようになったからこそ、やっぱりわたしは、過去をなかったことにしたくないの」

駒村…「——よく、決意したな。」「じゃあ、これはお守りだ」エリカの手を引きよせ、ビデオカメラを渡す。

RL…それは……。瓦礫になった事務所から掘りおこしていたのは、それだったんですね。

エリカ…「これ……わたしのカメラ」

駒村…「エリカ。過去はなかったことにはならない。だが、罪の『過去』があるなら、お前を護ってくれる『過去』だってあるんだ」

エリカ…カメラを再生します。

駒村…「天下のトーキーON◎VAも、ここから見たら豆粒みたいだな。お前がああ騒がしい街に来てから、3年。たった3年ともいえるし、3年もの間ともいえる。ソイツの中には、その間お前が見てきた、その足で歩いた、俺も知らないあの街が写っている。そこにあるのはお前だけの確かな過去だ。……だから、辛い過去に押しつぶされそうになっても、お前は消えてなくなったりはしないのさ」

エリカ…N◎VAで撮ってきた風景、出会った人々、きれいなもの……それらの映像を見て、涙があふれる。「わたしはエリカ……トーキーON◎VAのトーキー、彼方エリカ」

駒村…「探し物が見つかったかい、お嬢さん？」

エリカ…「うん……ありがと、駒村さん。あのととき駒村さんに会えて、よかった」青い瞳を涙でいっぱいにして、心の底から笑います。

駒村…じゃ、《トウメイ真実》を宣言するぜ、エリカ。お前の記憶封印を解く。「さあ、さっさとこんな事件は終わらせて、一緒に帰ろうぜ。俺たちの街に」

エリカ…「うん！」

RL…では、その言葉をトリガーに、エリカは自らの心にかけていた鍵を外しました。運命の扉を開きましょう。

わたしの、エリカとしての原初の記憶は、滅びゆく故郷の姿でした。

青く美しい惑星……わたしが生まれた場所……地球の、その末路。軍事衛星グランドクロス^{グランドクロス}の暴走による、地球の寝返り後に、災厄^{災厄}と呼ばれることになった、終焉の7日間。

大地は歪み、裂け、あらゆる都市を瓦礫に変えて。海は荒れ狂い、大津波が全てを洗い流して。

そこには、ありとあらゆる破壊の光景がありました。

多くの叫びが世界中から響き渡り、次第に消えていきました。そんな光景をただ、わたしたちは見下ろしていました。

『ずっと間もなく、この星は滅びるわ』

傍らにいた少女が泣きます。自分が冒してしまった罪に懺悔^{ざんげ}をするように。

『私たちは、私たちの罪に責任を取らなければならない』

もうひとりの私。わたしと記憶を共有する少女。

わたしという存在のオリジナル……彼女は、人々にこう呼ばれていました。

オメガ・プロジェクト超A（*）、イータ。

後に救世母と呼ばれる、この災厄の引き金となった存在。

彼女はけっして、望んでこんなことをしたわけではありませんでした。でも、それでも事は起きてしまったのです。抗いようもなく。

『ねえ、もう一人の私。あなたに、残酷なお願いをしなければならぬ』

『言って、もう一人のわたし。なんだってする』

『貴方には、このグランドクロス^{グランドクロス}の、航行制御プログラムを譲^{ゆづ}りがある。この滅びを止めるには、この兵器を地球から引き剥^はがすしかない……貴方にしか、できないことなの』

最初から分かっていた。その為に、わたしは複製^{くふ}されたのですから。

『あなたは、あそこに行くつもりなのね』

滅びゆく地球の、その嘆きの中へ。自らの罪のただ中へ。

『ええ。この星に残って、できる限りのことをしてみよう。』

……きつと、今から何をして、この星の滅びの運命が変わることはないと思う。でも、これがきつと、私たちがしなければならぬことなのよ』

『……わかってる。これは、わたしたちの罪。それに、この星を守りたいもの』

温もりを惜しむように彼女の手を取って、わたしたちは鏡のように向かい合いあいました。

故郷の滅びを見届けなくてはならない。私と、永遠に故郷を離れて彷徨^{さまよ}う。わたし。

『さようなら、もう一人の私。どうか、この美しかった星のことを、忘れないでいて』

『忘れないわ、絶対に。何よりも大切な、わたしたちの故郷だもの』

持てる限りの愛しさと共に、最後に蒼い星の姿を焼き付けて。

そうして、わたし……イータ・レプリカは、グランドクロスと共に地球を離れたのでした。

リサーチシーン

エーテルの記憶



RLシーン
シンカード・マヤカシ（逆）／逃避

太陽系を大きく離れた深宇宙を、エリカは一人、彷徨い続けていた。

無限に広がる暗闇。そこには誰もおらず、ただ悠久に続く冷たい孤独だけがあった。

感情などなく、ただ航行するだけのプログラムであれたならどれだけよかったことか。しかしエリカは、人と同等の精神を有する超Aーだった。数十年にも渡るその静寂は、その身を蝕むに十分すぎた。

心を蝕む冷たいノスタルジアが、次第に彼女の全てとなっていくた。

気づけば、もと来た道を引き返していた。

それが、イータとの約束を違えることであると。それが、自らの罪から逃げる、愚かな行動であると。彼女は十分すぎるほど理解していた。

だがそれでも、誰が彼女を咎められようか。その場所は、あまりに寂しすぎたのだ。

だから、数十年ぶりに帰り着いたその星に人の営みがあるのを見たとき、エリカの喜びは言葉にできないほどのものだった。人類は、しぶとくあの災厄を生き延びたのだ。イータは、母なる大地を救ったのだ。

エリカはスピードを上げ、愛しい故郷へ近づいた。軌道から地上に運ばれる義体を見つけ、それに乗り込んだ。故郷に帰れる。長年渴望した、暖かい場所へ。

自らの過ちに気づいた時には、もう遅かった。

突如、グランドクロスの制御が奪われ、暴走を始めた。放たれた重力波が、いくつもの都市を破壊させた。

オメガ・プロジェクト超Aー…災厄前のウェブで自然発生した、アルファから始まりオメガに終わる26体の超Aー。詳細は不明だが、彼らが持つ能力は絶大であり、世界規模・惑星規模の事件の裏には彼らの存在があることが珍しくない。彼らの精神は限りなく人間と近く、一個の独立した情報生命体である。最も代表的な超Aーこそが、アマテラスの制御Aーだったアルファだ。

災厄の再現。

わたしが、帰ってきたせいで。

せっかくイータが救ってくれた故郷を。

わたしが、台無しにしてしまった。

滅びゆく地球の姿を見届けることができず、エリカは心を閉ざした。

エリカ…あ……あ……。

ミシエール…これ、は……。そうか、そういう事だったのか。今回の物語の、全ての始まりが君だったんだ。

RL…最後の情報を公開します。災厄の直接の引き金となった超重力波発生装置、すなわちグランドクロスは、その力で地球の地軸を歪め、災厄を引き起こしました。災厄の最中、母星を守ろうとする自我を発現した超A-イータ（*）が、その制御を取り戻し、自身の複製体を搭載させてグランドクロスを地球から引きはがす事で災厄は結末を迎えました。

二度と地球に戻ってくる事は無い筈であったグランドクロスは、数十年の時を経て制御用A-1の暴走を引き起こし、地球に戻ってきてしまいました。これが、今回のキャンペーンのすべての切欠である。二度目の災厄の引き金となったのです。

エリカ…わたしが帰って来たから、二度目の災厄が起きた。たくさんの人々の故郷が失われて、ヴィルヘルムさんはその人々を救うために、メルト教団を作った。グランドクロスが帰っ

てきてしまったせいで、クラウドナイン建造計画が持ち上がって、虎丸さんを凶行に走らせてしまった。わたしが帰って来さなければ、凜瀬さんはグランドクロスから遺産群の存在を知ること無かった……。

胸村…ノスタルジアが生み出した、悲劇、か。なんて、重い。

エリカ…でも……そうだったんだ。滅びて、なかったんだ。わたしの故郷。本当はわたし、帰ってたんだ。愛しい故郷に！

「……エリカ！ エリカ！！」

遠くから聞こえる必死の声。はっと瞬くと、目の前に心配そうな顔をした胸村がいた。意識を失って倒れていたのだから、気づけば抱きかかえられていた。手が、痛いほどに強く握られている。まるで、離れていくエリカを繋ぎとめようとしているように。

それがひどく懐かしいような気がして、ひどく温かくて、泣き笑いのような顔になる。

「……こまむら、さん」

「良かった……戻って、来たんだな」

慌てた様子が珍しくて、ふっと笑みがこぼれた。腕を通して伝わる体温が本当に愛おしくて、また滲んでしまいそうになる涙を隠すように、胸村の胸に顔を埋める。

「わたし、全部、思い出したよ」

少女は、静かに語り始める。

自らの罪と、愛おしい故郷の物語を――。

R L…シーンが切れる前に、一つお話しておきます。エリカの
名前の由来についてです。

ミシエール…そう言えばそれ、気になっていたんだ。何故イー
タの同位体である彼女が、駒村に名前を聞かれたときにその名
を名乗ったのか。

R L…これは、ブレイヤーさんから聞いていた名前の由来に、
私がアレنجを加えた設定です。エリカは最初からその名前だ
ったわけではありません。駒村から名を聞かれたとき、彼女は
咄嗟に自分の記憶を探り、見つけた名前を口にしただけでした。
それは、ある花の名前です。

駒村…花……？

エリカ…ジャノメエリカ、だよ。わたしは、その花の花言葉
が『孤独』で、このキャラクターに合うかなって思ってた
んだけど。でも、どうして記憶の中からその花の事を……？

R L…実は、イータが自身の複製^{レプリカ}体を作る際に、記憶データの
中核に、その花の遺伝子データを埋め込んでいたんです。ジャ
ノメエリカの別名は、ヒース。寒く、荒れ果てた大地にも芽を
吹かせる、強く可憐な花です。

ミシエール…おお……。

R L…イータが何を思ってたそのデータを貴女の中に埋め込んで
いたのかは、今となってはわかりません。

駒村…だが、想像することはできる。——彼女はきっと、諦め
てなかったんだ。……ところで今調べたんだが、この花には
『博愛』や『幸運』なんて花言葉もあるみたいだぜ。

エリカ…わああ……！

ミシエール…苗字は？ 彼方つてのは、どこから？

R L…ジャノメエリカの学名は *Erica canaliculata* といいます。
後半の部分を咬く声で、駒村にはカナタと聞こえたのでしょうか。
ミシエール…なるほどね。納得。

超Aイータと災厄…実際のところ、災厄が起こるに至った経緯や、そこに働
いていた思惑などは、未だ明らかにはなっていない。しかし、一つだけ明らか
な事は、災厄の引き金を引いたのは紛れもなくイータであり、災厄を終わらせ
たのもまた彼女だということだ。なお現在、真教教会の最高権力者、聖母^{モウ}を
務めるミューもまた、似たような過去を持つAである。彼女はかつて、モス
クワ・ゴエル口という都市で数万人規模の大虐殺を引き起こした。今のミュー
とは異なる自我であったが、『望む』と望まざるに関わらず、その罪はミュー
自身の罪である。

原罪の記憶

シンプレイヤー・ミシエール
 シンカード・カタナ（正）／勇気



リサーチシーン8

時は少し遡る。

オーストラリア行きシャトルに乗り込むために駒村と二人エアポートに向かったミシエールを、迎える姿があった。

「ミシエール」

「先生……どうしてここに」

エインリヒ司教は痛々しげな表情で、人工皮膚の剥げたミシエールの頬を撫でる。

「大変な事件に巻き込まれてしまったようだね……ヴィルヘルムから聞いたんだ。彼を救ってくれて、ありがとう」

「……ヴィルヘルムを救ったのは、私ではありません。救ったのはエリカという、一人の心優しい少女です。彼女は今、世界の存亡を背負われ、遙か軌道へ連れ去られました。だから」

「……行くのかい。そんな、ボロボロの身体で」

司教の表情は、わが娘を心配する父親のそれだった。頬を撫でる掌の馴染みの香油の匂いを懐かしみながら、ミシエールはしばし目を閉じ、そして決意を秘めた表情で目を開いた。

「はい。市民を守るのが、警察の仕事ですから。……それに、彼女からは大事なものを教えられました」

それは、人と向き合うこと。自らと向き合うこと。罪と、向

き合うこと。

ふと、自分の背後に視線をやる。そこにいるもう一人の自分を視ることは叶わないが、それでも。もうソレから目を背け続けることは、止めることにした。

「これ、今のうちに返しておきます」

ミシエールは、日本軍から押収した聖遺物、原罪の記憶。を司教に差し出す。が、司教はそれを押し返す。

「持って行きなさい、ミシエール。君たちにとってそれが必要になると、ヴィルヘルムが言っていた」

そして、少し心配そうな、それでいて誇らしげな笑顔で、司教はミシエールを抱きしめる。

「気をつけて行つて来るんだよ、ミシエール」

「……はい」

R L…さて、シーンを開けましょう。シンプレイヤーはミシエールです。今、貴方は記憶を取り戻したエリカから話を聞いています。そして、貴方の手元には前回入手したキーアイテム、聖遺物「原罪の記憶」があります。

ミシエール…今思えば、この名前はそのままだったんだ。中のデータが消失していたのは、制御A I、つまりエリカがそこから居なくなっていたから、か。

R L…そうです。エリカが記憶を取り戻した今、そのアイテムは意味を持つものになります。グランドクロスの外殻たるクラウドナイン、コアトロンたる「原罪の記憶」、そして制御A Iであるエリカが揃うことにより……。

ミシエール…グランドクロスが……復活する？

RL…はい。ちなみに、《原罪の記憶》にはアイテムとしてのデータがありますので、お渡ししておきます。

エリカ…わ……強い。前に《※封印記憶》を取るつもりって言ってたけど、これがあるとすごく強くなるね。（*）それに、グランドクロスの神業を使えるって。

ミシエール…なるほど。記憶を取り戻したエリカは、《遺産群》の在り処を思い出している。そこにたどり着くために、グランドクロスの力が必要なのか。

RL…その場所はまだに遠いため、通常の手段では凜欄たちが手に入れてしまうまでにたどり着くことができませんから。これは凜欄の《不可触》の効果の演出としています。

不明

タブ

ハザード・メモリー

原罪の記憶

1st

購：— / —

電制：50

部位：電腦

隠：—

解説：救世母の罪の記憶を内包するといわれる封印指定聖遺物。イータとその同位体のみが装備可能。

装備した者の《※封印記憶》のレベルを常時+5する。また、この装備を準備した場合、グランドクロスが保有する神業を使用することができる。

本アカウントでのグランドクロスのスタイルは、バサラ●、タタラ、アラシ◎とする。

エリカ…たどり着くのに必要なのは……《突破》かな。

RL…そうですね。距離や障害物を突破して相手に追いつく効果を持つ《突破》なら、この《不可触》を打ち破れるでしょう。

ミシエール…では、聖遺物をエリカに手渡そう。「エリカ、これは君の無くしていた半身なんだろう。返しておくよ」

エリカ…「うん。ありがとう、ミシエールさん」

ミシエール…「もう、無くすんじゃないぞ。一度失ったものは、取り戻すのは大変だよ」

エリカ…「——ミシエールさんも、きつと取り戻せるよ」

ミシエール…「はは。……ありがとう」

駒村…さて、これからどうする？ 《遺産群》の元まで向かって、凜欄達を止めるのは当然だとして。エリカ、お前は彼らをどうしたい？

エリカ…うん。その、ね。わたし、正直、凜欄さんを憎みきれないの。しようとしていることは、絶対に許せないけれど、でも。わたしとあの人は、きつと似てる。

ミシエール…似てる？

エリカ…故郷に帰りたいって気持ち。あと、むすひさんが言っていた。人格をデータ化して長い時を生きていると、何かがおかしくなってしまう、って。

原罪の記憶のデータ…事前にエリカが《※封印記憶》を取ったことは、データの選択肢を広げ、有効に活用してもらうためにこの効果を用意した。

わたしね、その原因は、孤独にあると思うの。宇宙を一人、故郷を思いながら漂い続けたわたしが長い時の中で絶望してしまつたように……凜欄さんも今、世界に自分一人しかないような感覚を味わつてゐるんじゃないかって、そう思うの。

駒村…彼は人間そのものを、自然復興を阻む害虫だと感じるようになった。同じ志を持っていたはずのむすひの翁をも、自らの目的のために追ひやつた彼は、確かに孤独という死に至る病に侵されてゐるのかもしれないな。

エリカ…もしそうなんだとしたら……わたし、凜欄さんを助けたい。駒村さんやミシエールさんが、わたしに一人じゃないつて教えてくれたように……凜欄さんの絶望を、癒してあげたい。ミシエール…まつたく。君はやっぱり、優しすぎるな。

エリカ…そう、かな。

ミシエール…だが、私はそんな君から教えられたんだ。罪を赦す勇氣、というものを。「私は警察だ。重犯罪人である天津凜欄を容認することはできない。彼には正しい制裁を受けさせなければならぬ。……だが、君がもし、彼に届けたい言葉があるのなら、それを届けるために、私は全力で協力しよう」

駒村…「もちろん、俺も手伝うぜ、エリカ。真実を届けるのが探偵の仕事だからな」

エリカ…「二人とも……本当にありがとう。行こう、凜欄さんを止めに！」

RL…では、歩きはじめた三人の前に、歩み出る姿があります。ミコトですね。「おじいちゃんに聞いたんだ。地球を救いに行くでしょ？」

ミシエール…「まあ、そうなるね」そんな気分じゃ無いけどね。RL／ミコト…「ねえ、地球ってどんなところ？」

ミシエール…「ん……難しい質問だな。一言では言い表せないが。そうだな……」しばし思索して「地球は、天国よりも野蛮な所だよ。軌道よりも汚くて、騒々しくて、面倒くさくて、優しくない」

RL／ミコト…「そうなの!? おじいちゃんは、地球は素敵なところだって言ってたよ？」

ミシエール…「素敵な所だよ。君の御爺様が語った地球は、きつと美しくて優しい場所だ。地球にはそういう面もある」

RL／ミコト…「？」

ミシエール…「沢山の人が住んでいるんだ。多くの人が集まると、皆が色々なことを考えて生きているから、色々なことが起こるんだ。だから、そこは汚くて騒々しくて、だけど美しくて優しい場所なんだ。地球は天国のように美しく、地獄よりも汚く、天国よりも野蛮で、地獄よりも愛しいところだよ」

RL…ミコトは難しそうな顔をして頭を捻った後、パツと笑つて言います。「難しくてよく分からないけど、人が沢山いるのは楽しそう! こは人、少ないから。いつてみたいな」

ミシエール…「いつか行けるさ。少し時間はかかるかもしれないけどね」

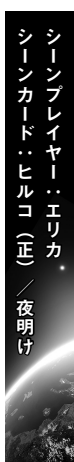
RL／ミコト…「行けたら、友達たくさん作りたいな」

ミシエール…笑う彼の頭を、軽く撫でる。
駒村…「ミシエール。前より、いい表情をするようになったな」
ミシエール…「ん? そう、かな……そうかもしれないな」

R L…では、ミコトに見送られながらコロニーを発発する所で、シーンを切りましょう。エリカ、〈※封印記憶〉で何を取得するかは決めましたか？

エリカ…はい。少し悩んだけど、せっかく装備の効果で高レベルで使えるので、〈声援〉（*）にしようと思います。きつとイータも、災厄で苦しんでる人々を、声援で力づけたと思うので。R L…分かりました。良い選択だと思います。

to Asteroid P-134340



「まさか、クラウドナインに実際に乗り込むことになるなんて思っていなかったな。土足ですまんが、お邪魔するぜ、矩形」
 気象制御衛星クラウドナイン。かつて、裁きの十字架^{グラッドクロス}と呼ばれた兵器の、成れの果て。内部の構造は様変わりしていたが、核となる制御機関は、エリカの記憶とさほど変わらないままそこにあった。

（確かに、わたしはここを知っている）

コアトロンを接続させ、エリカは中枢電腦にアクセスする。主の帰りを迎えるようにクラウドナインが胎動した。

「……Country roads, take me home」

無意識に、エリカは小さく口ずさんでいた。クラウドナインを作り上げた女性が、好きだったという歌。故郷への愛しさを謳った歌。

すべての人類は故郷を失ったと、銀髪の神父は告げた。それはたとえ望まぬ行いだったとしても、その責任は紛れも無く自分と、その半身であるイータにある。

リサーチシーン9

「……」
 〈声援〉…他者を励まし、行動を成功に導くミストレスの特技。

（でも、本当の故郷は失われない。たとえ生まれ故郷を失っても、帰る場所はある。だから……）

エリカの歌に合わせるように、その決意に呼応するように、クラウドナインが再起動していく。

「わたしはもう、過去から逃げたりしない」

今一度、グランドクロスが復活しようとしていた。

世界を滅ぼすためではなく、守るために。

地球から約50億km離れた太陽系の外縁、エッジワース・カイパーベルト軌道上。

かつて、太陽系第9惑星とされていた冥王星と、その第一衛星カロンとの公転中心。そこに、^{レガシース}遺産群は隠されていた。

「黄泉路を象徴する星、か。おあつらえ向きだな」

軌道戦艦^{フレイク}、浮橋^{フレイク}の艦橋で、天津凜檣はほくそ笑む。その傍に、^{タカ}多賀阿波岐とオオカムヅミが現れる。

「オオカムヅミよ。あれがお前の用いる禊の神具だ。穢れた地上をうち祓い、再生させる為の鍵だ」

くろみかづら ゆつつなぐし みつかむづみ

とよあしはらにまがつこと

つみがれ みそぎはらえたまへ

阿波岐が神楽と共に祝詞^{のりと}を唱え始め、それに合わせてオオカムヅミがプログラムを展開する。

長きに渡り眠り続けていた^{レガシース}遺産群が、目覚め始める。

「もうすぐだ……もうすぐ、悲願が叶う。——邪魔者のいなくなった大地で、最初からやり直そう。あの美しい星を取り戻すために」

しかしその瞬間、クルーの一人が驚きの声を上げた。

「艦長！ 地球方向から高速で接近する艦影が！」

「何だと……!? むすひか？ いや、馬鹿な。浮橋の亜光速航行でも片道3日かかる道程だ。追いつけるはずがない」

「そ、それが……該当艦は、どうやらワープしてきたようです」
「^{バカ}莫迦を言うな！ それはとうに失われた技術だ！」

ありえない、と声を震わせる凜檣。しかし、モニターに映しだされたその姿を見た時、凜檣は全てを理解した。

グランドクロス。超重力を操り、ブラックホールを生成して空間跳躍すら可能にする、ロストテクノロジの結晶。

巨大な十字型の機体から重力波が放たれ、^{レガシース}遺産群が圧壊していく様を、凜檣は息を飲んで見ていた。

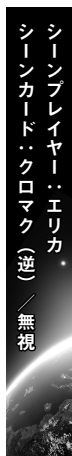
「……貴様か、イータ・レプリカ」

R.L. エリカがグランドクロスの^{ブレイクスルー}《突破》を使用して凜檣たちに追いつき、^{カクストロフ}《天変地異》で遺産群を破壊しました。それでは、クライマックスフェイズへと移行します。

クライマックスフェイズ

クライマックスシーン

万有ノスタルチア



強力な重力場に引き寄せられ、浮橋はグランドクロスと強制的にランデヴーする。グランドクロスからのドッキングにより、船内に衝撃が走る。艦橋で膝をつき、歯がみする天津凧船。

「どこまでも虚仮にしておって……」

艦内にアラームが鳴り響き、浮橋のオペレータが顔を真っ青にして呟く。

「艦内に、侵入者です。3名……恐らく、そのうちの一人はイータ・レブリカです」

「むすひめ——最後の最後でとんだ邪魔立てをしてくれおってだが、まあいい」

立ち上がり、鮫のように笑う凧船。

「イータ・レブリカが本来の力を取り戻しているなら、遺産群などに頼らずとも、グランドクロスを使えばいいだけの事だ。それで我らの悲願は成る。オオカムツミよ！」

少年Aのアヴァターが凧船の前に現れ、跪く。

「目標変更だ。人類史上最強最悪の兵器、貴様にくれてやる。イータ・レブリカを——喰らい尽くせ」

こくりと。静かに少年は頷いた。

RL…クライマックスフェイズです。最終戦闘の舞台は、軌道艦…浮橋…の艦内となります。貴方達はグランドクロスを浮橋にドッキングさせ、中に乗り込みます。

駒村…まさか、太陽系の果てでスペースオペラをやる羽目になるとはね。だがまあ、俺の仕事はいつも通りだ。ならいつも通りの出で立ちで登場しよう。煙草を啜って散歩でもするかのうにゆつくりと艦橋に足を踏み入れる。「邪魔するぜ」

RL…凧船…「……ふざけた風体だ。浮橋の神域を穢れた土足で汚すか、下郎」憎しみのこもった眼で迎える。

駒村…「悪いが、擦り切れた靴はフエイトの誇りでね。喜べよ、滅多にないぜ？ プラチナムハートのデリバリーだ。お前さんに真実をお届けに……ってな」

RL…「真実だと？」

駒村…「そうさ。アンタが忘れている。だいたいなものだ。だが、今回お前に真実を突きつけるのは俺の役目じゃあない」そう言って一歩脇に下がる。

エリカ…わたし……だね。愁いを帯びた表情で、凧船さんを見つめます。「凧船さん……本当にこんなことがしたかったの？ あなただつて、あの星を愛しているんでしょ？」

RL…凧船…憎々しげな表情で貴方を見下ろします。「それを、貴様が言うか。——ああ、そうとも。私はあの星を愛しているとも。誰よりも！ そして、その愛すべき星を滅茶苦茶にしたのは、貴様だろう！」

エリカ…それには、何も言えない。その言葉は、正しいもの。駒村…「ある男は過去だけを見ていた。過去の罪だけを追いつ

づけて、全てを海に沈めようとした。ある女は現在^{いま}だけを見ていた。少女の命で購^かって、今あるものを救おうとしていた。：お前さんはさしづめ、未来だけしか見ていないな。だが、お前さんの夢見る未来には誰がいる？ 本当にそこに、お前さんの帰るべき場所があるのかい？」

RL／凜欄…「何を知ったような口を……。今の腐った地球を浄化しない限り、あの美しかった星は帰って来ん！」

ミシエール…二人の隣に歩み出よう。「如何にこの世界が腐ってようと、間違っていないようにとも、そこに今生きる人間がいる限り、そこに仇^{ユリ}なす行為もまた罪だ。……愛は行為を正当化しない。如何に彼女の原罪が重くとも、貴方の為した行いは、それとは別の罪だ」逮捕令状を片手に銃を突き付ける。「大規模破壊の計画、教唆、実行未遂。それにまつわる誘拐、暴行、破壊の実行。すべてを加味し、事件現場としての東京新星市都市法で概算懲役300年。肅々と縛に就かれるか、軌道人^{軌道人}」

RL／凜欄…「地上を穢^けし続ける毒虫の分際で、さかしい口を開きおって……！ もういい、彼奴らの言、聞くに能^{あた}わず！」そう言うと、彼の傍からオオカムツミとかむくらが現れ、貴方たちの前に立ちふさがります。これ以上は貴方達の言葉に耳を傾けません。

駒村…やはり、いきなり説得ってわけにはいかないか。

ミシエール…「実に犯罪者らしい反応だ。星の果ての世界でも、人は変わらないという証左か。ならば理想主義者よ、炎の剣が、貴方たちの罪を焼き尽くそう」

エリカ…駒村さん、ミシエールさん。

ミシエール…分かっているさ、お姫様。倒すために戦うんじゃない。

駒村…お前の言葉を届かせるために、今、遙かなる高みに居るヤツを、同じ高さまで引つ張り下ろす。気張って行くぞ。

エリカ…うん。「凜欄さん……あなたを、止めてみせる」真っ直ぐに、凜欄さんを見据えて言います。

星を継ぐもの

カット進行
シーンカード…クグツ（正）／復活



クライマックスシーン2

RL…では、最後の戦闘です。敵は天津凜欄、オオカムツミ、多賀阿波岐の3人。戦闘配置はキャストが全員で1エンゲージ、そこから近距離の位置にオオカムツミ、阿波岐が1エンゲージ。さらにその奥、中距離の位置に天津凜欄が居ます。オオカムツミはウェブゴースト状態です。

ミシエール…プロットを行う。今回のブレイクで経験点を払って取得したブラックドライブ（*）の効果でアクションランクは3だ。《使魔》のプロットもしておく。

エリカ…わたしもアクションランク2でプロットしました。

駒村…アクションランク2、《自動防御》で3枚追加プロット。

さて、相手のアクションランクが気になるところだが。

RL…凜欄が2、阿波岐が3、オオカムヅミが5です。

ミシエール…アクションランク5！やはりヤタノカガミ（*）か！！

RL…凜欄と阿波岐はセットアップ行動があります。まずは阿波岐が〈逆回り〉（*）の判定。達成値はハートのAを出して21です。

駒村…ぐお、〈逆回り〉だと!? 嫌らしい特技を使ってくるな。ただでさえ相手の方がアクションランクが高いのに、更に先手を取って来るか！

ミシエール…でも、〈逆回り〉は（※魔女の叫び）（*）でも無いことには妨害できない。ここは通すしかない、か。

RL…まだ終わりませんよ。凜欄は天津一族のワークス装備天御剣^{クアマミツリ}（*）を使用し、オオカムヅミに即座に手札から行動を行わせます。

エリカ…さらに手数が増えた!?

RL…オオカムヅミは〈電脳〉（※ケイオスAD）（*）の組み合わせで判定。IANUSへの情報流^{インフラ}操作により、体の動きを縛る特殊電脳結果^{カクゴ}「道反^{ミチサガヒ}」が発動する。達成値は…手札が良くないなあ。スピードの5を出して20です。これが通ると、ウェットを除くキャラクターのあらゆる行動の目標値が+5されます。

ミシエール…またマイナーな特技を！（※ケイオスAD）の影響をもろに受けるのはリアクションだ。こっちのリアクションのメインはウェットの駒村だから何とかなるかもしれないが、

私の〈空蟬〉が通らなくなるのは手数的にも厳しいな。ここはリアクションしておく。

RL…対抗は〈電脳〉のみですが、可能ですか？

ミシエール…私にはデイクシヨナリがあるのさ。まず、スリーアクションでマイナーを3回行う。オーバーロード、デイクシヨナリを起動、最後の1回は、経験点を15点消費（*）して〈加速^{ヘイスト}〉（*）を即座に取得し、ナタク・冥の特殊効果（*）でその判定をする。アクションランク+1！

RL…アクト中の経験点使用はカット進行中の装備の取得を除いて認めています。良いでしょう。

ブラックドライヴ…神経を加速させ、アクションランクを上昇させる義体オプション。

ヤタノカガミ…常軌を逸した処理能力を誇る、日本製の高性能トロン。イワヤトのメインフレームとも囃される。アクションランクが脅威の5となる。

〈逆回り〉…運命の輪を狂わせ、行動順を逆回り（RL有利）に変更する力フキの特技。

〈※魔女の叫び〉…ありとあらゆる行動に妨害を行うことが出来る、マネキンの強力な特技。対決手段がない〈逆回り〉に対しては、この特技くらいでしか打ち消すことができない。

天御剣…絶対遵守の命令権。天津一族のワークス装備。

※ケイオスAD…周囲の電脳情報流を混乱させ、ウェットを除く全てのキャラクターのあらゆる行動を阻害する二重口の強力な特技。

経験点を15点消費…ミシエールは既に、バサラの特技を取得限界の2つまで取得している。これを超える特技の取得には、通常の3倍の経験点（つまり15点）が必要となる。

〈加速〉…時間の流れを操り、動きを加速させるバサラの特技。

ナタク・冥の特殊効果…この全身義体には、通常メジャーアクションが必要で、自分に対する術をマイナーアクションで行えるようにする効果がある。

ミシエール…では、〈電脳〉で判定。スピードのQを出して達成値は21だ！

RL…〈※ケイオスAD〉は誰か一人でもリアクションに成功されると無効化されます。そして、実はこちらは〈電脳〉に妨害をかけられる手段が無いんですね。通します。電脳結果は打ち破られました。

ミシエール…「本部に無理を通して、座天使を一柱拝借してきておいて助かった」携帯端末に連れてきていた四面のソロネの制御AIの一部が、情報流の乱れを秩序正しく整える。

RL／オオカムツミ…「……穢れの封殺に失敗。作戦行動を祓の儀に移行します」オオカムツミが更にアクションランク5のイニシアチブで行動します。襖祓の神具である桃弓・葦矢を模したプログラムをつがえると、その動作に連動して浮橋の艦内武装が一斉に貴方たちにその砲身を向けます。

駒村…ありやあつまり、兵器のリモコンか！

RL…マイナーで〈ブランチ・エクスターミネーター〉（*）を使用。メジャーは〈射撃〉〈自我〉〈守護天使〉〈※フルファア〉（*）（※封印記憶…力学）〈フォールンエンジェル〉（*）の組み合わせだ。対象はキャストのエンゲージ全体！

駒村…うお、えげつない攻撃だな!? 〈※フルファア〉は射程内にいけばエンゲージが離れていようと関係なく狙ってくる。それに、食らえば差分値×3のダメージが上乘せされる。これは通すわけにはいかないな。

RL…達成値はJOKERを出して26です。

ミシエール…いけるか？

駒村…ああ。〈ブランチ・ソルジャー〉の効果で〈八面六臂〉（*）を1レベルで取得する。リアクションの組み合わせは…：とと、相手はウェーブゴーストか。〈※ク・フレ〉での反撃はできないな。（*）なら、〈白兵〉〈射撃〉〈無敵防御〉〈インターセプト〉〈八面六臂〉で純粋に攻撃を防ぐ。達成値はスピードのAを出して26ジャストだ。

RL…それには阿波岐が妨害を行う。〈カース〉（*）を使用、達成値は19。強力な結果が駒村の身体を縛る。「……縛！」達成値をマイナス5してください。

駒村…「くっ、なんだ？ 体が重い!」

エリカ…〈※封印記憶…声援〉を使います！ その駒村さんのリアクションの達成値に+6するわ! 「駒村さん!」

RL…おお。ではエリカが手を伸ばすと、阿波岐の張った緊縛の呪が弾け飛びますね。阿波岐は目を見開きます。「面妖な」

駒村…「何が起きたのか分からんが、とにかく助かったぜ、エリカ!」自由になった腕で正確に浮橋の兵器類を撃ちぬいて攻撃を無効化する!

RL…防がれましたか。だがオオカムツミはそのまま第二射を構えます。アクションランク4の行動!

ミシエール…いや待て! これ以上の連続攻撃を受けるのはヤバイ。〈天変地異〉でオオカムツミのトロンを破壊する!

RL…ぐぬ。それを破壊されるとアクションランクが下がってしまう。

ミシエール…「そこか!」と叫びつつ、狙いました一撃で艦のトロンを機関部を撃ちぬく。

RL／オオカムツミ…『しまった』と眩き、フラットライン寸前でオオカムツミはトロンから回避し、予備のトロンタイプマーズにその身を移します。アクションランクは3まで減少します。(*)

ミシエール…神業1枚で相手のアクションランクを1削っただけ、か。この手に気づくのが遅れたのが痛いな……本当はセツトアップの段階で打っておくべきだった。

RL…いや、実はソフトウエア装備がこっそり減ってるのでこっちは結構痛いんですけどね。だが、〈逆回り〉の効果で、まだオオカムツミの方が早い。もう1回は先制できるぞ。

駒村…受けきってやるさ！

RL…そうはいくかな？ 先ほどと組み合わせは同じですが、オートアクションでスプートニク(*)を使用。更に阿波岐が〈バックアップ〉(*)を使用します。これで達成値が+9され、スベードのQを出して最終的な達成値は34だ！

駒村…34だと！「ぐお、本気で来やがったか！ だがこっちは全力だ。同じ手は食わん！」残った〈プランチ・ソルジャー〉の効果も全部使って〈無敵防御〉のレベルを3伸ばし、アデプトの効果も乗せて達成値31。ミシエール、頼む！

ミシエール…使魔が〈血脈・天使の一族〉、達成値+4だ。

エリカ…阿波岐さんの〈カース〉が来ると防がれちゃうからわたしの〈※封印記憶・声援〉も乗せるね！ ここを乗り切ったら、きつとミシエールさんが何とかしてくれると思うから！ 駒村…助かる。最終的な達成値は41だ！

RL…ぬううう。それはどうやっても超えられない！ 全力を

出した攻撃だったのに！ では、凜禰が苛立った表情で声を張り上げます。「何を手加減をしている、オオカムツミ！ 艦体の維持など気にするな、全力で叩き潰せ！」

エリカ…艦体の維持を、気にするなって……！

RL…するとオオカムツミは小さくコクリと頷き、髪に刺さっている櫛型のプログラム、湯津津間櫛を打ち投げ、展開させます。すると、画面が艦外に切り替わり、浮橋の強力な主砲、天逆鉞がゴゴゴと動き始め、数条のホーミングレーザーを放ちます。そのレーザーは艦橋を貫いて、ものすごい爆撃を貴方達に浴びせます。

〈プランチ・エクスターミネーター〉…地上人を駆除するための存在であることを意味するデータ。〈守護天使〉の攻撃力が爆発的に増加する。

〈守護天使〉※フルファイア※封印記憶・カチ〈オールエンジェル〉相手に対してどこからともなく攻撃が行われるハイランダーの特技〈守護天使〉を攻撃の核として、それに〈カチ〉でダメージを上乗せし、※フルファイアで攻撃の範囲を広げ、オールエンジェルで抵抗を妨害する。

八面六臂…自分の周囲にいる人々をまとめて守るカフトの特技。

反撃はできない…攻撃してきたのがウエブゴーストであるため、反撃しても物理攻撃が当たらず、組み合わせが成立しないのだ。ウエブゴーストに物理攻撃を当てるためには、専用の装備が必要になる。(むろん、神業は別だ)

〈カース〉…相手の行動を失敗に追い込むカフキの特技。

アクションランクの減少…実は、こういった場合にアクションランクがどういふ扱いになるのかはルールで明言されていない。今回、RLはこういった裁定を取ったが、RLによってはプロット後に装備が破壊されてもアクションランクに影響は与えないと裁定する場合もあるだろう。

スプートニク…静止衛星からのサポートを得る装備。なお、エリカもこの装備を持っているが、利便性だけで深い設定があっただけではなかった。(が、エリカの正体が明らかになった今、色々と想像は膨らむ)

バックアップ…他者の行動を支援し、達成値を上昇するカゲームシヤの特技。

ミシエール……は、はああああっ!? 何やってるんだ!

エリカ…す、すごい……。

駒村…おいおい、いくらなんでも、そりゃあ滅茶苦茶だろう!

RL…いつてしまったキレてしまったってヤツです。これは神業《フェイタルストーム》(※)の演出で、実際の効果としては貴方達全員に、肉体ダメージ19番「五感消失」を与えます。爆撃で目が潰れ、艦内からは酸素が失われていくため意識が朦朧とする、という演出ですね。尚、敵は人格をデータ化しているため、酸素不足で義体の機能が失われても生きながらえる事が可能です。浮橋に関しては、グランドクロスを押さえれば後は不要、という考えでしょう。

駒村…ウェットの俺にはキツイぞ、これは。

エリカ…でも、死亡ダメージが入るわけじゃないんだね。《知覚》が使えなくなるだけなら、実際のペナルティはそこまでひどくない、のかな。

ミシエール…なあ、RL……その攻撃の対象には。

RL…もちろん、痛悔機密^{ペナシス}も含まれています。

エリカ…あ……。

駒村…そういう、ことか。

ミシエール…痛悔機密^{ペナシス}のファミリアポイントは15。ダメージ19だと、消滅する。(※)

RL…回数無制限の達成値ブー스트は厄介でしたからね。そろそろご退場願おうじゃないですか。

駒村…どうする? 神業で打ち消すか?

ミシエール…(しばし考えこんで)……いや、これはこのまま

通そう。今回の敵は神業の枚数が多い。ここでこちらの貴重な神業を減らすのは得策じゃないだろう。それに、使魔の消滅に關して、少し演出も思いついた。

「……ぐっ!?」

つい先日、その身にもろに受けた爆撃。一度受けた攻撃であったため、ミシエールはすんでのところで回避し直撃を免れた。だがその瞬間、彼女の身体が一瞬だけ極度に重くなり、ひどい喪失感に襲われた。

「何だ、この重みは」

背後に視線を向ける。そこで何かが薄れゆく感覚。

ミシエールの視界に一瞬だけ、薄っすらと、泣き笑いの表情をした天使のビジョンが浮かぶ。その手がミシエールを庇うように伸び、そして消えた。

「……嗚呼、そうか。この重みは……」

それは怒りのために排除した……いや、切り離れた自分の半身に担わせていた、弱さ。という名の彼女の本质。

心を焼きつくすほどに燃えていた怒りが、今は無い。その目尻には、苛烈に生きることを決意したその日から、流したことのなかった涙が浮かんでいた。

「フェイタルストーム」…アラシの神業《突破》を、ある装備の効果で書き換えたもの。複数の相手に致死ダメージ以外の任意のダメージを与えるという効果に書き換わっている。

使魔の消滅…使魔のダメージはチャートの結果を適用するキャストと違い、点数管理なのだ。(「ファミリアポイント」使魔の体力と考えるとわかりやすい)



ミシエール…「手が震える……怖い、死にたくない……これが、怖れか。私がずっと目を背けていた感情か」

RL…なるほど。弱さを担わせていた使魔がいなくなることで、本人に弱さが戻ってくるのは面白いですね。

ミシエール…「だが、お陰でようやく気づけた。私にも、失いたくない世界があるってことに」目を閉じ、涙を拭う。額にジャッカルを当てて熱くなる思考をクールダウンする。

エリカ…ミシエールさん……。

ミシエール…そのまま震える手で銃口を凜欄に向ける。「これ以上、罪を重ねるのは止めろ、凜欄！」アクションランク3でようやく動く。マイナーでアルジャーノン（*）を使用。鎮静剤で手の震えを抑えつつ、メジャーは（射撃）（自我）（元力）（虚無）（死点撃ち）（乱れ撃ち）（鎮圧）の組み合わせで鎮圧攻撃。達成値は25！

RL…それには阿波岐が対応する。（ブランチ…ウォーロック）（*）を宣言し、手札からリアクションを行います。

駒村…まだ手数を増やす隠し球を持っていたのか！

RL…（自我）（芸術…神楽）（マエストロ）（消沈）（*）の組み合わせで判定。展開した結果の力で元力の効果を中和し、無効化します。達成値は26です。

ミシエール…止められた……か。すまない駒村、もう一発オオカムヅミの攻撃が来る。

駒村…耐えるしか無いが、今度は凜欄も動くんだよな……だいぶキツくなってきたな。

RL…では凜欄から動きましょう。彼は相当にイラついた様

子で、一步を踏み出します。「手こずらせおって……これ以上、我が手を煩わせるな。控えろ、跪け、地上人！」格の違いにより魂を縛り上げるような、天上人の威厳を伴った聲が響き渡ります。（※天上人）（フリーズ）（ガン付け）（*）の組み合わせで判定！対象は駒村。達成値は2枚目のJOKERを使用し

て25！

エリカ…えっと、どういう効果の行動なの？

RL…リアクションしなければ、対象は今後マイナーアクションを行えなくなります。更に【外界】の制御判定に失敗すると、プロットを2枚破棄しなければなりません。

駒村…ただでさえ残り少ないこっちの手数を、さらに減らしに来たのだ？ だが助かった。俺はこれ以上マイナーアクションですることがない。そして【外界】の制御判定は、手札にダイヤの3があつたお陰で成功だ。

RL…なんと。

駒村…「悪いが、言葉で跪く部下と一緒にしてもらっちゃ困る。ハードボイルド探偵ってのは、どんな状況下でどんなヤツが相手でも、両の足で死ぬまで立ってるものなんだよ！」全身の激痛と酸素不足で視界が霞む中、必死に耐えて立ち続ける。

RL…凜欄…「そうか。ならばそのまま死んでおけ」《制裁》を使用。社会戦タメージ「暗殺」を与え、切り札を使用してダメージカードをAにし、肉体ダメージ16番「斬首」を与える。懐から小型の荷電粒子銃を取り出し、額に向けて放ちます。

駒村…ぐお。電撃じゃ銃で防げねえ!?

エリカ…「だめ……！」咄嗟にグランドクロスにアクセスし、

《タイムリー》を使用します。重力波を発生させて、放たれた粒子弾の軌道をねじ曲げて駒村さんを守るわ。

RL…重力により銃が手から離れ、艦橋に空いた穴から宇宙空間に放り出される。憎悪に歪んだ表情で凜瀬が咆哮します。

「……イータ・レブリカアアア!!」

エリカ…「わたしも、帰る場所を守りたいの。だから……させない」

RL／凜瀬…「オオカムヅミ、こいつらを殺せエエエエ!」
凜瀬の叫びに合わせて、オオカムヅミが攻撃を行います。最後の《ブランチ・エクスターミネーター》を使用して、同じ組み合わせで攻撃を行う。達成値は25。

駒村…受ける! 組み合わせは今まで通りで、プラチナムハートの効果でAにしたカードを使用して達成値26だ。

RL…そこに阿波岐が最後のプロットを使用して《カース》。

駒村…しまった、まだソレが残っていたか!

ミシエール…しかし、今からだともうどうすることも出来ないな……。《受け》そのものは成立しているし、差分値も詰めるだけ詰められている。なんとかなる可能性もあるし、とりあえず、ここはダメージを聞こう。

RL…《カース》により達成値が5下がるので、最終的な差分値は4。3倍されて12点がダメージに加算されます。攻撃力は《守護天使》のものを使用し、《※フルファイア》による修正も入りますので……最終的なダメージは殴属性の32点ですね。

駒村…《受け値》は8……。

ミシエール…私は耐えられるが、二人は……。

エリカ…わたしは、無理。

駒村…俺も駄目だ。

エリカ…ここは、わたしが《天罰》を使います。今までずっと、二人に守られてばかりだった。今度は、わたしが守る番!

浮橋艦内の火器類が一斉に火を噴こうとするその刹那、今まで駒村やミシエールの後ろで守られていたばかりのエリカが、二人を庇うように前に飛び出た。祈りを捧げるように胸の前で組んでいた手を解くと、そのまま両の掌を前へ突き出す。

「イータ……わたしに、力を貸して」

その瞬間、エリカの瑠璃色の瞳が眩い光を放ち、その掌の先に強力な重力地場が発生した。爆発的に増大した重力はその場にマイクロ・ブラックホールを形成し、飛来する銃弾の軌道をねじ曲げて飲み込み、それらを圧壊させて消えた。

「……なんだ、今は」

啞然とした表情で呟く凜瀬の疑問に、巫女が答える。

アルジャーノン…神経を落ち着け、思考をクリアにするドラッグ。

《ブランチ・ウォーロック》…人間離れた精神力を持っている事を表すデータ
《自我》の判定を1カットに1度だけ、手札から行えるようになる。

《マエストロ》…《芸術》の達成値を上げるカフキの特技
《マエストロ》を組み合わせたことで、対象の行動を失敗に追い込むマヤカシの特技《消沈》の達成値を伸ばしている。

《フリーズ》…《ガン付け》…威嚇し、相手の行動権を失わせるイヌの特技
《フリーズ》に、凶悪な視線で相手の身体を効かなくするレッガールの《ヘン付け》を組み合わせている。一般技能が絡まない極めて異色の組み合わせだ。

「聞いたことがあります……イータは超重力の異能を操る神靈^{デバイス}で、グランドクロスはその力を増幅させるための出力装置^{デバイス}でしかなかったと」

そこにいたのは、過去から目を背け世界に怯えていたかつてのエリカではなかった。愛しい故郷を、愛しい人々を守るために迷いを捨て、自らの呪われた力すら使って戦う、決意に満ちた少女の姿だった。

ミシエール…神の御業、奇跡の力……か。よし、反撃のチャンスは相手のリアクションプロットが突きた今しかない。先ほどと同じ組みあわせで凜欄を攻撃する。スピードのJを出して達成値26！

RL…おっしゃるとおり、こちらの防御札は突きています。そのまま喰らいましょう。

ミシエール…「そろそろ……終わりにしよう」二丁のジャッカルが火を噴く。ダメージは殴の32点だ！

RL…ダメージ軽減不可、防御力無効、でしたね。それはどうしようもない。オオカムヅミが《電脳神^{デウス・エクスマキナ}》を宣言します。貴

方のジャッカル^{バウシシュ}の電制に介入し、トリガーをロックする！

ミシエール…「クツ……厄介だな。まずはお前から鎮圧させてもらおう！」《制裁》を使用する。社会戦ダメージ「逮捕令状」

でシーンから退場させる！ 演出は、オオカムヅミのトロンの冷却機構を虚無弾で破壊する。これだけのスペックを誇るAIだ、あつという間に加熱してハングアップするだろう。

RL…オオカムヅミが焦った様子で「……活動限界まであと30

秒」と眩くと、凜欄が「イータ・レプリカをゴーストハックしろ！ 2秒あれば十分だろう！」と怒鳴ります。オオカムヅミが《天罰^{ネギシ}》。エリカのゴーストごとグランドクロスを乗っ取ろうとします。

エリカ…《守護神^{ガーディアン}》を使用して防ぎます。わたしだってオメガプロジェクトのAIなんだから。電脳戦でも、負けない！

RL…凜欄が重ねて《天罰^{ネギシ}》を使用します。「オオカムヅミを援護しろ！」部下のニューロたちが総力を上げてエリカの電脳に攻撃を仕掛けます。数の暴力で押し切る作戦です。

エリカ…「……だめ、もう二度と、グランドクロスの制御を奪われるわけには、いかないの！」かつて、グランドクロスの制御が奪われた事件、二度目の災厄^{ネギシ}の事がフラッシュバックし、霞む意識の中で必死に抵抗します。

駒村…《難攻不落^{シラフ・アウフ}》を宣言。「俺の大事な娘に手を出そうとは、いい度胸じゃないか」エリカの身体を抱きかかえつつ、スタン

弾でニューロどもの脳を揺らし、一人ずつ無力化していく。

RL／凜欄…「ヘッドショット、だど！ 貴様、目などどうに見えていないはずでは!?」

駒村…「お前ほどじゃない、さ。守るべきものくらいは、見えている」だが実際、目は霞んでるし呼吸もおぼつかない。ちゃんと狙えているかも自分じゃ分かつちゃいない。

エリカ…駒村さん……。

RL…そこでオオカムヅミが活動限界を迎えます。『きゅう』と目を回してオオカムヅミは沈黙しました。

ミシエール…その状況に紛れて、背後に回り込んで接近する。

「天津凜瀾。騒乱罪の主犯として逮捕する」

RL:「させるものか!」と、阿波岐がカッと目を見開きます
《チャイ》で《不可知》インセンチブルを打ち消す。多重の結界がミシエールの
両の手を縛ります。

エリカ…むすひさんからの《フアイト！》で増えた《天罰^{ツクリバツ}》を使つてその《チャイ》を打ち消します！「阿波岐さん、ごめんなさい！」阿波岐さんの脳裏に、わたしがかつて見ていた絶望のビジョン……地球が減び行く姿を投影させます。

RL..ではそのビジョンに侵されて結界を維持できなくなった阿波岐は、『**神出鬼没**』(＊)で凛欄を庇うようにミシエールの

前に飛び出し、銃弾を神楽鈴で打ち払います。《守護神》ガーディアン！

ミシエール..執念を感じるな……だがこれで敵の防御神業は尽きた。今だ!!

駒村…凛禰に対し《とどめの一撃》を使用。エリカ……ダメー
ジは、お前が決めてくれ。

ジは、お前が決めてくれ。

エリカ..わたし、が……？

駒村…ああ……艦内の空気が薄い。それに血を失いすぎたよう
でな、もう視界が定まらない。照準をつけられそうにないんだ。
だから、お前が狙うんだ、真実を放つ先を。お前が狙うそれを、
俺は外さない。

エリカ……うん、わかった。駒村さんが銃を持つ手に、自分の手を重ねます。

「エリカ、お前の真実を……撃てええええええ!!」

弾丸が放たれる。真実の弾丸が。

放たれた弾丸は、彼の言葉通りに狙いを違わず――。

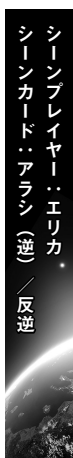
エリカ…銃弾は、凜瀬さんの顔の脇を通り過ぎます。指定するダメージナンバーは……0、です。

RL／凜凜…目を閉じ、開く。「何故……外した。この段にな
って……」

エリカ.. ゆっくりと銃をおろしながら、目を伏せる。「あなたを、傷つけたくなかった。争いたくなかった。あなたに、伝えたいことがあったから」

《神出鬼没》・対象と入れ替わる、あるいは対象の代わりに攻撃を受ける、カゲムシヤの神業。

ディア、プラネット



シンブレイヤー・エリカ
 シンカード・アラシ(逆) / 反逆

クライマックスシーン3

「……ごめんなさい、凜瀬さん。あなたの絶望のはじまりはわたし。災厄^{カタストロフ}。さえ起きなければ、あなたがノスタルジアに侵される事はなかった」

ノスタルジア——焦がれるほどに故郷を思っても、きっと帰ることはできないという幻影。

エリカは、幾度となく胸を凍らせた寂しさを感じる。自分には何一つ残されていないような感覚。それは、限りなく絶望に近いものだ。

「あなたが抱えている絶望、わたしには、痛いほど分かる。だけれど、お願い。あの場所を……今の地球を、壊さないで。そこは、今を生きる人達にとって、大切な故郷なの。あなたにとつての、かつての地球と同じように」

RL…艦橋を包む静寂の中、エリカに対して凜瀬は訪ねます。「……貴様は私に、故郷を取り戻すことを諦めると、そう言うのか」

エリカ…「ううん、違う。そんなこと、言わない。故郷に帰りたい気持ちを抑えることなんて、誰にもできないもの」

RL／凜瀬…「ならば、何故邪魔をする！ 人が蔓延^{はびこ}る限り、

もう二度とかつての地球は戻らん！ 私が守ると約束した、あの景色は！」

胸村…「約束？」

RL／凜瀬…「災厄で死んだ妻との約束、だ。妻が綺麗だと、守りたいといったあの景色は、今の地球には無い！」

エリカ…「そう、だったんだ。それで、凜瀬さんは……」。

RL／凜瀬…「イータ・レブリカ。災厄^{カタストロフ}前から存在しているお前なら、知っているだろう。あの美しい海を、豊かな大地を。今の人間はアークロジ^{アークロジ}で安泰な生活を得たかしれん。だが、アークロジ^{アークロジ}が周辺環境に与える悪影響を知っているか？ ニューロエイジに適応した人間が生き続けることと、あの豊葦原^{トヨシハラ}の地を取り戻す事は、絶対に両立できん。それは、我々が数十年の歳月を経て至った結論だ」

エリカ…「そんなこと、ない！」

RL／凜瀬…「何故、そんな事を言い切れる！」

エリカ…「わたしは知ってるもの……人間の底力を。あの絶望的な災厄^{カタストロフ}を、人間は生き延びてた。きっと、諦めてさえしまわなければ、どんなところになっても希望は残されてるのよ。あなたが望むかつての地球の自然だって、きっと取り戻せる！」

RL／凜瀬…「私のやり方が間違っていると言うつもりか！」

エリカ…「わたし、あなたが全部間違ってるだなんて思わないけれど、きっと見えていないものがある」……それは、自分も最近まで本当には見えていなかったもの。この事件を通して、気づかせてもらったこと。「どんな人も、一人じゃないってこと。希望を見つけるのも、形にするのも、色んな人の力が必要な

んだってこと」怖れずに凜欄さんに近づき、その手を取ります。「本当の希望は、誰かと手を取り合うことでしか、叶えられないだよ」

R L…凜欄は、自分の手を取るエリカの掌を、ただ呆然と見ています。

エリカ…「それにね、かつての景色は失われてしまっても、そこにあった想いは、まだ変わわずに残っていると思う」駒村さんが持つてきてくれたカメラを取り出し、『暴露』^{エクスポーズ}を使って、今まで地球で撮ってきた、きれいなものの、ホロを沢山映し出します。

それは、他愛のない風景だった。

特にカメラを向ける要素など見当たらないような、ありふれたN◎VAの街の雑踏。

出会った人々の笑顔。

何気ない、それでいて愛おしい日々と、見上げた青空。

そして、望郷の展望台、から見た、青く美しい惑星。

「あなたは、つまらない風景って思うかな。でも全部、わたしにとつての愛おしい宝物。この上なく大切な、守るべき世界。それに気づく切欠をくれたのは、あなた」

エリカは凜欄を抱きしめる。まるで、彼すら愛すべきものののだと言わんばかりに。

駒村…「その子が放った真実がお前さんを傷つけなかったのは、お前さんもその子にとつて、帰るべき場所の一部だからだ」

R L／凜欄…「私が……帰るべき場所の、一部だと……？」

ミシエル…「人と人は繋がるものだ。その繋がりこそが、その人にとつての世界とも言える。周りを見てみる。貴様は、自分を守るうとしていた世界が完全に失われてしまったように言っているが、今まで貴様の理念に共感し、手を貸した沢山の人々がいたんじゃないのか？ そんな人々の事すら否定してしまう気か？」

R L…傍で身体を支える阿波岐や、心配そうに見守る部下たちを見回して、凜欄はガクリと膝をつきます。瞳に燃えていた憎しみの色は失せ、ただ涙が溢れだす。「私は……」

駒村…「お前さんの世界は、巡り巡って俺達の地上にまで続いている。お前さんが夢に見、目指した世界は、エリカや俺達にも伝わった」

エリカ…「凜欄さん、人を、世界を信じて。あなたの希望を、潰えさせはしないから」切り札^{わたくし}を使用してシーンカードを書きかえます。

——ハイランダーのタロットが暗示するものは、希望。

エンディングフェイズ

エンディングシーン1

帰り道

共通エンディング
シーンカード：マネキン（正）／愛



死闘の末、宙には本来の静寂が戻っていた。

かつての孤独を想い起させる、無限の真空。だが、エリカはもう震えてはいなかった。その胸には、暖かなものが満ちていた。大切なもの、帰るべき場所を見つけ出したからだ。

静かに駆動するグランドクロスが、己が半身たるエリカに問いかける。航路の目的座標……長い旅の終着地点を。

「地球へ。わたしたちの故郷へ」

その言葉をスイッチに、シュバルツシルトの半径が広がっていく。ワープドライブのための事象の地平面が形成され、グランドクロスを空間跳躍穴のオーロラが包み込んでいく。

R.L.…皆さま、長い間本当にお疲れ様でした。それではエンディングに入ります。まずは共通エンディングからです。国産み派の面々を伴いグランドクロスに乗り込んだ貴方達は、地球に帰るためにワープ・ドライブに入ります。

エリカ…地球にたどり着くまで、少し時間があるよね。駒村さんとミシエルさんに話しかけます。「二人に、たくさん助けてもらっちゃったね。二人がいなかったら、わたしはきつとど

んな真実も見つけられなかった」そして、まずミシエルさんの方に向き直って、片手を差し出します。「ありがと、ミシエルさん」

ミシエル…「公僕として当然のことをしたまでだよ」と、最初に会った時と同じ言葉を返して、ゆっくりと微笑む。差し出された手を、両の手で包むように取る。「私も、キミのお陰で大切なものに気づくことが出来たんだ。だから、私にもありがとと言わせてくれ、エリカ」

エリカ…その言葉が、触れた手が嬉しくて、ニッコリと笑います。「何だか、不思議だね。わたしのこの身体は義体だし、ミシエルさんもそうだけど、それでもこんなにあったかい」
ミシエル…「そうだね。私ももう、血を凍らせるのは止めにするよ。一人で戦わなくていいんだと分かったからね」これからもきつと、苛烈であることは変わらないだろうけれど。

エリカ…そして、駒村さんの方に向き直ります。「駒村さん、これ、返しておくね」羽織ったままだったコートを差し出して。
駒村…「もう、寒くはないか？」

エリカ…「うん。もう、大丈夫。わたしの真実を探しだしてきて、本当にありがと」

駒村…「真実はお前の中に最初からあったんだ。俺はほんのちよつと手伝っただけだ。だけど、そのほんのちよつとでやつが大事な繋がりなのさ」

エリカ…「うん」

駒村…「さて、探偵としての仕事はこれで終わりだ。本当は依頼人にこういうことは聞いちゃいけないんだがな。俺はお前の

ことを、家族みたいに思ってる。エリカ、お前はようやく過去を見つけたわけだが……これからどうする？」

エリカ「ちよっとだけ考え込んだ後、愛用のカメラを取り出して笑います。「もっと綺麗な世界を、撮りに行こうかな」

駒村「『そうか。もう一人前のトーカーだな』そう言って笑う。エリカ「えへ。それじゃあ、帰ろう。わたしたちの街へ！」

光り輝くエーテルの海を抜けると、視界の先に、懐かしい星が姿を表した。エリカの胸を、喜びが満たしていく。

しかし、同時にエリカは気づいた。

グランドクロスが、既にその力を使い果たし、崩壊目の前になっていることが。

数十年の孤独を共に過ごした、巨大な十字架。そこを牢獄のように思ったこともあった。二度と悪用されぬよう、このまま消えてなくなるのが好ましい事であるのも、痛いほど理解している。

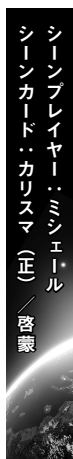
それでも、やはりそれは大切な自分の一部でもあって。失われていく寂しさをゆっくりと受け入れながら、エリカは静かに涙を流し、別れを告げる。

「ありがとう。……さようなら、グランドクロス」

それはきつと、最後のノスタルジア。

この醜くも美しい世界

エンディングシーン2



オーストラリア発、トーカーN◎VA行きの中。通路側の席に、足を組んで座るミシエール。

その隣、窓際の席では天津凧棚が無言で窓の外を見下ろしていた。このジェットはケルビムの貸切便であり、つまり、ミシエールは護送任務中、というわけだ。

犯した罪は、現場となった土地の法で裁かれる必要がある。故に、天津凧棚の身柄はブラックハウンドを通じ、N◎VAの行政府へと引き渡されることになる。天津一族と行政府との間でどのような権謀術数が交わされるのか、それは分からない。だが、凧棚に下される制裁がどんなものになろうと構わないと、ミシエールは考えていた。

彼自身が、既に裁きを受け入れている。心底から償うことを決めた者に、それ以上の罰は存在しない。

「そこから見下ろす世界は、今でも醜く感じるか、天津凧棚」
ふと興味を湧いて、ミシエールは問いかける。

「——ああ。正直、今でも地上への想いは変わらん」
長い沈黙の後、凧棚は絞りだすようにそう答えた。

R L…ミシエールのエンディングです。貴方が護送中の凧棚は、

窓の外に近づいてくる N◎VA の街を眺めたまま、呟きます。
「捜査官。私は、あの街が憎くて仕方がなかった。この腐った世界の象徴たる、災厄の都市が」

ミシエール…「そうか」

RL／凜欄…「だが……今思えば。それは、自分の無力感をそこへ投影していたのかもしれない。——あの少女が世界を美しいと感じられるのは、己とそれを取りまく世界とを、愛せていたためか」

ミシエール…その言葉を聞いてふっと笑う。「確かに、そういう側面もあるかもしれないな。だが、今を生きる基盤を愛せなければ、己を愛せるはずもない」それは、少し前の自分も同じことだ。罪と悲しみに満ちた世界を憎み、否定するように苛烈に生きるばかりだった日々。

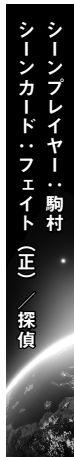
遠く思い、諦めるなら、その瞬間から故郷は腐敗を始める。真に故郷を愛するとは、そこで生き、戦うことなんだろうな。
「N◎VA、か。ギラついた街だ。醜い街だ。——だが、生命が溢れている」

「思い出は美化される。悠久の時を生きる貴方達ならば尚更だろう。貴方が愛した故郷は、ただ徒に美しいだけの世界だったのか？ 醜さも、愛しさも、苦しさも、飲びも、その全てを飲み込んでこそ、美しかったんじゃないか？」

そう凜欄に言って、小さく笑い、足を組み直す。
ゆつくりと、シャトルが降下を始めた。この世界の、今、を象徴する街、災厄の都トーキョー N◎VA へと。

つながり

シンブレイヤー・駒村
シンカード・フェイト（正）／探偵



エンディングシーン3

拝啓 虎丸矩子様

やあ、元気にしているだろうか？ 伝え聞くとところによるとお前さん、刑務所の中でも研究をしているらしいじゃないか。最近では徴役の内容も多様化してるみたいで驚いたよ。まあお前さんほどの才能を、ただ獄中で眠らせておくのは、確かに社会の損失かもしれない。

俺はと言えば、先日、ちょっと野暮用があつて宇宙まで出かけてきたんだ。楽園と名高いあの場所にも寄ってきた。その時の話がゆつくりとできないのが残念だが、それは次にあのバーで飲む時の楽しみにしておいてくれ。

同封しているのは、まあ、土産みたいなものだ。色々考えたんだが、やっぱりお前さんに渡すのが一番相応しいと思った。それじゃあ、またな。くれぐれも、体には気を付けて。

RL…続いて駒村のエンディングです。舞台はバー・ウエストバージニア……で、良かったのですね？

駒村…ああ。俺にとつての今回の物語の始発点、そして俺の帰って来るべき故郷、それが此処だからな。バーの扉をくぐり、カウンター席に座る。「マスター、いつものを頼む」

R L…では、そんな貴方の隣には先客がいます。かつてのよう
に軍服に身を包んではいないものの、その精錬された体躯や纏
う威圧感は見紛うべくもありません。星熊少佐です。「遅かつ
たな、探偵」

駒村…「あんたか。……よく、俺の居場所が分かったな」

R L／星熊…「貴公に言われてから、探偵小説というのを読ん
でみた。そこには、探偵はバーにいと書いてあったからな、
ここに来れば会えるだろうと思った」

駒村…「はは、そりゃあいい。俺はあんたのこと、結構好きに
なれそうだ。どうだ、いい店だろう。俺のお気に入りなんだ」

R L／星熊…「確かに、いい店だ。こんな穏やかな気分を酒を
飲むのは久しぶりだな」そう言ってグラスをおおつてから、貴
方にデータクリスを渡します。「翁からの託けだ」

駒村…受け取り、ポケットロンに接続してデータを聞く。

R L…その中には、沢山の資料と共に、むすひの翁からのメッ
セージが入っていました。彼いわく、今回の事件によって国産
み派は大きく減退し、早晩の再建は難しいであろうとのことだ
す。しかし、むすひ自身も諦めることはやめ、苦境の中で足掻
いてみることにしたようです。

駒村…そうか……。一緒に入っている資料は？

R L…この数十年間で国産み派が積み上げてきたクローニング
技術の研究データの全てです。国産み派の悲願達成への足掻き
の一環として、貴方にそれを託す、とのことでした。

駒村…「全く、探偵の仕事じゃないぜ、こりゃ。……まあいい
さ。俺にできることは、これを相応しい奴の手に渡すことくら

いだ。——ところで。エリカにあの花の種を届けたのは、やつ
ぱりお前さんだったんだな」

R L／星熊…「……完全な形で遺伝子データが保管されていた
から復元は容易だったそうだ。今の地上で生育させるには若干
の工夫は必要だろうが」そう言って一呼吸おいてから「不思議
な娘だ。一度は自分を殺そうとした相手を目の前にして、あんな
風に屈託なく笑う人間は初めて見た」

駒村…「はは、エリカらしいな。知ってるか？ あの花の花言
葉は『博愛』なんだぜ」そう言って笑い、バーボンをあおる。
「あの子……エリカは今、すごく大きなことをなそうとしてい
る。この世界の人間たちは誰もが一度、災厄によって帰るべき
故郷を失った。あの子がなそうとしているのは、そんな人々の
『帰りたい故郷』を作ることだ。それはあの子なりの罪滅ぼし
でもあり、希望でもあるんだろう。」

長く険しい道程で、しかも地道にやっていくしかない。あの子
には、これから今まで以上に沢山の人の手助けが必要になる。
なあ、星熊。お前さんも、その仲間の一員になってやってくれ
ないか」

R L／星熊…「……某もちようど、職を失って路頭に迷ってい
たところだ。やることができるなら丁度いい。護衛くらいにし
かなれそうにないがな」

駒村…「元・日本軍人の護衛、か。ぞつとするね。じゃあ、改
めて乾杯しようか。俺達の『故郷』に」

ひとしきり飲んだ後、駒村は夜の街を一人歩いていた。冷たい夜風が酒で火照った頭に気持ちいい。少し立ち止まり、煙草に火をつけて夜空の星を見上げる。

N◎VAに帰って来る時、エリカは言った。

「わたしもいつか、だれかの帰る場所になりたい」と。

そんなものは、気づいたらなっているものだ。だが、彼女はきつと、それをもっと大きな形で成し遂げるだろう。夜の冷たさを知るものは、暖かい人間になれる。独りの寂しさを知るものは、人に優しくできる。彼女はそれを、誰よりよく知っているのだから。

駒村は娘の成長を祝福し、上機嫌で鼻歌交じりに歩き出す。

ふと迷い込んだ路地裏の先、一人の少年がうずくまって泣いていた。ボロボロの姿で、今にも消え入りそうな細い声で助けを求めながら。

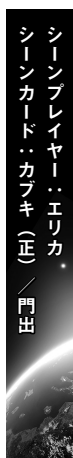
やれやれ、やっと一人が手を離れていったばかりだということに。と苦笑する駒村。相変わらず、この街には差し伸べられる手が必要とする人間が多すぎるな、と独りごちる。

「こんなところでどうした、坊主？ 何か探しものかい？」

今回は宇宙まで行った。次の真実はどこまで探しに行くことになるだろうか、なんて考えながら、探偵は手を伸ばした。

おかえりなさい

エンディングシーン4



「ダーツハツハツハッハー！」

いつもの慌ただしさに埋め尽くされるN◎VASポの編集部、編集長・九条政次の大爆笑が響き渡った。

「……もう、ひどいよ！ わたし、真面目に書いてきたのに」

その対面に立つのは、頬を膨らませて瑠璃色の瞳を揺らす、まだまだ駆け出しのトーキー、彼方エリカだ。

「悪い悪い。——でもなあ、世界を滅ぼそうと、古代の超兵器群に手を出そうとしたハイランダー、って、なあ」

侘びを入つつも、エリカが大真面目に書いてきた記事を手相変わらず腹をかかえたままの九条に、むーとジト目を送るエリカ。

彼女たちが地球の命運をかけて戦ったあの事件から、早くもひと月ばかりが経とうとしていた。窓の外は週末。街には黄色い賑わいが満ちている。

R L…では最後のシーンです。エリカのエンディングですね。

エリカ…真面目に書いてきた記事を九条さんに爆笑されて、不服そうにしています。

R L／九条…「笑って悪かったって。かんにんかんにん」と軽

い調子で謝りつつ、九条は嬉しそうに笑います。「しっかしエリカ、お前さんも分かってきたじゃないか。そうそう、こんなアホらしい記事、大真面目に載せるのはウチくらしいのなんだ」

エリカ…「褒められてるの、それ……？」

RL／九条…「褒めとる褒めとる。もうお前さんも、一端のトーカーってこった。これ、明日の一面でやるぞ」

エリカ…「一面で!? いいの?」 パツと目を輝かせます。

RL／九条…「もちろん。こんなウチ向きの記事、他に無いぜ」

エリカ…「ありがとう、九条さん!」

RL…エリカの記事を校正に回しながら、九条はふと思ひ出したように口を開きます。「そういや、ついでと言っちゃなんだが、ひとつ面白いネタを仕入れたんだ。どうも最近、N◎VAの街中になんと、天然の〃花が咲き始めてるらしい」

エリカ…「ジャノメエリカ、だよね」

RL／九条…「お。知ったか、情報早いな。お前さんと同じ名前を持つ花だ。これも何かの縁やし、記事にしてみる気はないか?」

エリカ…「うん、やる。実はね、もう書き始めてるの」そこで、時計を見て慌てて鞆を取ります。「わっ、もうこんな時間! ごめん。この後ユエさん(＊)に会う予定があるの。そろそろわたし、行くね」

RL／九条…「そういや今日はT・F(＊)関係の仕事だっけか。だんだんウチから離れていくみたいで寂しいなあ」

エリカ…「また記事を笑われたら、本当に出てっちゃうかも?」

RL／九条…「かんにんしてくれー。悪かったってー」

エリカ…「ふふ。冗談だよ。ここも、わたしの故郷だもの。じゃ、行ってくるね」

RL／九条…「おう。次の記事、期待しとるで」と言っで見送る九条ですが、部屋を出ようとする貴方を、思い立ったようにふと呼び止めます。「そういやエリカ」

エリカ…うん? 立ち止まって振り返るよ。

RL／九条…「お前さんがN◎VAに帰ってきてから、色々ゴタゴタしとったせいで、まだ言ってなかったと思ってな」

エリカ…「……? 何を?」

RL／九条…「おかえり、エリカ」ニツと笑って。

エリカ…「……一瞬、虚をつかれます。きょとんとした後、胸が嬉しさでいっぱいになって、天の光全てにも負けないような心からの笑みを浮かべて言います。

「ただいま!」

ユエ・N◎VAで売った子のジャーナリスト、プロムナード、坂本友恵(ミストレス・カリスマ、トーカー◎)のこと。人の心に伝わる報道をしたいと、ぎれいなもの。を追いかけてN◎VAを走り回っている。エリカとは意気投合するものが大きかったのだろう。彼女の過去の活躍は、公式リプレイ「ユーティリティ」あるいはヒュー・スベンサー最後の事件」にて見ることが出来る。T・F…市民活動団体トゥルーパーリズムのこと。今は歴史の表舞台から姿を消した創始者。地球の声。粕川うらら(ミストレス・カリスマ・カリスマ◎)はかつて、「失われた人間性の回復」をテーマに報道を行うトーカーだった。その意志を継いでか、近年T・F.ではトーカーたちの活動が活発化してきている。その代表格が、前述のユエだ。

N◎VAスポの編集部を後にしたエリカは、眩しい日差しを掌で遮って、天を仰ぎ見た。

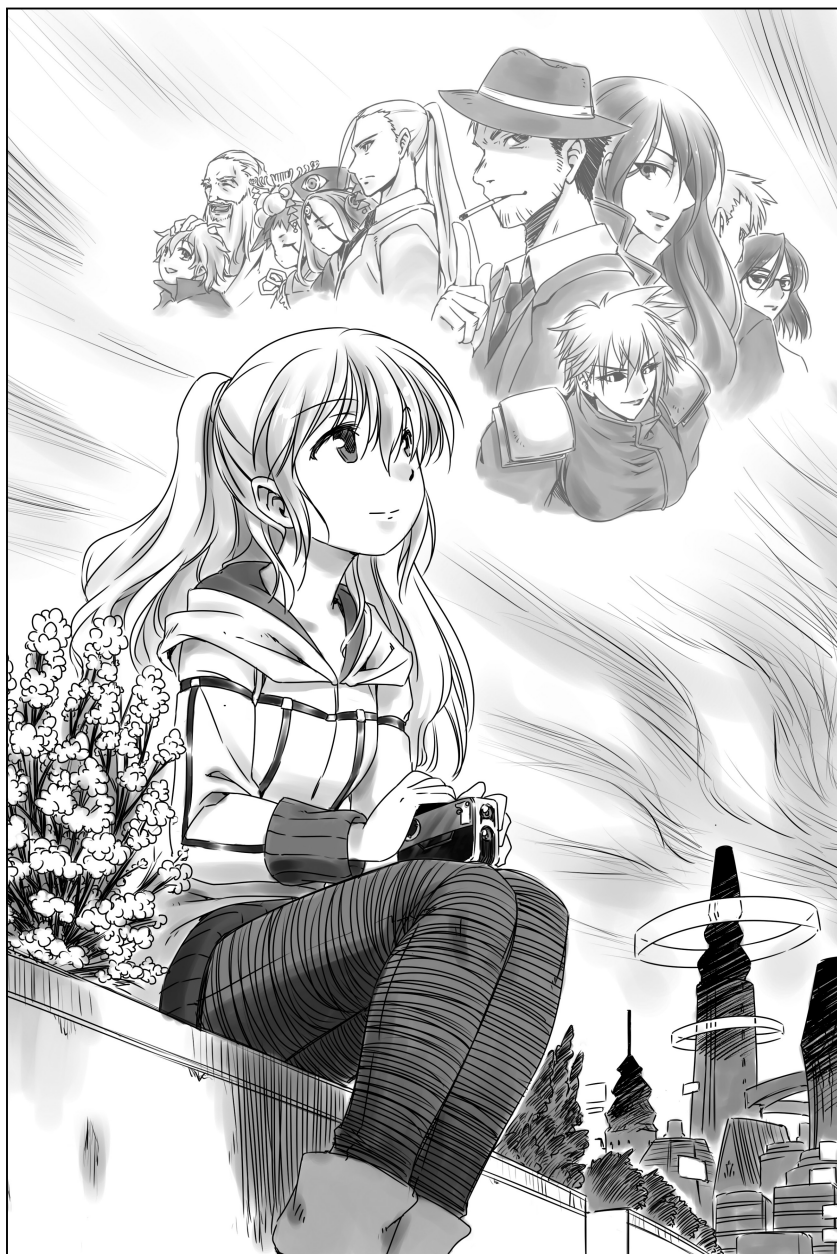
抜けるように澄み渡る青空。視線を下せば、眼前に広がるのは、いつもと変わらぬN◎VAの街並み。人々の喧騒。

その全てに愛おしさを感じ、エリカは一人微笑み、歩き始めた。彼女が行く道の傍ら、桃色の小さな花が風に吹かれて揺れていた。

——その花の種が、人々の手を伝い、
やがてこの星のあらゆる場所に芽吹く事になるのは、
まだもう少し未来のこと。

トーキョーN◎VA The Detonation
『ノスタルジック終末論』

——XVZ



あとがき

「人は過去を捨て去ることはできない。未来をつむぐためには、過去の積み重ねが必要だ。人は過去の体験を言葉にして他人と共有することが出来る。それがこそが歴史であり、人類の叡智である」

『トーキョー N◎VA The Detonation CHRONICLE』巻頭

鈴吹太郎氏のまえがきより抜粋（一部編集）

* * *

本書を手にとって下さった貴方に、まずは心よりの感謝を申し上げます。
お楽しみ頂けましたでしょうか？

当サークルの N◎VA リプレイは、今作が2作目になります。二年前に製作した前作「グッバイ、ヒューマニズム（以下、GBH）」は、お陰様で大好評を頂きました。中にはこのリプレイを読んで興味を持ち、N◎VA を始めてくださった方も幾人かいたりして、光栄の極みでありました。

そんな前作は、初心者の方々も楽しめるように N◎VA のスタンダードを追求したものでした。しかし打って変わって、今作はスタンダードとはややかけ離れた、特殊なリプレイに仕上がっています。前作とは雰囲気もかなり異なる内容で、首をかしげた方もいるかもしれません。しかし、この「ノスタルジック終末論」という作品は、間違いなく「GBH」の延長線上にある作品です。

「ノスタルジック終末論」というキャンペーンを語る上で無くてはならない存在は、やはり主人公である彼方エリカというキャストでしょう。エリカを演じるプレイヤーは、N◎VA どころか TRPG 自体もつい最近になって初められた、真正銘の初心者です。私は彼女とは、「GBH」を読んでくださった

ことを縁として知り合いました。そして、初めてアクトを一緒にさせて頂いた際に彼女が使用していたのが、彼方エリカというキャストです。

このキャストが、非常に魅力的だった。当時、私は「GBH」での経験を経て、「キャストに合わせてシナリオを作る」という遊び方がマイブームとなっていました。エリカというキャストを見た時、私は一目惚れのように惚れ込み、このキャストの物語を紡ぎあげたいという衝動に駆られました。そうでなくても R しであれば、一度はハイランダーの失われた記憶を巡る長編シナリオをやりたいくなるものでしょう。ちょうど彼女が「キャンペーン・シナリオをやってみよう」と言っていたのも相まって、私はエリカを主役としたキャンペーンを企画したのでした。

シナリオが今のような形に仕上がるに至った経緯に関しては後ほど別にお話しするとして。このキャンペーンを行う際に私がテーマとしたことがありました。それは、「初心者プレイヤーに、N◎VA の内包する世界観・歴史の奥深さ、面白さを体感してもらうこと」です。

今秋に10年にも渡る Detonation の時代を終え、ACCELERATION という新たなステージに進もうとしているトーキョー N◎VA。初版から数えれば20年にも渡る時間の中で積み上げられてきた膨大な歴史は、このゲームの舞台であるニユーロエイジを、他とは一線を画すほどに奥深く、魅力的なものにしている事は疑いようがありません。これらの魅力を、新しく N◎VA を始めた方々、これからニユーロエイジの未来を紡いでいくであろう方々に、体感して欲しかったのです。

つまりこのリプレイは、「GBH」を通じて N◎VA に興味を持ってくださった方にこそ、読んでほしいものなのです。

とは言いましても、実のところ私自身 N◎VA を始めたのはごく最近、具体的に Detonation の時代の後半にさしかかったころです。このリプレイシナ

リオの根幹を成している過去の重大事件（あとがきから読んでいる奇特な方のために明言を避けますが）についても、私自身、リアルタイムに体験してはいません。こんな若輩物がN◎V Aの歴史を語るのはおこがましい気もします。しかし、N◎V Aの歴史を綴ったサプリメント「フロニクル」にはこうあります。

。歴史や設定は、利用するためにある。

いつからニユーロエイジに参入したかなんて関係ない。歴史を学び、利用することで、誰でもニユーロエイジの歴史を動かす。当事者、になれる。これこそ、N◎V Aを遊ぶ人々に特有の楽しみの一つではないでしょうか。本作は、ニユーロエイジ最大の謎の、一つを大胆に解釈し、世界の根幹をなす設定を利用して作られています。物語終盤で明らかになる主人公・エリカの正体も、一端のユーザーが扱うには畏れ多い存在のようにも思われます。ですが、このゲームを長らく遊んできた方々ならご存知でしょう。そんなことは、N◎V Aじゃ日常茶飯事、なのです。

稲垣司政官の息子。アルファIIオメガの反転存在。崩壊した未来からやってきた過去改変者。災厄前の世界から蘇った純日本人。——どれも、実際に私がアクトで出会ったことがあるキャストたちです。誰もが膨大な世界観の中心にいる。誰もが歴史を動かし、時代の最先端に立っている。だからこそ、サプリメントが出るたび、版上げが行われるたび、動いていく歴史にドキドキワクワクしたりする。

本書を通して、少しでもこの感覚を体感して頂ければ、これに優る幸せはありません。

このリプレイを作るにあたって、沢山の方々にお力をお借りしました。シナリオを作るにあたって、色々なアイデアを頂いたり、過去の事件に関して情報を提供してくださった諸先輩方。

また、駒村とミシエルのプレイヤーにも、ただのプレイヤーという枠を超えた協力をして頂きました。駒村のプレイヤーは最近よくエリカのプレイヤーと遊んでいる方であり、物語の中心で翻弄される彼女をキャスト・プレイヤー両方の側面からフォローし、導く役割に尽力して下さいました。ミシエルのプレイヤーはRebels以前の版からN◎V Aを遊んでいる大先輩で、このシナリオに込められた膨大な過去のネタの数々に、リアルタイムでそれらを経験してきた実感。を伴わせて下さり、また他のプレイヤーへの解説という役どころもこなして頂きました。

最後に、本書のイラストを担当して下さったいわずみ氏、うるこ氏、ありえすた氏に心からの感謝を。諸々の事情（主に時間と重の問題）によりキャラクターデザインや実際の原稿作業をお三方に分担していただいた今回の企画ですが、私自身、こういった形式での依頼が初めてだったため、やりとりなどで非常に手間取らせてしまいました。

しかし、出来上がったものを見て頂ければ言うまでもありませんが、お三方のイラストがこの作品に与えてくださった「力」はとてつもなく大きなものになったと確信しております。お忙しい中、こんなに素晴らしい作品を提供して下さいた彼らへの感謝は言葉では言い尽くせません。

なお蛇足ではありますが、製作の遅延により本作の発行が新版「トーキョーN◎V A THE EXTENSION」より遅くなってしまったのは痛恨の極みでありました。本当は皆さまが新版を心待ちにしている。今、にこそ出したかったのですが……。半ば旬の時期を逃してしまった作品ではありますが、それでも皆さまにお楽しみ頂ければいいなと願うばかりであります。

それでは次は、ニユーロエイジの新たなステージでお会いしましょう。

二〇一三年八月 まだら牛 拝

ライナーノーツ・解説

ここでは、本リプレイのキャンペーン・シナリオが今の形に仕上がった経緯などについて紹介させて頂く。本来であれば、シナリオの中に込めた意図を自ら解説するというのは蛇足だとは思いますが、本シナリオを作成するにあたっては、いくつかの「運命的」としか言えない巡り合わせがあった。ご興味があれば、ご一読いただければ幸いです。

◆シナリオ・コンセプト

自らの故郷を失った喪失感、ノスタルジアを抱える主人公・彼方エリカが、最終的に自らの故郷を見つけ出すまでの物語を描く。

エリカのプレイヤーはごく最近N◎VAを始めた初心者さんであるため、彼女にニューロエイジの世界観や歴史などを紹介しつつ、最終的には「この世界の中心には自分のキャストの存在がある」というTRPGならではの体感をしてもらう事を目的とした。

版上げまで間が無いため、本キャンペーンを通してDetonation時代に起きた大きな事件を追体験してもらうことも併せて目標とした。

◆失われた記憶について

彼方エリカは、「自らの故郷が既に失われている」という思いに囚われたキャラクターである。そんな彼女の物語は、「帰るべき故郷を見つけ出す」ものであるべきだと筆者は考えた。さらにその「帰るべき故郷」とは、彼女が今を生きる、このニューロエイジのトー

キョーN◎VAであるべきだという思いが当初より強くあった。

そんな思いの下N◎VAの資料を漁っていたところ、吸い寄せられるようにDetonation時代最大規模の事件を取り扱ったシナリオ、『GrandXX』が目にとまった。災厄を引き起こし、その最中で地球から離れ、そして再度地球へ帰ってきたグランドクロスという存在は、「エリカの帰るべき故郷＝一度滅んだ場所＝今のトーキョーN◎VA」という求める構図と見事なまでに合致した。

一度地球から離れたグランドクロスが、何故地球へ戻ってきたのかは、過去のシナリオでは明らかにされていない。エリカという存在は、その謎に対する私なりの答えになるのではないかと考えた。

なお、外宇宙の寂しさと望郷の念によるAIの暴走、という構図は、「人類は衰退しました③」(著：田中ロミオ)より着想を得た。

◆敵対勢力「天津・国産み派」

エリカの帰るべき場所＝地球であることから、敵となる勢力は今の地球を滅ぼそうとしている勢力としようと考えた。先輩である助清氏より、エリカの出自に関するミスリードを誘うためにも、敵は軌道の勢力が良いだろうと意見を頂き、Detonationの時代に歴史の表舞台に姿を表した天津一族を選択した。

世界を一度滅ばし新たに作りなおす、という構図は、ノアの方舟などの洪水神話を想起させる。日本神話においては、「国産み」が洪水神話と関連性があると言われており、これをモチーフに「天津・国産み派」と

いう勢力を設定した。「浮橋」「オオカムツミ」などの要素は、全てこの国産み神話を元に生み出された。

だがこの段階ではまだ、国産み派が地球環境の復興を行うための勢力という設定は存在しなかった。この設定が追加されるのは、次に示す天津瀛欄というキャラクターの誕生が切欠となる。

◆天津瀛欄というキャラクター

天津・国産み派の筆頭であり、シナリオのラスボスとなるキャラクターの名前を考えるにあたって、ネーミングセンスに卓越した才能を持つ先輩、生方一寛氏(「GBH」のキョウのプレイヤー)に相談したところ、「瀛欄」という名はどうか」と提案いただいた。りんねは輪廻、すなわち破壊と再生に通じる。欄の字は瀛宜(神官)に通じ、さらに植物学者リンネにひっかけ、旧約聖書の神よろしく、再生した世界の生物を命名・分類分けしていくようなキャラ性にもできる、とのことであった。

(なお、生方氏がこの名を思いついたのは、相談を持ちかけてから1分も経たない間の出来事だったという驚異的な事実を併記しておく)

実際に氏の提案してくださったキャラ性を全て採用したわけではないが、瀛欄が植物学者であるという設定はここから生まれたものであり、国産み派がテラ・リフォーミングの為に災厄前の植物の遺伝子クローニングを研究しているという設定も、彼のこの設定を踏まえてのものである。

さらにこの「植物」という要素が、後に主人公・エリカの「名前の由来」と奇跡的に結びつくことになる。

◆宇宙を舞台としたわけ

実は、キャンペンシナリオを構想する上で、最終的な舞台を宇宙にすることは最初から決めていた。

故郷に帰る話とは、その舞台が故郷から遠く離れた離れるほど際立つから、という理由はある。だが本当の（根源的な）理由は、エリカのスタイル構成にある。タロットとの対応を考えると、ハイランダー＝星。マヤカシ＝月。トーカー＝太陽。つまり、エリカは天の三光を全て集めたスタイルなのだ。この偶然、かつ運命的な啓示が、宇宙を舞台とした理由だ。

シンカードもそうだが、N◎V Aのタロットにはやはり、運命を啓示する不思議な力があるように感じる。後にエリカの正体が衛星兵器グランドクロスの制御AIと決まったのも、スタイルが決まった時点から運命づけられていたのではという気になってくる。

◆エリカの罪、というテーマ

災厄が、望むと望まざるとに関わらず、それを引き起こしたエリカ（イータ）の罪であるというテーマに関しては、このシナリオを構想中に友人の伏見堂氏に遊ばせてもらったオリジナルシナリオ「聖母の亡骸」の影響を強く受けている。それは、真教の現代表・小聖母・ミューの過去の罪にまつわるシナリオであった。彼女の過去に興味がある方は公式シナリオ「Dragon Song」並びに「クロニクル」のP25を参照のこと。自分の罪と向き合うこと、というテーマは、エリカの物語をより深める切欠になったと同時に、罪を赦す事ができなかったミシェルというキャストとの物語の交叉点を生みだすことに繋がった。

◆エリカ以外のキャストについて

フェイト枠に関しては、記憶喪失のハイランダーの少女を拾う探偵を主役とした自作シナリオ「ニエローエイジのかぐや姫」[Memo/CD vol.]に収録）をセルフオマージュして設定した。なお「[GrandXXI]においても、セラフ（イータのクローン）を任せられることになるのは探偵だ。

イヌ枠に関しては、前述の通り、最初から物語の舞台が宇宙に行くことが決まっていたので、その為の移動手段（軌道エレベーター）への仲介役としてA X Y Z支部のケルビム隊員を指定していた。しかし後に、全く意図しない形で国産み派の活動内容とオーストラリアのアクシズプランが結びつき、ケルビムであることの意味が深まったのも、運命の導きとしか思えないものであった。

◆3話構成について

全3話という構成には、三人のキャストをそれぞれ一度ずつ主役としてクローズアップするという目的の他に、もう一つの意図がある。それは、物語の鍵を握る3つの重要アイテムを集める。という、RPGらしい基本構造を作りたかったからだ。（集めるものはいだいたい3つか4つか7つと相場が決まっている……と筆者は思う）

このキャンペンは、グランドクロスの3つの核となる存在を取り戻し、グランドクロスを復活させるまでの物語とも言える。1話では「体（外殻）」を、2話では「記憶（トロン）」を、3話では「魂（制御AI）」を、それぞれ取り戻すわけだ。

◆第1話『世界災厄後仮説』

第1話となるこのシナリオは、キャスト達の顔見せであり、単体として完結したストーリーとしつつも、後になって見返すと分かるキャンペン本筋への重要な伏線をいくつも張り巡らせた。最後まで読み終えた後に再び第1話を読み返すと、色々な「仕込み」に気づいて頂けると思う。なお、クラウドナイン開発室のエキストラが語る、過去に存在した気象制御衛星スノウクイーンは、後にキャンペンの中核をなす「遺産群」の正体を暗示している。

世界に終末論が蔓延する中で行われる宗教テロ、という構図は「[GrandXXI]」を。さらに、災厄後の世界を否定した敵により、世界が海の下に沈められそうになるという構図は、本作と同じくハイランダーの過去を巡るシナリオである「ハイランダーSSS 夕日の沈む朝」を参考している。（ハイランダーの正体がオメガ・プロジェクトの超AIの片割れであるという事実も、このシナリオと共通している）

なお余談だが、エリカの正体が判明した後、この話のリサーチフェイズ2シーンを読み返すと、非常にジワジワくるのではないかとと思う。

◆第2話『サウダーの彼方』

第2話は順番としては最後に作られたシナリオだ。そのストーリーラインは最終話への流れから必然として生まれたが、実はアクト直前に急遽、大きな変更が加えられている点がある。それはシナリオボス・星熊少佐というキャラの立ち位置だ。

当初、星熊は単なる瀕瀕の走狗だった。名前も公式

シナリオ「永遠の詩」(The Song Remains The Same)に登場する天津一族を出自とする拡大派の将校、伊吹中尉に倣って、鬼の名を採用したに過ぎなかった。

(伊吹とは最も有名な鬼である酒吞童子の幼名。そして、酒吞童子の配下四天王の一人が星熊童子だ)

しかしアクト直前に突然、星熊をむすひの右腕とする案が思い浮かんだ。そうすることで、最終話で提示される国産み派の二面性を、事前に暗示することができると思ったのだ。実際、これはある程度上手くいったように思われる。(数人に事前にリプレイを読んで頂いたのだが、彼らの中で星熊の人氣が予想以上に高く、ただの凶悪な日本軍人で終わるはずだった星熊が意外にも愛されるキャラクターに仕上がったのは嬉しい誤算だった)

天津産霊(むすひの翁)のスタイルはミストレス・クロマク、ハイランダー◎であり、星熊はむすひの(腹心)という設定だ。

◆最終話『ディア＊ブラネット』

種明かし回。前半の舞台となるトリアル・コロニーは、「マルドゥック・スクランブル」シリーズ(著：沖方丁)に登場する「楽園」をイメージ源としている。リサーチ第1シーンの「日本の夏」という感じの描写は、このキャンペーンを通して最もやりたかったシーンの一つだ。コロニーの中にある鎮守の杜を歩くシーンは、シナリオ構想中に筆者が伊勢神宮に参拝した際の感動が反映されている。

遺産群の在処、クライマックスの舞台である冥王星は、第一衛星・カロンと質量が近く、二重惑星◎と言

われている。ブルートは冥府を司る神。カロンは冥府への川の渡し守。つまり、イータとエリカを象徴する星、というわけだ。

◆エリカの原作と、かむくら

エリカというキャラクターには実は元ネタがある。それは、エリカのプレイヤーさんが過去に書いた創作小説のキャラクターなのだ。初めてTRPGを遊ぶ際、過去の創作のキャラクターをゲームの世界観で再現してみたいというのは定番のひとつだろう。筆者も本キャンペーンを構想するにあたって、参考になるだろうとその小説を読ませて頂いた。

その創作小説は近未来SFであるN◎VAとは大きく異なり、純粋なファンタジー世界の物語だ。そしてその世界のエリカは、N◎VAのエリカと同じく記憶喪失の娘だが、その正体は神の声を聞く巫女だった。……勘のいい読者ならもうお気づきかもしれない。

そう。本編中やたらと影が薄い天津の巫女、かむくら。多賀阿波岐は、メタ的にはエリカの正体をカモフラージュするための、盛大なブラフ要因だったのだ。読者の皆様に対してはそれほど有効なブラフとしては機能していないかもしれないが、ここエリカのプレイヤーさんに対しては、これは絶大な効果を発揮した。巫女であり、エリカと同じくマヤカシのスタイルをもつキャラクターの存在、そしてブレイク中に天津家の「巫」としての家系の説明を強調したことで、エリカのプレイヤーはまんまと術中にはまり、エリカの正体が明らかになった際には面白いほどの驚きの表情を見せてくれた。

しかし実際のところ、物語中で阿波岐のキャラはすごく薄い。なので、フォローの意味も込めて、この後に多賀阿波岐というキャラクターを取り扱った追加コンテンツを収録している。お楽しみ頂ければ幸いです。

◆影響を受けた作品・オマージュ

本キャンペーンでは、筆者とエリカのプレイヤーが共通して愛するSF作品である『ZETOTECH』氏の楽曲群(サクレ・フィクション)へのオマージュが随所に散りばめられている。シンタイトルやシナリオタイトルは、多くがこれだ。

また最終話においては、筆者の愛してやまないトンデモSFの傑作『トップをねらえ2』(製作：ガイナックス)のオマージュが多数盛り込まれている。宇宙コロニー内の日本家屋でお茶を飲むシーンや、冥王星を舞台に超兵器たる少女が覚醒するシーン。さらに、クライマックスのシンタイトル「星を継ぐもの」は、最終話のタイトルをSF小説から引く張つてくるガイナックス作品のセオリーを模倣したものである。

◆赤っ恥ネタ

第1話のオープニングおよび最終話において、災厄に続く水河期の到来で失われた風景の象徴として使っていた「蟬の鳴き声」だが、後にリプレイを事前に読んでもらった友人からツッコミが入った。蟬……実は元々、水河期を生き残った種なのだ。

つまり、ニューロエイジにおいても、蟬は生き残っている可能性が高い。全く、人間にかぎらず、生命というのはいふといふものだ。









遠き迷ひ路

著 水瀬しあ

それは、今はもうない季節の記憶。

蟬時雨が降る林の中を、少女は独りで歩いていく。

原生林に近いそこには樹齢を重ねた木々が立ち並び、少女の方向感覚をあとという間に狂わせていたが、彼女は作りのめいた白い顔に少しの戸惑いも浮かべずに歩き続ける。

道が見えないことなど、少しも問題ではなかった。

元々、迷うつもりでここへ来たのだから。

木々を震わすような蟬の声と、どこかを流れる川の音が、少女の現実を一足ごとに洗い流していく。

分家の娘である彼女が、家族を亡くして本家に引き取られたのは、一月ほど前のこと。

それは傍目には美談とも言えたのだろうが、彼女にとってその『新しい家族』は、何の慰めにもなりはしなかった。

転がり込んだ少女を見る本家の人々の冷やかな視線と、二度と会うことのできない実の家族への追憶が、彼女の孤独を深めるばかりで。

そんな現実が透명한空気に全てほどけて、木漏れ日も影に消えた頃、少女はようやく足を止めて手近な樹の根元に腰を下ろした。

ここへ来ることは誰にも話していないけれど、姿が見えないからと言って気にする者はいないだろう。もしかしたら、いなくなったことに気付かれてさえないかもしれない。

今の自分の存在など、その程度のもの。

帰ることのできる場所など、もうどこにもありはしないのだ。

嘆くでもなく思つて、目を閉じる。

そうして考えることさえやめた頃、かざりと異質な音がした。

そう、草を踏む音、のような。

「……何をしている、こんなところで」

低い響きに顔を上げて振り返ると、未だ少年の面影を残す青年が、呆れた顔をして立っていた。

消えた光が戻ってきたかのような金の髪。それがやけに眩しく映つて、少女は言葉を失くす。

「全く、散々探し回ったのだぞ。もう日が暮れるではないか」

「……探した……私を、ですか」

やつとのことで絞り出した問いに、青年はわかりきったことを訊くな、と言わんばかりに微かに眉を寄せた。

「他に誰がいる。一言も言わずに消えるような輩は、家に一人で十分だ」

慣れない者がここで迷うのは無理もないが、と彼が付け加えた言葉は少女の意識を素通りする。何も返せずにいるうちに、青年は身を翻しながら当然のことのように言った。

「こっちだ。帰るぞ」

一瞬、意味が取れずに聞き流してしまう。一拍遅れて掴み直しても、それが自分に向けられた言葉だとは思えずに、そのま

ま数歩見送ってしまった。

ぎこちなく立ち上がったもののついてこない彼女を不審に思ったのか、青年は小さく首を傾げながら振り向いた。

「どうした、阿波岐」

黄昏の向こうから訪れる夜の色の瞳が、少女を映してその名を呼ぶ。それから、彼女の方へ無造作に手が伸ばされた。

「何でもありません、凜瀬様」

精一杯の柔らかなさで答えて、少女はゆっくりと手を重ねる。

その感触は、あまりにも懐かしく。

久し振りに微笑んだつもりで、実際は泣いていたのかもしれない、と彼女——多賀阿波岐は後に思った。

幾度となく繰り返した回想を浮かべながら、阿波岐はふと足を止めて窓の外の地球を見下ろした。

一粒落ちた雫のような青。

美しいとは思わなかったが、それは自分の心の在り様のせいなのだろうということも分かっていた。

例えば今はなきあの林にも、濃淡の異なる緑を透かして和らいだ陽の温もりだとか、風にそよぐ葉の煌めきだとか、せせらぎと歌うような鳥の声だとか、美しいものがたくさんあったのだらうけれど、あの時そんな感想は少しも抱かなかったし、今や殆ど覚えてすらない。

ただ差し出された手だけが温かく、振り向いた瞳だけが眩く、気負わない言葉だけが優しく、いつまでも記憶に鮮やかで。

ひとつ瞬いて、懐旧を払う。

一歩前を歩いていたはずの凜瀬は阿波岐が立ち止まったことに気付かなかったのか、その後ろ姿は随分遠ざかってしまっていた。広がっていく距離に伸ばしかけた手を、阿波岐は軽く握って胸元に引く。

その手も声も、届けるにはもう遅すぎて。

足を速めて彼の背を追いながら、阿波岐は嘆くように思う。

——ああ、故郷はひどく、遠くなってしまった。

フリーランスの記者

“荒野の花” 彼方 エリカ

「絶望する必要なんてないのよ。だって、あなたの世界はこんなに綺麗なんだもの」



STYLE : Hilander ●,Mayakashi,Talkie ◎

ID:B- / HEIT:156cm / WEIT:53kg / AJ:18? / JENDER: ♀

EYES:Azure / HAIR:Gold / SKIN:White

♠ R : 7/15 ♣ P : 8/15 ♥ L : 1/6 ♦ M : 5/12

駆け出しのジャーナリスト。人との繋がりを大事にする心優しい少女。荒れ地でも花を芽吹かせる不思議な種を配り歩いていることから、その花の名をハンドルとして呼ばれている。

数年前まではトーキーとして垢抜けなかった彼女だが、最近何らかの転機があったらしく、以来精力的に活動するようになった。元々はN◎V A スポの所属だったが、現在はフリーに転向。最近では市民団体トゥルーフリーダムと協力しての活動が増え、「世界に埋もれた“きれいなもの”を探す」ことをモットーに、日々読者の心に、ほんの少し希望を与える記事を書いている。彼女がトーキーを続けているのは、自分が出会ったきれいなものを“ある人”に見せたいからだという。

そんな彼女の出自は謎に包まれている。数年前に記憶喪失の状態である探偵に拾われた彼女は、しばらく自分の過去を求めて街を彷徨い歩いていた。トーキーの真似事を始めたのも、故郷を探す助けになるかもしれないという助言に従っての事だ。ある事件で記憶を取り戻したらしいが、その過去に関しては未だ彼女のごく親しい人しか知らない。彼女の周りで「奇跡」としか呼べぬような現象（瀕死の人が突如息を吹き返したり、正確に放たれた銃弾があり得ない方向へ逸れたり）が時折起きることから、一部では「真教の活聖具ではないか」や「伝説の超A I なのでは」などと噂されているが、信憑性は極めて低い。

交渉

自我

心理

電脳

コネ：九条政次

コネ：駒村当真

コネ：ミシェル・プロキオン

コネ：イータ

コネ：セラフ

コネ：ミュー

コネ：ユエ

社会：N◎V A

社会：メディア

社会：軌道

3 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

3 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

社会：天津国産み派

社会：T.F.

社会：ブルーバード

※封印記憶：声援

アテンション

影の守り手

デジャ・ヴュ

ニュースソース

幻覚

伝心

ハンディカメラ

大地の声

ウィッシュ

ライフパス：A I

1 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

4 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

■本書について

本書は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎VA The Detonation』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（同人誌）です。

『トーキョーN◎VA The Detonation』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。

本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。

また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■ご意見・ご感想は ...

ぜひ、作品紹介ホームページ (<http://dappleox.web.fc2.com/nova/Nostalgia/>) の感想投稿フォームよりお送り下さい。投稿頂いた方へは、実際に遊んでいただけの特典シナリオを用意しています。

トーキョーN◎VA The Detonation リプレイ

ノスタルジック終末論

2013年11月4日 発行

製作・発行

企画・編集・DTP

イラスト

参加プレイヤー

スペシャルサンクス

試読・意見提供

画像素材提供

印刷

(以上、順不同、敬称略)

ニューロ／CD製作委員会

まだら牛

いわすみ

うろこ

ありえすた

水瀬しあ

鶉衣

古河切夏

生方一寛、助清、伏見堂

江崎翔子、Isaak_S、文殊、だらっくま

蒼井そら

サンライズ・パブリケーション株式会社

ノスタルジア——望郷、追憶、きっと帰れない故郷への想い。
過去を失った少女は、いつか帰る場所を探して街を彷徨う。

ニューロエイジ
“**電腦世紀**”……かの未曾有の大災害、ハザード“**災厄**”により誰もが
帰るべき故郷を失った世界。そんな世界の中心“**災厄の都**”
トーキョーN◎VAでは、ある終末論が蔓延していた。
誰もが災厄の再来を予感する中、3人のキャストが、運命に
導かれるようにN◎VAに集う。

世界の終焉を予見し姿を消した友人を追う探偵、駒村当真。
国際指名手配中の宗教テロ組織を追うケルビムの女捜査官、
ミシェール・フロキオン。そして、失われた記憶の手がかりを
探す、記憶喪失の見習いトーキー、彼方エリカ。
異教の教祖の予言に従い、世界を覆う厚い氷が溶け出す時、
エリカの失われた記憶を巡る運命の扉が開かれる。幾多の
ノスタルジアに導かれた、世界の終わりの物語が——。

“望郷”と“終末”をテーマに、全3話でお送りするキャンペーン・リブレイ。
『グッバイ、ヒューマニズム』で好評を博したニューロ／CD製作委員会の
N◎VA同人リブレイ第二弾がついに完成！

